

勞働爭議調停法施行令

第五條 當事者ノ一方ヨリ調停委員會開設ノ請求アリタルトキハ行政官廳ハ他ノ當事者ニ之ヲ通知スヘシ

第六條 調停委員會ヲ開設セムル旨ノ通知ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七條 調停委員會勞働爭議調停法第九條ノ規定ニ依リ調停手續ヲ了シタルトキ又ハ其ノ期間ヲ延長シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ行政官廳ニ報告スルコトヲ要ス

第八條 調停委員會ノ議事ニ關スル總テノ書類ハ勞働爭議調停法第十六條ニ規定スル報告ト共ニ之ヲ行政官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第九條 勞働爭議調停法第十八條ノ規定ニ依リ辨償ヲ受クルコトヲ得ル費用ハ旅費、日當及止宿料トス

前項ノ旅費、日當及止宿料ハ別表ノ定額以內ニ於テ行政官廳之ヲ定ム

附則

本令ハ勞働爭議調停法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表)

Table with 2 columns: 區分 (District/Category) and 金額 (Amount). Rows include 鐵道貨車馬賃 (Railway freight), 日當 (Daily allowance), 止宿料 (Accommodation), 二等 (Second class), 七十五錢 (75 Ryo), 三等 (Third class), 三圓 (3 Ryo), 四圓 (4 Ryo), 五圓 (5 Ryo).

備考 鐵道貨及船賃ハ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スル場合ニハ上級ノ運賃トシ其ノ等級ヲ設ケサル場合ニハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃トス

鑛業法

(明治三十八年三月八日 法律第四十五號) 改正、明四〇一法四一、明四三一法一〇、明四四一法九、大一一一法二二、昭二一法三六

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ鑛業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシメ

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、鋅鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯鐵鑛、磷鐵鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、磷鑛、黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝青及硫黃ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 石油層ト密接ノ關係アル可燃質天然瓦斯ハ之ヲ石油ト看做ス但シ工業用其ノ他ノ營利目的トセシテ單一一家ノ自用ニ供スルモノハ本法ヲ適用セズ明治四十年法律第四十一號ヲ以テ本項ヲ追加

第四條 本法ニ於テ鑛業權ト稱スルハ試掘權及採掘權ヲ謂フ鑛業權者ハ鑛區ニ於テ其ノ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ採掘シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス但シ鑛區ノ重複シタル場合ニ於テハ鑛業權者ハ互ニ其ノ權利ヲ制限セラル

第五條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サレハ鑛業權者トナルコトヲ得ズ

第六條 本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

第七條 本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業權者ト出願セムル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承認人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第八條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サントスルキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ鑛山監督署長ニ届出(シ其ノ届出キトキハ鑛山監督署長)ヲ指定ス

第九條 代表者ハ鑛區ニ對シ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ヲ代表ス

第十條 共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ハ組合契約ヲ爲シタル者ト看做ス

第十一條 本法ニ於テ鑛夫ト稱スルハ鑛業ニ從事スル勞務役者ヲ謂フ

第十二條 本法ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權ノ登錄ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

第十三條 鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ面積ハ石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑛物ニ在リテハ五千坪以上トシ共ニ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ鑛利保護上又ハ鑛區分合上已ラ得サル場合ニハ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得

第十四條 鑛區ニ於テハ二以上ノ鑛業權ヲ設定スルコトヲ得ズ但シ其ノ目的異種ノ鑛物ナルトキ及第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 官城、離宮、神宮及皇陵ノ周圍三百間以內並要塞地帶第一區内ノ場所ハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ズ

第十六條 陸海軍所轄ノ軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以內並要塞地帶第二區及第三區内ノ場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ズ

第十七條 前二項ニ掲ケタル場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ鑛業ノ爲メ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十八條 鐵道、軌道、道路、運河、河川、沼池、隄塘、社寺境内地、墓地、公園地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下トモ其ノ周圍三十間以內ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可、所有者及關係人ノ承認ヲ受ケルニ非サレハ鑛業ヲ爲スコトヲ得ズ但シ所有者及關係人ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ズ(明治四十四年法律第九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十九條 鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、増減及改正ノ出願ニ付テハ鑛業ノ出願ニ關スル規定ヲ適用ス

第二十條 本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂フ

第二十一條 本法ハ第八章ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

第二十二條 農商務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ鑛山監督署長ニ委任スルコトヲ得(明治四十四年法律第九號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二章 鑛業權

第二十三條 鑛業權ハ物權トシ不動産ニ關スル規定ヲ適用ス但シ民法第七十九條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條 鑛業權ハ不可分トス

第二十五條 鑛業權ハ相續、讓渡、擔保處分及強制執行ノ目的ヲ外權利ノ目的タルコトヲ得ズ但シ採掘權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

第二十六條 試掘權ノ存續期間ハ登錄ノ日ヨリ二箇年トス

第二十七條 前項ノ期間ハ鑛區ノ増減又ハ改正ノ爲變更セラルルコトナシ

第二十八條 鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅並處

第三十條 鑛業法

總則

鑛業權

鑛業法

總則

鑛業權

鑛業法

總則

鑛業權

鑛業法

分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登錄ス共同鑛業權者ノ脱退ニ付テモ亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルキハ廢業ノ登錄ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ登錄ハ登記ニ代ルモノトス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 前條第一項ニ掲ケタル事項ハ相續、期限ノ到來ニ因ル鑛業權ノ消滅並第四十二條及第四十三條ノ規定ノ場合ヲ除ク外登錄ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生ゼス

第二十三條 鑛業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ試掘ニ付テハ鑛山監督署長ニ採掘ニ付テハ農商務大臣ニ出願スヘシ

第二十四條 鑛業出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ試掘ニ付テハ鑛山監督署長ニ採掘ニ付テハ農商務大臣ニ届出ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生ゼス

第二十五條 採掘出願人ハ出願地ニ其ノ採掘セムトスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第二十六條 農商務大臣ニ於テ試掘出願地採掘ニ適スルモノト認メタルキハ採掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ採掘ノ出願ヲ爲ササルキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セズ

前二項ノ規定ハ農商務大臣ニ於テ採掘出願地仍試掘ヲ要スルモノト認メタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 採掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルキハ農商務大臣ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ訂正ノ出願ヲ爲ササルキハ採掘ノ出願ハ之ヲ許可セズ

第二十八條 採掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルキハ採掘出願人ハ其ノ訂正ノ出願スルコトヲ得

第二十七條 鑛業出願人ハ出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 試掘出願地出願ノ當時鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セズ

第二十九條 採掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セズ但シ第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 採掘出願地他人ノ試掘出願地ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ第二十四條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 鑛業出願地他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルキハ鑛山監督署長ハ之ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

鑛業權者ハ前項ノ通知書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ自ら其ノ鑛業ヲ出願スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第二十六條及豫メ鑛業權者ノ承諾ヲ得タル場合ニハ之ヲ準用ス

第一項ノ出願他人ノ鑛業ニ妨害アリト認メタルキハ之ヲ許可セズ

第三十二條 公益ヲ害スルモノト認メタルキハ又ハ鑛業ノ價值ナシト認メタルキハ鑛業ノ出願ヲ許可セズ

第三十三條 試掘出願地又ハ試掘出願地重複スルキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ願書發送ノ日時ノ先ナル者優先權ヲ有ス願書發送ノ日時同一ナルキハ鑛山監督署長ハ之ヲ各出願人ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テハ出願人ハ其ノ通知書發送ノ日ヨリ六十日以内ニ協議ヲ調ヘ之ヲ届出ヘシ

出願人前項ノ届出ヲ爲ササルキハ抽籤ニ依リ優先權者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ第二十五條、第二十六條、第三十一條、第二項及第三十六條ノ場合ニハ之ヲ準用ス

試掘出願地採掘出願地ト重複スル場合ニ於テ願書發送ノ日時同一ナルキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ採掘出願人ハ優先權ヲ有ス

第三十三條 試掘權者試掘權ノ存続期間満了後十日以内ニ同種ノ鑛物ニ付テハ出願ヲ爲サントスルキハ舊試掘鑛區ニ係ル部分ニ付テハ他人ノ出願人ニ對シ優先權ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ他人ノ出願ノ目的異種ノ鑛物ナルキハ第三十一條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ前項ノ出願ヲ爲サントスル者ヲ以テ鑛業權者ト看做ス明治四十四年法律第九號ヲ以テ本條ヲ追加

第三十四條 試掘出願人同種ノ鑛物ニ付テハ採掘ノ出願ヲ爲サントスル場合ニ於テ出願地重複スルキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ採掘ノ出願ハ試掘願書發送ノ日時ニ於テ試掘ノ出願ニ代リタルモノト看做ス但シ第三十三條第四項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス明治四十四年法律第九號ヲ以テ本項ヲ改正

前項本文ノ規定ハ採掘出願人同種ノ鑛物ニ付テハ試掘ノ出願ヲ爲サントスル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ第二十四條及第二十五條ノ場合ニ於ケル期限經過後ノ出願ニ之ヲ準用ス

第三十五條 採掘權者ハ鑛區ノ合併又ハ分割ヲ農商務大臣ニ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルキハ亦同シ

採掘權ノ設定アル場合ニ於テ前項ノ出願ヲ爲サントスルキハ採掘權者ノ承諾及抵當權ノ順位ニ關シ協定ヲ經ヘシ

第三十六條 鑛業權者ハ鄰接鑛區ノ鑛業權者及抵當權者ノ承諾ヲ得タルキハ其ノ鑛區ニ掘進スル爲増價ヲ出願スルコトヲ得

鑛床ノ位置形狀ニ依リ鄰接鑛區ニ掘進スルニ非サレハ鑛利ヲ保護スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ鑛業權者ノ承諾ヲ得テ

鑛區ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業權者ハ正當ノ理由ヲ示シテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得

前二項ノ出願ヲ爲サントスル者ハ其ノ願書ニ鑛區圖ノ外鑛床圖ヲ添付スヘシ

前項ノ鑛區圖ハ之ヲ鑛區圖ノ一部ト看做ス(明治四十四年法律第九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十七條 第二十五條第一項、第二十六條、第二十七條及第三十三條第三項ノ規定ハ之ヲ鑛區ニ準用ス

第二十五條第一項ニ該當スル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲ササルキハ農商務大臣ハ採掘權ヲ取消スヘシ

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルキハ豫メ抵當權者ノ承諾ヲ經ヘシ

第二十八條 鑛業ノ出願ヲ許可シタルキハ農商務大臣ハ鑛區ノ改正ヲ命シ又ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

前項ノ改正ヲ命シタル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲ササルキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第二十九條 鑛業公益ヲ害スルモノト認メタルキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第三十條 鑛業權者正當ノ理由ヲ示シテ登錄ノ日ヨリ一箇年以内ニ事業ニ着手セズ若ハ一箇年以上休業シタルキハ又ハ施業案ニ依リシテ採掘ヲ爲サントスルキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第三十一條 鑛業權者七十二條ノ命令ニ從ハサルキハ又ハ鑛業稅ヲ納メサルキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第三十二條 採掘權取消ノ登錄アリタルキハ鑛山監督署長ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

抵當權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ採掘權ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但シ第三十八條第一項及第二

三十九條ノ規定ニ依リ採掘權取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

採掘權ハ前項ノ期間内又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍有効スルモノト看做ス

競賣ニ依リ賣得金ハ競賣ノ費用及抵當權者ニ對スル債務ノ清算ニ充テテ其ノ餘金ハ國庫ニ歸屬ス

競買人ハ採掘權取消ノ登錄アリタル時ニ於テ採掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

第四十三條 前條ノ規定ハ採掘權者廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 採掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ施業案ヲ「鑛山監督署長ニ差出スヘシ其ノ之ヲ變更シタルキハ亦同シ

採掘權者ハ施業案ニ依リシテ採掘ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 「鑛山監督署長」ハ理由ヲ示シテ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ變更シタル施業案ハ「鑛山監督署長」ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得

第四十六條 採掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ坑内實測圖及鑛業簿ヲ鑛業事務所ニ備置キ且其ノ複本ヲ「鑛山監督署長」ニ差出スヘシ

第四十七條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛業ニ關スル明細表ヲ「鑛山監督署長」ニ差出スヘシ

第四十八條 試掘ニ依リ得タル鑛產物ハ「鑛山監督署長」ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得

第四十九條 鄰接鑛業權者其ノ他ノ利害關係人ハ他人ノ鑛區ニ付テハ鑛山監督署長ニ其ノ實地調査ヲ出願スルコトヲ得

出願人ハ前項ノ調査ニ要スル人夫及物品ヲ供スヘシ

第三十條 鑛業權者ハ必要アルキハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ「鑛山監督署長」ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者他人ノ土地ニ立入りラムトスルキハ豫メ土地占有者ニ通知スヘシ

第三十三條 前條ノ規定ニ依リ測量又ハ検査ノ爲必要アルキハ「鑛山監督署長」ノ許可ヲ得テ障礙物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者障礙物ヲ除却セムトスルキハ豫メ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第三十四條 鑛業上急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルキハ鑛業權者ハ「鑛山監督署長」ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ遲滞ナク之ヲ土地占有者ニ通知スヘシ

第三十五條 前三條ニ依リ所有者及關係人ノ受ケタル損失ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ補償金ヲ拂渡スヘシ

第三十六條 鑛業權者ハ左ニ掲ケル目的ノ爲必要アルキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

一 鑛鑿孔又ハ坑口ノ開穿

二 鑛物、土石、爆發藥、用材、薪炭、鑛滓又ハ灰燼ノ置場ノ設置

三 選鑛場又ハ製鑛場ノ建設

四 鐵道、軌道、道路、運河、溝渠、管橋、池井、

五 其ノ他鑛業上必要ナル工事又ハ工作物ノ施設
前項ノ規定ニ依リ鑛業權者他人ノ土地ヲ使用セムトキハ「鑛山監督署長」ノ許可ヲ受クヘシ
「鑛山監督署長」前項ノ許可ヲ與ヘタルキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ
前項ノ通知ノ後鑛業權者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲メ土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ
第五十七條 土地ノ使用三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルキハ所有權者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
第五十八條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ニ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
第五十九條 土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ
第六十條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ
第六十一條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ道路、溝渠、堤防、橋、其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生スルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ
第六十二條 第五十六條ノ通知ノ後土地ノ形質ヲ變更シ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加增置セムトキハ土地所有者及關係人ハ「鑛山監督署長」ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受ケシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得
第六十三條 第五十六條ノ通知ノ後事業ヲ廢止又ハ變更シタルニ因リテ土地所有者及關係人ノ受ケタル損失ニ對シ鑛業權者ハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ
第六十四條 土地所有者及關係人ハ鑛業權者ヲシテ補償金

ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得
第六十五條 土地ノ使用又ハ收用ノ協議調ヒ裁決確定シ又ハ判決アリタルキハ補償金又ハ擔保ノ裁決確定セザルトキハ鑛業權者ハ其ノ裁決ニ依リ補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得
第六十六條 鑛業權者補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サズ又ハ擔保ヲ供セザルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得
第六十七條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權者ハ鑛業權者ノ之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス
土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ鑛業權者ノ之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス
第六十八條 土地ノ使用ヲ終リタルキハ鑛業權者ハ土地ヲ原狀ニ復シ又ハ原狀ニ復セザルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シ之ヲ返還スヘシ
第六十九條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ使用又ハ收用ニ因リテ債務者ノ受ケキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ
第七十條 土地ノ使用及收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス

第四章 鑛業警察
第七十一條 鑛業ニ關スル左ノ警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣及「鑛山監督署長」ヲ行フ
一 建設物及工作物ノ保安
二 生命及衛生ノ保護
三 危險ノ豫防其ノ他公益ノ保護
第七十二條 鑛業上危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルキハ農商務大臣ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命スルコトヲ得

停止ヲ命スヘシ
第七十三條 農商務大臣ハ採掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得
第七十四條 鑛業權消滅シタル後ト雖一箇年間ハ農商務大臣及「鑛山監督署長」ハ第七十二條ノ規定ニ準シ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ危險豫防ニ關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得
前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危險豫防ノ目的ノ範圍内ニ於テ鑛業權者ト看做ス

第五章 鑛夫
第七十五條 採掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及勞務ニ關スル規則ヲ定メ「鑛山監督署長」ノ許可ヲ受クヘシ
第七十六條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ
第七十七條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ因リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ
第七十八條 鑛業權者ハ毎月一回以上前日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃金ヲ支拂フヘシ
第七十九條 農商務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齢及就業時間並婦女、幼者ノ勞務ノ制限スルコトヲ得
第八十條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鑛夫カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ大正十三年法律第二十二號ヲ以テ本條ヲ改正

第六章 鑛業稅

第八十一條 鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス
金鑛、銀鑛、鉛鑛及鋅鑛ニ付テハ鑛產稅ヲ課セシ
自己ノ掘採シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テモ亦前項ノ同シ但シ其ノ取得鑛物ノ數量ガ自己ノ掘採シタル鑛物ノ數量ニ超過スルトキハ其ノ超過部分ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス（明治四十四年法律第九號ヲ以テ本項ヲ追加）
第八十二條 鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅及營業收益稅ヲ課セス（昭和二年法律第三十六號ヲ以テ本條ヲ改正）
第八十三條 鑛區稅ハ鑛區一千坪毎ニ毎年賦課ニ付テハ三十錢、採掘ニ付テハ六十錢トス但シ一千坪未満ハ之ヲ一千坪ト看做ス（明治四十三年法律第十號ヲ以テ本條ヲ改正）
第八十四條 鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ
第三十五條第一項ニ依リモ之ヲ除クノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ
前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ存續期間滿了ノ年ニ係ルモノ亦同シ
第八十五條 鑛產稅ハ鑛產物ノ價格ノ百分ノ一トス
鑛產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣之ヲ告示ス其ノ告示セルモノハ之ヲ檢定ス
第八十六條 鑛產稅ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ即納スヘシ
第八十七條 共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス
第八十八條 北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各鑛產稅百分ノ十、試掘鑛區稅百分ノ三、採掘鑛區稅百分ノ七以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得明治四十三年法律第十

號ヲ以テ本項ヲ改正）
前項ノ附加稅ノ外北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ鑛夫、鑛產物、鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得
前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區域ノ間切島其ノ他町村ニ進スヘキモノニ之ヲ準用ス

第七章 訴願、訴訟及裁決
第八十九條 鑛業ニ關スル出願ノ許可又ハ拒否ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタルキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第九十條 第十一條又ハ第三十六條ノ承諾ヲ拒マレタル者及其ノ承諾ヲ得ルコト能ハサル者ハ「鑛山監督署長」ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタルキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第九十一條 鑛業權ノ取消ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタルキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第九十二條 土地ノ使用若ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ヒハサルキハ「鑛山監督署長」ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得
「鑛山監督署長」ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ裁決中土地ノ使用又ハ收用ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタルキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第九十三條 裁決中補償金又ハ擔保ニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第九十四條 處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ経過シタルキハ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
前項ノ期間ハ處分又ハ裁決ノ通告書ヲ受ケタル者ニ付テハ

其ノ公示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第八章 罰則
第九十四條 鑛業權者有セシテ鑛物ヲ掘採シタル者又ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ「重禁錮」又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十五條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ掘採シタル鑛物ヲ沒收ス
第九十六條 第十條第三項若ハ第十一條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第七十二條若ハ第七十四條第一項ノ命令ニ從ハサル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十七條 第四十四條若ハ第四十五條第二項ノ規定ニ違背シタル者、第四十五條第一項若ハ第七十三條第一項ノ命令ニ從ハサル者又ハ第七十九條若ハ第八十條ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十八條 第四十六條乃至第四十八條、第七十六條又ハ第七十八條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十九條 第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケシテ障礙物ヲ除却シタル者又ハ第七十五條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
當該官吏ニ對シテ鑛業ニ關スル書類若ハ物件ノ検査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ罰則同シ但シ其ノ刑法ニ正條アルモノハ別法ニ依ル
第七十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第一條 詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ鑛業稅ヲ免レ又ハ免

レムトシテ者ハ其ノ脱税金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス
 罰則 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違フシテ
 者ニハ刑法ノ減輕ノ再犯加重及數罪併發ノ例ヲ用キス
 罰則 鑛業權者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法
 又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ鑛業權者ニ適用
 スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年
 者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 罰則 鑛業權者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、
 雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルト
 キハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコト
 ヲ得ス
 本法ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外
 其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ
 罰則 前二條ノ場合ニ於テハ「禁錮」又ハ拘留ノ刑ニ處スル
 コトヲ得ス
 罰則 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ
 本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ犯罪ニシテ適用ス

附則

罰則 本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 鑛業條例ハ之ヲ廢止ス
 罰則 鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可ハ試掘權ノ登録ト看做
 ス
 罰則 日本坑法ニ依リ借區ノ許可及鑛業條例ニ依リ採
 掘ノ特許ハ採掘權ノ登録ト看做ス但シ鑛業條例第四十一
 條第二項ニ定メタル面積ニ滿タル鑛區ニ對スルモハ其ノ期
 限ノ到來ニ因リテ消滅ス
 罰則 本法施行前ニ於ケル官廳所屬ノ採掘區域ハ採掘
 鑛區トシ本法施行ノ日ニ於テ採掘權ノ登録ヲ得タルモノト看
 做ス

罰則 鑛業條例ニ依リ採掘權ノ書入ノ登録ハ抵當權ノ
 登録ト看做ス
 罰則 第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ試掘認可又
 ハ採掘特許ノ消滅シタル場合ニモ之ヲ適用ス但シ一箇年ノ
 期間ハ其ノ消滅ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 罰則 日本坑法ニ依リ借區ノ許可ヲ得タル者及鑛業條
 例ニ依リ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得タル者ハ本法施行
 ノ日ヨリ六十日以内ニ明治三十八年分ノ鑛區稅又ハ其ノ
 不足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算ス
 罰則 明治三十八年分ノ鑛區稅ハ本法施行前ニ得タル
 鑛產物ニ付テモ之ヲ課ス
 罰則 第八十八條ノ規定ハ明治三十八年度分ノ稅ニ
 限リテ適用セズ
 罰則 鑛業條例ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行
 爲ハ本法中ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ
 之ヲ爲シタルモノト看做ス
 罰則 本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル訴訟、裁定
 請求、行政訴訟又ハ民事訴訟ニ關シテハ鑛業條例ノ規定
 ニ依リ
 罰則 鑛業條例ニ依リ試掘又ハ採掘ヲ出願シタル鑛區ノ
 面積ニ付テハ鑛業條例第四十一條第二項ノ規定ヲ適用
 ス
 罰則 明治三十七年十二月三十一日以前ヨリ引續キ
 重石鑛又ハ水鉛鑛ヲ採掘スル者ニシテ明治三十八年七月
 三十一日迄ニ其ノ鑛物採掘ノ特許ヲ出願スルトキハ其ノ掘
 採區域ニ限リ第三十一條、第三十三條及鑛區ノ面積ニ
 關スル第九條ノ規定ニ拘ラス特許ヲ與フヘシ
 罰則 採掘者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ
 特許ヲ出願シタル者ハ其ノ指令ノ日迄本法ノ規定ニ拘ラス
 其ノ掘採ヲ繼續スルコトヲ得

附則

（昭和二年法律第三十六號附則）

第一項ノ規定ニ依リ特許ヲ得タル區域ノ面積五千坪未滿
 ナル場合ニ於テハ其ノ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 罰則 明治三十九年十二月三十一日以前ヨリ引續キ
 第二條第二項ノ可燃質天然瓦斯ヲ採掘スル者ハ同條同
 項但書ニ該當セザル場合ト雖明治四十年六月三十日迄ニ
 其ノ旨、鑛山監督署長ニ提出スルモ其ノ提出ニ係ル坑井
 ヲ閉出スル可燃質天然瓦斯ニ限リ本法ヲ適用セズ（明治
 四十年法律第四十一號ノ以テ本條ヲ追加）
 附則 （大正十三年法律第二十二號附則）
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十五年勅令第
 百九十九號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行ス）

鑛業抵當法

（明治三十八年三月十三日 法律第五十五號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ鑛業抵當法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
 布セシム

鑛業抵當法

第一條 採掘權者ハ抵當權ノ目的ト爲ス鑛業財團ヲ設クル
 コトヲ得
 第二條 鑛業財團ハ左ニ掲クルモノニシテ鑛業ニ關シ同一採掘
 權者ニ屬スルモノ全部又ハ一部ヲ以テ之ヲ組成スルコトヲ得
 一 鑛業權
 二 土地及工作物
 三 地上權及土地ノ使用權
 四 賃貸人ノ承諾アルトキハ物ノ賃借權
 五 機械、器具、車輛、船舶、牛馬其ノ他ノ附屬物
 第三條 鑛業財團ニ付テハ工場抵當法中工場財團ニ關スル
 規定ヲ適用ス
 第四條 採掘權取消ノ登録アリタルトキハ「鑛山監督署長」ハ直
 ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ直ニ其ノ權利ヲ實行スルコト
 ヲ得
 前項ノ規定ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルトキハ抵當權者ハ
 第一項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六箇月内ニ其ノ手續ヲ爲スヘ
 シ
 採掘權ハ前項ノ期間内又ハ抵當權實行ノ終了ニ至ル迄抵
 當權實行ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス
 競落人又ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル法人ハ採掘權取
 消ノ登録アリタルトキニ於テ採掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス
 前二項ノ規定ハ錯誤ニ因リ鑛業ノ出願カ許可セラレタル場
 合又ハ鑛業カ公益ヲ害スルモノト認メラレタル場合ニ於ケル採

鑛業抵當法

掘權ノ取消ニ關シテハ之ヲ適用セズ
 第五條 前條ノ規定ハ採掘權者カ廢業シタル場合ニ之ヲ適用
 ス
 第六條 競賣ニ付セラレタル鑛業ヲ目的トシ帝國法律ニ從ヒ法
 人ヲ設立セムトスル者カ競賣ニ加入スルトキハ競買ノ申込ト同
 時ニ其ノ旨ヲ執行裁判所ニ申出ツヘシ
 前項ノ規定ニ依リ競賣ニ加入スル者ハ競買ノ申込ニ關シテハ
 連帶シ其ノ責ニ任ス
 第七條 鑛業財團ノ競落人カ前條第一項ノ規定ニ依リ競賣
 ニ加入シタル者ナルトキハ競落ヲ許ス決定カ確定シタル日ヨリ
 三箇月内ニ法人ヲ設立シ之ヲ執行裁判所ニ届出ツヘシ
 第八條 前條ノ競落人ハ法人設立ノ日ヨリ一週間以内ニ競
 落代金ヲ執行裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル
 場合ニ於テハ自己カ競落代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除
 シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル
 第九條 前條ノ規定ニ依リ競落代金ノ支拂アリタルトキハ競賣
 ニ付セラレタル鑛業財團ノ所有權ハ競落人ニ依リテ設立セラ
 レタル法人ニ移轉ス
 第十條 第七條ノ期間内ニ法人設立ノ届出ナキトキ又ハ第八
 條ノ期間内ニ競落代金ノ支拂ナキトキハ執行裁判所ハ職權
 ヲ以テ鑛業財團ノ再競賣ヲ命スヘシ
 前項ノ再競賣ニ關シテハ民事訴訟法第六百八十八條ノ規
 定ヲ適用ス
 第十一條 工場抵當法中工場財團ニ關スル罰則ハ鑛業財團
 ニ關シテ之ヲ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十八年勅令
 第百八十八號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行ス）

●砂鑛法

(明治四十二年三月二十五日) (法律 第十三號)

改正、大五、法三一

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル砂鑛法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂鑛法

第一條 本法ニ於テ砂鑛ト稱スルハ砂金、砂鐵、砂錳其ノ他沖積鑛床ヲ爲シタル金屬鑛ヲ謂フ(大正五年法律第三十一號ヲ以テ本項ヲ改正)

第二條 本法ニ於テ砂鑛業ト稱スルハ砂鑛ノ採取及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第三條 本法ニ於テ砂鑛區ト稱スルハ砂鑛權ノ登錄ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

第四條 砂鑛權者ハ砂鑛區内ニ於ケル各種ノ砂鑛ヲ採取スル權利ヲ有ス但シ第六條ノ砂金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 砂鑛區鑛區ト重疊スル場合ニ於テハ砂鑛權者及鑛業權者ハ其ノ採取及採掘又ハ試掘ニ付互ニ協議ヲ爲スヘシ

第六條 前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者又ハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第七條 前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八條 鑛鑛ノ目的トスル鑛業權者ハ其ノ採取鑛區内ニ存スル砂金ヲ採取スル權利ヲ有ス但シ其ノ鑛區内ニ既ニ存スル砂鑛區ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ鑛業權者ハ砂金ノ採取ニ關シテ之ヲ砂鑛權者ト看做ス

第七條 砂鑛權ハ租權、讓渡、抵當權、滯納處分又ハ強制執行ノ目的タル外權利ノ目的タルコトヲ得ス

第八條 砂鑛權ヲ得ムトスル者ハ願書ニ砂鑛區圖ヲ添ヘテ主務大臣ニ出願スヘシ

第九條 砂鑛出願地他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十條 土地所有者ハ命令ノ定ムル期間内ニ於テ自ら砂鑛權ノ出願ヲ爲スコトノ外前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 砂鑛出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得但シ主務大臣ニ届出ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十二條 砂鑛權者ハ砂鑛區ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第十三條 砂鑛權ノ設定アル場合ニ於テ砂鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ抵當權者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十四條 土地所有者、地上權者、永小作權者又ハ土地ニ對シ使用ノ權利ヲ有スル者ハ其ノ土地ニ於テ砂鑛ヲ採取セムトスル者ニ對シ相當ノ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第十五條 前條ノ請求權者ハ砂鑛權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セムコトヲ得

第十六條 砂鑛權者補償金ノ拂渡ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セザルトキハ第十二條ノ請求權者ハ砂鑛ノ採取ヲ拒ムコトヲ得

第十七條 補償金又ハ其ノ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第十八條 前項ノ裁決ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 前條ノ裁決アリタルトキハ其ノ未タ確定セザルトキト雖砂鑛權者ハ裁決ニ依リ補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供託シテ砂鑛ヲ採取スルコトヲ得

第二十條 鑛業法第三章ハ砂鑛業ニ關シテ之ヲ適用ス但シ同法

第五十六條ニ依リ土地ノ使用ハ左ノ場合ニ限ル

一 洗鑛

二 製鍊所ノ建設

三 洗鑛用水路及溜池ノ開設

四 砂鑛原料ノ置場

第十八條 當該官吏砂鑛業取締ノ爲必要アリト認ムルトキハ工場其ノ他ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得

第十九條 當該官吏臨檢ノ際砂鑛業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ捜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

第二十條 臨檢、捜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第二十一條 權利ヲ有セスシテ砂鑛業ヲ爲シ又ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ砂鑛採取ノ許可ヲ受ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第二十三條ニ於テ適用シタル鑛業法第十條第三項又ハ同法第七十二條ノ命令ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 砂鑛權ノ出願又ハ砂鑛業ノ爲ニ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ檢査ヲ爲ス場合ニ於テ鑛山監督署長ノ許可ヲ受ケスシテ障害物ヲ除去シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 當該官吏ノ訊問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ罰金ニ處ス

第二十五條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ犯罪ニシテ之ヲ適用ス

第二十六條 鑛業法第五條、第六條、第七條第一項第二項、第十條、第十二條、第十五條、第十六條、第十九條、第二十條、第二十七條、第三十二條、第三十三條第一項第二項、第三十五條、第三十八條乃至第

四十三條、第四十九條、第七十二條、第七十四條、第八十七條乃至第八十九條、第九十一條乃至第九十三條、第九十五條及第九十六條ノ規定ハ砂鑛業ニ關シテ之ヲ適用ス

附則

第二十四條 本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 砂鑛採取法ニ依リ砂鑛採取ノ許可ハ之ヲ砂鑛權ノ登錄ト看做ス

第二十六條 本法施行前ニ金鑛ノ目的トスル鑛業ノ出願ヲ爲シタル者第一條第二項ノ砂金ノミヲ採取セムトスルトキハ命令ノ定ムル期間内ニ之ヲ鑛山監督署長ニ届出シ

第二十七條 前項ノ届出アリタルトキハ鑛業ノ出願ハ願書發送ノ日時ニ於テ砂鑛權ノ出願ニ代リタルモノト看做ス

第二十八條 本法施行前設定シタル砂鑛權ニシテ第一條第二項ノ砂金ノミヲ目的トスルモノニ付テハ命令ノ定ムル期間内ニ其ノ鑛區ニ付砂鑛權設定ノ登錄ヲ申請スヘシ其ノ登錄アリタルトキハ鑛業權ノ上ニ現ニ存スル權利義務ハ砂鑛權ノ上ニ存ス

第二十九條 前項ノ鑛業權ニ關シテハ砂鑛權ノ登錄アル迄仍舊鑛業法ヲ適用ス

第三十條 第一項ノ鑛業權ニシテ鑛業財團ヲ組成スルモノニ付テハ砂鑛權ノ登錄アリタル後ト雖其ノ財團ノ關係ニ於テハ之ヲ鑛業權ト看做ス

第三十一條 本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シ鑛業法ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十二條 本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條

第二項ノ砂金ニ關シ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分ニ對スル訴訟、訴訟ノ判定、裁定又ハ裁決ニ關シテハ各砂鑛採取法又ハ鑛業法ノ規定ニ依リ

●漁業法

(明治四十三年四月二十一日)
法律第五十八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル漁業法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

漁業法

第一條 本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水産動物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ

本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者ヲ謂フ

第二條 公共ノ用ニ供セザル水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外本法ノ規定ヲ適用ス

第三條 公共ノ用ニ供セザル水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外本法ノ規定ヲ適用ス

第四條 漁具ヲ設置シ又ハ水面ヲ圍封シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得トスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許スヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣ノ之ヲ指定ス

第五條 水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得トスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

第六條 前二條ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ受ケシムル必要アリト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 漁業權ハ物權ト看做シ土地ニ關スル規定ヲ適用ス

第八條 漁業權ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ其ノ漁業ニ定著シタル工作物ハ民法第三百七十條ノ進用ニ關シテ漁業權ニ

附加シテ之ノ一體ヲ成シタル物ト看做ス

第九條 裁判所ノ土地ノ管轄力ノ不動産所在地ニ依リテ定マル場合ニ於テハ漁業ニ最近キ沿岸ノ屬スル市町村又ハ之ニ相當スル行政區域ヲ以テ不動産所在地ト看做ス

第十條 漁業權ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ分割シ其ノ他變更スルコトヲ得ス

地先水面專用ノ漁業權ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第十一條 漁業權者ノ有スル水面使用ニ關スル權利義務ハ漁業權ノ處分ニ從フ

第十二條 入漁權者ハ設定行爲又ハ舊法施行前ノ慣行ニ從ヒ他人ノ專用漁業權ニ屬スル漁場内ニ入會ヒ其ノ專用漁業權ノ全部又ハ一部ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス

第十三條 入漁權ハ物權ト看做ス

第十四條 入漁權ハ漁業權者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ別段ノ慣行アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 漁業權又ハ入漁權ノ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ處分スルコトヲ得ス

第十六條 漁業權ノ存続期間ハ二十年以内ニ於テ行政官廳ノ定ムル所ニ依リ但シ第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基キ命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ之ヲ算入ス

第十七條 設定行爲ニ於テ存続期間ニ付別段ノ定メキ入漁權ハ目的タル漁業權ノ存続中存続スルモノト看做ス但シ入漁權者ハ何時ニモ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第十八條 入漁權者カ入漁料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ漁業權者ハ其ノ入漁ヲ拒ムコトヲ得

第十九條 入漁權者カ引續キ二年以上入漁料ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキハ漁業權者ハ入漁權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 入漁料ハ入漁ヲ爲サザルトキハ之ヲ支拂フコトヲ要セス

第二十一條 入漁權ニ關シ前三條ノ規定ニ異リタル慣行アルトキハ其ノ慣行ニ從フ

第二十二條 行政官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與フルニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第二十三條 漁業ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ一年間其ノ漁業ニ從事スル者ナキトキ又ハ引續キ二年間休業シタルトキハ行政官廳ハ其ノ免許ヲ取消スルコトヲ得

第二十四條 行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業ヲ爲サザル期間及第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基キ命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ前條ノ期間ニ之ヲ算入セス

第二十五條 水産動物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行碇泊緊留、水底電線ノ敷設若ハ國防其ノ他ノ軍事上必要アルトキ又ハ公益上害アルトキハ主務大臣ハ免許シタル漁業ヲ制限シ、停止シ又ハ免許ヲ取消スルコトヲ得

第二十六條 漁業權者ニシテ本法又ハ本法ニ基キ發スル命令ニ違反シタルトキハ漁業ヲ制限シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十七條 錯誤ニ依リ漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ行政官廳ハ之ヲ取消スルコトヲ得

第二十八條 免許漁業原簿ノ登錄ハ登記ニ代ハルモノトス

第二十九條 登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 漁業ノ從事スル者ノ履歴並人及遺族ノ扶助ニ關シテハ勅令ヲ以テ規程ヲ設クルコトヲ得

第三十一條 海軍艦艇乗組將校、警察官吏、港務官吏、税關官吏又ハ漁業監督吏員ハ漁業ヲ監督シ必要アリト認ムルトキハ船舶、店舖其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

第三十二條 前項ノ臨檢ニ際シ漁業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ捜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ヲ差押ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 臨檢、捜索及差押ニ關シテハ開國稅則者處分法ヲ適用ス但シ同法第四條ノ規定ハ漁業監督吏員以外ノ者ニ之ヲ適用セス

第三十四條 一定ノ地區内ニ住所有スル漁業者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合ヲ設クルコトヲ得

第三十五條 漁業組合ノ地區ハ市町村ノ區域又ハ市町村内ノ漁業者ノ部落ノ區域ニ依リシテ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 市町村制ヲ施行セザル地方ニ在リテ市町村ニ連スヘキモ之ヲ以テ前項ノ市町村ト看做ス

第三十七條 北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得

第三十八條 漁業組合ハ法人トス

第三十九條 漁業組合ハ漁業權若ハ入漁權ヲ取得シ又ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケ組合員ノ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ爲スルヲ以テ目的トス

第四十條 漁業組合ハ自ラ漁業ヲ營ムコトヲ得

第四十一條 組合員ハ漁業組合ノ取得シ若ハ貸付ヲ受ケタル專用漁業權又ハ入漁權ノ範圍内ニ於テ各自漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス但シ組合規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十二條 漁業組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲行

十五條ノ規定ニ依リ取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

漁業權ハ前項ノ期間内又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ存続スルモノト看做ス

競賣ニ依ル賃得金ハ競賣ノ費用及第一項ノ權利者ニ對スル債務ノ弁済ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競賣ヲ許ス決定力確定シタルトキハ漁業免許ノ取消ハ其ノ效力ヲ生ゼザリシモノト看做ス

第二十八條 漁業權ハ登録シタル權利者ノ同意アルニ非サレハ之ヲ分割、變更又ハ拋棄スルコトヲ得ス

第二十九條 漁業者ハ左ニ掲ケル目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用シ又ハ立木竹若ハ土石ノ除去ヲ制限スルコトヲ得

第三十條 漁場ノ標識ノ建設

第三十一條 魚見若ハ漁業ニ關スル信號又ハ之ニ必要ナル設備

第三十二條 漁業ニ必要ナル目標ノ保存又ハ建設

第三十三條 漁業者ハ必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ特別ノ用途ヲ他人ノ土地ニ立入リ漁業ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 漁業ニ關スル測量、實地調査又ハ前二條ノ目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入リ支障木竹ヲ伐採シ又ハ障礙物ヲ除去スルコトヲ得

第三十五條 前三條ノ行爲ヲ爲ス者ハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知シ爲シ生シタル損害ハ之ヲ賠償スヘシ

第三十六條 行政官廳ハ漁業者ニ漁場ノ標識ノ建設ヲ命ズルコトヲ得

第三十七條 地方長官ハ水産動物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲主務大臣ノ認可ヲ得テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得

一 水産動物ノ採捕ニ關スル制限又ハ禁止

二 水産動物若ハ其ノ製品ノ販賣又ハ所持ニ關スル制限若ハ禁止

三 漁具又ハ漁船ニ關スル制限若ハ禁止

漁業法

漁業法

漁業法

漁業法

漁業法

漁業法

漁業法

漁業法

漁業法

漁業法

漁業法

漁業法

漁業法

漁業法

漁業法

漁業法

政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合會ヲ設クルコトヲ得
 漁業組合會ハ法人トス
 第四十五條 漁業組合及漁業組合會ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス
 第四十六條 漁業組合又ハ漁業組合會ノ設立ハ其ノ主ナル事務ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
 登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
 第四十七條 行政官廳ハ何時ニテモ漁業組合又ハ漁業組合會ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
 第四十八條 漁業組合又ハ漁業組合會ノ決議若ハ役員ノ行爲ニシテ法令、行政官廳ノ命令若ハ規約ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル者ハ若シテ認ムルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 一 決議ノ取消
 二 役員ノ解職
 三 組合又ハ聯合會ノ解散
 第四十九條 本法ニ規定スルモノノ外漁業組合又ハ漁業組合會ノ設立、登記、管理、分合、解散、清算其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第五十條 漁業組合又ハ漁業組合會ニ於テ本法中特ニ組合又ハ聯合會ニ關スル規定ニ違反シタル場合ニ於テハ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス
 本法ニ基キテ發スル組合又ハ聯合會ニ關スル命令ニ於テハ組合又ハ聯合會カ之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得
 前二項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至

第二百八條ノ規定ヲ準用ス
 第五十一條 漁業者又ハ水産動物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ水産業ノ改良發達及水産動物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲メ水産組合ヲ設クルコトヲ得
 第五十二條 水産組合成立シタルトキハ其ノ地區内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ニ加入シタルモノト看做ス但シ主務大臣ニ於テ加入ノ義務ナシト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス
 第五十三條 水産組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲メ水産組合會ヲ設クルコトヲ得
 第五十四條 水産組合及水産組合會ハ法人トシ重要物產同業組合法ヲ準用ス
 第五十五條 漁業ノ免許若ハ許可ノ出願又ハ期間更新ノ申請ニ對スル時不服アル者及第三條第二項、第二十二條、第二十四條、第二十五條若ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依リ處分不服アル者ハ訴訟ヲ提起シ違法ニ權利ヲ侵害セラレタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第五十六條 漁場ノ區域、漁業權若ハ入漁權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ之ニ關スル裁決ヲ申請スルコトヲ得
 前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴訟ヲ提起シ違法ニ權利ヲ侵害セラレタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得
 第五十七條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付前條ノ規定ニ依リ裁決又ハ判決ヲ待ツノ必要アル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得
 第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 免許ニ依ラス若ハ漁業ノ停止中第四條又ハ第六條ノ漁業ヲ爲シタル者

二 免許漁業ノ制限又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違反シテ漁業ヲ爲シタル者
 三 專用漁業ノ停止中其ノ漁場ニ於テ停止シタル漁業ヲ爲シタル者
 前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス
 第五十九條 汽船「トロール」漁業ニ關シ第三十五條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金、汽船捕鯨業ニ關シ同條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止又ハ第三十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處シ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス
 第六十條 漁業權又ハ漁業組合員ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ侵害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
 第六十一條 漁場ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 第六十二條 第四十一條ノ規定ニ依リ職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者及臨檢搜索ノ際當該吏員ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 第六十三條 營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第六十四條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ

基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指摺ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルコトヲ得ス
 第六十五條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ犯罪ニシテ之ヲ準用ス
 附則
 第六十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム明治四十四年勅令第四百二十八號ヲ以テ同四十四年四月一日ヨリ施行ス
 第六十七條 本法ハ鷹虎及鷹鷲ノ漁獵ニ之ヲ適用セズ
 第六十八條 本法施行前ノ漁業ニ關スル出願ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル
 第六十九條 舊法ニ依リ發生シタル漁業權ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ定メタル效力ヲ有ス但シ其ノ存續期間ハ發生ノ時ヨリ起算ス
 本法施行前ニ發生シタル入漁權ニ關シ亦前項ニ同シ
 第七十條 本法施行前免許漁業原簿ニ登錄シタル事項ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ登錄スルコトヲ得ヘキモノニ限リ之ニ依リ登錄シタルモノト看做ス
 第七十一條 舊法施行前ノ契約又ハ慣行ニ依リテ入漁スルノ權利ハ專用漁業免許後一年間ニ限り登錄ナキモノヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得
 第七十二條 本法施行前ニ爲シタル處分又ハ第六十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ對スル裁決ノ申請、訴訟又ハ行政訴訟ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル
 第七十三條 舊法ニ依リ設ケタル漁業組合ハ本法施行後一年間ニ限り登記ナキモノヲ設立シテ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指摺ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルコトヲ得ス
 第六十五條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ犯罪ニシテ之ヲ準用ス
 附則
 第六十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム明治四十四年勅令第四百二十八號ヲ以テ同四十四年四月一日ヨリ施行ス
 第六十七條 本法ハ鷹虎及鷹鷲ノ漁獵ニ之ヲ適用セズ
 第六十八條 本法施行前ノ漁業ニ關スル出願ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル
 第六十九條 舊法ニ依リ發生シタル漁業權ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ定メタル效力ヲ有ス但シ其ノ存續期間ハ發生ノ時ヨリ起算ス
 本法施行前ニ發生シタル入漁權ニ關シ亦前項ニ同シ
 第七十條 本法施行前免許漁業原簿ニ登錄シタル事項ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ登錄スルコトヲ得ヘキモノニ限リ之ニ依リ登錄シタルモノト看做ス
 第七十一條 舊法施行前ノ契約又ハ慣行ニ依リテ入漁スルノ權利ハ專用漁業免許後一年間ニ限り登錄ナキモノヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得
 第七十二條 本法施行前ニ爲シタル處分又ハ第六十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ對スル裁決ノ申請、訴訟又ハ行政訴訟ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル
 第七十三條 舊法ニ依リ設ケタル漁業組合ハ本法施行後一年間ニ限り登記ナキモノヲ設立シテ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指摺ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルコトヲ得ス
 第六十五條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ犯罪ニシテ之ヲ準用ス
 附則
 第六十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム明治四十四年勅令第四百二十八號ヲ以テ同四十四年四月一日ヨリ施行ス
 第六十七條 本法ハ鷹虎及鷹鷲ノ漁獵ニ之ヲ適用セズ
 第六十八條 本法施行前ノ漁業ニ關スル出願ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル
 第六十九條 舊法ニ依リ發生シタル漁業權ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ定メタル效力ヲ有ス但シ其ノ存續期間ハ發生ノ時ヨリ起算ス
 本法施行前ニ發生シタル入漁權ニ關シ亦前項ニ同シ
 第七十條 本法施行前免許漁業原簿ニ登錄シタル事項ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ登錄スルコトヲ得ヘキモノニ限リ之ニ依リ登錄シタルモノト看做ス
 第七十一條 舊法施行前ノ契約又ハ慣行ニ依リテ入漁スルノ權利ハ專用漁業免許後一年間ニ限り登錄ナキモノヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得
 第七十二條 本法施行前ニ爲シタル處分又ハ第六十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ對スル裁決ノ申請、訴訟又ハ行政訴訟ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル
 第七十三條 舊法ニ依リ設ケタル漁業組合ハ本法施行後一年間ニ限り登記ナキモノヲ設立シテ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

ニ依ルシ
 第二十條 組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス
 第二十一條 持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承継ス
 第二十二條 新ニ組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生シタル組合ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負擔ス
 第二十三條 組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ理事ニ請求スルコトヲ得
 第二十四條 組合員ニシテ總會ノ招集手續又ハ其ノ決議ノ方法法令又ハ定款ニ違背スト認ムルトキハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ其ノ決議ノ取消ヲ地方長官ニ請求スルコトヲ得

第四章 管理

第二十五條 産業組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ
 理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立ノ當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ改正)
 第二十六條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニテラス
 第二十七條 理事又ハ監事ハ何時ニモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得
 第二十八條 理事及監事ノ選任及解任ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニテラス
 第二十九條 理事ハ定款及總會ノ決議ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クヘシ
 組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得
 第三十條 組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ(明治

四十二年法律第二十七號ヲ以テ本條ヲ追加)
 一 各組合員ノ氏名、住所
 二 各組合員ノ出資口數
 三 各組合員ノ拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日
 四 出資各口ノ取得ノ年月日
 五 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額
 第三十一條 理事ハ總會ノ會日ヨリ一週間前ニ財産目録、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クヘシ
 組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得
 第三十二條 理事ハ前條第一項ニ掲ケタル書類及監事ノ意見書ヲ總會ニ提出シ其ノ承認ヲ求ムヘシ
 第三十三條 産業組合カ其ノ組合員ニ對シテ爲ス通知又ハ催告ハ組合員名簿ニ記載シタル組合員ノ住所又ハ其ノ者カ組合ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル
 前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本條ヲ追加)
 第三十四條 民法第四十四條第一項、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第六十條及第六十一條第一項ノ規定ハ産業組合ノ理事ニ之ヲ準用ス
 第三十五條 監事ハ理事其ノ他組合ノ事務員ト相兼アルコトヲ得ス
 第三十六條 民法第五十九條ノ規定ハ産業組合ノ監事ニ之ヲ準用ス
 第三十七條 理事缺ケタルトキハ總會ノ招集ハ監事ノ之ヲ行フ
 理事カ第二十三條ノ規定ニ依ル請求アリタル日ヨリ二週間内ニ正當ノ事由ナクシテ總會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ監

事ハ其ノ總會ヲ招集スヘシ(大正十年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ追加)
 第三十五條 組合カ理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス組合ト理事ト間ノ訴訟ニ付テモ亦同シ
 第三十六條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス
 第三十七條 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス但シ組合員ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス
 第三十八條 民法第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス
 第三十九條 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ハルニシテ總會ヲ設クルコトヲ得
 總會ニ關スル規定ハ前項ノ總會ニ之ヲ準用ス但シ總會ニ於テハ解散及合併ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス(明治三十九年法律第四十五號ヲ以テ本條ヲ追加)
 第四十條 定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ルヘシ
 第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス
 定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
 第四十一條 組合カ出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目録及貸借對照表ヲ作ルヘシ
 組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シテ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ定款ノ定ムル方法ニ從ヒテ公告シ且知レタル債權者ニ各別ニ之ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ改正)

第四十一條 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シテ異議ヲ述ヘサレバ之ヲ承認シタルモノト看做ス
 債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得ス
 第四十二條 前二條ノ規定ハ保證責任組合カ組合員ノ保證金額ヲ減少スル場合ニ之ヲ準用ス
 第四十三條 組合員カ其ノ出資ノ拂込ミタル迄ハ之ニ配當スヘキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツヘシ但シ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配當スヘキ剩餘金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(大正十五年法律第五十四號ヲ以テ本項但書ヲ追加)
 組合員ニ配當スヘキ剩餘金又ハ持分ノ計算ニ付テハ計算ノ基礎ト爲ルヘキ金額ニシテ計算上不便ナル端數金額ハ之ヲ切捨ツルコトヲ得(大正十年法律第七十三號ヲ以テ本項ヲ追加、同十五年法律第五十四號ヲ以テ改正)
 第四十四條 組合ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス
 剩餘金配當ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十九年法律第四十五號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第四十五條 組合ハ第五十三條ノ場合ヲ除クノ外持分ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得ス
 第四十六條 組合ハ定款ヲ以テ定ムル準備金ノ額ニ違スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ
 第四十七條 信用組合ハ第一條第四項ノ規定ニ依リ貯金ノ總額ノ四分ノ一以上ノ金額ヲ拂戻準備金トシテ命令ノ定ムル所ニ依リ管理スヘシ
 前項ノ金額ハ事業年度ニ從ヒ毎六箇月末日現在ノ貯金總額ニ依リ之ヲ定ム
 第一條第四項ノ規定ニ依リ貯金ヲ爲シタル者ハ第一項ノ拂戻準備金ノ上ニ先取特權ヲ有ス(大正六年法律第二十二

號ヲ以テ本條ヲ追加)
 第四十六條ノ三 有限責任又ハ保證責任ノ信用組合第一條第四項ノ規定ニ依リ貯金ニ關スル債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各理事連帶シテ之ヲ辨濟スルノ責任ヲ負ス
 前項ノ規定ニ依リ理事ノ責任ハ其ノ退任前ノ債務ニ付退任ノ登記後二箇年間仍存スル同上本條ヲ追加)
 第四十七條 組合ハ事業年度ハ一箇年トス
 第四十八條 組合ハ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

第五章 加入及脱退

第四十九條 組合員ノ加入ハ無限責任組合ニ在リテハ總組合員ノ同意ヲ要ス
 前項ノ同意ニ付テハ組合ハ總組合員ニ對シ加入ニ異議アラハ二週間ヲ下ラサル一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ期間内ニ異議ヲ述ヘサル者ハ同意ヲ爲シタルモノト看做ス(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第五十條 定款ヲ以テ組合ノ存立時期ヲ定ムルト否ト問ハス組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得但シ六箇月前ニ其ノ豫告ヲ爲スヘシ
 前項ノ豫告期間ハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ二箇年ヲ超ユルコトヲ得ス
 第五十一條 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス
 一 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス
 二 死亡
 三 破産
 四 禁治産
 五 除名
 第五十二條 除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第四十九條 組合員ノ加入ハ無限責任組合ニ在リテハ總組合員ノ同意ヲ要ス
 前項ノ同意ニ付テハ組合ハ總組合員ニ對シ加入ニ異議アラハ二週間ヲ下ラサル一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ期間内ニ異議ヲ述ヘサル者ハ同意ヲ爲シタルモノト看做ス(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第五十條 定款ヲ以テ組合ノ存立時期ヲ定ムルト否ト問ハス組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得但シ六箇月前ニ其ノ豫告ヲ爲スヘシ
 前項ノ豫告期間ハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ二箇年ヲ超ユルコトヲ得ス
 第五十一條 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス
 一 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス
 二 死亡
 三 破産
 四 禁治産
 五 除名
 第五十二條 除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

除名ハ總會ノ決議ニ依リ但シ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ス
 第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス
 第五十三條 脱退シタル組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得
 第五十四條 脱退シタル組合員ノ持分ハ其ノ脱退シタル事業年度ノ終ニ於ケル組合財産ニ依リテ之ヲ定ム但シ定款ノ定ムル所ニ依リ脱退當時ノ財産ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得(明治三十九年法律第四十五號、同四十二年法律第二十七號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第五十五條 持分ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ但シ前條但書ノ場合ニ於テハ脱退ノ時ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ(明治三十九年法律第四十五號ヲ以テ本項但書ヲ追加)
 持分拂戻ノ請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二箇年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス
 第五十六條 持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合財産ヲ以テ組合ノ債務ヲ完済スルニ足ラサルトキハ脱退シタル組合員ハ其ノ負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムヘシ
 第五十七條 脱退シタル組合員カ組合ニ對スル債務ヲ完済スル迄ハ組合ハ其ノ持分ノ拂戻ヲ停止スルコトヲ得
 第五十八條 無限責任組合及保證責任組合ニ在リテハ脱退シタル組合員ハ脱退前ノ組合債權者ニ對シ其ノ脱退ノ組合原簿ニ記載シタル後二箇年間責任ヲ負擔ス
 前項ノ規定ニ依リ期間ハ總組合員ノ同意アルトキハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ改正)
 前項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ハ第一項ノ規定ニ違背セサル限り之ヲ短縮スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第四十條及

第四十一條ノ規定ヲ適用ス、明治四十二年法律第二十...

第六章 監督

第五十九條 産業組合ハ主務大臣、地方長官及北海道支...

第七章 解散

第六十二條 組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス...

二 總會ノ決議
三 組合ノ合併
四 組合員カ七人未満ニ減シタルトキ...

第八章 清算

第六十七條 合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル...

第七十條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權...

第十六條ノ三ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス、大正六年...

第九章 産業組合聯合會及産業組合中央會

第七十六條 産業組合聯合會ハ左ノ目的ヲ以テ之ヲ設立スルコ...

- 一 所屬組合ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ...

第七十六條ノ二 信用組合聯合會ハ日本勸業銀行、日本興...

産業組合法

産業組合聯合會及産業組合中央會

金庫ニ對シ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ爲ニ債務ノ保證ヲ...

第七十八條 産業組合又ハ産業組合聯合會ハ其ノ所屬...

第七十九條 産業組合聯合會ノ區域ハ特別ノ事由アル場合...

第八十條 産業組合聯合會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ所屬...

第八十一條 産業組合聯合會設立當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ...

六 役員ニ關スル規定
 七 會議ニ關スル規定
 八 事業ノ執行ニ關スル規定
 九 定款ノ變更ニ關スル規定
 十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

定款ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第八十七條 産業組合中央會設立ノ許可アリタルトキハ主務大臣事務所所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ改正)

登記スヘキ事項左ノ如シ

一 目的及第八十二條第三項ノ規定ニ依ル事業ノ種類
 二 第八十六條第一項第一號、第二號及第十號ニ掲ケタル事項
 三 資産ノ總額
 四 設立許可ノ年月日
 五 理事及監事ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(同上本項ヲ改正)

第十六條ノ三ノ規定ハ第一項及前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ同條中地方長官トアルハ主務大臣トス(同上本項ヲ追加)

第八十八條 産業組合中央會ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

第八十九條 産業組合中央會ノ理事及監事ハ會員タル産業組合又ハ産業組合聯合會ノ理事、監事及第八十五條第二項ノ會員ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

第九十條 産業組合中央會ノ總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會

員ノ中ヨリ選出シタル代表者ヲ以テ組織ス但シ第九十二條ニ於テ準用シタル第六十二條第一項第二號ノ總會ハ會員ヲ以テ組織ス

第九十一條 産業組合中央會ハ主務大臣ノ監督ス

第九十二條 第三條、第五條乃至第七條、第十條、第十五條、第十六條、第二十六條、第二十七條、第二十九條、第三十條乃至第三十五條、第三十九條第一項、第四十七條、第六十條、第六十一條、第六十二條第一項、第七十一條乃至第七十五條、第八十條第二項、第九十三條乃至第九十四條並民法第六十二條及第六十四條ノ規定ハ産業組合中央會ニ之ヲ準用ス但シ第六十五條、第七十三條ノ二及第七十三條ノ三中並第六十三條、第七十四條及第七十四條ノ二ニ於テ準用シタル第六十六條ノ三中地方長官トアルハ主務大臣トス(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ改正)

第十章 罰則

第九十三條 組合ノ理事又ハ監事何等ノ名義ヲ以テスル間ハ組合ノ事業ノ範圍外ニ於テ貸付若ハ手形ノ割引ヲ爲シ又ハ投機取引ヲ爲シ組合ノ財產ヲ減損シタルトキハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニ之ヲ適用セス(同上本條ヲ追加、第九十三條第九十三條ノ二改正)

第九十四條 組合ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 本法ニ定メタル届出若ハ組合原簿ヲ提出ラズシテ理事又ハ監事ノ職務ヲ行フ若シテ若ハ組合原簿ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ改正)

二 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

三 第二十九條第一項及第三十條第一項ノ規定ニ違背シ又ハ第二十九條第一項及第三十條第一項ニ掲ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ若ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ開覽ヲ拒ミタルトキ

四 第一條第五項、第四十三條、第四十五條乃至第四十六條ノ二、第四十八條又ハ第七十二條ノ規定ニ違背シタルトキ(同上本項ヲ改正)

五 第六十條ノ報告ヲ爲サズ又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他監督官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ

六 民法第七十九條ノ期間内ニ債權者ニ辨償ヲ爲シタルトキ

七 民法第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ爲リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

八 民法第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ違背シタルトキ

九 組合ノ目的タル事業ニ非サル營利事業ヲ營ミタルトキ(明治四十二年法律第二十七號ヲ以テ本項ヲ追加)

十 第四十條又ハ第四十一條ノ規定ニ違背シテ出資一口ノ金額若ハ組合員ノ保證金額ヲ減少シ、第五十八條ノ規定ニ依リ責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合ノ合併若ハ組織變更ヲ爲シタルトキ(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ追加)

十一 法令又ハ定款ニ違背シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ(同上本項ヲ追加)

第九十五條ノ三 第四條第二項又ハ第八十三條第二項ノ規定ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スル(大

正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ追加)

第九十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス(大正十年法律第七十三號ヲ以テ本項ヲ改正)

附則

第九十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十三年勅令第三百一號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行ス)

第九十六條 産業組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所産業組合聯合會及産業組合中央會ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トシ明治四十二年法律第二十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第九十七條 各登記所ニ産業組合登記簿、産業組合聯合會登記簿及産業組合中央會登記簿ヲ備フ(同上本條ヲ改正)

第九十八條 登記ノ囑託ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

囑託書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ改正)

一 産業組合、産業組合聯合會又ハ産業組合中央會ノ名稱及事務所

二 登記ノ目的及事由

三 年月日

四 登記所ノ表示

第九十九條 設立登記ノ囑託書ニハ定款及届書ヲ添附シ其ノ他ノ登記ノ囑託書ニハ届出ニ因ル場合ニ於テハ届書ヲ添付スヘシ(同上本項ヲ改正)

第一百條 (同上本條ヲ削除)

第一百一條 (同上本條ヲ削除)

第一百二條 (同上本條ヲ削除)

第九十三條 (同上本條ヲ削除)

第九十四條 本法ノ規定ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所選滯ナク之ヲ公告スヘシ但シ組合原簿ニ記載シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(明治四十二年法律第二十七號ヲ以テ本項ヲ改正)

第九十五條 非訟事件手續法第三百八條、第三百三十八條ノ二、第四百一十一條乃至第四百四十六條、第四百四十八條、第四百五十四條乃至第五百一十一條、第五百一十五條及第五百七十五條ノ規定ハ産業組合、産業組合聯合會及産業組合中央會ニ之ヲ準用ス

第九十六條 (大正十五年法律第五十四號ヲ以テ本項ヲ削除)

第九十七條 (大正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ削除)

附則

第九十八條 (明治四十二年法律第二十七號附則)

第九十九條 (大正六年法律第二十二號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正六年勅令第九十九號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行ス)

本法施行前ニ登記シタル産業組合及産業組合聯合會ニシテ定款ニ區域ノ定アルモノニ付テハ地方長官ハ本法施行ノ日ヨリ三月内ニ區域ノ登記ヲ各事務所所在地ノ登記所ニ囑託スヘシ

附則 (大正十年法律第七十三號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年勅令第三百七十一號ヲ以テ同年八月十日ヨリ施行ス)

本法施行前ニ設立シタル生産組合又ハ生産組合聯合會ハ之ヲ本法ニ依リ設立シタル利用組合又ハ利用組合聯合會ト看做ス

附則 (大正十五年法律第五十四號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年勅令第三百三十號ヲ以テ同年五月二十五日ヨリ施行ス)但シ第五十九條及第六十六條ニ關スル規定ハ郡長及島司廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道營業法 (明治三十三年三月十六日)

改正、明四三—法五〇、大八—法五四

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ鐵道營業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道營業法

第一章 鐵道ノ設備及運送

第一條 鐵道ノ建設、車輛器具ノ構造及運轉ハ命令ヲ以テ定ムル規程ニ依ルヘシ
第二條 本法其ノ他特別ノ法令ニ規定スルモノノ外鐵道運送ニ關スル特別ノ事項ハ鐵道運輸規程ノ定ル所ニ依ル

鐵道營業法 (明治三十三年三月十六日)

改正、明四三—法五〇、大八—法五四

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ鐵道營業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道營業法

第二章 鐵道係員

第十九條 鐵道係員ノ職制ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十條 地方鐵道業者ハ鐵道係員ノ服務規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス(大正八年法律第五十四號ヲ以テ本條ヲ改正)

鐵道營業法 (明治三十三年三月十六日)

改正、明四三—法五〇、大八—法五四

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ鐵道營業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道營業法

第二章 鐵道係員

第十九條 鐵道係員ノ職制ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十條 地方鐵道業者ハ鐵道係員ノ服務規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス(大正八年法律第五十四號ヲ以テ本條ヲ改正)

鐵道營業法 (明治三十三年三月十六日)

改正、明四三—法五〇、大八—法五四

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ鐵道營業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道營業法

第三章 旅客及公衆

第二十九條 鐵道係員ノ許諾ヲ受ケシテ左ノ所ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(明治四十三年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)
一 有效ノ乘車券ナクシテ乘車シタルトキ

鐵道營業法 (明治三十三年三月十六日)

改正、明四三—法五〇、大八—法五四

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ鐵道營業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道營業法

第三章 旅客及公衆

第二十九條 鐵道係員ノ許諾ヲ受ケシテ左ノ所ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(明治四十三年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)
一 有效ノ乘車券ナクシテ乘車シタルトキ

當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本項ヲ改正)

前項ノ規定ハ競買人ニシテ抵當權者カ之ニ加ハルモノニ付テハ其ノ債權額カ最低競賣價額ノ百分ノ五以上ニ相當スル場合ニ限リテ之ヲ適用セシ

第五十二條 競賣ハ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ

第五十三條 裁判所ハ競買人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封スヘシ

第五十四條 (同上本條ヲ削除)

第五十五條 競賣期日ニ於テ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ裁判所ハ應ジテ以テ之ニ代リテ競賣期日ヲ定ム

第五十六條 入札ハ之ヲ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス

第五十七條 裁判所ハ最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額ヲ表示シ競賣ノ終局ヲ告知スヘシ

第五十八條 裁判所ハ競賣ニ關スル調書ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 競賣ニ付セラレタル鐵道財團ノ表示

二 競賣申立人ノ表示

三 入札及開札ノ日時

四 總テノ競買價額及競買人ノ名稱、住所又ハ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ若ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキ

五 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時及最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額

第六十條 強制競賣申立ノ取下若ハ強制執行ノ取消アリタル場合又ハ第四十八條乃至第五十三條若ハ第五十七條ノ規定ニ違反シテ競賣ヲ爲シタル場合ニ限リ債權者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者又ハ競買人ハ競賣ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第六十一條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許スヘキトキハ應ジテ以テ競賣期日ヲ定ム

第六十二條 競賣ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲シタル者ハ第六十條ノ規定ニ依リテ由アル場合ニ限リ競賣ヲ許ササル決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十三條 裁判所ハ競賣ニ關スル調書ヲ作成スヘシ

第六十四條 競賣ヲ許ス決定カ確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ勝本ヲ監督官廳ニ送付スヘシ(同上本條ヲ改正)

第六十五條 競賣代金ハ競賣ヲ許ス決定カ確定シタル日又ハ第七十三條ノ許可ヲ受クルコトヲ要スル者ニ在リテハ其ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一週間以内ニ之ヲ裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競買人タル場合ニ於テハ自己カ競賣代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノ支拂ヲ以テ足ル(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第六十六條 競賣代金ノ支拂アリタルトキハ競賣ニ付セラレタル鐵道財團ニ關スル權利ハ競買人ニ、競買人カ會社ノ發起人ナルトキハ其ノ競買人ニ依リテ發起セラレタル會社ニ移轉ス(同上本條ヲ改正)

第六十七條 第七十三條ノ許可ヲ受ケタルトキ、第七十三條ノ期間内ニ許可ノ申請ナキトキ又ハ第六十五條ノ期間内ニ競賣代金ノ支拂ナキトキハ裁判所ハ應ジテ以テ競賣ヲ許ス決定ヲ取消シ更ニ競賣期日ヲ定ム(同上本條ヲ改正)

第六十八條 入札ハ之ヲ變更シ又ハ取消スコトヲ得

第六十九條 裁判所ハ最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額ヲ表示シ競賣ノ終局ヲ告知スヘシ

第七十條 裁判所ハ競賣ニ關スル調書ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 競賣ニ付セラレタル鐵道財團ノ表示

二 競賣申立人ノ表示

三 入札及開札ノ日時

四 總テノ競買價額及競買人ノ名稱、住所又ハ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ若ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキ

五 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時及最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額

第七十一條 前條ノ競賣ニ關シテハ第四十八條、第四十九條、第五十二條乃至第六十六條、第六十七條第一項、第三項、第六十八條及第六十九條ノ規定ヲ適用ス

第七十二條 競買人ハ競賣ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ

第七十三條 (同上本條ヲ削除)

第七十四條 競買人カ會社ノ發起人ナルトキハ前條ノ許可ノ申請ニハ定款及會社ノ設立登記簿本ヲ添付スヘシ(同上本條ヲ改正)

第七十五條 (同上本條ヲ削除)

第七十六條 監督官廳ハ第七十三條及第七十四條ノ規定ニ依リ申請アリタルトキハ許可スヘシ(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第七十七條 第七十三條ノ許可ハ競買人又ハ競買人ニ依リテ設立セラレタル會社カ免許ニ關スル權利及義務ヲ承継ス(同上本條ヲ改正)

第七十八條 強制管理ニ付テハ第四十三條、第四十五條乃至第四十七條ノ規定ヲ適用ス

第七十九條 強制管理開始ノ決定確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ勝本ヲ監督官廳ニ送付スヘシ(同上本條ヲ改正)

第八十條 前條決定ノ勝本ノ送付アリタルトキハ監督官廳ハ一人又ハ數人ノ管理人ヲ選任スヘシ但シ強制管理ノ申立人ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第八十一條 監督官廳ハ管理人ヲ監督シ、管理方法ニ付指揮ヲ爲シ且管理人ニ與フヘキ報酬ノ額ヲ定ムヘシ

第八十二條 監督官廳ハ前項ニ掲ケタル事項ニ付債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及鑑定人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第八十三條 監督官廳ハ管理人ニ擔保ヲ供スヘキコトヲ命ジ又ハ之ヲ解任スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第八十四條 監督官廳カ管理人ヲ任免シタルトキハ其ノ旨ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及裁判所ニ通知スヘシ(同上本條ヲ改正)

第八十五條 鐵道財團ノ所有者カ管理人選任ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ鐵道財團ノ管理人ニ引渡スヘシ

第八十六條 鐵道財團ノ所有者ニ對シ管理ニ必要ナル書類其ノ他ノ物ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得

第八十七條 監督官廳ハ前項ノ引渡ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ依リ執行吏ヲシテ其ノ引渡ヲ爲サシムヘシ

第八十八條 強制管理ノ申立人ハ管理人ノ請求ニ因リ管理ノ費用ヲ立替支拂フヘシ

第八十九條 管理人ハ鐵道財團ノ管理及收益ニ付必要ナル裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲スヘシ

第九十條 鐵道財團ノ管理ニ付官廳ニ對スル取締役ノ責任ハ管理人之ノ負

第九十一條 管理人ハ毎營業年度ノ終ニ於テ鐵道財團ノ收入ヨリ順次ニ管理ノ費用、管理人ノ報酬及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ヲ抵當權者ニ交付スヘシ

第九十二條 管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ計算報告書ヲ監督官廳ニ提出スヘシ

第九十三條 監督官廳ハ前項計算報告書ノ勝本ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者及抵當權者ニ送付シ且一定ノ期間内ニ異議アラハ之ヲ申出ツヘキ旨ヲ催告スヘシ

第九十四條 前項ノ期間内ニ異議ヲ申出テサリシ者ハ計算ヲ承認シタルモノト看做ス

第九十五條 異議ヲ申出テタル者アリタルトキハ監督官廳ハ管理人ノ陳述ヲ聽キタル後之ヲ裁定ス此ノ裁定ハ終局トス(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第九十六條 管理人ハ前條第二項ノ期間ヲ過キ又ハ前條第四項ノ裁定ヲ經タル後ニ非サレハ抵當權者ニ對シ配當額ノ交付ヲ爲スコトヲ得

第九十七條 管理人力配當額ノ交付ヲ爲シタルトキハ抵當權者ノ名稱及配當額ヲ監督官廳及裁判所ニ通知スヘシ(同上本條ヲ改正)

第九十八條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

第九十九條 強制管理ノ申立ヲ爲シタル抵當權者カ債務ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スヘシ

第十條 鐵道財團ノ所有者カ前二項ノ引渡ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ依リ執行吏ヲシテ其ノ引渡ヲ爲サシムヘシ

第十一條 強制管理ノ申立人ハ管理人ノ請求ニ因リ管理ノ費用ヲ立替支拂フヘシ

第十二條 管理人ハ鐵道財團ノ管理及收益ニ付必要ナル裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲スヘシ

第十三條 鐵道財團ノ管理ニ付官廳ニ對スル取締役ノ責任ハ管理人之ノ負

第十四條 管理人ハ毎營業年度ノ終ニ於テ鐵道財團ノ收入ヨリ順次ニ管理ノ費用、管理人ノ報酬及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ヲ抵當權者ニ交付スヘシ

第十五條 管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ計算報告書ヲ監督官廳ニ提出スヘシ

第十六條 監督官廳ハ前項計算報告書ノ勝本ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者及抵當權者ニ送付シ且一定ノ期間内ニ異議アラハ之ヲ申出ツヘキ旨ヲ催告スヘシ

第十七條 前項ノ期間内ニ異議ヲ申出テサリシ者ハ計算ヲ承認シタルモノト看做ス

第十八條 異議ヲ申出テタル者アリタルトキハ監督官廳ハ管理人ノ陳述ヲ聽キタル後之ヲ裁定ス此ノ裁定ハ終局トス(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十九條 管理人ハ前條第二項ノ期間ヲ過キ又ハ前條第四項ノ裁定ヲ經タル後ニ非サレハ抵當權者ニ對シ配當額ノ交付ヲ爲スコトヲ得

第二十條 管理人力配當額ノ交付ヲ爲シタルトキハ抵當權者ノ名稱及配當額ヲ監督官廳及裁判所ニ通知スヘシ(同上本條ヲ改正)

第二十一條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十二條 強制管理ノ申立ヲ爲シタル抵當權者カ債務ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スヘシ

第二十三條 鐵道財團ノ所有者カ前二項ノ引渡ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ依リ執行吏ヲシテ其ノ引渡ヲ爲サシムヘシ

第二十四條 強制管理ノ申立人ハ管理人ノ請求ニ因リ管理ノ費用ヲ立替支拂フヘシ

第二十五條 管理人ハ鐵道財團ノ管理及收益ニ付必要ナル裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲スヘシ

第二十六條 鐵道財團ノ管理ニ付官廳ニ對スル取締役ノ責任ハ管理人之ノ負

第二十七條 管理人ハ毎營業年度ノ終ニ於テ鐵道財團ノ收入ヨリ順次ニ管理ノ費用、管理人ノ報酬及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ヲ抵當權者ニ交付スヘシ

第二十八條 管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ計算報告書ヲ監督官廳ニ提出スヘシ

第二十九條 監督官廳ハ前項計算報告書ノ勝本ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者及抵當權者ニ送付シ且一定ノ期間内ニ異議アラハ之ヲ申出ツヘキ旨ヲ催告スヘシ

強制管理ノ申立人カ管理費用ノ立替支辨ヲ爲サルトキハ
裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ強制管理ノ取消ヲ命スルコト
ヲ得
第九十一條 前條第二項ノ場合ニ關シテハ第六十八條第二項
及第三項ノ規定ヲ準用ス
前項ノ場合ヲ除ク外強制管理ノ取消ニ關シテハ第六十九
條ノ規定ヲ準用ス

第四章 罰則

- 第九十二條 左ノ場合ニ於テハ取締役又ハ管理人ヲ十圓以上
千圓以下ノ過料ニ處ス
一 本法ニ定メタル裁定ヲ遵守セザルトキ
二 第九條ノ規定ニ違反シタルトキ
三 第二十條又ハ第二十一條ノ報告ヲ爲サルトキ
四 登錄ニ關シ不正ノ申請ヲ爲シタルトキ又ハ第三十一
條ノ登錄ノ申請ヲ爲サルトキ
五 鐵道財目録ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ、第三十
四條ノ届出ヲ爲サルトキ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタル
トキ
六 管理方法ニ付監督官廳ノ命令ニ違反シタルトキ(大
正八年法律第五十六號ヲ以テ本號ヲ改正)
七 第八十八條ノ計算報告書ヲ差出サルトキ又ハ不
正ノ報告ヲ爲シタルトキ
八 配當額ノ交付ヲ爲サルトキ又ハ第八十七條若ハ第
八十九條第一項ノ規定ニ違反シテ配當額ノ交付ヲ
爲シタルトキ
九 第八十九條第二項ノ通知ヲ爲サルトキ
第九十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條
ノ規定ハ前條ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十八年勅令
第百八十六號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行ス)

●森林法

(明治四十年四月二十三日)
法律第四十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ森林法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之
ヲ公布セシム
森林法

第一章 總則

- 第一條 森林ハ其ノ所有者ニ依リ之ヲ分テ御料林、國有林、
公有林、社寺有林及私有林トス
前項ノ種別ニ依リ離キ森林ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ
本法ヲ適用ス
第二條 森林ノ立木竹ヲ所有スル爲地上權、賃借權其ノ他土
地ニ關シ使用又ハ收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ
權利者ヲ以テ本法ニ依ル森林所有者ト看做ス
前項ノ權利ニ簡以上同一ノ土地ノ上ニ存在スル場合ニ於
テハ最後ニ設定セラレタル權利ヲ有スル者ヲ以テ前項ノ森林
所有者トス
第三條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租條例ニ規定スルモノ
外燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲ヲ謂フ
第四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル森林所
有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ
權利義務ハ森林若ハ森林立木竹又ハ土地ノ所有權若ハ
占有權ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス
第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタ
ル手續其ノ他ノ行爲ハ森林所有者、森林立木竹所有者又
ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ
有ス
第六條 民法第二百五十六條ノ規定ハ共有ノ森林ニ之ヲ適

森林法 總則 營林ノ監督 保安林

用セズ但シ各共有者持分ノ價格ニ從ヒ其ノ過半數ヲ以テ分
割ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ス
第七條 公園、社寺境内及命令ヲ以テ定ムル土地ニ付テハ本
法ヲ適用セズ但シ命令ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラ
ズ
第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ書類ヲ
送付スヘキ場合ニ於テ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ官報又ハ
行政廳慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ公示シ其ノ公示ノ日ヨリ三
十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ送付アリタルモノト看
做ス

第二章 營林ノ監督

- 第九條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ公共團體又ハ
社寺ノ代表者ヲシテ森林又ハ森林トシテ管理スヘキ土地ニ付
施業案又ハ施業要領ヲ定メ其ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得
地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ施業案又ハ施
業要領ノ變更ヲ命スルコトヲ得
第十條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキ
ハ地方長官ニ於テ施業ノ方法ヲ指定スルコトヲ得
前項指定ノ方法ニ違反シ伐木ヲ爲シタル者ニハ地方長官其
ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得
第十一條 本法第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第十二條 前條第二項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタル者造林ヲ
怠リタルトキハ行政官廳ニ於テ自ら義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ
爲シ又ハ公共團體ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
前項造林ニ要シタル費用ハ行政官廳ニ於テ國稅徵收法ノ
例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
第十三條 本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新ニ造
林シタルトキハ其ノ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ造林シタル
部分ニ限リ三十年以内地租ヲ免スルコトヲ得

第三章 保安林

- 第十四條 主務大臣ハ左ニ掲グル場合ニ於テ森林ヲ保安林ニ
編入スルコトヲ得
一 土砂ノ壞崩、流出ノ防備ノ爲必要ナルトキ
二 飛砂ノ防備ノ爲必要ナルトキ
三 水害、風害、潮害ノ防備ノ爲必要ナルトキ
四 類雪又ハ墜石ニ因リ危險ノ防止ノ爲必要ナルトキ
五 水源涵養ノ爲必要ナルトキ
六 魚附ノ爲必要ナルトキ
七 航行ノ目標ノ爲必要ナルトキ
八 公眾ノ衛生ノ爲必要ナルトキ
九 社寺、名所又ハ舊蹟ノ風致ノ爲必要ナルトキ
第十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキ又ハ保安林
トシテ存置スルノ必要アリト認ムルトキハ保安林ヲ解除スルコト
ヲ得
第十六條 保安林ノ編入解除ハ其ノ森林所在ノ府縣市町村
又ハ之ニ準スヘキ者其ノ他直接利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ地
方長官ヲ經由シ主務大臣ニ申請スルコトヲ得
前項ノ申請ニ係ル森林ニ付不編入又ハ不解除ノ處分アリタ
ルトキハ實地ノ狀況ニ著シキ變更ヲ生シタル場合ニ非サレハ同
一理由ニ依リ再ヒ之ヲ申請スルコトヲ得

第十七條 保安林ノ編入解除ニ申請アリタル場合ニ於テ前條第一項ノ條件ヲ具備セス又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シタルモノト認めタルキハ地方長官ハ申請書ヲ却下スルコトヲ得

第十八條 保安林ノ編入解除ヲ提起スルコトヲ得

第十九條 保安林ノ編入解除ニ付シテ其ノ旨ヲ森林所有者、土地所有者、他ノ土地ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ニ通知シ且履行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示シ森林所在地ノ市町村役場ニ之ヲ揭示ス

第二十條 地方長官ハ前項告示ノ日ヨリ三十日ヲ経過シタル後保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ議ニ付ス

第二十一條 地方森林會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 第十八條ノ告示ニシテ保安林編入ニ關スルモノナルキハ其ノ告示ノ日ヨリ第二十三條ノ告示ノ日迄其ノ森林ニ於テ木竹ノ伐採、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ編入解除ニ異議アルキハ第十八條ノ告示ノ日ヨリ二十五日以内ニ意見書ヲ地方長官ニ提出スルコトヲ得

第二十四條 地方長官ハ保安林ノ編入解除ニ關スル地方森林會ノ決議書其ノ他ノ關係書類ニ意見書ヲ添ヘテ主務大臣ニ差出ス但シ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 主務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルキハ官報ヲ以テ之ヲ告示シ地方長官ヲシテ其ノ森林所有者ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在ノ市町村役場ニ揭示セシム

第二十六條 地方長官ニ於テ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルキハ前項ノ手續ヲ爲ス

第二十七條 保安林ノ編入解除ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルキハ前條告示ノ日ヨリ六十日以内ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十八條 地方長官ニ於テ保安林ノ編入ニ關シ必要アリト認めタルキハ其ノ森林ニ於ケル木竹ノ伐採ヲ停止スルコトヲ得但シ其ノ停止期間ハ一箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十九條 必要ナルキハ又ハ已ムコトヲ得ザル事由アルキハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得

第三十條 保安林ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ木竹ノ伐採、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲シ又ハ家畜ヲ放牧スルコトヲ得ス

第三十一條 主務大臣ハ保安林ノ所有者ニ對シ前條ノ外其ノ使用收益ヲ制限若ハ禁止シ又ハ放棄若ハ保護ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第三十二條 木竹ノ伐採ヲ禁止セラレタル保安林ノ所有者又ハ立木竹ノ所有者ハ之ニ因リテ生シタル直接ノ損害ニ限リ其ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第三十三條 前項保安林ノ所有者カ前條ノ指定ニ依リ造林ヲ爲シタルキハ其ノ造林ノ費用ハ前項ノ損害ヲ看做ス

第三十四條 前二項ノ損害ハ政府ノ補償ニ付シテ政府ハ保安林編入ニ因リテ利益ヲ受ケル公共團體若ハ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシメ國稅徵收法ノ例ニ依リテ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十五條 第一項及第二項ノ損害ノ算定方法及其ノ補償請求期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 前條第三項ニ依リ政府ノ補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十七條 前條第三項但書ニ依リ負擔ニ付不服アル者ハ前條告示ノ日ヨリ六十日以内ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十八條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ第二十八條第一項ニ依リ受ケヘキ補償金額ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ擔保ニ差押ヲ爲スヘシ

第三十九條 國有地ノ上ニ存在スル森林ニシテ保安林ニ編入セラレタルキハ政府ハ其ノ借地料ヲ免ス

第四十條 主務大臣國土保安上必要アリト認めタルキハ保安林以外ノ森林ニ付區域又ハ箇所ヲ定メテ開墾ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第四十一條 第二十六條ノ規定ニ違反シ、第二十七條又ハ前條ノ制限、禁止若ハ指定ニ違反シタル者アルキハ地方長官ハ造林其ノ他復舊ニ必要ナル行為ヲ命スルコトヲ得

第四十二條 第十一條ノ規定ハ前條ニ依リ造林ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ適用ス

第四十三條 保安林ノ編入解除ニ關スル調査及國土保安ニ關シ地方長官ノ行フ調査ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ北海道ニ於テハ北海道地方廳、沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第四十四條 主務大臣ニ於テ必要アリト認めタルキハ原野、山岳其ノ他ノ土地ニシテ第十四條第一號乃至第五號ノ場合ニ該當スルモノニ付本章ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四十五條 第十八條第二項、第二十八條乃至第三十條ノ規定ハ御料林及國有林ニ之ヲ適用ス

第四十六條 主務大臣ハ命令ヲ定ムル所ニ依リ本章ニ規定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第四章 土地ノ使用及收用

者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第三十九條 本章ニ於テ補償金額ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受ケヘキ損失ニ對シ補償金額ト總稱ス

第四十條 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲メ又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲メ必要アルキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ「御料局」又ハ政府ノ使用ニ係ルトキハ當該官廳ハ之ヲ地方長官ニ協議スヘシ

第四十一條 地方長官ハ前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ協議調ヒタルキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知ス

第四十二條 第一項ニ依リ土地ヲ使用セムル者ハ前項通知ノ後其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲メ土地所有者及關係人ニ協議スヘシ

第四十三條 前條第二項ノ通知後一箇年以内ニ同條第三項ノ協議ヲ爲ササルキハ同條第一項ノ許可及協議ハ其ノ效力ヲ失フ第五十五條第一項ニ依リ地方森林會ノ議決ヲ求メサルキハ亦同シ

第四十四條 土地ノ使用三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第四十五條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 土地ノ使用又ハ收用スルキハ土地所有者及關係人ニ補償金額ヲ拂渡スヘシ

第四十七條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金額ヲ拂渡スヘシ

第四十八條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ道路、溝渠、塘柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲スノ必

要ヲ生シタルキハ其ノ補償金額ヲ拂渡スヘシ

第四十九條 第四十條第二項ノ通知後土地ノ形質ヲ變更シ、工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置セムルキハ土地所有者及關係人ハ地方長官ノ許可ヲ受ケヘシ許可ヲ受ケシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金額ヲ請求スルコトヲ得

第五十條 第四十條第二項ノ通知後同條第一項ノ目的ニ土地ヲ使用スルコトヲ廢止シタルキハ土地所有者及關係人ノ受ケル損失ニ對シ補償金額ヲ拂渡スヘシ

第五十一條 土地所有者及關係人ハ土地ノ使用者若ハ收用者ヲシテ補償金額ニ付相當ノ擔保ヲ供セムルコトヲ得但シ土地ノ使用者若ハ收用者ハ之ニ進スヘキモノナルキハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 第五十五條第一項ノ議決アリタルキハ土地ノ使用者又ハ收用者ハ其ノ裁決ニ依リ補償金額ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ用ウルコトヲ得但シ土地ノ使用者又ハ收用者カ「御料局」、政府、府縣、市町村及之ニ進スヘキモノナルキハ補償金額ノ供託及擔保ノ提供ヲ要セス

第五十三條 前條ニ依リ補償金額ヲ拂渡若ハ供託ヲ爲ス又ハ擔保ヲ供セサルキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得

第五十四條 土地ヲ收用スルキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ收用者ノ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

第五十五條 土地ヲ使用スルキハ使用ノ時期ニ於テ土地ノ使用者其ノ使用權ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ヲ妨ケル範圍ニ制限セラレム

第五十六條 土地ノ使用者其ノ使用ヲ終リタルキハ土地ノ原形ニ復シ又ハ原形ニ復セザルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金額ヲ拂渡シ之ヲ返還スヘシ

第五十七條 第三十條ノ規定ハ本章ノ補償金額ニ之ヲ適用ス

第五十八條 土地ノ使用若ハ收用、補償金額又ハ擔保ニ付協議調ヒタルキハ協定書ヲ爲スコト能ハサルキハ第四十條第二項ノ通知後一箇年以内ニ地方森林會ノ議決ヲ求ムルコトヲ得

第五十九條 前項ノ議決中土地ノ使用又ハ收用ニ關スルモノニ付不服アル者ハ主務大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得但シ權利ヲ侵害セラレタルキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ該決ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ六十日ヲ経過シタルキハ此ノ限ニ在ラス

第六十條 第一項ノ裁決中補償金額又ハ擔保ニ關スルモノニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ該決ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ九十日ヲ経過シタルキハ此ノ限ニ在ラス

第六十一條 土地收用法第六十四條、第六十六條及第六十七條ノ規定ハ本章ニ依リ使用又ハ收用セラレタル土地ニ之ヲ適用ス

第六十二條 土地ノ使用、收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ使用又ハ收用ニ之ヲ適用ス

第六十三條 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲メ又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲メ必要アルキハ地方長官ノ許可ヲ得テ水流ニ於ケル他人ノ工作物ヲ使用シ、變更シ又ハ除却スルコトヲ得但シ「御料局」又ハ政府カ之ヲ行フキハ地方長官ニ協議スヘシ

第六十四條 前項ノ工作物ノ使用、變更又ハ除却ニ因リテ損害ヲ生スヘキトキ補償金額ヲ拂渡スヘシ

第六十五條 第四十條第二項、第四十一條、第四十六條乃至第五十一條、第五十二條、第五十三條乃至第五十五條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第六十六條 流水竹ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ沿岸ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ損害アリタルキハ賠償ヲ爲スヘシ

第六十七條 前條ノ外流水竹ニ付土地又ハ水ノ使用ニ關スル

第五節 森林組合

第六十一條 森林又ハ森林ノ事業ニ關シ實地調査ノ爲必要ナルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ支柱木竹ヲ伐採スルコトヲ得但シ「御料局」又ハ政府ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得

第五章 森林組合

第六十二條 森林組合ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ必要ナル事業ヲ爲ス爲一定ノ地區ヲ限リテ之ヲ設立スルコトヲ得 一 國土保安ノ爲又ハ森林ノ荒廢ヲ防止シ若ハ荒廢セル森林ヲ回復スル爲必要ナルトキ

第六節 森林警察

第六十七條 森林組合成立シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總子組合員トシ但シ命令又ハ定款ニ於テ加入ノ義務ヲシテ定メタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第六章 森林警察

第七十六條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ左ノ命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ得 一 森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ定メ所轄警察官署ニ届出テシメ森林產物ノ搬出前之ヲ使用セシムルコト

第七節 罰則

第八十三條 森林ニ於テ其ノ產物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ三年以下ノ「重禁錮」又ハ罰額以上罰額ニ倍以下ノ罰金ニ處ス

第八章 附則

第八十九條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ「輕懲役」ニ處ス因テ主產物ヲ燒燬シタル者ハ「重懲役」ニ處ス 自己ノ森林ニ放火シタル者ハ二月以上二年以下ノ「重禁錮」又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節 森林組合

第六十三條 森林組合ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ必要ナル事業ヲ爲ス爲一定ノ地區ヲ限リテ之ヲ設立スルコトヲ得 一 國土保安ノ爲又ハ森林ノ荒廢ヲ防止シ若ハ荒廢セル森林ヲ回復スル爲必要ナルトキ

第五章 森林組合

第六十四條 森林組合ハ營利ヲ目的トセザル社團法人トシテ設立スルニハ定款ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ 第六十五條 森林組合ノ組合員ハ其ノ地區内ニ於ケル森林ノ所有者ニ限ル

第六節 森林警察

第六十七條 森林組合成立シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總子組合員トシ但シ命令又ハ定款ニ於テ加入ノ義務ヲシテ定メタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第六章 森林警察

第七十六條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ左ノ命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ得 一 森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ定メ所轄警察官署ニ届出テシメ森林產物ノ搬出前之ヲ使用セシムルコト

第七節 罰則

第八十三條 森林ニ於テ其ノ產物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ三年以下ノ「重禁錮」又ハ罰額以上罰額ニ倍以下ノ罰金ニ處ス

第八章 附則

第八十九條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ「輕懲役」ニ處ス因テ主產物ヲ燒燬シタル者ハ「重懲役」ニ處ス 自己ノ森林ニ放火シタル者ハ二月以上二年以下ノ「重禁錮」又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五節 森林組合

第六十三條 森林組合ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ必要ナル事業ヲ爲ス爲一定ノ地區ヲ限リテ之ヲ設立スルコトヲ得 一 國土保安ノ爲又ハ森林ノ荒廢ヲ防止シ若ハ荒廢セル森林ヲ回復スル爲必要ナルトキ

第五章 森林組合

第六十四條 森林組合ハ營利ヲ目的トセザル社團法人トシテ設立スルニハ定款ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ 第六十五條 森林組合ノ組合員ハ其ノ地區内ニ於ケル森林ノ所有者ニ限ル

第六節 森林警察

第六十七條 森林組合成立シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總子組合員トシ但シ命令又ハ定款ニ於テ加入ノ義務ヲシテ定メタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第六章 森林警察

第七十六條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ左ノ命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ得 一 森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ定メ所轄警察官署ニ届出テシメ森林產物ノ搬出前之ヲ使用セシムルコト

第七節 罰則

第八十三條 森林ニ於テ其ノ產物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ三年以下ノ「重禁錮」又ハ罰額以上罰額ニ倍以下ノ罰金ニ處ス

第八章 附則

第八十九條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ「輕懲役」ニ處ス因テ主產物ヲ燒燬シタル者ハ「重懲役」ニ處ス 自己ノ森林ニ放火シタル者ハ二月以上二年以下ノ「重禁錮」又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

テ免許ヲ受ケタル者アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ除名シ又ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得(大正十一年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加、同十一年法律第六十號ヲ以テ改正)

第十一條之三 取引員取引所ノ役員タル認可ヲ受ケタルトキハ其ノ免許ハ效力ヲ失フ(大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第十二條ノ四 會員又ハ取引員ハ第二項但書ノ場合ヲ除ク外支店、出張所其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルラ間ハ二以上ノ場所ヲ以テ同一取引所ノ賣買取引ノ取扱ヲ爲ス場所ト爲スコトヲ得

何人ト雖取引所ノ賣買取引ノ委託ノ代理、媒介又ハ取次ヲ營業ト爲スコトヲ得但シ會員又ハ取引員ニシテ農商務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ(同上本條ヲ追加)

第十三條 會員又ハ取引員ハ自己ノ計算ヲ以テスル他人ノ計算ヲ以テスルラ間ハ二取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フ(同上本條ヲ改正)

第十四條 取引員ハ其ノ免許ヲ受ケタルトキ免許料ヲ納ム(シ)免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(同上本條ヲ改正)

第十五條 會員又ハ取引員ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ム(シ)(同上本條ヲ改正)

第十六條 取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲メ規定ノ規定ニ依リ會員又ハ取引員ノ營業ヲ停止シ千圓以内ノ過怠金ヲ課シ且政府ノ認可ヲ受ケタル會員又ハ取引員ヲ除名スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第十七條ノ二 取引所ハ其ノ定款ヲ以テ會員若ハ取引員トナルニ必要ナル條件ヲ定メ又ハ其ノ員數ヲ制限スルコトヲ得

第十八條ノ二 規定ハ會員若ハ取引員カ前項ノ要件ヲ缺クニ至リタル場合又ハ之ヲ缺ク者ニシテ會員若ハ取引員トナリタル者アルコトヲ發見シタル場合ニテ之ヲ準用ス大正十一年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加、同十一年法律第六十號ヲ以テ改正)

第十九條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セザル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ賣買取引ノ違約ヨリ生ズル損害ニ付賠償ノ責任ヲ負フ(同上本條ヲ改正)

第二十二條 前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十三條ノ二 株式會社組織ノ取引所ハ前條ノ規定ニ依リ賠償ノ責任ヲ任ストキハ營業保證金ヲ政府ニ納ム(シ)(同上本條ヲ追加)

第二十四條 取引所ハ賣買取引ノ委託者ノ會員又ハ取引員カ委託契約ニ違ヒタル場合ニ於テ其ノ違約ニ因リ債權ニ關シ違約シタル會員又ハ取引員ノ身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十五條 前條ノ優先權ハ前項ノ優先權ニ對シ優先ノ效力ヲ有ス(同上本條ヲ追加)

第二十六條 會員又ハ取引員ハ委託ヲ受ケタル取引所ノ賣買取引ニ付取引所ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サシム

ヲ以テ改正)

第十五條ノ三 取引員ハ廢業後ト雖其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了及監督ノ目的ノ範圍内ニ於テハ取引結了後二週間ヲ經過スル迄仍舊營業セザルモノト看做ス

取引員死亡シ、解散シ若ハ除名セラレ又ハ其ノ免許ヲ取消サレ若ハ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了ニ至ル迄亦前項ニ同シ(大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正)

前項ノ規定ハ會員ノ死亡、解散、除名及脱退ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上本條ヲ改正)

前項ノ場合ニ於テ會員又ハ取引員ノ行爲ヲ爲ス者ナキトキハ取引所ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ他人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得(大正十一年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加、同十一年法律第六十號ヲ以テ改正)

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ任期ヲ以テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受ケ取引員ト間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ

理事長 一人
理事 二人以上
監査役 若干人
理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケンシ
第十一條第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得

取引員ト間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ

理事長 一人
理事 二人以上
監査役 若干人
理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケンシ
第十一條第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得

取引員ト間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ

理事長 一人
理事 二人以上
監査役 若干人
理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケンシ
第十一條第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得

取引員ト間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ

營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ取引所又ハ之ノ同種ノ物件ヲ取引スル株式會社組織ノ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得(大正十一年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加、同十一年法律第六十號ヲ以テ改正)

第十六條ノ二 役員前條第四項ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ取引員ノ免許ヲ受ケタルトキハ其ノ職ヲ失フ理事長又ハ理事他ノ取引所ノ理事長又ハ理事タル認可ヲ受ケタルトキ亦同シ(大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正)

農商務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ役員タルノ認可ヲ受ケタル者若ハ前條ノ規定ニ違反シテ役員トナリタル者アルコトヲ發見シ又ハ役員ニシテ第十七條第二項ノ規定ニ違反スル者アリト認メタルトキハ之ヲ解職スルコトヲ得(大正十一年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加)

第十七條ノ三 農商務大臣ハ役員ノ職務ヲ行フ者ナキ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ假ニ役員ヲ選任スルコトヲ得(同上本條ヲ追加)

第十八條 株式會社組織ノ取引所ノ役員又ハ使用人ハ何人ノ名ヲ以テスルラ間ハ二取引所ノ取引物件ニ付取引所ニ於ケル賣買取引ヲ爲シ又ハ其ノ委託ヲ爲スコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ノ役員又ハ使用人ハ其ノ取引所又ハ之ノ同種ノ物件ヲ取引スル取引所ノ取引員ト間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得(大正十一年法律第三十三號、同十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十七條ノ二 取引所ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ商議員會ヲ置キ取引所ニ關スル重要ナル事項ヲ付議ス(シ)(大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第十八條 取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

簡月、米ニ在リテハ三箇月、蠶絲ニ在リテハ六箇月、其ノ他ノ商品ニ在リテハ勅令ノ定ムル期間ヲ超ユルコトヲ得(大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セザル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條 前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十三條ノ二 株式會社組織ノ取引所ハ前條ノ規定ニ依リ賠償ノ責任ヲ任ストキハ營業保證金ヲ政府ニ納ム(シ)(同上本條ヲ追加)

第二十四條 取引所ハ賣買取引ノ委託者ノ會員又ハ取引員カ委託契約ニ違ヒタル場合ニ於テ其ノ違約ニ因リ債權ニ關シ違約シタル會員又ハ取引員ノ身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十五條 前條ノ優先權ハ前項ノ優先權ニ對シ優先ノ效力ヲ有ス(同上本條ヲ追加)

第二十六條 會員又ハ取引員ハ委託ヲ受ケタル取引所ノ賣買取引ニ付取引所ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サシム

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

第六十號ヲ以テ本條ヲ追加)

前項第一號ノ罪ヲ犯シタル者自官シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得(大正三年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三十二條ノ四 取引所ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル目的ヲ以テ虚偽ノ風説ヲ流布シ、偽計ヲ用ヒ又ハ暴行若ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス(同上本條ヲ追加)

第三十二條ノ五 取引所ニ依ラスシテ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トシ行爲スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第百八十六條ノ適用ヲ妨クス同上本條ヲ追加)

第三十二條ノ六 會員又ハ取引員ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス(大正三年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加、同一年法律第六十號ヲ以テ改正)

第三十二條ノ七 本法ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ行爲ヲ爲シタル理事、取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用ス(大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ追加)

附則

第三十三條 取引所ノ規則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料及積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治九年布告第五號米商會所條例、明治二十年勅令第十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十二年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布

告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所及取引所ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ受ケ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲ササルモノハ此ノ限ニ在ラス

附則 (大正十一年法律第六十號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第三百五十二號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行ス但シ第十八條ノ改正規定中有價證券ノ買賣取引ノ期限ニ關スル規定ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス)

第十八條ノ改正規定中有價證券ノ買賣取引ノ期限ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ他ノ規定ヨリ後ニ之ヲ施行スルコトヲ得但シ其ノ施行ノ期日ヲ大正十四年四月一日ヨリ後ト爲スコトヲ得ス

本法施行ノ際現ニ營業スル仲買人ハ其ノ營業部類ニ付本法ニ依リ其ノ取引所ノ取引員タル免許ヲ受ケタルモノト見做ス

本法施行前ニ爲シタル取引所ノ買賣取引ニ付テハ其ノ取引ノ結了ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

● 保險業法

(明治三十三年三月二十二日)

改正、明四五一法一八、昭二一法五〇

股帝國議會ノ協賛ヲ經テ保險業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 保險事業ハ主務官廳ノ免許ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第二條 保險事業ハ株式會社又ハ相互會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 保險會社ハ他ノ事業ヲ兼ズルコトヲ得ス

第四條 同一ノ會社ニシテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ其ノ目的ト爲スコトヲ得ス但シ生命保險ノ目的ト爲スル會社ハ生命保險ノ再保險ヲ爲スコトヲ得(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ但書ヲ追加)

第五條 保險會社カ免許ヲ申請シタル場合ニ於テ主務官廳ハ必要ト認ムルトキハ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

第六條 主務官廳ノ認許シタル有價證券ヲ以テ前項ノ供託金ニ代フルコトヲ得(同上本條ヲ追加)

第七條 保險會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス(同上本條ヲ改正)

- 一 定款
- 二 事業方法書
- 三 普通保險約款
- 四 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類
- 五 財産ノ利用方法ヲ記載シタル書類(同上本條ヲ追加)

保險業法 總則

第六條 (同上本條ヲ削除)

第七條 普通保險約款ニハ左ニ掲ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

- 一 保險會社カ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキ事由
- 二 保險會社カ其ノ義務ヲ免ルヘキ事由
- 三 保險會社ノ義務ノ範圍ヲ定ムル方法及ヒ其義務履行ノ時期
- 四 保險契約者又ハ被保險者カ其義務不履行ノ爲メニ受クヘキ損失
- 五 保險契約ノ全部又ハ一部ノ解除ノ原因及ヒ其解除ノ場合ニ於テ當事者ノ有スル權利義務
- 六 保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ利益又ハ剩餘金ノ分配ニ與ル權利ノ有無及ヒ範圍
- 七 第五條ニ掲ケタル書類ヲ變更スルニハ主務官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)

第九條 保險會社ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第十條 主務官廳ハ本法及ヒ第五條ニ掲ケタル書類ニ定ムル事項ニ從ハシムル爲メ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得(明治四十五年法律第十八號、昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十一條 主務官廳ハ何時ニモ保險會社ヲシテ其事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十二條 主務官廳カ保險會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況ニ依リ其事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ財産ノ供託若クハ事業ノ停止ヲ命ジ又ハ期間ヲ定メテ業務執行ノ方法若クハ計算ノ基礎ノ變更ヲ命ジ其他保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)

令ヲ爲スコトヲ得(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十三條 保險會社カ本法、出務官廳ノ命令又ハ第五條ニ掲ケタル書類ニ定ムル特ニ重要ナル事項ニ違反シタルトキハ主務官廳ハ取締役ノ改選若クハ事業ノ停止ヲ命ジ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十四條 保險會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

主務官廳ハ清算事務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査シ財産ノ供託ヲ命ジ其他監督ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十五條 一 保險會社カ免許ヲ取消スルニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳ハ清算人ヲ選任ス

商法第八十九條、第九十九條ノ六及ヒ第二百二十六條第二項ニ定ムル清算人ノ選任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス此場合ニ於テ利害關係人ノ請求ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得

商法第九十三條ノ二第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十六條 主務官廳ハ監督役又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主若クハ十分ノ一以上ノ社員ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任スルコトヲ得但シ請求ヲ爲ス社員ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ主務官廳ハ前項ノ請求ナクシテ清算人ヲ解任スルコトヲ得

商法第二百二十八條第二項ノ規定ハ保險會社ノ清算人ニハ之ヲ適用セス(同上本條ヲ追加)

第十七條 三 前條ノ規定ニ依リ清算人ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ主務官廳ノ定ムル(同上本條ヲ追加)

第十八條 四 保險會社ニ非サルモノハ其商號又ハ名稱中ニ保

險事業者タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス(昭和二十二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二章 株式會社

第十四條 保險ヲ營業トスル株式會社ノ定款ニハ商法第二百一十條第二號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 保險ノ種類及ヒ事業ノ範圍

二 設立費用償却ノ方法

第十五條 會社ハ其商號ニ保險ノ種類ヲ示スコトヲ要ス

第十六條 會社ノ資本ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十七條 株式申込證ニハ第十四條及ヒ商法第二百二十六條第二項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第十八條 會社ハ第十四條及ヒ商法第四百一十一條第一項ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第十九條 第五十八條ノ規定ハ株式會社ノ計算ニ之ヲ適用ス但設立費用及ヒ營業費ノ全額ヲ償却シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 商法第二百十條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社ニハ之ヲ適用セズ昭和二十二年法律第五十號ヲ以テ第二十條ノ第十九條ノ規定ニ付テハ

第二十一條 會社ノ資本減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ之ニ關スル定款變更ノ認可ノ日ヨリ二週間内ニ減少スヘキ金額、減少ノ方法及ヒ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十二條 第三項及ヒ第二十五條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ適用ス(昭和二十二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二十三條 會社ハ契約ヲ以テ責任準備金算出ノ基礎ヲ同クスル保險契約ノ全部ヲ包括シテ他ノ會社ニ移轉スルコトヲ得

會社ハ前項ノ契約ヲ以テ會社財產ヲ移轉スヘキコトヲ定ムルコトヲ得但主務官廳カ其會社ノ債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スルコトヲ要ス

第一項ノ契約ハ各會社ニ於テ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ保險契約ヲ移轉セントスル會社ニ在リテハ商法第二百九條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二十二條 保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ移轉契約ノ要旨及ヒ各會社ノ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ公告ニハ保險契約者ニシテ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述ベヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但其期間ハ二ヶ月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ期間内ニ異議ヲ述ベタル保險契約者カ保險契約者總數ノ十分ノ一ヲ超エ又ハ其保險金額カ保險金額ノ十分ノ一ヲ超ユルトキハ保險契約ノ移轉ヲ爲スコトヲ得ス第二十二條ノ六ノ規定ニ依リ第七條第七號ノ事項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ異議ヲ述ベタル保險契約者ニシテ其保險契約ニ付テ同條同項ノ事項ヲ變更セラルヘキ者カ同條同項ノ事項ヲ變更セラルヘキ保險契約者總數ノ十分ノ一ヲ超エ又ハ其保險金額カ同條同項ノ事項ヲ變更セラルヘキ保險契約者ノ保險金額ノ十分ノ一ヲ超ユルトキ亦同シ(同上本條ヲ追加、昭和二十二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十三條 保險契約ノ移轉ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生ゼズ

前項ノ認可申請書ニハ移轉契約書、各會社ノ株主總會ノ決議、財產目錄、貸借對照表及ヒ前條ノ公告並ニ異議ニ關スル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

主務官廳ハ前項ノ書類ノ外必要ト認ムル書類ヲ提出ヲ命スルコトヲ得(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)

ニモ對抗スルコトヲ得(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十四條 生命保險ノ目的トスル會社カ合併ヲ爲ス場合ニ於テハ合併契約ヲ以テ其保險契約ニ付テ定ムル第七條第七號ノ規定ニ依リ第七條第七號ノ事項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テハ其變更ヲ爲サントスル會社ニ第二十二條ノ五及ヒ第七條第七號ノ規定ヲ適用ス昭和二十二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二十五條 第七十三條第二項及ヒ第八十七條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社ニ之ヲ適用ス明治四十五年法律第十八號、昭和二十二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十六條 第七十八條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社カ第二十一條及ヒ商法第七十四條第七號、第二百二十一條第二號、第三號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタル場合ニ之ヲ適用ス

第二十七條 合併ニ因リ解散ノ登記ノ申請書ニハ第二十二條ノ公告ヲ爲シタルトキ、若シ異議ヲ述ベタル保險契約者アルトキハ其數及ヒ其保險金額カ第二十二條ノ第三項ニ規定シタル割合ヲ超ユルトキ證明書及ヒ保險契約移轉ノ認可ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス(同上本條ヲ追加、昭和二十二年法律第五十號ヲ以テ改正)

第二十八條 會社カ營業ノ免許ヲ取消サレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

第二十九條 會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ決議ノ認可ノ日ヨリ二週間内ニ合併契約ノ要旨及ヒ各會社ノ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第三十條 第三項及ヒ第七項ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ適用ス

前二項ノ規定ニ依リ合併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ保險契約者其他保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ有スル者

險事業者タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス(昭和二十二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三章 相互會社

第一節 設立

第二十六條 相互會社ノ發起人ハ定款ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

一 保險ノ種類及ヒ事業ノ範圍

二 名稱

三 事務所ノ所在地

第二十七條 保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ株主總會ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲ササルニ至ル時迄其移轉セントスル保險契約ト同種ノ保險契約ヲ爲スコトヲ得ス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二十八條 生命保險ノ目的トスル會社カ其保險契約ノ全部ヲ移轉スル場合ニ於テハ移轉契約ヲ以テ保險金額ノ削減シ及ヒ將來ノ保險料ヲ減額スヘキコト又ハ其ノ保險契約ニ付テ定ムル第七條第七號ノ事項ヲ變更スヘキコトヲ定ムルコトヲ得(同上本條ヲ追加、昭和二十二年法律第五十號ヲ以テ改正)

第二十九條 前條ノ規定ニ依リ保險金額ノ削減ヲ定ムル場合ニ於テハ保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ第二十二條ノ第二項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲ササルニ至ル時迄其財產ノ處分ヲ爲シ又ハ債務ヲ負擔スヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス但會社ノ維持ニ必要ナル費用ヲ支出スル場合又ハ財產ノ保全其他特別ノ必要ニ依リ主務官廳ノ認可ヲ得テ財產ヲ處分スル場合ハ此限ニ在ラス

保險契約ノ移轉アリタルトキハ保險契約ニ因リテ生シタル債權ニシテ前項ノ規定ニ依リ支持ヲ停止セラレタルモノニ付テハ移轉契約ニ定ムル保險金額削減ノ割合ニ依リ其金額ヲ削減シテ支持ヲ爲スコトヲ要ス

前條ノ規定ニ依リ第七條第七號ノ事項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ其變更ヲ爲サントスル會社亦第一項ニ同シ但保險契約ニ因リテ生シタル債務ヲ擔濟スルハ此ノ限ニ在ラス(同上本條ヲ追加、改正)

第三十條 八 保險契約移轉ノ認可アリタルトキハ會社ハ連帶ナク其旨ヲ公告スルコトヲ要ス移轉ヲ爲ササルニ至リタルトキ亦同シ(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三十一條 會社カ保險契約ノ移轉ヲ爲シタルトキハ移轉ヲ爲

四 基金ノ總額

五 基金ノ釀出者カ有スヘキ權利

六 社員ノ責任ノ種類

七 基金又ヒ設立費用ノ償却ノ方法

八 剩餘金分配ノ方法

九 會社カ公告ヲ爲ス方法

十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定ムルトキハ其時期又ハ事由

第三十二條 相互會社ハ其名稱ニ保險ノ種類ヲ示シ且之ニ相互會社ナル文字ヲ附スルコトヲ要ス

第三十三條 相互會社ノ基金ハ十萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

第三十四條 基金ノ支拂ハ金銀以外ノ財產ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條 發起人ニ非サル者カ社員タルトキハ入社申込證ニ通過ニ保險ノ目的及ヒ保險金額ヲ記載シ之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス但會社カ主たる事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル後社員タルトキハ此限ニ在ラス

入社申込證ハ發起人之ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 定款作成ノ年月日

二 第二十六條ニ掲ケタル事項

三 基金ノ釀出者ノ氏名、住所及ヒ其各自力釀出スル金額

四 發起人ノ氏名、住所

五 發起人カ報酬ヲ受クヘキトキハ其報酬ノ額

六 設立ノ際集積セントスル社員ノ數

七 一定ノ時期迄ニ會社カ成立セザルトキハ入社ノ申込ヲ取消スコトヲ得ヘキコト(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三十二條 社員の確定ノ數ニ滿テタルキハ發起人ハ連帶ナク創立總會ヲ招集スルコトヲ要ス
創立總會ニ於テハ社員ノ半數以上出席シ其四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス
第四十三條 及七商法第五百五十六條第一項、第二項、第六十一條第三項、第四項、第六十三條乃至第六十三條ノ四ノ規定ハ相互會社ノ創立總會ニ之ヲ準用ス
(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)
第三十三條 第四十九條ノ二ノ規定ハ入社申込人ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス(同上本條ヲ改正)
第三十四條 相互會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成立ス
第三十五條 相互會社ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス
一 第二十六條第一號、第二號及ヒ第四號乃至第十號ニ掲ケタル事項
二 事務所
三 取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所
四 會社ヲ代表スヘキ取締役ヲ定メタルキハ其氏名(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)
五 數人ノ取締役カ共同シ又ハ取締役カ支配人ト共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルキハ其代表ニ關スル規定(同上本條ヲ追加)
前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)
第三十六條 商法第九條、第十一條乃至第十五條、第十九條乃至第三十八條、第四十條、第四十一條、第四十四條、第四十五條、第四十八條ノ二、第四十九條、第五十二條、第三十三條、第三十八條、第四十二條ノ二及ヒ第六十二條ノ三ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス

第四十二條ノ三ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス
第七十三條第一項ノ規定ハ商法第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依リ適用ノ場合ニ之ヲ準用ス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)
第二節 社員ノ權利義務
第三十六條 社員ハ會社ノ債權者ニ對シ直接ニ義務ヲ負フコトナシ
第三十七條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ハ左ノ三種トス
一 社員ノ全員カ無限ノ責任ヲ負フモノ
二 社員ノ全員カ保險料ノ限度トシテ責任ヲ負フモノ
三 社員ノ全員カ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ
第三十八條 社員ハ會社ニ拂込ムヘキ金額ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス
第三十九條 一 社員ノ責任カ第三十七條第二號又ハ第三號ニ該當スル相互會社ニ在リテハ定款ヲ以テ保險金額ノ削減ニ關スル事項ヲ定ムルコトヲ要ス(同上本條ヲ追加)
二 社員ノ責任カ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ
三 社員ノ責任カ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ
第四十條 損害保險ノ目的トスル相互會社ノ社員カ保險ノ目的ヲ達スルコトヲ爲シテハ該會社ノ承認ヲ得テ讓渡人ノ權利義務ヲ承継スルコトヲ得
第四十一條 生命保險ノ目的トスル相互會社ノ社員ハ會社ノ承認ヲ得テ他人ノ利益ヲ其權利義務ヲ承継セシムルコトヲ得
第四十二條 一 第二十二條ノ二第一項乃至第三項及ヒ第二十二條ノ四乃至第二十條ノ二ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス(同上本條ヲ追加)
第三節 會社ノ機關

第四十二條 相互會社ハ定款ヲ以テ社員總會ニ代ハルヘキ機關ヲ設ケルコトヲ得此機關ニハ社員總會ニ關スル規定ヲ準用ス
第四十三條 社員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
第四十四條 十分ノ一以上ノ社員ハ會社ノ目的タル事項及ヒ其招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得但此權利ノ行使ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得
商法第六十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)
第四十五條 商法第五百五十六條第一項、第二項、第五十七條第一項、第五百五十九條、第六十一條第一項、第三項、第四項及ヒ第六十三條乃至第六十三條ノ四ノ規定ハ相互會社ノ社員總會ニ之ヲ準用ス(同上本條ヲ改正)
第四十六條 取締役及ヒ監査役ハ社員總會ニ於テ之ヲ選任ス
第四十七條 取締役及ヒ監査役ハ社員タルコトヲ要セス
第四十八條 取締役ハ社員總會ノ認許アルニ非サレハ同種ノ保險ノ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員、業務擔當社員、取締役及ヒ監査役ト爲ルコトヲ得ス
第四十九條 取締役ハ社員名簿ヲ備ヘ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 社員ノ氏名、住所
二 各社員ノ保險契約ノ種類、保險金額及ヒ保險料
三 第三十七條第三號ノ場合ニ於テ各社員ノ責任ノ限度
第四十九條ノ二 商法第七十二條ノ二ノ規定ハ會社ノ社員ニ對スル通知及ヒ催告ニ之ヲ準用ス但保險關係ニ屬スル事項ニ付テハ此限ニ在ラス(同上本條ヲ追加)
第五十條 取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備ヘ

置キ且社員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス
社員及ヒ會社ノ債權者ハ事業時間内何時ニモ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得
第五十一條 社員總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員カ之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一ヶ月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス但此場合ニ於テハ第五十一條第一項但書、第五十二條及ヒ商法第八十五條第一項但書ノ規定ヲ準用ス
前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ監査役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
會社カ敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ對シテノ損害賠償ノ責ニ任ス
第五十二條 前條ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得
第五十三條 商法第六十四條第二項、第六十五條乃至第六十七條ノ二、第六十九條、第七十條、第七十七條第二項、第七十六條、第七十七條及ヒ第七十九條ノ規定ハ相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用ス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)
第五十四條 社員總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ十分ノ一以上ノ社員カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一ヶ月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第五十一條第一項但書、第五十二條及ヒ商法第八十五條第一項但書ノ規定ヲ準用ス
前項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
會社カ敗訴シタルトキハ右ノ社員ハ會社ニ對シテノ損害賠償ノ責ニ任ス
第五十五條 商法第六十四條第二項、第六十六條但

書、第六十七條、第六十七條ノ二、第七十七條、第七十九條乃至第八十四條、第八十五條第一項及ヒ第八十六條ノ規定ハ相互會社ノ監査役ニ之ヲ準用ス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)
第四節 會社ノ計算
第五十六條 基金ハ每事業年度ノ剩餘金ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ償却スルコトヲ得ス基金ノ釀出者ニ支拂フヘキ利息亦同
第五十七條 相互會社ハ損失ノ填補ニ備フル爲メ每事業年度ノ剩餘金中ヨリ準備金ヲ積立ツルコトヲ要ス
第五十八條 相互會社ハ損失ノ填補ニ備フル爲メ每事業年度ノ剩餘金中ヨリ準備金ノ最低額ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム
第五十九條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ハ十年ヲ超エサル期間内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ從ヒ毎年其一部ヲ償却スルコトヲ得
第六十條 設立費用及ヒ初ノ五年度ノ營業費ノ全額ヲ償却シ且第五十七條ノ準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ基金ヲ償却シ又ハ剩餘金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ハ前條ノ期間内ニ於テ基金ノ釀出者ニ利息ヲ支拂フコトヲ妨ケス
第六十一條 基金ノ償却スルトキハ其償却スル金額ト同一ノ金額ヲ積立ツルコトヲ要ス
第六十二條 剩餘金ハ定款ニ別段ノ定キキハ各事業年度ノ終ニ於テ社員ニ之ヲ分配ス
第六十三條 商法第九十條乃至第九十三條ノ規定ハ相互會社ノ計算ニ之ヲ準用ス
第五節 定款ノ變更
第六十三條 定款ノ變更ハ社員總會ノ決議ニ依リテ之ヲ爲

スコトヲ得但此決議ノ認可ヲ得ルニ付キ必要ナル變更ハ社員總會ノ決議ヲ以テ之ヲ取締役ニ委任スルコトヲ得
第三十一條第二項ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス
第六十四條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ責任ヲ減少セントスルトキハ商法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ從フコトヲ要ス
第六節 社員ノ退社
第六十五條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メタルトキ否トシテハ社員ハ事業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六ヶ月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス
第六十六條 社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス
一 定款ニ定メタル事由ノ發生
二 死亡
三 破産
四 保險關係ノ消滅
第六十七條 退社員ハ定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ從ヒ其權利ニ屬スル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得
第六十八條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ六ヶ月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
退社員ノ拂戻請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二年間ノ限リハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
第六十九條 退社員ノ權利ニ屬スル金額ノ計算ヲ爲スニ當テリ會社ニ現存スル財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ辨濟スルニ足ラサルトキハ退社員ハ其負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムコトヲ要ス
第七十條 退社員カ會社ニ對シテ負擔シタル債務アルトキハ會社ハ其退社員ニ拂戻スヘキ金額ノ中ヨリ其債務ノ金額ヲ控除スルコトヲ得
第七十一條 無限責任ヲ負フ社員及ヒ保險料ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フ社員ハ登記所ニ備フル社員名簿ニ退社ノ記載ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ其記載後

保險業法 相互會社

二年間責任ヲ負フ
前項ノ規定ハ第四十條及七十四條ノ場合ニ之ヲ適用ス

第七節 解散

第七十二條 相互會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 存立時期ノ満了ニ其定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 社員五百人未滿ニ減シタルコト
- 三 社員總會ノ決議
- 四 合併
- 五 破産
- 六 免許ノ取消

第七十三條 任意ノ解散合併及ヒ保險契約移轉ノ決議ハ總社員ノ半數以上出席シ其四分ノ三ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス
前項ノ決議ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生ゼス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)

第七十四條 (昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ削除)
第七十五條 第二十二條ノ二及ヒ商法第七十六條、第七十七條乃至第八十二條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ適用ス(同上本條ヲ改正)

第七十六條 相互會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外本節ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス
第七十七條 (明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ削除)

第八節 清算

第七十八條 會社カ第七十二條第二號、第三號又ハ第六號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタルトキハ保險金額ヲ支拂フヘキ事由カ解散ノ時ヨリ三個月内ニ生シタルトキニ限リ保險金額ヲ支拂フコトヲ要ス(同上本條ヲ改正)

前項ノ期間經過ノ後ハ損害保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ未ダ經過セザル期間ニ對シテ保險料、生命保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス
第七十九條 清算人ハ左ノ順序ニ從ヒテ會社財産ヲ處分スルコトヲ要ス

一 一般ノ債務ノ辨濟
二 社員ノ保險金額及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リテ社員ニ拂戻スヘキ金額ノ支拂
三 基金ノ償却
社員ハ保險料ノ外基金ノ償却ニ付キ責任ヲ負フコトヲシ
第八十條 殘餘財産ハ定款ニ別段ノ定キキハ剩餘金ノ分配ト同一ノ割合ヲ以テ之ヲ社員ニ分配ス
第八十一條 (明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ削除)

第八十二條 第四十四條、第五十條乃至第五十二條、第五十四條、商法第八十四條、第九十條乃至第九十三條、第九十三條ノ二、第九十七條、第九十九條、第一百零七條、第一百五十九條、第六十三條乃至第六十六條ノ四、第六十四條第二項、第六十七條ノ二、第七十條、第七十六條、第七十七條、第七十九條、第八十一條、第八十三條、第八十四條、第八十五條第一項、第八十六條、第九十一條乃至第九十三條、第九十七條、第九十九條乃至第一百零七條、第一百五十九條、第六十三條乃至第六十六條ノ四、第六十四條第二項、第六十七條ノ二、第七十條、第七十六條、第七十七條、第七十九條、第八十一條、第八十三條、第八十四條、第八十五條第一項、第八十六條、第九十一條乃至第九十三條、第九十七條、第九十九條乃至第一百零七條、第一百五十九條、第六十三條乃至第六十六條ノ四ノ規定ハ相互會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ適用ス(同上本條ヲ改正)

第九節 補則
第九十條 相互會社カ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營利ノ目的トセサル社團法人ト同一ノ登録稅ヲ納ムルコトヲ要ス
社員名簿ノ記載ニ付テハ登録稅ヲ課セズ
第九十一條 相互會社ニハ營業收益稅ヲ課セズ(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第九十二條 保險會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其帳簿ヲ閉鎖シ總會終結ノ後連帶ナク財産目錄、貸借對照表、事業報告書、損益計算書及ヒ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金並ニ利益又ハ剩餘金ノ分配ニ關スル決議書ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス
第九十三條 保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社ノ定時總會終結ノ後前條ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求メ又ハ其原本若ハ抄本ヲ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ニ定ムル所ニ依リ其原本又ハ抄本ヲ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコトヲ要ス
第九十四條 第九十二條ニ掲ケタル書類ノ書式ハ主務大臣之

其事由ヲ記載シ第八十四條第二項並ニ非訟事件手續法第八十二條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ委任セラレタル者ノ資格ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)

第八十九條 非訟事件手續法第二百二十六條第一項、第三項、第三百三十五條ノ四、第三百三十八條ノ三乃至第三百三十九條、第四百四十一條乃至第四百六十四條、第四百七十三條、第四百七十四條第二項、第四百七十五條乃至第四百七十八條、第四百八十八條、第四百九十三條第一項、第二項及ヒ第四百九十五條ノ二ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ適用ス(同上本條ヲ改正)

第九十條 相互會社カ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營利ノ目的トセサル社團法人ト同一ノ登録稅ヲ納ムルコトヲ要ス
社員名簿ノ記載ニ付テハ登録稅ヲ課セズ
第九十一條 相互會社ニハ營業收益稅ヲ課セズ(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第九十二條 保險會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其帳簿ヲ閉鎖シ總會終結ノ後連帶ナク財産目錄、貸借對照表、事業報告書、損益計算書及ヒ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金並ニ利益又ハ剩餘金ノ分配ニ關スル決議書ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス
第九十三條 保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社ノ定時總會終結ノ後前條ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求メ又ハ其原本若ハ抄本ヲ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ニ定ムル所ニ依リ其原本又ハ抄本ヲ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコトヲ要ス
第九十四條 第九十二條ニ掲ケタル書類ノ書式ハ主務大臣之

第九十五條 保險會社ハ保險契約ノ種類ニ從ヒ各事業年度ノ終ニ於テ存スル契約ニ付キ責任準備金ヲ計算シ且チ之ヲ特ニ設ケタル帳簿ニ記載スルコトヲ要ス
第九十六條 生命保險ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ニ付キ會社財産ノ上ニ優先權ヲ有ス

第九十七條 主務官廳ノ免許ヲ受ケシテ保險事業ヲ營ム者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス(明治四十五年法律第五十八號、昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)
第九十八條 第三十三條ノ四ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第九十九條 保險會社ノ取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但チ其行爲ニ付キ刑罰ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス(明治四十五年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

一 保險事業ニ非サル事業ヲ爲シタルトキ
二 生命保險ノ損害保險ト併シテ營業シタルトキ
三 主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
四 主務官廳ノ檢査ヲ妨ケタルトキ
五 正當ノ理由ナクシテ第九十三條ノ規定ニ依リ閲覧ヲ許スヘキ書類ノ閲覧セシメス又ハ其原本若ハ抄本ヲ交付セザリシトキ
六 會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタル場合ニ於テ清算人ニ事務ヲ引渡ラザルコトキ
第七 第二十條ノ規定ニ違反シテ資本減少ヲ爲シタルトキ(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ追加)第七

第十條 第八號トシ以下順次據下ク
第二十條ノ二、第二十條ノ三又ハ第二十條ノ五ノ規定ニ違反シテ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ保險契約ヲ爲シタルトキ
第二十條ノ七ノ規定ニ違反シテ財産ノ處分ヲ爲シ若クハ債務ヲ負擔スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲シタルトキ
第二十二條又ハ第二十二條ノ二ノ規定ニ違反シテ合併ヲ爲シタルトキ(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第九十五條ノ二 株式會社ノ取締役、監査役又ハ清算人カ本法ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)
第九十八條ノ三 相互會社ノ發起人、取締役、監査役又ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 會社ノ設立又ハ其登記ヲ爲シ若クハ之ヲ爲サシムル目的ヲ以テ社員ノ數又ハ基金抽出ノ引受ニ付キ裁判所又ハ總會ヲ欺罔シタルトキ
二 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ基金ノ償却シ其利息ヲ支拂ヒ又ハ剩餘金ヲ分配シタルトキ
三 會社ノ事業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲メニ會社財産ヲ處分シタルトキ
前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セズ(同上本條ヲ追加)

第九十九條 相互會社ノ發起人、取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス但チ其行爲ニ付キ刑罰ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)

第八十三條 各登記所ニ相互保險會社登記簿ヲ備フ
第八十四條 相互會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス
一 定款
二 社員名簿
三 社員ヲ募集シタル場合ニ於テハ各社員ノ入社申込書
四 主務官廳ノ免許書又ハ其認許アル原本
五 創立總會ノ決議書
第八十五條 相互會社ノ社員名簿ハ登記簿ノ一部トシテ會社社員名簿ニ爲シタル記載ハ之ヲ登記簿ノ附屬トシテ公告スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ社員ノ全員カ保險料ヲ限度トシテ責任ヲ負フ會社ノ社員名簿ニハ之ヲ適用セズ(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)

第八十六條 相互會社ノ支配人ノ選任ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ非訟事件手續法第七十三條第一項第四號ニ掲ケタル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ニ付キ亦同シ(同上本條ヲ改正)

第八十七條 相互會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スコトヲ要ス
第八十八條 第八十四條第一項ノ規定ハ相互會社ノ解散又ハ其合併ニ因リテ變更若クハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用ス
第八十九條 相互會社カ合併ニ因リテ變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ非訟事件手續法第八十二條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添付スルコトヲ要ス
第九十條 相互會社カ合併ニ因リテ設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ

第九十一條 相互會社ニハ營業收益稅ヲ課セズ(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第九十二條 保險會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其帳簿ヲ閉鎖シ總會終結ノ後連帶ナク財産目錄、貸借對照表、事業報告書、損益計算書及ヒ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金並ニ利益又ハ剩餘金ノ分配ニ關スル決議書ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス
第九十三條 保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社ノ定時總會終結ノ後前條ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求メ又ハ其原本若ハ抄本ヲ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ニ定ムル所ニ依リ其原本又ハ抄本ヲ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコトヲ要ス
第九十四條 第九十二條ニ掲ケタル書類ノ書式ハ主務大臣之

第九十五條 保險會社ハ保險契約ノ種類ニ從ヒ各事業年度ノ終ニ於テ存スル契約ニ付キ責任準備金ヲ計算シ且チ之ヲ特ニ設ケタル帳簿ニ記載スルコトヲ要ス
第九十六條 生命保險ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ニ付キ會社財産ノ上ニ優先權ヲ有ス

第九十七條 主務官廳ノ免許ヲ受ケシテ保險事業ヲ營ム者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス(明治四十五年法律第五十八號、昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)
第九十八條 第三十三條ノ四ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第九十九條 保險會社ノ取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但チ其行爲ニ付キ刑罰ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス(明治四十五年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

一 保險事業ニ非サル事業ヲ爲シタルトキ
二 生命保險ノ損害保險ト併シテ營業シタルトキ
三 主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
四 主務官廳ノ檢査ヲ妨ケタルトキ
五 正當ノ理由ナクシテ第九十三條ノ規定ニ依リ閲覧ヲ許スヘキ書類ノ閲覧セシメス又ハ其原本若ハ抄本ヲ交付セザリシトキ
六 會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタル場合ニ於テ清算人ニ事務ヲ引渡ラザルコトキ
第七 第二十條ノ規定ニ違反シテ資本減少ヲ爲シタルトキ(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ追加)第七

第十條 第八號トシ以下順次據下ク
第二十條ノ二、第二十條ノ三又ハ第二十條ノ五ノ規定ニ違反シテ保險契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ保險契約ヲ爲シタルトキ
第二十條ノ七ノ規定ニ違反シテ財産ノ處分ヲ爲シ若クハ債務ヲ負擔スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲シタルトキ
第二十二條又ハ第二十二條ノ二ノ規定ニ違反シテ合併ヲ爲シタルトキ(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第九十五條ノ二 株式會社ノ取締役、監査役又ハ清算人カ本法ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキハ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)
第九十八條ノ三 相互會社ノ發起人、取締役、監査役又ハ支配人ハ左ノ場合ニ於テハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 會社ノ設立又ハ其登記ヲ爲シ若クハ之ヲ爲サシムル目的ヲ以テ社員ノ數又ハ基金抽出ノ引受ニ付キ裁判所又ハ總會ヲ欺罔シタルトキ
二 法令又ハ定款ノ規定ニ違反シテ基金ノ償却シ其利息ヲ支拂ヒ又ハ剩餘金ヲ分配シタルトキ
三 會社ノ事業ノ範圍外ニ於テ投機取引ノ爲メニ會社財産ヲ處分シタルトキ
前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ニハ之ヲ適用セズ(同上本條ヲ追加)

年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正

- 一 本法ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルキ
- 二 本法ニ定メタル公告若クハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ通知ヲ爲シタルキ
- 三 第三十條第二項ノ規定ニ反シテ入社申込書ヲ作ラズ、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セ又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルキ
- 四 定款、社員名簿、總會ノ決議録、財産目録、貸借對照表、事業報告書、損益計算書若クハ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金、剩餘金分配ニ關スル議案ヲ事務所ニ備ヘ置カズ、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セ又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルキ
- 五 正當ノ理由ナクシテ第五十條第二項ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ閱覽セシメタルキ (明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)
- 六 商法第百八十一條ノ規定ニ依リ監督役ノ調査ヲ妨ケタルキ

- 九條ノ期間ヲ不當ニ定メタルキ (明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)
- 六 民法第七十九條ノ期間内ニ或債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ第八十條若クハ定款ノ規定ニ違反シテ剩餘財産ヲ分配シタルキ (同上本條ヲ追加)
- 附則 明治三十三年法律第五十二號ハ本法ノ犯罪ニ之ヲ適用ス (同上本條ヲ追加)
- 附則 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ適用ス

- 條ヲ追加)
- 第六條 本法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノハ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ連帶ナク營業報告書、損益計算書及ヒ利益ノ配當ニ關スル案ト共ニ之ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス
- 第七條 本法施行前ニ設立シタル合名會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノハ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ル毎ニ保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ其閱覽ヲ求メ又ハ其賸本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ依リ其賸本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコトヲ要ス
- 第八條 第三條、第四條、第八條乃至第十三條ノ三及ヒ第七十三條第二項ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ニ之ヲ適用ス (明治四十五年法律第十八號、昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)
- 第九條 本法施行前ニ設立シタル保險會社ニシテ相當ノ責任準備金ヲ積立テタルモノハ本法施行ノ日ヨリ三個月内ニ其不足額填補ノ方法ヲ定メ主務官廳ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス但填補ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ十年ヲ超ユルコトヲ得
- 第十條 填補ヲ爲シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得
- 第十一條 第七十八條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ノ第二十一條又ハ商法第七十四條第三號、第五號、第七號、第九號、第十號、第二十一條第二號、第二十二號、第二十三號、第二十四號、第二十五號、第二十六號、第二十七號、第二十八號、第二十九號、第三十號、第三十一號、第三十二號、第三十三號、第三十四號、第三十五號、第三十六號、第三十七號、第三十八號、第三十九號、第四十號、第四十一號、第四十二號、第四十三號、第四十四號、第四十五號、第四十六號、第四十七號、第四十八號、第四十九號、第五十號ノ規定ニ依リシテ適用ス
- 第十二條 第九十二條乃至第九十六條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル合資會社又ハ株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ適用ス (明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)

- 第十九條ノ二乃至第二十二條ノ二及ヒ第二十五條ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル株式會社ニシテ保險ヲ營業トスルモノニ之ヲ適用ス (明治四十五年法律第十八號、昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)
- 第二十條ノ二 第二十二條ノ二乃至第二十五條ノ二、第二十二條及ヒ第二十五條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル合資會社カ其保險契約ヲ合資會社若クハ株式會社ニ移轉シ又ハ株式會社ト合併スル場合ニ之ヲ適用ス但保險契約移轉ノ決議ハ商法第百五十一條第二項ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス (明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)
- 第二十一條ノ三 第二十二條、第二十五條、第七十三條第二項、商法第七十八條、第七十九條第一項、第七十三條第二項ノ規定ハ保險ヲ營業トスル合資會社カ其組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲ス場合ニ適用ス (同上本條ヲ追加)
- 第二十二條 第九十八條及ヒ第九十八條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル保險會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役及ヒ清算人ニ之ヲ適用ス (同上本條ヲ改正)
- 第二十三條 保險會社ノ業務ヲ執行スル社員又ハ取締役カ第四百四條又ハ第九十九條ノ規定ニ違反シタルキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル
- 第二十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ニ定メタル過料ニ之ヲ適用ス
- 第二十五條 外國人又ハ外國會社カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケ保險事業ヲ營業ム場合ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

- 第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正元年勅令第五十六號ヲ以テ同二年二月一日ヨリ施行ス)
- 附則 (明治四十五年法律第十八號附則)
- 第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和二年勅令第三百五十三號ヲ以テ同二年十二月十五日ヨリ施行ス)
- 本法施行ノ際保險會社ニ非スシテ其商號又ハ名稱中ニ保險事業者タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルモノハ本法施行後六ヶ月内ニ其商號又ハ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス
- 第九十七條ノ二ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲ケタルモノニ適用セ

- 第一條 本法ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ其施行前ニ生シタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但從前ノ規定ニ依リ生シタル效力ヲ妨ケズ
- 第二條 本法施行前ニ設立シタル會社ニシテ命令ヲ以テ第五條第二號又ハ第五號ニ掲ケタル書類ニ定ムヘキコトヲ規定スル事項ニ付キ認可ヲ受ケタルモノハ本法施行後六個月内ニ其認可ヲ申請スルコトヲ要ス
- 第三條 認可ヲ受ケタル時現ニ利用スル財産ニ付テハ其利用方法ヲ變更セザル限リ認可ヲ受ケタル方法ニ依ラサルコトヲ得
- 第四條 本法施行前ニ會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルキハ其合併ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得
- 第五條 第三十八條ノ二ノ規定ハ本法施行前ニ設立シタル會社ニハ之ヲ適用セ
- 第六條 明治四十四年法律第七十三號附則第四條、第五條、第七條、第九條乃至第十三條、第二十條及ヒ第二十一條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ適用ス
- 第七條 本法施行前ニ從前ノ罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルキハ本法施行ノ後ト雖其罰則ヲ適用ス
- 第八條 裁判所カ本法施行前ニ受理シタル清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
- 附則 (昭和二年法律第五十號附則)
- 第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和二年勅令第三百五十三號ヲ以テ同二年十二月十五日ヨリ施行ス)
- 本法施行ノ際保險會社ニ非スシテ其商號又ハ名稱中ニ保險事業者タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルモノハ本法施行後六ヶ月内ニ其商號又ハ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス
- 第九十七條ノ二ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲ケタルモノニ適用セ

銀行法

員ニ之ヲ適用ス

施行後五年ヲ限リ第三條第一項本文ノ規定ヲ適用セズ第六
三十九條第二項ノ銀行ノ合併ニ因リテ設立シタル銀行ノ資
本金ニ付亦同シ
命令ヲ以テ定ムル人口一萬未滿ノ地ニ本法施行ノ際現ニ
本店ヲ有スル銀行ニ付テハ第三條第一項本文ノ規定ヲ適
用セズ但シ其ノ資本金ハ本法施行後五年内ニ五十萬圓以
上ト爲スコトヲ要ス

第四十條 本法施行ノ際現ニ銀行ニシテ其ノ商號中ニ銀行ナ
ル文字ヲ用ヒザルモノ及銀行ニ非ズシテ其ノ商號中ニ銀行ナル
コトヲ示スベキ文字ヲ用アルモノニ付テハ本法施行後六月ヲ限
リ第四條ノ規定ヲ適用セズ

第四十一條 本法施行ノ際現ニ第五條ノ業務以外ノ業務ヲ營
ム銀行ハ本法施行後五年ヲ限リ仍其ノ業務ヲ繼續スルコト
ヲ得

第四十二條 第三十九條第二項ノ銀行ノ本法施行ノ際現ニ
有スル本店及支店以外ノ營業所又ハ代理店ハ本法施行
後一年内ニ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ存続スル
コトヲ得ズ
前項ノ認可申請書ハ本法施行後三月内ニ主務大臣ニ提出
スベシ

第四十三條 本法施行ノ際現ニ銀行ノ常務ニ從事スル取締役
又ハ支配人ニシテ他ノ會社ノ常務ニ從事スル者ハ本法施行
後一年ヲ限リ主務大臣ノ認可ヲ受ケズシテ引續キ其ノ會社
ノ常務ニ從事スルコトヲ得

第四十四條 第三十九條第二項ノ銀行ニシテ株式會社又ハ外
國銀行以外ノモノノ業務廢止ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受
クベシ

第四十五條 本法中取締役ニ關スル規定ハ第三十九條第二
項ノ銀行ニシテ株式會社又ハ外國銀行以外ノモノニ付テハ
其ノ營業主(營業主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社

銀行條例

(明治二十三年八月二十五日 法律第七十二號)

改正、明二八―法一、明三二―法五二、
明三三―法五、大五一―法一三、大
九―法二二、大二〇―法七五

朕銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十
四年一月一日ヨリ施行スヘキトス

銀行條例 (昭和二年法律第二十一號銀行法附則ヲ以テ
廢止)

第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ
又ハ爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等
ノ名稱ヲ用ケルニ拘ラス總テ銀行トス

第二條 銀行ノ事業ヲ營ムタル者ハ商號、資本金額及本店
ノ所在地ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受ク
ベシ

第三條 銀行ノ事業ヲ兼營シ又ハ支店ヲ設置セムトスルキ亦前
項ニ同シ大正五年法律第十三號ヲ以テ本條ヲ改正

第四條 銀行ノ前條第一項ニ掲ケル事項ヲ變更セムトスル
キハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クベシ支店ノ
所在地ヲ變更セムトスルキ亦同シ

第五條 銀行ノ事業ヲ營ム會社ノ合併ハ大藏大臣ノ認可ヲ受クルニ
非ザレバ其效力ヲ生ゼス(同上本條ヲ追加)

第六條 銀行ノ事業ヲ營ム會社ノ合併ノ決議ヲ爲シタル場
合ニ於テ前條第七十八條第二項ノ規定ニ依リテ爲スヘキ備
告ハ預金者ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ要セス(大正九年法律
第二十二號ヲ以テ本條ヲ追加)

第七條 銀行ノ事業ヲ營ム會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場
合ニ於テ前條第七十八條第二項但書ノ期間ハ一箇月迄
スルコトヲ得

銀行條例

之ヲ下スコトヲ得合併ニ因リ株式會社ノ場合ニ於テ商法第
二百二十條ノ二但書ノ期間ニ付亦同シ大正九年法律第
二十二號ヲ以テ本條ヲ追加

第八條 銀行ノ事業ヲ營ム會社カ合併ニ因リテ貯蓄銀行
法第一條第一項ノ業務ニ屬スル契約ニ基テ權利義務ヲ承
繼シタル場合ニ於テハ其契約ノ完了スル迄仍其契約ニ關スル
業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

第九條 貯蓄銀行法第九條、第十條、第十五條及第十九條ノ規
定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス但シ同法第十五條及第十九
條ノ規定中取締役トナルハ合併ニ因リテ設立シタル會社又ハ
合併後存続スル會社カ合名會社合資會社又ハ株式會社又ハ
會社ナルトキハ其業務ヲ執行スル社員トス(同上本條ヲ追加
大正十年法律第七十五號ヲ以テ改正)

第十條 銀行ハ毎年箇年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經
由シテ大藏大臣ニ送付スベシ

第十一條 銀行ハ毎年箇年貸借對照表ヲ製シ新聞紙其他ノ方
法ヲ以テ之ヲ公告スベシ(明治三十三年法律第五號ヲ以テ
本條ヲ改正)

第十二條 銀行ノ登記スヘキ事項ニシテ大藏大臣ノ認可ヲ要スル
モノアルトキハ其ノ認可書ノ到達シタル日ヨリ登記ノ期間ヲ起
算ス(明治二十八年法律第一號ヲ以テ本條ヲ削除、同三
十三年法律第五號ヲ以テ追加)

第十三條 銀行ノ營業時間ハ午前九時ヨリ午後第三時迄ト
ス

第十四條 但營業ノ都合ニヨリ之ヲ増加スルコトヲ得明治二十八年法
律第一號ヲ以テ本條ヲ改正

第十五條 銀行ノ休日ハ大祭日、祝日、日曜日及銀行營業地
ニ行ハル、定例ノ休日トス但シ得ザル事故アルトキハ地方長
官ニ届出テ豫メ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告シタル上休業
スルコトヲ得

第十六條 銀行ノ業務ノ停止ハ主務大臣ノ命令ニ依リ必
要アリト認ムルトキハ其事業ノ停止ヲ命ジ其他必要ナル命令
ヲ爲スコトヲ得

第十七條 大藏大臣ハ何時タリモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ
命ジテ銀行ノ業務ノ實況及財産ノ現況ヲ検査セシムルコトヲ
得

第十八條 大藏大臣ハ銀行ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必
要アリト認ムルトキハ其事業ノ停止ヲ命ジ其他必要ナル命令
ヲ爲スコトヲ得

第十九條 銀行ノ法令、定款又ハ大藏大臣ノ命令ニ違反シ其他公益
ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ大藏大臣ハ事業ノ停止若ハ
役員ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ認可ヲ取消スコトヲ得(大正五
年法律第十三號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二十條 大藏大臣ノ認可ヲ受ケズシテ銀行ノ事業ヲ營ムタルトキ
ハ其營業主ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス(同上本條ヲ改正)

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ營業主ヲ十圓以上千圓以下ノ罰
料ニ處ス(同上本條ヲ改正)

一 第二條第二項又ハ第二條ノ二第一項ノ規定ニ違
反シタルトキ

二 第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報
告若ハ公告中ニ虚偽ノ記載ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽
シタルトキ

三 第八條ノ検査ヲ妨ケタルトキ

四 第八條ノ二ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ爲シタル命令ニ
違反シタルトキ

第二十二條 前二條ノ罰則ハ營業主法人ナルトキハ其業務ヲ執
行スル社員、取締役、監査役其他法人ノ代表者、外國
會社ノ代表者ニ之ヲ適用シ未成年者又ハ禁治産者ナルトキ
ハ之ヲ其法定代理人ニ適用ス(同上本條ヲ追加)

第二十三條 此條例ハ日本銀行橫濱正金銀行「國立銀行」ニ
適用セズ

貯蓄銀行法

貯蓄銀行法

(大正十年四月十四日) (法律第七十四號)

改正、昭二一法二四

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ貯蓄銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貯蓄銀行法

第一條 左ニ掲グル業務ヲ營ム者ハ之ヲ貯蓄銀行トス

一 積利ノ方法ニ依リ預金ヲ受入ルコト

二 一同十圓未満ノ預金ヲ預金トシ受入ルコト

三 豫メ拂戻ノ期限ヲ定メ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ預金ヲ受入ルコト

四 期限ヲ定メテ一定金額ノ給付ヲ爲スコトヲ約シ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ金銭ヲ受入ルコト

貯蓄銀行ニ非サルモノハ前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ貯蓄銀行ニ非サル銀行カ預金取引ヲ有スル者ヨリ其ノ者トシテ取引ノ結果生シタル十圓未満ノ預金ヲ其ノ預金ニ受入レ又ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲スヘキ預金取引ヲ有スル者ヨリ十圓未満ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 貯蓄銀行業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非ザレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款及業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ主務大臣ニ提出スヘシ

第三條 貯蓄銀行業ハ資本金五十萬圓以上ノ株式會社ニ非ザレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第四條 貯蓄銀行ハ其ノ商號中ニ貯蓄銀行ナル文字ヲ用ウヘシ

貯蓄銀行ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ貯蓄銀行タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第五條 貯蓄銀行ハ第一條第一項ノ業務ノ外左ニ掲グル業務ヲ併セ營ムコトヲ得

一 定期預金

二 保護預金

三 債權ノ取立

四 公共團體又ハ產業組合ノ金銭出納事務ノ取扱

第六條 貯蓄銀行ハ本法ニ規定セル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第七條 貯蓄銀行カ貯蓄銀行ノ營ムコトヲ得サル業務ニ屬ヘル契約ニ基テ權利義務ヲ合併シ因リテ承継シタル場合ニ於テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ケス

第八條 貯蓄銀行ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲ス第一條第一項第一號第二號ノ預金取引ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 貯蓄銀行ハ第一條第一項及第五條第一號第五號ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ三分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スヘシ但シ供託金額中受入金額ノ五分ノ一ヲ超過スル額ニ付テハ第一條第一項第一號ノ有價證券ヲ以テ國債ニ代フルコトヲ得

第十條 預金者及第一條第一項第四號ノ規定ニ依リ給付金ノ債權者ハ其ノ預金及給付金ニ關シテハ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債及有價證券ニ付テハ債權者ニ先テ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十一條 貯蓄銀行ハ左ノ方法ニ依リノ外其ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債、地方債、社債又ハ株式ノ應募、引受又ハ買入

二 國債其ノ他前號ニ掲グル有價證券ヲ質トスル貸付

三 不動產ヲ抵當トスル貸付

四 預金者ニ對シテ其ノ預金額ノ限度トスル貸付

五 第一條第一項第四號ノ規定ニ依リ給付金ノ債權者ニ對シテ其ノ給付金額ノ限度トスル貸付

六 銀行ノ預金又ハ郵便貯金

七 銀行引受手形ノ買入

前項ニ規定スル社債及株式ニ付テハ其ノ種類ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 貯蓄銀行ノ所有シ又ハ貸付金若ハ預金ノ擔保トシテ受入ル一會社ノ株式ハ該會社ノ總株式ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十三條 一人ニ對スル貸付金額ハ拂込資本金及準備金ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 第一條第一項第三號ノ規定ニ依リ貸付金ノ總額ハ拂込資本金及準備金ノ總額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十五條 第一條第一項第五號ノ貸付金額中既ニ受入レタル金額ヲ超過スル額ニ付テハ確實ナル擔保又ハ保證アルコトヲ要ス

第十六條 一銀行ニ對スル預金及金銀ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額ハ第一條第一項及第五條第一號第五號ノ規定ニ依リ受入金ノ十分ノ一ヲ限度トシ且該銀行ノ拂込資本金及準備金ノ四分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス但シ其ノ總額中國債其ノ他第十一條第一項第一號ニ掲グル有價證券ヲ以テ擔保セラレタル額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 第二項ノ規定ハ前項ノ受入金ノ額ニ付テハ適用ス

第十八條 貯蓄銀行カ其ノ財產ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ第一條第一項及第五條第一號第五號ノ規定ニ依リ契約ニ基テ銀行ノ債務ニ付テ各取締役ハ連帶シテ其ノ辨償ノ責任ヲ負フ

第十九條 一銀行ニ對スル預金及金銀ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額ハ第一條第一項及第五條第一號第五號ノ規定ニ依リ受入金ノ十分ノ一ヲ限度トシ且該銀行ノ拂込資本金及準備金ノ四分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス但シ其ノ總額中國債其ノ他第十一條第一項第一號ニ掲グル有價證券ヲ以テ擔保セラレタル額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 貯蓄銀行ノ取締役ニシテ本法施行前退任シタル者ノ貯蓄銀行條例第三條ノ規定ニ依リ責任ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第二十一條 本法施行前貯蓄銀行條例第一條ノ事業ヲ廢止シタル者ハ既ニ締結シタル契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リシテ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行條例第三條乃至第六條ノ二及第九條ノ二ノ規定ヲ適用ス

第二十二條 本法施行ノ際貯蓄銀行ニ非スシテ現ニ大正四年法律第二十三號附則第四項ノ規定ニ依リ本法第一條第一項第三號第四號ノ業務ヲ繼續スル者ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

附則 (昭和二年法律第二十四號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 本法施行ノ際一銀行ニ對スル預金及金銀ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額カ第十四條第一項ノ規定ニ依リ限度ヲ超ユル場合ニ於テハ本法施行後二年内ニ之ヲ其ノ限度ニ適合セシムヘシ

第二十四條 貯蓄銀行ノ取締役ニシテ本法施行前退任シタル者ノ貯蓄銀行條例第三條ノ規定ニ依リ責任ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第二十五條 本法施行前貯蓄銀行條例第一條ノ事業ヲ廢止シタル者ハ既ニ締結シタル契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リシテ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行條例第三條乃至第六條ノ二及第九條ノ二ノ規定ヲ適用ス

第二十六條 本法施行ノ際貯蓄銀行ニ非スシテ現ニ大正四年法律第二十三號附則第四項ノ規定ニ依リ本法第一條第一項第三號第四號ノ業務ヲ繼續スル者ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

附則 (昭和二年法律第二十四號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 本法施行ノ際一銀行ニ對スル預金及金銀ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額カ第十四條第一項ノ規定ニ依リ限度ヲ超ユル場合ニ於テハ本法施行後二年内ニ之ヲ其ノ限度ニ適合セシムヘシ

第二十八條 貯蓄銀行ノ取締役ニシテ本法施行前退任シタル者ノ貯蓄銀行條例第三條ノ規定ニ依リ責任ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第二十九條 本法施行前貯蓄銀行條例第一條ノ事業ヲ廢止シタル者ハ既ニ締結シタル契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リシテ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行條例第三條乃至第六條ノ二及第九條ノ二ノ規定ヲ適用ス

第三十條 本法施行ノ際貯蓄銀行ニ非スシテ現ニ大正四年法律第二十三號附則第四項ノ規定ニ依リ本法第一條第一項第三號第四號ノ業務ヲ繼續スル者ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

附則 (昭和二年法律第二十四號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 本法施行ノ際一銀行ニ對スル預金及金銀ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額カ第十四條第一項ノ規定ニ依リ限度ヲ超ユル場合ニ於テハ本法施行後二年内ニ之ヲ其ノ限度ニ適合セシムヘシ

第三十二條 貯蓄銀行ノ取締役ニシテ本法施行前退任シタル者ノ貯蓄銀行條例第三條ノ規定ニ依リ責任ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十三條 本法施行前貯蓄銀行條例第一條ノ事業ヲ廢止シタル者ハ既ニ締結シタル契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リシテ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行條例第三條乃至第六條ノ二及第九條ノ二ノ規定ヲ適用ス

第三十四條 本法施行ノ際貯蓄銀行ニ非スシテ現ニ大正四年法律第二十三號附則第四項ノ規定ニ依リ本法第一條第一項第三號第四號ノ業務ヲ繼續スル者ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

附則 (昭和二年法律第二十四號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法施行ノ際一銀行ニ對スル預金及金銀ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額カ第十四條第一項ノ規定ニ依リ限度ヲ超ユル場合ニ於テハ本法施行後二年内ニ之ヲ其ノ限度ニ適合セシムヘシ

第三十六條 貯蓄銀行ノ取締役ニシテ本法施行前退任シタル者ノ貯蓄銀行條例第三條ノ規定ニ依リ責任ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十七條 本法施行前貯蓄銀行條例第一條ノ事業ヲ廢止シタル者ハ既ニ締結シタル契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リシテ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行條例第三條乃至第六條ノ二及第九條ノ二ノ規定ヲ適用ス

第三十八條 本法施行ノ際貯蓄銀行ニ非スシテ現ニ大正四年法律第二十三號附則第四項ノ規定ニ依リ本法第一條第一項第三號第四號ノ業務ヲ繼續スル者ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

附則 (昭和二年法律第二十四號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 本法施行ノ際一銀行ニ對スル預金及金銀ノ銀行ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額カ第十四條第一項ノ規定ニ依リ限度ヲ超ユル場合ニ於テハ本法施行後二年内ニ之ヲ其ノ限度ニ適合セシムヘシ

第四十條 貯蓄銀行ノ取締役ニシテ本法施行前退任シタル者ノ貯蓄銀行條例第三條ノ規定ニ依リ責任ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第四十一條 本法施行前貯蓄銀行條例第一條ノ事業ヲ廢止シタル者ハ既ニ締結シタル契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リシテ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行條例第三條乃至第六條ノ二及第九條ノ二ノ規定ヲ適用ス

貯蓄銀行法

貯蓄銀行法

(大正十年四月十四日) (法律第七十四號)

改正、昭二一法二四

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ貯蓄銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貯蓄銀行法

第一條 左ニ掲グル業務ヲ營ム者ハ之ヲ貯蓄銀行トス

一 積利ノ方法ニ依リ預金ヲ受入ルコト

二 一同十圓未満ノ預金ヲ預金トシ受入ルコト

三 豫メ拂戻ノ期限ヲ定メ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ預金ヲ受入ルコト

四 期限ヲ定メテ一定金額ノ給付ヲ爲スコトヲ約シ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ金銭ヲ受入ルコト

貯蓄銀行ニ非サルモノハ前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ貯蓄銀行ニ非サル銀行カ預金取引ヲ有スル者ヨリ其ノ者トシテ取引ノ結果生シタル十圓未満ノ預金ヲ其ノ預金ニ受入レ又ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲スヘキ預金取引ヲ有スル者ヨリ十圓未満ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 貯蓄銀行業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非ザレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款及業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ主務大臣ニ提出スヘシ

第三條 貯蓄銀行業ハ資本金五十萬圓以上ノ株式會社ニ非ザレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第四條 貯蓄銀行ハ其ノ商號中ニ貯蓄銀行ナル文字ヲ用ウヘシ

第五條 貯蓄銀行ハ第一條第一項ノ業務ノ外左ニ掲グル業務ヲ併セ營ムコトヲ得

一 定期預金

二 保護預金

三 債權ノ取立

四 公共團體又ハ產業組合ノ金銭出納事務ノ取扱

第六條 貯蓄銀行ハ本法ニ規定セル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第七條 貯蓄銀行カ貯蓄銀行ノ營ムコトヲ得サル業務ニ屬ヘル契約ニ基テ權利義務ヲ合併シ因リテ承継シタル場合ニ於テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ケス

第八條 貯蓄銀行ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲ス第一條第一項第一號第二號ノ預金取引ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 貯蓄銀行ハ第一條第一項及第五條第一號第五號ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ三分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スヘシ但シ供託金額中受入金額ノ五分ノ一ヲ超過スル額ニ付テハ第一條第一項第一號ノ有價證券ヲ以テ國債ニ代フルコトヲ得

第十條 預金者及第一條第一項第四號ノ規定ニ依リ給付金ノ債權者ハ其ノ預金及給付金ニ關シテハ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債及有價證券ニ付テハ債權者ニ先テ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十一條 貯蓄銀行ハ左ノ方法ニ依リノ外其ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債、地方債、社債又ハ株式ノ應募、引受又ハ買入

貯蓄銀行ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ貯蓄銀行タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

貯蓄銀行ハ第一條第一項ノ業務ノ外左ニ掲グル業務ヲ併セ營ムコトヲ得

一 定期預金

二 保護預金

三 債權ノ取立

四 公共團體又ハ產業組合ノ金銭出納事務ノ取扱

第六條 貯蓄銀行ハ本法ニ規定セル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第七條 貯蓄銀行カ貯蓄銀行ノ營ムコトヲ得サル業務ニ屬ヘル契約ニ基テ權利義務ヲ合併シ因リテ承継シタル場合ニ於テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ケス

第八條 貯蓄銀行ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲ス第一條第一項第一號第二號ノ預金取引ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 貯蓄銀行ハ第一條第一項及第五條第一號第五號ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ三分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スヘシ但シ供託金額中受入金額ノ五分ノ一ヲ超過スル額ニ付テハ第一條第一項第一號ノ有價證券ヲ以テ國債ニ代フルコトヲ得

第十條 預金者及第一條第一項第四號ノ規定ニ依リ給付金ノ債權者ハ其ノ預金及給付金ニ關シテハ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債及有價證券ニ付テハ債權者ニ先テ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十一條 貯蓄銀行ハ左ノ方法ニ依リノ外其ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債、地方債、社債又ハ株式ノ應募、引受又ハ買入

貯蓄銀行ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ貯蓄銀行タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

貯蓄銀行ハ第一條第一項ノ業務ノ外左ニ掲グル業務ヲ併セ營ムコトヲ得

一 定期預金

二 保護預金

三 債權ノ取立

四 公共團體又ハ產業組合ノ金銭出納事務ノ取扱

第六條 貯蓄銀行ハ本法ニ規定セル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第七條 貯蓄銀行カ貯蓄銀行ノ營ムコトヲ得サル業務ニ屬ヘル契約ニ基テ權利義務ヲ合併シ因リテ承継シタル場合ニ於テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ケス

●無盡業法

(大正四年六月二十一日)

改正、大正一〇一法

(法律第二十四號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ無盡業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

無盡業法

第一條 本法ニ於テ無盡業ト稱スルハ一定ノ口數ト給付金額トヲ定メ定期ニ掛金ヲ拂込マシメ一口毎ニ抽籤入札其ノ他類似ノ方法ニ依リ掛金者ニ對シ金錢ノ給付ヲ爲スラ謂フ無盡業トシ但シ賭博又ハ富籤ニ類似スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條 無盡業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 無盡業ノ管理ヲ爲スハ之ヲ無盡業ト看做ス

第四條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第五條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ營業ヲ表示スル名稱ヲ附シ其ノ名稱中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第六條 無盡業者ニ非サルモノハ其ノ商號又ハ營業ヲ表示スル名稱中ニ無盡ナル文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第七條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第八條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第九條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第十條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第十一條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第十二條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第十三條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第十四條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第十五條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第十六條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第十七條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第十八條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第十九條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第二十條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第二十一條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第二十二條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第二十三條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第二十四條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第二十五條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第二十六條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第二十七條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

第二十八條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

●無盡業法

(大正四年六月二十一日)

算ニ於テ其ノ經營スル無盡ニ加入スルコトヲ得ス

會社ニ非サル無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ主務大臣ノ認

許ヲ受ケタル場合ニ限リ其ノ管理スル無盡ニ加入スルコト

得

第十二條 無盡業ヲ營ム會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、

監査役及使用人ハ何人ノ名義ヲ以テスル間ハ自己ノ計

算ニ於テ會社ト無盡契約ヲ爲シ又ハ會社ノ管理スル無盡ニ

加入スルコトヲ得ス

第十三條 無盡業者ハ無盡ノ缺口又ハ掛金ノ拂込ヲ爲ササル

者アル場合ト雖第一回ノ抽籤入札ノ後ハ給付金額ヲ減少

シ又ハ掛金額ヲ増加スルコトヲ得ス

第十四條 無盡ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ

掛金ノ拂込ニキ場合ニ於テ掛金者ニ代リ掛金ノ拂込ヲ爲ス

責ニ任ス

第十五條 無盡ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ

加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁

判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第十六條 無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ掛金ノ拂込又ハ給付金ノ支拂ニ關シ訴訟ニ於テハ無盡ノ管

理者ハ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

第十七條 無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ掛金ノ拂込又ハ給付金ノ支拂ニ關シ訴訟ニ於テハ無盡ノ管

理者ハ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

第十八條 無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ掛金ノ拂込又ハ給付金ノ支拂ニ關シ訴訟ニ於テハ無盡ノ管

理者ハ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

第十九條 無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ掛金ノ拂込又ハ給付金ノ支拂ニ關シ訴訟ニ於テハ無盡ノ管

理者ハ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

第二十條 無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ掛金ノ拂込又ハ給付金ノ支拂ニ關シ訴訟ニ於テハ無盡ノ管

理者ハ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

第二十一條 無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ掛金ノ拂込又ハ給付金ノ支拂ニ關シ訴訟ニ於テハ無盡ノ管

理者ハ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

第二十二條 無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ掛金ノ拂込又ハ給付金ノ支拂ニ關シ訴訟ニ於テハ無盡ノ管

理者ハ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

第二十三條 無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ掛金ノ拂込又ハ給付金ノ支拂ニ關シ訴訟ニ於テハ無盡ノ管

業所ニ備ヘ置クヘシ

第十九條 掛金者ハ無盡業者ニ對シ營業時間内何時ニテモ前

半年末貸借對照表ノ閱覽ヲ請求シ又ハ其ノ加入シタル無

盡ノ掛金者五分ノ一以上ノ同意ヲ以テ前條ノ帳簿中其ノ

加入シタル無盡ニ關スル部分ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 無盡業ヲ營ム會社ハ資本又ハ出資ノ總額ニ達スル

迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一

以上ヲ積立ツヘシ

第二十一條 主務大臣ハ何時ニテモ無盡業者ヲシテ其ノ事業報

告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ無盡業者ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依

リ掛金者ノ利益ヲ保護スル爲ニ必要ト認ムルトキハ其ノ事業方

法ノ變更又ハ事業ノ停止ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲ス

コトヲ得

無盡業者カ法令、定款又ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ其ノ

他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ事業ノ停

止若ハ役員ノ改任ヲ命ジ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十三條 主務大臣ノ免許ヲ受ケシテ無盡業ヲ營ム者ハ

ルキ

第二十一條 規定ニ依ル報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ

妨ケタルトキ

第二十二條 規定ニ違反シ無盡業者ト無盡契約ヲ

爲シタル會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役若ハ

使用人又ハ會社ニ非サル無盡業者ノ使用人ハ十圓以上十

圓以下ノ過料ニ處ス

無盡業者前項ノ無盡契約ヲ爲シタルトキハ會社ニ非サル無

盡業者又ハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役若

ハ十圓以上十圓以下ノ過料ニ處ス

第二十三條 規定ニ違反シタルトキハ會社ノ業務ヲ

執行スル社員、取締役、監査役若ハ十圓以上十圓以下ノ過

料ニ處ス

附則

第三十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正四年

勅令第七十七號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行ス)

第三十一條 本法施行ノ際現ニ無盡業ヲ營ム者ハ本法施行前

ニ爲シタル無盡契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ニ關スル業務ニ

限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第十五條、第十六條、第十八條、第

二十一條乃至第二十四條及第二十八條ノ規定ヲ適用

ス

第三十二條 本法施行ノ際迄六月以上引續キ無盡業ヲ營

ム會社カ無盡業ノ免許ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ資本又ハ

出資ノ金額ヲ以テスル掛込金額ニ付第三條ノ規定ヲ適用セ

ス

●信託業法

(大正十一年四月二十二日) (法律第六十五號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ信託業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

信託業法

- 第一條 信託業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
- 前項ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款並業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ
- 第二條 信託業ハ資本金百萬元以上ノ株式會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
- 第三條 信託會社ハ其ノ商號中ニ信託ナル文字ヲ用ウヘシ
- 信託會社ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ信託業者タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス但シ擔保附債ニ關スル信託業ヲ營ム者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 信託會社ハ左ニ掲グル財產以外ノモノノ信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得ス
 - 一 金錢
 - 二 有價証券
 - 三 金錢債權
 - 四 動產
 - 五 土地及其ノ定著物
 - 六 地上權及土地ノ賃借權
- 第五條 信託會社ハ左ニ掲グル業務ノ限リ之ヲ併セ營ムコトヲ得
 - 一 保護預り
 - 二 債務ノ保護

- 三 不動産賣買ノ媒介又ハ金錢若ハ不動産ノ貸借ノ媒介
- 四 公債社債若ハ株式ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當金ノ支拂ノ取扱
- 五 左ノ事項ニ關スル代理事務
 - イ 財產ノ取得、管理、處分又ハ貸借
 - ロ 財產ノ整理又ハ清算
 - ハ 債權ノ取立
 - ニ 債務ノ履行

- 第六條 信託會社ハ擔保附債信託法ニ依リ擔保附債ニ關スル信託業ヲ營ムコトヲ得
- 第七條 信託會社ハ信託義務ノ違反ニ因リテ受益者ニ生スルコトアルヘキ損害ヲ擔保トシテ命令ノ定ムル所ニ依リ資本金ノ十分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スヘシ但シ其ノ金額ハ百萬元ヲ超ユルコトヲ要セス
- 第八條 受益者ハ信託會社カ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ニ付他ノ債權者ニ先テ清算ヲ受クルノ權利ヲ有ス
- 第九條 信託會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運用方法ノ特定セサル金錢信託ニ限リ元本ニ損失ヲ來シタル場合又ハ豫メ一定シタル額ノ利益ヲ得ザル場合ニ於テ之ヲ補填シ又ハ補足スル契約ヲ爲スコトヲ得
- 第十條 信託法第二十二條第一項但書ノ規定ハ信託會社ニ之ヲ適用セス
- 信託會社ハ金錢信託ニ付其ノ運用ニ依リ取得シタル財產カ取引所ノ相場アルモノナルトキハ信託行爲ニ依リ受益者ニ對シ負擔スル債務ヲ履行スル爲メ必要ナル場合ニ限リ信託行爲ノ定ムル所ニ依リ之ヲ固有財產ト爲スコトヲ得
- 第十一條 信託會社ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得
 - 一 公債、社債又ハ株式ノ應募、引受又ハ買入
 - 二 公債其ノ他前號ニ掲グル有價証券ヲ買入スル貨付
 - 三 動產ノ買入又ハ動產ヲ擔保トスル貨付
 - 四 不動産ノ買入
 - 五 不動産又ハ法令ニ依リテ設定シタル財團ヲ擔當トスル貨付
 - 六 公共團體又ハ產業組合ニ對スル貨付
 - 七 銀行ノ預ケ金又ハ郵便貯金
 - 八 銀行又ハ信託會社ノ引受アル手形ノ買入
- 前項第三號ニ規定スル動產ニ付テハ其ノ種類ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第一項第四號ノ規定ニ依ル不動産ノ買入價格ノ總額ハ拂込資本金及準備金ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十二條 信託會社ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ
- 第十三條 信託會社ハ每半年業務報告書ヲ作リ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ
- 第十四條 信託會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
- 第十五條 信託會社ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 - 一 定款ヲ變更セムトスルトキ
 - 二 業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトスルトキ
 - 三 代理店ヲ設置セムトスルトキ
- 第十六條 合併後存続スル信託會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル信託會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル信託會社ノ信託ニ關スル權利義務ヲ承繼ス
- 第十七條 信託會社ノ合併ニ付異議ヲ述ヘタル受益者アルトキハ其ノ信

託ニ付テハ信託法第四十二條及第四十九條第一項第三項ノ規定ヲ準用ス

- 第十七條 主務大臣ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ業務ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財產ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
- 第十八條 主務大臣ハ信託會社ノ業務又ハ財產ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ノ種類若ハ方法ノ變更又ハ業務ノ停止ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
- 第十九條 信託會社カ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得
- 第二十條 主務大臣ノ免許ヲ受ケシテ信託業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十一條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ノ取締役、監査役又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
 - 一 第四條、第五條第一項、第七條、第十一條乃至第十三條及第十五條ノ規定ニ違反シタルトキ
 - 二 第九條ノ規定又ハ同條ニ基テ命令ニ違反シテ信託ニ付補填又ハ補足ノ契約ヲ爲シタルトキ
 - 三 第十條ノ規定ニ違反シテ信託財產ヲ固有財產ト爲シタルトキ
 - 四 第十七條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ妨ケタルトキ
 - 五 本法ノ命令又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ
 - 六 信託會社カ信託法第二十八條ノ規定ニ依リテ爲スヘキ信託財產ノ管理ヲ爲ササルトキ
 - 七 信託會社カ信託法第三十九條ノ規定スル事務ノ處理若ハ計算ヲ爲サス又ハ財產目錄ヲ作ラサルトキ
 - 八 信託會社カ正當ノ理由ヲナクシテ信託法第四十條ノ

信託業法

規定ニ依ル閱覽ノ請求ヲ拒ミ又ハ説明ヲ爲ササルトキ

第二十二條 第三條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本法ニ定ムル過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第五百十二號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行ス)

本法施行ノ際迄一年以上引續キ信託業ヲ營ム者ニシテ本法施行後六月内ニ信託業ノ免許ヲ申請スルモノハ本法施行後五年ヲ限リ第二條ノ規定ヲ適用セス但シ其ノ資本金ハ二十五萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

本法施行ノ際現ニ信託業ヲ營ム者ニシテ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノハ本法施行前其ノ爲シタル契約ニシテ本法ニ依リ信託會社ノ爲スコトヲ得サル業務ニ屬スルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍之ヲ繼續スルコトヲ得

●擔保附社債信託法

(明治三十八年三月十三日法律第五十二號)

改正、明四二一法二九、明四五一法一四、大三一法三、大一一一法六六

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル擔保附社債信託法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

擔保附社債信託法

第一章 總則

- 第一條 本法ニ於テ信託會社ト稱スルハ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム會社ヲ謂フ
第二條 社債ニ物上擔保ヲ附セムトスルキハ其ノ社債ヲ發行スル會社ト信託會社トノ信託契約ニ從ヒテ之ヲ發行スヘシ
第三條 本法ニ依リ信託ノ引受ハ之ヲ商行爲トス
第四條 社債ニ附スルコトヲ得ヘキ物上擔保ハ左ニ掲グルモノニ限ル
一 動産質
二 證券アル債權質
三 不動産抵押當
四 船舶抵押當
五 鐵道抵押當
六 工場抵押當
七 礦業抵押當
八 軌道抵押當(明治四十二年法律第二十九號ヲ以テ本號ヲ追加)
九 輕便鐵道抵押當(明治四十五年法律第十四號ヲ以テ本號ヲ追加)

第二章 信託證書

- 第十條 運河抵當(大正三年法律第三號ヲ以テ本號ヲ追加)
第十一條 擔保附社債ニ關スル信託事業ハ特別ノ法律ニ依ル場合ヲ除ク外主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
第十二條 信託會社ハ銀行事業ヲ除ク外他ノ事業ヲ兼スルコトヲ得ス但シ銀行事業ヲ兼營セサル株式會社ニ在リテハ信託業法ニ依リ信託業ヲ營ムコトヲ得(大正十一年法律第六十六號ヲ以テ但書ヲ追加)
第十三條 信託會社ノ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ總額ハ百萬圓ヲ下ルコトヲ得ス
第十四條 信託會社ハ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ拂込金額カ五十萬圓ニ達スル迄其ノ事業ニ著手スルコトヲ得ス
第十五條 信託ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
第十六條 主務官廳ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
第十七條 主務官廳ハ信託會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況カ信託事業ノ執行ニ適セズト認ムルトキハ其ノ事業ヲ停止又ハ業務執行方法ヲ變更シ命シ其ノ他委託會社及社債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得
第十八條 信託會社法法令、定款若ハ主務官廳ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其ノ事業ヲ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得
第十九條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ專業トスル會社ハ免許ヲ取消ニ因リテ解散ス
第二十條 信託會社カ免許ヲ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス
第二十一條 商法第八十八條、第八十九條、第九十六條第二項、第九十七條、第二百二十六條第二項、第二百二十七條ニ依リ行爲スル者ハ其ノ責任ハ主務官廳ニ在リ

第三章 信託證書

- 第十八條 信託契約ハ信託證書ニ依リテ締結スヘシ
第十九條 信託證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ委託會社及受託會社ノ代表者之ニ署名スヘシ
一 委託會社及受託會社ノ商號
二 社債ノ總額
三 各社債ノ金額
四 社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
五 社債ノ利率
六 社債償還ノ方法及期限
七 利息支拂ノ方法及期限
八 債券ニ記載スヘキ事項ノ表示及利札附ナルトキハ其ノ利札ノ額

- 九 擔保ノ種類、目的物、順位、先順位ノ擔保ヲ附シタル債權ノ金額其ノ他目的物ニ關シ擔保權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ權利ノ表示
第十條 第三十二條ニ依リ社債ナルトキハ其ノ事實及各會社ノ負擔部分
第十一條 委託及受託ノ表示
第十二條 證書作成ノ年月日
第十三條 各社債ノ金額均一ナルカ又ハ最低額ヲ以テ整除シ得ヘキモノナルコトヲ要ス
第十四條 信託證書ハ委託會社及受託會社ニ於テ各自其ノ一通ヲ保存スヘシ
第十五條 前項ノ信託證書ハ其ノ原本ヲ本店ニ、其ノ謄本ヲ各支店ニ備置クヘシ
第十六條 信託證書ノ原本又ハ謄本ハ委託會社ノ株主、債權者又ハ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閲覧セシムヘシ

- 八 信託證書若ハ其ノ謄本ヲ應募者ノ閲覧ニ供スヘキ時及場所
第十九條 前項ノ公告ハ委託會社ノ承認ヲ得テ之ヲ爲スヘシ
第二十條 委託會社ハ信託契約ニ依リ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ信託契約ニ別段ノ定キトキハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
第二十一條 前項ノ公告ハ於テハ第二十二條第一項ニ掲ケタル公告ハ委託會社ニ於テ之ヲ爲スヘシ
第二十二條 前項ノ公告ニハ受託會社カ委託會社ニ代リテ社債ノ募集ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ
第二十三條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ社債ノ總額ヲ引受クルコトヲ得
第二十四條 前項ノ公告ニ於テハ第二十二條及前條ニ定ムル公告ヲ爲スコトヲ要セス
第二十五條 前條第一項ノ場合ニ於テ受託會社ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得
第二十六條 受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ委託會社ニ通知シテ前項ノ債券ヲ發行スルコトヲ得
第二十七條 受託會社カ前項ノ債券發行ノ權限ヲ有スルコトヲ得社債ノ償還シタルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ
第二十八條 前項ノ公告ニ記載スヘキ事項ニ付テハ第二十二條第一項ノ規定ヲ準用ス
第二十九條 受託會社ハ社債ノ償還ケムトスル者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ信託證書又ハ其ノ謄本ヲ閲覧セシムヘシ
第三十條 受託會社カ前條ノ規定ニ依リ社債ノ償還シタル場合ニ於テハ委託會社ニ代リテ其ノ社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
第三十一條 委託會社又ハ受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ

- 從ヒ第三者ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムルコトヲ得
前項ニ依リ社債總額ノ引受ハ之ヲ商行爲トス
第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得
受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ委託會社ニ對シテ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得
第二十二條 第二十五條第二項、第二十七條第一項、第二十八條及第二十九條ノ規定ハ前條第一項ニ依リ第三者カ社債ノ總額ヲ引受ケタル場合ニ之ヲ準用ス
第二十三條 委託會社又ハ受託會社ハ信託證書ノ謄本ヲ前項ノ謄本ハ委託會社又ハ受託會社ノ代表者之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ
第二十四條 會社ハ合同シテ社債ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任シ又ハ受託會社ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムヘシ
第二十五條 前項ノ場合ニ於テハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
第二十六條 委託會社ハ商法第二百四條第二項ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ヲ登記スヘシ
一 第十九條第一項第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項
二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項
三 第二十三條ニ依リ委任又ハ第二十五條第一項ニ依リ引受ケタルトキハ其ノ事實

擔保附社債信託法 社債募集

- 一 第十九條第一項第一號乃至第七號及第十號ニ掲ケタル事項
二 物上擔保附社債ナルコト
三 信託證書ノ表示
四 擔保ノ價格ヲ知ラシムルニ必要ナル程度ニ於テ第十條九條第一項第九號ニ掲ケタル事項ノ概要ノ表示
五 前二社債ノ募集シタルトキハ其ノ償還シテハサル總額
六 會社ノ資本及拂込シタル株金ノ總額
七 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額

四 第二十九條第一項ニ依リ引受アリタルトキハ其ノ事
實及引受人ノ氏名又ハ商號

第四章 債券

第三十五條 債信證書ニ依リ債券ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 第十九條第一項第一號乃至第三號、第五號乃至
第七號ニ掲ケタル事項
二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事
項
三 債券ノ番號
四 前條第三號及第四號ニ掲ケタル事項

第三十六條 受託會社ハ委託會社カ信託契約ノ條款ニ適合ス
ル債券ヲ發行シタルトキハ其ノ請求ニ依リ債券カ信託證書ニ
依リ債券ナルコトヲ證明シテ之ヲ委託會社又ハ其ノ指定シ
タル者ニ引渡スヘシ
前項ノ證明ハ各債券ニ記載シテ受託會社ノ取締役又ハ之
ヲ代表スル社員之ニ署名スルニ依リテ之ヲ爲ス
第三十七條 信託證書ニ依リ債券ハ前條ノ證明アルニ非サレハ
其ノ效力ヲ生ゼス
第三十八條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルト
キハ其ノ旨ヲ各債券ニ記載シ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代
表スル社員之ニ署名スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ適用セス
第三十九條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルト
キハ商法第二百六條ニ依リ記載ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲シ
商法第二百七條ニ依リ請求ハ受託會社ニ對シテ之ヲ爲ス

第五章 社債原簿

第四十條 會社カ物上擔保附債信託發行シタルトキハ社債原
簿ニ商法第七十三條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載
スヘシ
一 第十九條第一項第一號、第七號、第九號及第
十號ニ掲ケタル事項
二 第三十四條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項
會社ニ交付スヘシ
第四十一條 委託會社ハ社債原簿ノ簿本ヲ作成シテ之ヲ受託
會社ニ交付スヘシ
前項ノ簿本ハ委託會社ノ取締役又ハ其ノ代表スル社員之
ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ
第四十二條 受託會社ハ前條ノ簿本ヲ其ノ本店ニ備置キ社債
權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシム
ヘシ
第四十三條 社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ都度
委託會社ハ取締役又ハ其ノ代表スル社員ノ署名シタル書面
ヲ以テ之ヲ受託會社ニ通知スヘシ
受託會社ハ前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ社債原簿ノ簿
本ニ添附シテ保存スヘシ
第四十四條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルト
キハ社債原簿ハ受託會社ニ於テ之ヲ作成シ其ノ本店ニ備置
クヘシ
商法第七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準
用ス
第四十五條 前條第一項ノ場合ニ於テハ受託會社ニ於テ社債
原簿ノ簿本ヲ作成シテ之ヲ委託會社ニ交付スヘシ
第四十六條 前條第二項、第四十二條、第四十三條及商法第
百七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第四十七條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタル
トキハ其ノ簿本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引
受ケタル者ニ交付スヘシ
第四十八條 前條第二項及第四十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ
之ヲ準用ス

第四十九條 委託會社、受託會社又ハ第二十九條第一項ニ
依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者カ社債原簿ノ記載ニ變更ヲ
生スヘキ取扱ヲ爲シタルトキハ其ノ都度書面ヲ以テ社債原簿
ヲ備フル會社ニ之ヲ通知スヘシ
第六節 社債權者集會

第四十七條 委託會社、受託會社又ハ第二十九條第一項ニ
依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者カ社債原簿ノ記載ニ變更ヲ
生スヘキ取扱ヲ爲シタルトキハ其ノ都度書面ヲ以テ社債原簿
ヲ備フル會社ニ之ヲ通知スヘシ
第六節 社債權者集會

擔保附債信託法

社債權者集會

信託契約ノ效力

リ債券ヲ供託シタル者ノ半數以上ニシテ社債總額ノ半數以
上ニ當ル社債權者カ議決權ヲ行使シタル場合ニ非サレハ之ヲ
爲スコトヲ得ス
商法第六十一條第二項乃至第四項ノ規定ハ社債權
者集會ノ決議ニ之ヲ準用ス
集會ニ出席セザル社債權者ハ信託契約ノ別段ノ定アル場合
ヲ除クノ外書面ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得
各社債權者ハ社債ノ最低金額毎ニ一箇ノ議決權ヲ有ス但
シ社債ノ最低金額ノ一倍以上有スル社債權者ノ議決
權ハ信託契約ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得
第五十三條 第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタ
ル者又ハ其ノ代表者ハ社債權者集會ニ出席シテ發言シ又ハ
書面ヲ以テ意見ヲ述ブルコトヲ得
第五十四條 受託會社ノ代表者ハ社債權者集會カ第八十九
條第二項ニ規定シタル事項ニ付召集セラレタル場合ヲ除ク
外之ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述ブルコトヲ得
第五十五條 社債權者集會ヲ召集スル者ハ前二條ニ掲ケタル
者又ハ其ノ代表者ニ召集ノ通知ヲ發スヘシ
商法第五十六條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ通知
ニ之ヲ準用ス
第五十六條 社債權者集會又ハ之ヲ召集シタル者ニ於テ必要
ト認ムルトキハ委託會社ニ通知シテ其ノ代表者ノ出席ヲ求ム
ルコトヲ得
第五十七條 社債權者集會召集ノ手續又ハ其ノ議決ノ方法カ
本法又ハ信託契約ノ條款ニ違反スルトキハ委託會社、受託
會社又ハ各社債權者ハ其ノ決議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所ニ
請求スルコトヲ得
前項ノ請求ハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スヘシ
社債權者カ第一項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ債券ヲ供託シ且
召集ヲ爲シタル者ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スヘシ

第五十八條 社債權者集會ニ於テ決議スヘキ事項ハ本法ニ規
定アルモノノ外特ニ信託契約ニ定メタルモノニ限ル
第五十九條 社債權者集會ヲ召集シタル者ハ決議録ヲ作成スヘ
シ
第六十條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議録ノ原本又ハ謄
本ヲ本店及支店ニ備置クヘシ
受託會社ハ委託會社又ハ社債權者ノ請求アルトキハ營業
時間内何時ニテモ前項ノ決議録ヲ閱覽セシムヘシ
第六十一條 受託會社以外ノ者カ決議録ヲ作成シタルトキハ自
ラ其ノ原本ヲ保存シ其ノ簿本ヲ受託會社ニ交付スヘシ
前條第二項ノ規定ハ前項ノ簿本ニ之ヲ準用ス
第六十二條 社債權者集會ノ費用ハ受託會社又ハ第二十九
條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ於テ召集シタル
場合ヲ除クノ外集會ヲ召集シタル者ニ於テ之ヲ負擔ス
第六十三條 社債權者集會ノ決議ハ受託會社ニ於テ執行ス但シ
其ノ性質カ受託會社ニ於テ執行スルコトヲ許ササルトキハ集會
ニ於テ之ヲ執行スヘキ者ヲ定ム
第六十四條 信託契約ニ別段ノ定メタルトキハ社債權者集會ニ於
テ一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任シ其ノ決議スヘキ事項ノ決
定ヲ之ニ委任スルコトヲ得
代表者ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタ
ル者又ハ社債總額ノ十分ノ一以上有スル者ノ中ヨリ之ヲ
選任ス
代表者數人アル場合ニ於テ集會ニ於テ別段ノ定メタルト
キハ代表者ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決
ス
第六十五條 代表者ハ第六十三條但書ニ該當スル場合ニ於テ
ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ自ら執行シ又ハ他人ヲシテ執行セ
シムルコトヲ得
第六十六條 代表者就任シタルトキハ其ノ公告ヲ爲シ委託會

社、受託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ
引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ
第六十七條 社債權者集會ハ何時ニテモ代表者ヲ解任シ又ハ
其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第
二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通
知スヘシ
第七章 信託契約ノ效力

第六十八條 受託會社ハ公平且誠實ニ信託事務ヲ處理スヘシ
第六十九條 受託會社ハ委託會社及社債權者ニ對シテ善良ナ
ル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スル義務ヲ負フ
第七十條 信託契約ニ依リ物上擔保ハ信託證書ニ記載シタル
總社債ノ爲ニ受託會社ニ歸屬ス
受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ擔保權ヲ保存シ且實行スル
ノ義務ヲ負フ
第七十一條 社債權者ハ其ノ債權額ニ應ジテ平等ニ擔保ノ利益
ヲ享受ス
第七十二條 信託契約ニ依リ物上擔保ハ社債成立以前ニ於テ
モ其ノ效力ヲ生ズ
第七十三條 民法第三百四十八條、第三百七十五條及商
法第二百七十七條ノ規定ハ信託契約ニ依リ擔保權ニ之ヲ
適用セス
第七十四條 受託會社ハ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ追加
スルコトヲ得
第七十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ委託會
社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ變更スルコトヲ得
第七十六條 前二條ノ契約ハ信託契約ノ同一ノ效力ヲ有ス
第七十七條 第七十四條及第七十五條ノ契約ハ委託會社及
受託會社ノ代表者ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ委託會

社及受託會社連帶ナク各自之ラ公告スヘシ但シ知レタル社債権者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ契約證書ニハ第二十條及第二十一條ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 信託契約ニ依ル擔保權ハ總社債権者ノ爲ニ之ヲ行使スルコトヲ得

第七十九條 委託會社カ定期ニ社債ノ一部ヲ償還スル場合ニ於テ其ノ償還ヲ遲延シ二箇月ヲ經過シタルトキハ受託會社ハ社債権者集會ノ決議ニ依リ一定ノ期間内ニ支拂ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失ハシムル旨ヲ委託會社ニ通告スルコトヲ得

委託會社カ前項ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失フ

第一項ノ催告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第八十條 前條ニ依リ委託會社カ期限ノ利益ヲ失ヒタルトキハ受託會社ハ遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債権者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十一條 前二條ノ規定ハ委託會社カ社債ノ利息ノ支拂ヲ遲延シ三箇月ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條 社債カ期限ニ至リ辨済セラレヌ又ハ委託會社カ社債ノ辨済ヲ完了セシメテ解散シタルトキハ受託會社ハ遲滞ナク社債権者集會ノ決議ニ依リ擔保權ヲ實行スヘシ

民法第三百五十四條ノ規定ハ信託契約ニ依ル動産質ニ之ヲ適用セス

第八十三條 受託會社ハ總社債権者ノ爲ニ付與セラレタル執行力アル正本ニ基キ擔保物ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ競賣法ニ依リ競賣ノ申立若ハ委任ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債権者ニ對スル異議ハ受託會社ニ對シテ之ヲ適用セス

之ヲ主張スルコトヲ得

第八十四條 受託會社ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債権者ノ爲ニ債權ノ辨済ヲ得ルニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第八十五條 受託會社ハ社債権者集會ノ決議ニ依リ總社債ノ支拂ヲ猶豫シ、不履行ニ因リ生シタル責任ヲ免除シ又ハ和解ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 受託會社ハ社債権者集會ノ決議ニ依リ總社債権者ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲シ又ハ破産手續ニ屬スル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第八十七條 受託會社カ第八十二條、第八十五條又ハ前條ニ掲ケタル行爲ヲ完了シタルトキハ遲滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債権者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十八條 受託會社カ社債権者ノ爲ニ辨済ヲ得タル金額ハ遲滞ナク債權額ニ應ジテ各社債権者ニ交付スヘシ

受託會社カ前項ノ金額ヲ自己ノ爲ニ費消シタルトキハ民法第六百四十七條ノ規定ヲ準用ス

社債権者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ社債権者カ受領ヲ拒ミ若ハ受領スルコト能ハサルトキハ受託會社ハ其ノ社債権者ノ爲ニ前項ノ金額ヲ供託スヘシ

受託會社ハ必要アル場合ニ於テハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ノ第一項及第三項ノ行爲ヲ委任スルコトヲ得

第八十九條 受託會社カ總社債権者ノ爲ニ爲スヘキ行爲ヲ怠リタルトキハ主務官廳ハ社債権者集會ノ申請ニ因リ特別代理人ヲ選任シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

社債権者ト受託會社トノ利益相反スル場合ニ於テ總社債権者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス必要アルトキ亦前項ニ同シ

第九十條 本法ニ依リ總社債権者ニ代リテ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス場合ニ於テハ各別ニ社債権者ヲ表示スルコトヲ要セス

第九十一條 受託會社ハ委託會社ニ對シ信託事務ノ處理ニ付相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ民法第六百四十八條第二項及第三項ノ規定ハ信託契約ニ之ヲ準用ス

第九十二條 委託會社ハ受託會社カ信託事務ヲ處理スルニ付正當ニ支出シタル一切ノ費用及支出ノ日以後ニ於ケル其ノ利息ヲ償還シ及過失ヲシテ受ケタル一切ノ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ

受託會社ハ信託事務ヲ處理スルニ付要スル費用ノ前拂ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ關シテ之ヲ準用ス

第九十三條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ前條第一項ノ規定ニ依リ受託會社ニ生スヘキ債權ノ爲ニモ其ノ效力ヲ有ス

受託會社ハ前項ノ債權ニ付社債権者ニ優先シテ擔保物ヨリ辨済ヲ受ケル權利ヲ有ス

第九十四條 受託會社カ故意若ハ過失ニ因リ物上擔保ヲ消滅セシメ又ハ其ノ價格ヲ減少セシメタルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債権者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ委託會社カ供託金ノ上ニ質權ヲ設定シタルモノト看做ス

前項ノ質權ハ信託契約ニ依ル物上擔保ト看做ス

第九十五條 委託會社、第六十四條第一項ニ依リ選任セラレタル代表者又ハ社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債権者ハ何時ニモ受託會社ニ於ケル擔保物保管ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券ヲ受託會社ニ供託ス

第八章 信託事務ノ承継及終了

第九十六條 民法第二百九十八條第三項ノ規定ハ信託契約ニ依ル質權ニ之ヲ準用セス

第九十七條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ又ハ委託會社及社債権者集會ノ同意アルトキハ信託事務ヲ承継スヘキ會社ヲ定メテ辭任スルコトヲ得

信託事務ヲ承継スヘキ會社カ外國會社ナルトキハ第十七條第一項ノ規定ヲ準用ス

第九十八條 受託會社ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ辭任スルコトヲ得

第九十九條 受託會社カ其ノ義務ニ違反シ又ハ信託事務ヲ處理スルニ不適任ナルトキ其ノ他正當ノ事由アルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債権者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲ辭任スルコトヲ得

第一百條 前二條ノ規定ニ依リ受託會社カ辭任シ若ハ解任セラレタルトキ又ハ免許ヲ取消サレ若ハ解散シタルトキハ主務官廳ハ更ニ受託會社ヲ選任シテ信託事務ヲ承継セシムヘシ

第一百零一條 第九十七條ニ依リ信託事務ノ承継ハ委託會社、前受託會社及新受託會社ノ代表者ノ署名シタル契約書ヲ作成スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

前項ノ契約ヲ締結シタルトキハ各會社ハ遲滞ナク書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ヘシ

前條ニ依ル承継ハ新受託會社ニ對スル主務官廳ノ命令書ヲ交付スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第一百零二條 信託事務ノ承継ハ第九十七條ニ依ル場合ニ於テハ委託會社、前受託會社及新受託會社、第一百零一條ニ依ル場合ニ於テハ委託會社及新受託會社連帶ナク各自之ラ公告スヘシ但シ知レタル社債権者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第一百零三條 第九十七條ニ依リ定メラレ又ハ第一百零二條ニ依リ選任セラレタル新受託會社ハ前受託會社ノ締約シタル條款ニ從ヒ信託事務ヲ處理スヘシ

社債権者又ハ委託會社ノ爲ニ前受託會社ニ歸屬シタル權利義務ハ前受託會社ノ辭任、解任、免許ノ取消又ハ解散ノ時ニ過リテ新受託會社ニ移轉ス但シ前受託會社ノ契約違反又ハ不法行爲ニ因リ生シタル責任ハ此ノ限ニ在ラス

第一百零四條 前受託會社ノ不法處分ニ因リ質物ノ占有ヲ得タル者カ惡意ナリシトキハ新受託會社カ其ノ爲ニ占有ヲ奪ハレタルモノト看做ス

第一百零五條 前受託會社ノ取締役、之ヲ代表スル社員、清算人又ハ破産管財人ハ遲滞ナク其ノ委託會社又ハ社債権者ノ爲ニ保管スル物及信託事務ニ關スル書類ヲ新受託會社ニ移付シ其ノ他信託事務ヲ新受託會社ニ引繼ク爲必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スヘシ

前項ニ掲ケタル引繼ヲ完了シタルトキハ各會社ハ共同シテ書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ヘシ

第一百零六條 承継ニ關スル事務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第一百零七條 受託會社カ信託事務ヲ終了シタルトキハ總計算書ヲ作成シテ之ヲ公告スヘシ

- 第九十條 本法ニ依リ總社債権者ニ代リテ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス場合ニ於テハ各別ニ社債権者ヲ表示スルコトヲ要セス
- 第九十一條 受託會社ハ委託會社ニ對シ信託事務ノ處理ニ付相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得
- 信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ民法第六百四十八條第二項及第三項ノ規定ハ信託契約ニ之ヲ準用ス
- 第九十二條 委託會社ハ受託會社カ信託事務ヲ處理スルニ付正當ニ支出シタル一切ノ費用及支出ノ日以後ニ於ケル其ノ利息ヲ償還シ及過失ヲシテ受ケタル一切ノ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ
- 受託會社ハ信託事務ヲ處理スルニ付要スル費用ノ前拂ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得
- 前二項ノ規定ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ關シテ之ヲ準用ス
- 第九十三條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ前條第一項ノ規定ニ依リ受託會社ニ生スヘキ債權ノ爲ニモ其ノ效力ヲ有ス
- 受託會社ハ前項ノ債權ニ付社債権者ニ優先シテ擔保物ヨリ辨済ヲ受ケル權利ヲ有ス
- 第九十四條 受託會社カ故意若ハ過失ニ因リ物上擔保ヲ消滅セシメ又ハ其ノ價格ヲ減少セシメタルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債権者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ委託會社カ供託金ノ上ニ質權ヲ設定シタルモノト看做ス
- 前項ノ質權ハ信託契約ニ依ル物上擔保ト看做ス
- 第九十五條 委託會社、第六十四條第一項ニ依リ選任セラレタル代表者又ハ社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債権者ハ何時ニモ受託會社ニ於ケル擔保物保管ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
- 無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券ヲ受託會社ニ供託ス

擔保附社債信託法

信託事務ノ承継及終了 罰則

ノ記載ヲ爲シタルトキ
三 本法ニ依リ開覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ
開覽セシメザルコトヲ
四 本法ニ依リ備置クヘキ書類ヲ備置カス、之ニ記載スヘ
キ事項ヲ記載セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
第五條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條
ノ規定ハ本法ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

第十八條 信託契約ニ依リ擔保權設定ノ登記ニ付テハ受託
會社ヲ登記權者トス
第十九條 信託契約ニ依リ擔保權設定ノ登記ヲ申請スル場
合ニ於テハ不動産登記法第十六條又ハ第十七條ニ
依リ債權額ノ記載ハ社債ノ總額ヲ表示スルヲ以テ足ル
第二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三
十八年勅令第八十五號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行
ス)

第十二條 本法ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以
テ署名ニ代フルコトヲ得

第十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム合名會社及
合資會社ノ設立登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ非
訟事件手續法第七十九條第二項ニ掲ケタル書面ノ外
主務官廳ノ免許書又ハ其ノ認許アル謄本ヲ添附スヘシ
既設ノ會社力擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム免許ヲ
受ケタルニ因リ其ノ登記ヲ申請スルトキ亦前項ニ同シ

第十四條 信託會社ノ登記スヘキ事項ニシテ主務官廳ノ免許
ヲ要スルモノニ付テハ免許書ノ到達ノ日ヨリ登記ノ期間ヲ起
算ス

第十五條 主務官廳カ第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ依
リ事業ノ停止ヲ命ジ又ハ免許ヲ取消シタルトキハ登記所ハ主
務官廳ノ囑託ニ因リ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第十六條 本法ニ依リ社債ノ登記ノ申請書ニハ非訟事件手
續法第九十一條ニ掲ケタル書面ノ外信託證書ヲ添附ス
ヘシ
第十七條 本法ニ依リ社債ノ登記事項ニ變更ヲ生シタルトキハ
委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ハ遲滞ナク其ノ登
記ヲ申請スヘシ
前項ノ登記ノ申請書ニハ其ノ變更ヲ證スル書類ヲ添附スヘ

●船舶法

(明治三十二年三月八日)
法律第四十六號

改正、明三八一法六八

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル船舶法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ
ム

船舶法

第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶
三 日本ニ本店ヲ有スル商會社ニシテ合名會社ニ在リ
テハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式會社ニ在リテハ取
締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
四 日本ニ主たる事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ
全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

舊商法ノ規定ニ從テ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務
擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ヲ
以テ日本船舶トス

第二條 日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲クルコトヲ得ス

第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港
ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ヲ運送スルコトヲ得ス但法律若ク
ハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスル
又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港
ヲ管轄スル管海官廳ニ船籍ノ積算ノ測定ヲ申請スルコトヲ要
ス

第五條 船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船籍ノ積算
ノ測定ヲ囑託スルコトヲ得

第六條 外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシ
ムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船
籍ノ積算ノ測定ヲ申請スルコトヲ得

第七條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄
スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス
前項ニ定メタル登録ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證
書ヲ交付スルコトヲ要ス

第八條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國
籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本
ノ國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第九條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國
籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本
ノ國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第十條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許
可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十一條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積算
ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル
管海官廳ニ其船舶ノ積算ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス
第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用
ス

第十二條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ
其事實行知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ
要ス

第十三條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル
トキハ船舶所有者ハ其事實行知リタル日ヨリ二週間内ニ其書
換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同
シ

第十四條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其
事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受ケルコトヲ要
ス

第十五條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍
證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ
生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケル
コトヲ得(明治三十八年法律第六十八號ヲ以テ本項ヲ改
正)

第十六條 日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シ
タルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ
請受ケルコトヲ得
前二項ノ規定ニ從テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコト能ハ
サルトキハ其後最初ニ到着シタル地ニ於テ之ヲ請受ケルコトヲ
得

第十七條 日本船舶カ滅失若クハ沈没シタルトキ、解散セラレタ
ルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ若クハ第二十條ニ掲ケル船舶
トナリタルトキハ船舶所有者ハ其事實行知リタル日ヨリ二週間
内ニ抹消ノ登録ヲ爲シ且遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スル
コトヲ要ス船舶ノ在否カ六ヶ月間分明ナラサルトキ亦同シ同
上本項ヲ改正)

第十八條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍
證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ
生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケル
コトヲ得(明治三十八年法律第六十八號ヲ以テ本項ヲ改
正)

第十九條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有效期間ハ
一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有效期間ハ
日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有效期間ハ六ヶ月

船舶法

ヲ超ユルコトヲ得ス
 前二項ノ期間ヲ超ユルキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船船籍證書ヲ請受クルコトヲ得
 第十八條 船籍カ船籍港ニ到着シタルキハ假船船籍證書ハ有效期間満了前ト雖モ其效力ヲ失フ
 第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船船籍證書ヲ請受クルコトヲ得ス
 第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ船舶及ヒ端舟其他機體ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ機體ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セズ
 第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測定ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第二十二條 日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルキハ船長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルキハ船長ヲ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス
 (明治三十八年法律第六十八號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第二十四條 官吏ヲ欺キ船籍簿ニ不實ノ登錄ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ「重禁錮」ニ處シ「百圓以上千圓以下ノ罰金」ヲ附加ス
 前項ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法「未遂犯罪」ノ例ニ依リテ處斷ス
 第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ掲ケサルキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルキハ船長所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス
 第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法「數人共犯」ノ例ヲ適用セズ
 第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テ刑法「第七十八條乃至第八十條」ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカサルトキ其法定代理人ヲ罰ス
 第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商會社其他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス
 第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ノヲ行フ
 附則
 第三十三條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第三十四條 船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 第三十五條 商法第五編ノ規定ハ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テモ亦之ヲ適用スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス
 第三十六條 明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告、同年第十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 第三十七條 本法施行ノ際登簿船狀又ハ船籍札ヲ受有スル

船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶船籍證書ヲ請受クヘキトキ命令ノ定ムル所ニ從ヒ登錄ヲ爲シ且船舶船籍證書ヲ請受クルコトヲ得ス
 前項ノ規定ニ從ヒテ船舶船籍證書ヲ請受クルマテハ登簿船狀又ハ船籍札ハ船舶船籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス
 第三十八條 本法施行ノ際登簿船狀又ハ船籍札ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶船籍證書ヲ請受クヘキ場合ニ於テハ其假免狀ハ有效期間満了ニ至ルマテハ假船船籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス但船舶カ船籍港ニ到着シタルキハ此限ニ在ラス
 登簿船假免狀ノ有效期間満了シタルキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ假船船籍證書ヲ請受クルコトヲ得
 第三十九條 第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルキモ未ダ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサル場合ニ之ヲ適用ス但同條ニ定メタル二週間ノ期間ハ船舶所有者カ本法施行前ニ事實ヲ知リタルキト雖モ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未ダ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサルキ亦同シ
 前二項ノ規定ニ違反シタルキハ船長所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
 第四十條 本法施行前ヨリ存否カ分明ナラサル船舶ニシテ未ダ舊法ノ期間カ經過セサルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル六個月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 第四十一條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣ノヲ定ム

船舶登記規則

(明治三十二年六月十五日勅令第二百七十號)

改正、明三八一勅七九、大一一勅九三、大三一勅二〇四、大八一勅二八九、大一一勅五二〇、大一一勅三二八

朕船舶登記規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 船舶登記規則

第一章 總則

第一條 不動産登記法第二條乃至第七條、第八條ノ二、第九條第一項、第十條、第十二條、第十三條、第十八條乃至第三十五條、第三十八條乃至第六十六條、第六十九條乃至第七十八條、第八十一條、第八十二條、第八十四條ノ二乃至第四百四條ノ十五、第四百八條、第四百七條、第四百九條、第五百一十條、第五百二十二條乃至第四百二十七條ノ二、第四百四十一條、第四百四十二條、第四百四十三條ノ二乃至第四百四十八條、第四百四十九條ノ二乃至第四百四十九條ノ五及ヒ第五百十條乃至第五百五十九條ノ規定ハ船舶ノ登記ニ之ヲ適用ス(大正二年勅令第九十三號、同八年勅令第二百八十九號、同十一年勅令第五百二十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二章 登記所

第二條 此規則ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船籍港ヲ管轄スル區域裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス
 船籍港カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨カルトキハ司法大臣管

船舶登記規則 總則 登記所 登記簿 登記手續

第三章 登記簿

第三條 登記簿ハ船籍港毎ニ別冊ト爲ス
 第四條 登記簿ハ一冊ノ船舶ニ付キ一冊ノ紙ヲ備フ
 第五條 登記簿ハ其用紙ヲ登記簿、表題部及ヒ甲乙丙ノ三區ニ分テ向本表題部ニ表示シ、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ(大正二年勅令第九十三號ヲ以テ第二項ヲ削除)

第四章 登記手續

第六條 登記簿ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス
 第七條 登記簿ニハ船舶管理人ニ關スル事項ヲ記載ス
 第八條 登記簿ニハ船舶船籍港及ヒ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス(大正二年勅令第九十三號ヲ以テ本項ヲ改正)
 第九條 順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス
 第十條 登記簿ニハ第六條ノ規定ニ依リテ船舶ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス
 第十一條 甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス
 第十二條 乙區事項欄ニハ船舶管理人ニ關スル事項ヲ記載ス
 第十三條 丙區事項欄ニハ賃借權及ヒ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス(大正二年勅令第九十三號ヲ以テ本項ヲ改正)

第五章 通則

第十四條 登記簿ニハ開始メテ船舶所有權ノ登記ヲ申請スル場合及ヒ第十一條第一項ノ場合ヲ除ク外申請書ニ登記

船舶登記規則 總則 登記所 登記簿 登記手續

證書ヲ添付スルコトヲ要ス

第八條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名、捺印スルコトヲ要ス
 一 船舶ノ種類、名稱及ヒ積量
 二 船籍港
 三 不動産登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項

第九條 登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的及ヒ登記簿ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ捺捺シ之ヲ所有權ノ登記名義人ニ還付スルコトヲ要ス

第十條 登記證書カ滅失シタルトキハ船舶カ船籍港ニ碇泊スル場合ニ限リ所有權ノ登記名義人ハ其登記簿ヲ爲シタル登記所ノ所在地ヲ管轄スル區域裁判所ノ許可ヲ得テ更ニ登記證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第十一條 所有權ノ登記名義人ハ登記證書ヲ提出セシメ登記簿ノ申請スルコトヲ得此場合ニ於テハ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 前項ノ場合ニ於テ登記證書ヲ提出スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ之ヲ提出シテ更ニ登記簿ノ申請スルコトヲ要ス

第十三條 登記官吏カ前條第二項ノ申請ヲ受ケタルキハ特別登記簿ノ登記簿ニ移シ其末尾ニ特別登記簿ニ依リテ登記簿ノ申請スル旨及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第十四條 登記簿ニハ開始メテ船舶所有權ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載スルコトヲ要ス

第十五條 登記簿ニハ開始メテ船舶所有權ノ登記簿ノ用紙

證書ヲ添付スルコトヲ要ス
 第八條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名、捺印スルコトヲ要ス
 一 船舶ノ種類、名稱及ヒ積量
 二 船籍港
 三 不動産登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項
 第九條 登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的及ヒ登記簿ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ捺捺シ之ヲ所有權ノ登記名義人ニ還付スルコトヲ要ス
 第十條 登記證書カ滅失シタルトキハ船舶カ船籍港ニ碇泊スル場合ニ限リ所有權ノ登記名義人ハ其登記簿ヲ爲シタル登記所ノ所在地ヲ管轄スル區域裁判所ノ許可ヲ得テ更ニ登記證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得
 第十一條 所有權ノ登記名義人ハ登記證書ヲ提出セシメ登記簿ノ申請スルコトヲ得此場合ニ於テハ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
 第十二條 前項ノ場合ニ於テ登記證書ヲ提出スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ之ヲ提出シテ更ニ登記簿ノ申請スルコトヲ要ス
 第十三條 登記官吏カ前條第二項ノ申請ヲ受ケタルキハ特別登記簿ノ登記簿ニ移シ其末尾ニ特別登記簿ニ依リテ登記簿ノ申請スル旨及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス
 第十四條 登記簿ニハ開始メテ船舶所有權ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載スルコトヲ要ス
 第十五條 登記簿ニハ開始メテ船舶所有權ノ登記簿ノ用紙

船舶登記規則 登記手續

閉鎖スルコトヲ要ス
第十三條 特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移シタルトキハ申請者以外ノ當事者ニ對シテ本登記簿ヲ與フヘキ旨ヲ通知シ...

汽船ニ在リテハ前項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 船質
二 汽機ノ種類及ヒ數
三 推進器ノ種類及ヒ數...

役若クハ代表者ノ全員ノ氏名ヲ記載シ且之ヲ認シタル登記簿本、抄本又ハ登記簿及ヒ此等ノ者ノ二分ノ一以上カ...

船舶登記規則 登記手續

記ノ申請アリタルトキハ新船籍港ノ登記簿ニ舊船籍港ノ登記簿ヲ移スコトヲ要ス
第十四條 始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ書面ニ依リ自己カ所有者タルコトヲ證明スル者ヨリ其登記ヲ申請スルコトヲ要ス...

申請スルコトヲ得
不動產登記法第二百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
第二十一條 登記官吏カ抵當權ノ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ不動產登記法第一百七條ニ掲ケタル事項ヲ記載ス...

六 造船者ノ氏名、住所若シ造船者カ法人ナルトキハ其名及ヒ事務所
七 不動產登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項
第二十四條 製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ前條第一號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ...

前登記所カ特別登記簿ノ簿本ヲ交付シタルトキハ其用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第三十九條 船長カ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從テ設定シタル抵當權ノ登記ハ日本又ハ支那ニ於テハ其契約ヲ爲シタル港ヲ管轄スル登記所、外國ニ於テハ最近ノ日本領事館ヲ以テ管轄登記所トス(大正十四年勅令第三百二十八號ヲ以テ本條ヲ改正)

第四十條 船長カ前條ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ船舶ヲ抵當ト爲シタル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十一條 第三十九條ノ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條 特別登記簿ニ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ船舶ノ種類、名稱並ニ積重及ヒ船籍港ヲ記載シ且甲區事項欄ニ船舶所有者ノ氏名、住所及ヒ抵當權ノ登記ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十三條 第三十九條ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ代理權ヲ證スル書面カ船中ニ備ヘ置クキモノナルトキハ登記官吏ハ登記完了ノ後之ヲ還附スルコトヲ要ス

第四十四條 第三十九條ニ定メタル登記所ハ登記ヲ爲シタル後運轉ナク船籍港ヲ管轄スル登記所ニ特別登記簿ノ簿本ヲ移送シ其用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第四十五條 特別登記簿ノ簿本ノ移送ヲ受ケタル登記所ハ其簿本ニ依リテ登記簿ニ登記ヲ移シ其末尾ニ特別登記簿ノ簿本ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

登記官吏カ登記證書ニ依リ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從テ設定シタル抵當權アルコトヲ知リタルトキハ前項ノ登記ヲ爲スニテ登記簿ニ他ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニ於テ登記ノ申請アリタルトキハ其登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條及第十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 登記官吏カ賃借權ノ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ不動產登記法第二百二十七條第一項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十七條 既登記ノ船舶ニ關スル未登記ノ抵當權又ハ賃借權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

不動產登記法第三百三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

第四十八條 此規則ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十九條 不動產登記法第六十二條ノ規定ハ明治十年十二月二十八號布告ニ從テ之ヲ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ之ヲ準用ス

第五十條 不動產登記法第六十三條ノ規定ハ此規則施行前ニ登記シタル船舶ニ付キ此規則施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス但登記用紙中表示欄ニ移スヘキ船舶ノ表示ハ第六十二條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條 船舶法第六十條ニ掲ケタル船舶ニ非スシテ此規則施行前ニ登記セザリシ船舶ニ付テハ船舶法第四條ノ規定ニ依リテ其積重ノ測定ヲ受ケタルハ舊法ノ規定ニ依リテ之ヲ登記ヲ爲スコトヲ得但賃借權ノ登記ニ付テハ舊法ニ依リテ之ヲ區事項欄ニ追加シ之ヲ關シハ此規則ノ規定ヲ適用ス

前條ノ規定ハ前項ノ船舶ニ付キ此規則ニ依リテ登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條 船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ニ付キ此規則施行前ニ爲シタル登記アルトキハ此規則施行ノ後ト雖モ舊法ノ規定ニ依リテ其登記ノ變更又ハ抹消ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ船舶ノ所有權カ移轉シタルトキハ其船舶ニ付キ此規則施行前ニ爲シタル質入又ハ質入ノ登記アル場合ニ限リ此規則施行ノ後ト雖モ所有權移轉ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

前二項ニ定メタル申請アリタルトキハ登記官吏ハ舊法ノ規定ニ依リ舊登記簿ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十三條 此規則ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

附則 (大正二年勅令第九十三號附則)

本令ハ大正二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年法律第十八號附則第二條乃至第八條ノ規定ハ本令ニ依リ登記ニ之ヲ準用ス但シ同法附則第五條中「乙區」トナルハ「丙區」ヲ謂フ

附則 (大正三年勅令第二百四號附則)

第一條 本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 船舶積重測定法第十二條ノ規定ニ依リ積重ノ改測ヲ受ケタル船舶ニ付キ其改測ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ船舶原簿ノ簿本又ハ第六十六條第一項第二號ノ事項ヲ除ク外同條ニ掲ケタル事項及改測ノ事實ヲ記載シタル船舶原簿ノ抄本ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ變更ノ事項ノ記載ハ第六十六條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 前條ノ規定ニ依リ變更ノ登記ヲ受ケタル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第四條 石數ヲ以テ積重ヲ表示スル船舶ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ登記簿ニ記載シタル船舶ノ表示ハ本令ニ依リ表示ニ當然變更セラレタルモノト看做ス

海上衝突豫防法

(明治二十五年六月二十三日)
法律 第五號
改正、明三〇—法四三、明三九—法四四
大—法三八

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海上衝突豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

總則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所ト間ハス凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス

本法中汽船ト雖帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用キサルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ帆ヲ用ウルト用キサルトノ別ナク汽船ト看做ス(シ)

本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ

本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁、膠沙ニ非サル場合ヲ謂フ

船燈

本法中船燈ニ關シ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條 船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日夜ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外ニニ紛レ易キ燈ヲ掲グヘカラス

第二條 汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ掲グシ

一 前燈若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前燈ヲ具ヘサルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上ニ二十尺ヨリ低カラサル所ニ若

海上衝突豫防法 總則 船燈

船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラサル所ニ亮明ノ白燈一箇ヲ掲グヘシ然レトモ船體上四十尺以上ノ所ニ掲グルヲ要セス此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ船體ノ二十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ左右舷外ヘ十點間ニ即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點ニ及フヘキ樣裝置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用フヘシ

二 右舷ニ綠燈ヲ掲グヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ船體ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點ニ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用フヘシ

三 左舷ニ紅燈ヲ掲グヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ船體ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點ニ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用フヘシ

四 本條第二項第三項ノ燈燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ、左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル機ニ爲スヘシ

五 汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ増掲スルヲ得但此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線ノ上前後ニ隔テ其ノ前後燈ノ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ掲グヘシ其ノ前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリ多キヲ要ス

第六條 汽船他船ヲ引キ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲グルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一構造ニシテ且同一場所ニ掲グルヲ要ス然レトモ二艘以上ヲ引キ航行スルトキハ其ノ引ケル船ノ船尾ト最後ニ引ケル船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所

ニ向同種ノ白燈一箇ヲ増掲スヘシ

本條ノ引船ハ引ケル船ノ操舵目標トシテ煙突若ハ後檣ノ後面ノ小形ノ白燈一箇ヲ掲グルヲ得但此ノ白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得サル機ニ爲スルヲ要ス

第四條 事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニ於テハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高さニ於テ最も見得易キ所ニ(汽船ナレバ其ノ白燈ノ代リニ)二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ紅燈ハ同少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニ於テハ最も見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黒色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニ於テハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ(汽船ナレバ其ノ白燈ノ代リニ)三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲スヘシ但此ノ燈三箇ノ内上下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニ於テハ最も見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用キ中央ノ一箇ハ白色圓錐形ヲ用フヘシ

本條ノ船舶全ク運行セザルトキハ舷燈ヲ掲グヘカラス然レトモ運行スルトキハ必ス之ヲ掲グヘシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得シテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ

本條ノ信號ハ離船信號ト混同スヘカラス離船信號ハ第三十一條ニ於テ之ヲ規定ス

第五條 航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ燈燈ノヲ掲グヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲グヘカラス

第六條 小形船舶航行中天氣ノ模樣ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ掲置キ雖キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ機點火ノヲ手近カ

二備置他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ舷燈ヲ他船ヨリ最モ見得易キ様各舷ニ表示ス...

甲 船ノ前部又ハ烟突若ハ其ノ前面ニ於テ舷線上九尺ヨリ低カラス且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲ク...

分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得ザル様爲ス...

水先船ニハ點火シタル燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス...

積量ニ相當スル他船ト同様ノ燈ヲ掲クヘシ(明治三十九年法律第四十四號ヲ以テ本條ヲ改正)

第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外流シ網ヲ用テ漁業ニ従事スル船ハ網ノ全部又ハ一部水中ニ投下シ...

三 一 海軍ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ同一ノ位置(網又ハ漁具ノ方向ニ於テ)ニ表示ス...

乙 帆船ハ常ニ不同ナル透明ノ光ヲ發シテ周囲ヲ照ス...

甲及乙ニ規定シタル諸燈ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス...

九 汽船ハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ増掲ス...

十 網延繩又ハ打タセ網ヲ用テ漁業ニ従事スル船航行中...

第十二條 長サ百五十尺未満ノ船船體中ハ前方ノ最モ見得易シテ船體上ヨリ二十尺ヲ超エザル所ニ白燈一箇ヲ掲ク...

セザル爆裂信號ヲ發スルヲ得
 第十三條 本法船燈ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ
 送セラル、船舶ニ増補スル列位燈及信號燈ニ關シ各國政府
 ニ於テ特ニ制定シタル規則ノ施行ヲ妨ケス又船舶所有主
 於テ其ノ國政府ノ許可ヲ受テ登簿公告ノ手續ヲ經テ使用ス
 ル識別信號ノ使用ヲ妨ケス
 第十四條 汽船晝間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ煙突ヲ引下
 ケザルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黒球若ハ黒
 色形象一箇ヲ掲クヘシ

霧中信號

第十五條 航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニ
 ハ左ノ信號器ヲ用クヘシ
 汽船ハ汽笛若ハ汽角
 帆船及他船ニ引カレテ運轉スル船舶ハ霧中號角
 本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ
 汽笛ハ汽力其ノ他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ
 汽笛若ハ汽角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ設置シ且號鐘及機
 關ノ作用ニ因リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ又總積
 量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同様に號鐘及霧中號角ヲ備
 フヘシ
 霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタ
 ル信號ヲ爲スヘシ
 一 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ長聲
 ヲ一發スヘシ
 二 汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有サルトキハ二分
 時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ長聲ヲ二秒スヘシ但シ其
 ノ二發ノ間隔ハ大約一秒時タルヲ要ス
 三 帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ右舷
 開アラハ一聲ヲ發シ左舷開アラハ二聲ヲ連發シ船ノ

處置ノミテハ衝突ヲ避ケ能ハサル程兩船接近シタルコトヲ
 認ムルトキハ自ら亦廣播衝突ヲ避ケルニ至當ノ處置ヲ爲スヘシ
 (明治三十年法律第四十三號ヲ以テ但書ヲ改正)
 第二十二條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避ケヘキ船ハ成ル
 他船ノ前面ヲ横切ルヘカラス
 第二十三條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避ケヘキ汽船ハ他船
 ニ近寄リタルトキ時宜ニ應ジテ速力ヲ緩メ若ハ運轉ヲ止メ又ハ
 後退スヘシ
 第二十四條 總テ他船ヲ追越スルハ本法航方中前數條ノ規定
 ニ拘ハラズ他船ノ航路ヲ避ケヘシ
 總テ他船ノ兩舷正横後ノ二點以外即チ夜間ニテハ舷燈
 ヲ見難キ位置ヨリ其ノ船ヲ追越セントスル船舶ハ之ヲ追越船
 ト爲シ其ノ後兩船ノ位置ニ變更ヲ來スモ其ノ追越船ヲ以テ
 本法ノ航路横切船ト爲サス故ニ其ノ船ハ他船ヲ全ク追越シ
 了ルマテ他船ノ航路ヲ避ケヘキモノトス
 畫問他船ヲ追越サントスル船舶ニシテ前項ニ記載シタル方位
 ノ内外ヲ辨知シ難キモノハ本船ヲ追越船ト看做シテ他船ノ航
 路ヲ避ケヘシ
 第二十五條 汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其
 ノ中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ
 第二十六條 航行中ノ帆船ハ網或ハ繩ヲ用テ漁業ニ從事スル
 帆船ノ航路ヲ避ケヘシ但シ漁船ト雖モ他船ノ通航スヘキ線
 路ヲ妨ケヘカラス
 第二十七條 本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ百般ノ危
 險ニ注意スルハ勿論若危險切迫シテ本法ヲ履行シ能ハサル
 特殊ノ場合ニ於テハ其ノ危險ヲ避ケル爲メ廣播ノ處置ヲ爲スコ
 トニ注意スヘシ

航路信號

第二十八條 本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ謂フ

正横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ
 四 船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ大約
 五秒時間間隔シテ號鐘ヲ鳴ラスヘシ
 五 他船ヲ引キテ運轉スル船舶、海底電信線ノ布設若
 ハ引揚ニ從事スル船舶及航行中運轉自由ヲ得ス
 テ近寄リ來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ及ハ本法
 ニ違反シテ運轉シ能ハサル船舶ハ本條第一項及第三項ニ
 規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隔ヲ
 以テ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲
 ヲ二發スヘシ又他船ニ引カレテ運轉スル船舶モ此ノ信
 號ヲ爲スハ妨ナシト雖モ他ノ信號ヲ爲スヘカラス明治三
 十年法律第四十三號ヲ以テ本號ヲ改正)
 總積量二十噸未満ノ帆船ハ必ズモ前數條ニ規定シタル信
 號ヲ爲スラ要ス然レトモ其ノ信號ヲ爲サルトキハ一分時ヨリ
 多カラサル間隔ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スヘシ

霧中速力

第二十六條 霧中降雪其ノ他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意
 シ適度ノ速力ヲ以テ進行スヘシ
 汽船其ノ正横ヨリ前方ニ方リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其ノ
 所在ヲ定メ得ザルトキハ成ルヘク機關ノ運轉ヲ止メ全ク衝突ノ
 虞ナキニ至ルマテ其ノ運航ニ注意スヘシ

航方

衝突ノ危險ハ其ノ現況ニヨリ我船ニ近寄リ來ル他船ノ方位
 ヲ看守シテ之ヲ豫知スルヲ得若キ方位變ニ變更スルヲ認
 マルトキハ危險アルモト知ルヘシ
 第二十七條 二艘ノ帆船互ニ近寄リテ衝突ノ虞アルトキハ其ノ一
 船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避ケヘシ
 一 一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避ケヘ
 二 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ長聲
 ヲ一發スヘシ
 三 汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有サルトキハ二分
 時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ長聲ヲ二秒スヘシ但シ其
 ノ二發ノ間隔ハ大約一秒時タルヲ要ス
 四 帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ右舷
 開アラハ一聲ヲ發シ左舷開アラハ二聲ヲ連發シ船ノ

航行中ノ汽船他船ニ近寄リ航路ヲ變セムトスルトキハ汽笛若
 ハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ノ航路ヲ通知スヘ
 短聲一發 我船航路ヲ右舷ニ取ル
 短聲二發 我船航路ヲ左舷ニ取ル
 短聲三發 我船全速力ニテ後退ス
 懈怠ノ責
 第二十九條 本法ハ點燈、信號又ハ見張ノ怠リ其ノ他海員ノ
 常務又ハ廣播ノ處置ニ必要ナル注意ノ怠リヨリ生シタル結果
 ニ付船、船主、船長海員ヲシテ其ノ責ヲ免レシメサルモノトス
 特別
 第三十條 本法ハ行政官廳ニ於テ規定シタル港、川其ノ他内海
 ノ運航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨ケス(大正十四年法律
 第三十八號ヲ以テ本條ヲ改正)
 難船信號
 第三十一條 危難ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶
 ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ
 畫問信號
 一 大約一分時ノ間隔ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火
 信號ヲ一發ス(明治三十年法律第四十三號ヲ以
 テ本號ヲ改正)
 二 萬國船舶信號書ニ掲載スルNCノ難船信號ヲ表
 示ス
 三 方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ掲グル
 遠隔信號ヲ表示ス
 四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス同上本號ヲ

夜間信號

改正)
 一 大約一分時ノ間隔ヲ以テ砲又ハ其他ノ爆裂發火
 信號ヲ一發ス(明治三十年法律第四十三號ヲ以
 テ本號ヲ改正)
 二 船上ノ發煙(ターナル桶、油樽等ヲ燃焼スルノ類)
 三 星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツク度々打
 揚ク(同上本號ヲ改正)
 四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス
 附則
 第三十二條 本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船八十石ヲ
 以テ一噸ニ通算ス
 第三十三條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス
 第三十四條 明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫
 防規則同十四年五月第三十三號布告同規則追加同十
 八年八月第二十七號布告同規則改正追加ハ本法施行
 ノ日ヨリ廢止ス

●船員法

(明治三十二年三月八日) 法律第四十七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ船員法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 總則

本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、港灣ノミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ノ掲ケタル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラス

本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ船員ヲ謂ヒ海員トハ船長以外ノ一切ノ乗組員ヲ謂フ

第二章 船員手帖

第三條 日本ニ於テ船員ト爲ラント欲スル者ハ管海官廳ニ船員手帖ヲ交付シテ申請スルコトヲ要ス

申請人ハ戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ニ依リテ左ノ事項ヲ證明スルコトヲ要ス但申請人カ其本籍地又ハ寄留地ニ於テ申請ヲ爲ス場合ニ於テ其地ノ管海官廳カ戸籍吏ノ職務ヲ行フキハ此限ニ在ラス

一 氏名

二 本籍地

三 身分

四 出生ノ年月日

第四條 未成年者カ船員ト爲ルニハ其法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第五條 船員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者ハ履修契約ニ開

シテ八成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

第六條 外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到著シタルトキハ其到著ノ日ヨリ一ヶ月内ニ船員手帖ヲ交付シテ申請スルコトヲ要ス

第七條 船員手帖ニ記載シタル事項ニシテ第三條第二項ニ掲ケタルモノニ錯誤アリタルトキ又ハ同條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタルモノニ變更ヲ生シタルトキハ船員ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一ヶ月内ニ管海官廳ニ船員手帖ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

第八條 日本ニ在ラサル間ニ於テ錯誤又ハ變更ノ事實ヲ知リタルトキハ前項ノ期間ハ其船員カ日本ニ到著シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第九條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十條 船員手帖カ滅失シタルトキハ船員ハ遲滞ナク更ニ其交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第十一條 船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ船員手帖カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船員カ日本ニ到著シタル後遲滞ナク船員手帖ヲ交付シテ申請スルコトヲ要ス

第十二條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ適用ス但原管海官廳ニ船員手帖ヲ交付又ハ書換ヲ申請スルコトキハ此限ニ在ラス

第三章 船長

第十三條 船長ノ職權

第十四條 船長ノ職權

第十五條 船長ノ職權

第十六條 日本外國ノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到著シタルトキハ船長ハ二十四時間内ニ其港ノ管海官廳ニ若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ其檢閲ヲ受クルコトヲ要ス

第十七條 規定ハ船舶カ入港ノ時ヨリ十二時間内ニ發航スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十八條 管海官廳ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其他船中ニ在リタル者ヲ呼出シテ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十九條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三 衝突其他ノ海難カ生シタルトキ

四 船舶カ捕獲セラレタルトキ

五 船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ

第六條 船長カ豫定セザル港ニ寄港シタルトキ又ハ前項第二號乃至第五號ニ掲ケタル事由カ發中ニ生シタルトキハ船長ハ其港ノ管海官廳ニ若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 前條第三項ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十八條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テハ船長ハ報告書ヲ作リ其認證ヲ申請スルコトヲ得

第三十三條 海員ハ履修アリタル場合ニ於テハ船長ニ對シ其職務ノ執行又ハ品行ニ關スル證明書ヲ交付シテ請求スルコトヲ得

第三十四條 海員名簿カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ更ニ海員名簿ヲ作り之ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第三十五條 第二十七條及ヒ第二十八條ノ規定ハ海員名簿及ヒ船員手帖カ共ニ滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ適用ス但原管海官廳ニ公認ヲ申請スルコトキハ此限ニ在ラス

第三十六條 海員カ履修入期間中第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リテ船員手帖ヲ交付又ハ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付又ハ書換アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク第二十九條ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第五章 紀律

第三十七條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ懲戒スルコトヲ得

一 海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ

二 海員カ其職務ヲ怠ラタルトキ

三 海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ

四 海員カ喧嘩シタルトキ

五 海員カ船長ノ許可ヲ得ズシテ船舶ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時マテニ歸船セザリタルトキ

六 海員カ船長ノ許可ヲ得ズシテ點火又ハ焚火シタルトキ

七 海員カ船長ノ許可ヲ得ズシテ端艇ヲ使用シタルトキ

八 海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ

九 海員カ船長ノ許可ヲ得ズシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタルトキ

十 海員カ醜態シテ事ヲ省セザルトキ

第三十八條 船長ハ海員ノ履修入期間中其船員手帖ヲ保管スルコトヲ要ス

第三十九條 海員カ履修入期間中船長ハ船長ハ遲滞ナク管海官廳ニ其海員ノ船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

第四十條 海員カ履修入期間中船長ハ船長ハ遲滞ナク管海官廳ニ其海員ノ船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

第十九條 船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ船長ハ人命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得

第二十條 船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及ヒ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及ヒ到達港ヲ告知スルコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラス

第二十一條 船長カ航海中救護ヲ求ル船舶ヲ認メタルトキハ人命ヲ救フコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラス

第二十二條 海員カ船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ其船中ニ在ル遺産ヲ保管スルコトヲ要ス

第二十三條 外國ニ駐在スル日本ノ公使、領事又ハ貿易事務官カ法令ノ定ムル所ニ依リ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命シタルトキハ船長ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得

第二十四條 送還費用ノ償還ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 船長ハ其指揮セントスル船舶ニ乗込ム前ニ其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ認證ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ認證ヲ得タル船長カ其職ヲ退キタルトキハ遲滞ナク認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十六條 船長カ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタルトキ又ハ之ヲ指揮スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ他人ヲ選任セザルトキハ遲滞ニ從事スル海員ハ其職掌ノ順位ニ從ヒテ船長ノ職務ヲ行フ

第四章 海員

第二十七條 海員ノ履修入若クハ履修止ヲ爲シ又ハ履修入契約ノ更新若クハ變更ヲ爲シタルトキハ管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シ

テ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十八條 管海官廳カ公認ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者雙方ノ讀聞カセタル後ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス但海員ノ履修止ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由アルトキハ當事者ノ一方カ出頭セザルトキハ公認ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 當事者カ印ヲ有セザルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名ヲ代筆セシメ捺印スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハス且印ヲ有セザルトキハ氏名ヲ代筆セシメ捺印スルヲ以テ足ル

第三十條 前項ノ規定ニ依リ捺印セズ又ハ氏名ヲ代筆セシメ若クハ捺印シタル場合ニ於テハ海員名簿ニ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第三十一條 當事者ハ正當ノ理由アル場合ニ限り代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコトヲ得

第三十二條 公認アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第三十三條 海員ノ履修止ニ關シテ爭アルトキハ當事者ノ一方ハ管海官廳ニ其事由ヲ申立テ履修止ノ公認ヲ申請スルコトヲ得

第三十四條 管海官廳カ前項ノ申請ヲ正當ナリト認メタルトキハ當事者雙方ヲ呼出シ海員名簿及ヒ船員手帖ヲ提出シメ履修止ノ公認ヲ爲スコトヲ要ス

第三十五條 當事者ノ一方カ出頭セザルトキハ管海官廳ハ相手方ノ申立ニ因リテ履修止ノ公認ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ海員名簿及ヒ船員手帖ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十六條 前二項ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船員手帖ノ提出ヲ強制スルコトヲ得

第三十七條 船長ハ海員ノ履修入期間中其船員手帖ヲ保管スルコトヲ要ス

第三十八條 海員カ履修入期間中船長ハ船長ハ遲滞ナク管海官廳ニ其海員ノ船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

海員懲戒法

總則 海員審判所ノ組織及管轄

審判前ノ手續

地方海員審判所ノ審判

三三〇

海員懲戒法

(明治二十九年四月七日)

法律第六十九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ海員懲戒法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海員懲戒法

第一章 總則

- 第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ
一 正當ノ理由ヲシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
二 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ間ハスニ損著ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ
三 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ
四 海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡サザルトキ
五 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ヲシテ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡サザルトキ
六 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
七 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ
第二條 懲戒ハ左ノ三種トス
一 免狀行使ノ禁止
二 免狀行使ノ停止
三 譴責
第三條 前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所ノ決定ニ由ル
第四條 免狀行使ノ停止ハ一月以上三年以下トス
第五條 海員審判所ハ左ノ原因アルトキハ審判ヲ行ハス
一 確定裁決

二 時效

- 第一條 各號ニ該當スル者ハ廢業ノ故ヲ以テ懲戒ヲ免ルコトヲ得ス
第二條 時效ノ期間ハ審判ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年トス
第三條 海員審判所ノ審判ニ關シ此ノ法律ニ規程ナキモノニ付テハ刑事訴訟法ノ規程ヲ準用ス

第二章 海員審判所ノ組織及管轄

- 第八條 海員審判所ハ地方海員審判所及高等海員審判所ニ由ル
第九條 海員審判所ハ船舶司檢所ニ置キ高等海員審判所ハ通商省ニ置ク
第十條 海員審判所ニハ審判所長、審判官、理事官及書記ヲ置ク
第十一條 審判所長、審判官、理事官及書記ノ定員並其ノ任用ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十二條 地方海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ三人高等海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ五人ノ列席會議ヲ以テ之ヲ行フ
第十三條 地方海員審判所ノ管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十四條 審判ニ付スヘキ事件ノ管轄權ハ其ノ事件ノ生シタル船舶ノ定着場ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス
第十五條 同一ノ事件ニ付二箇以上ノ地方海員審判所ノ管轄權ヲ有スルトキハ其ノ事件ノ生シタル地ニ最モ近キモノノ管轄トス
第十六條 地方海員審判所ノ理事官又ハ被審人ハ其ノ事件ヲ他ノ地方海員審判所ニ移付スルノ申請ヲ爲スコトヲ得
第十七條 前項ノ申請ヲ爲ス者ハ審判期日前ニ管轄海員審判所ノ經由シテ高等海員審判所ニ申請書ヲ差出スヘシ

第三章 審判前ノ手續

- 第十五條 「船舶司檢所司檢官、同司檢官補、警察官吏、市町村長及捕役人」ニ於テ此ノ法律ニ依リ審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ詳記シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ
第十六條 領事官及貿易事務官帝國外ニ於テ前條ノ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證據ヲ集取シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ
第十七條 理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證據ヲ集取シ又必要ニ應ジ實地臨檢スルコトヲ得
第十八條 理事官ハ職權ヲ以テ審判ノ開始ヲ地方海員審判所ニ申立ツヘシ
第十九條 前項ノ申立ヲ爲ス者ハ證據其ノ他必要ノ書類ヲ添付スヘシ
第四章 地方海員審判所ノ審判
第十九條 地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ

海員懲戒法

地方海員審判所ノ審判

高等海員審判所ノ審判

執行處分

三三一

以テ審判ヲ開始スヘキ否ヤヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘシ

- 開始決定ハ理事官及被審人ニ之ヲ通知スヘシ
第二十條 地方海員審判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ審判所長ハ審判官ニ其ノ下調ヲ命ズヘシ
第二十一條 下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得
第二十二條 受命審判官ハ必要ナル證據ヲ集取スヘシ
受命審判官ハ被審人、鑑定人ヲ呼出シ又ハ通事ヲ命ジ若ハ證據ヲ爲スコトヲ得
第二十三條 被審人若ハ證人正當ノ理由ヲシテ受命審判官ノ呼出ニ應ゼザルトキハ受命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得
第二十四條 引致狀ハ理事官ノ命令ニ因リ勾引狀執行ノ手續ヲ準用シテ之ヲ執行ス
第二十五條 被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ爲シ若ハ之ヲ差押アルコトヲ得
第二十六條 被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應ズルトキハ審判所長ハ審判官ニ其ノ呼出ニ應ズルコトヲ認知シ若ハ他ノ地方海員審判所ニ其ノ訊問ヲ囑託スルコトヲ得
第二十七條 受命審判官下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證據ヲ審判所長ニ差出シ審判所長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ
第二十八條 理事官ハ三日以内ニ意見ヲ付シ其ノ書類ヲ審判所長ニ還付スヘシ
第二十九條 地方海員審判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ審判ヲ繼續スルヤ否ヤヲ決定スヘシ
第三十條 審判ヲ繼續スヘシト決定スルトキハ審判期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ

審判ヲ繼續セシ決定スルトキハ被審人ヲ放免スヘシ

- 第三十一條 審判ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ地方海員審判所ノ決定ニ依リ其ノ公開ヲ停止ス
第三十二條 第二十一條乃至第二十四條ハ地方海員審判所ノ審判ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス
第三十三條 開廷中秩序ヲ維持スル審判長ニ屬ス審判長ハ審判ヲ妨クル者又ハ不當ノ言語ヲ發スル者ヲ退廷セシムルコトヲ得
第三十四條 被審人及證人ノ訊問ハ審判長之ヲ爲ス
第三十五條 審判官及理事官ハ審判長ニ告ケ被審人及證人ヲ訊問スルコトヲ得
第三十六條 理事官ハ審判ニ立會ヒ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得
第三十七條 被審人ハ補佐人ヲ用ウルコトヲ得但シ地方海員審判所ノ認許シタル者ニ限ル
第三十八條 地方海員審判所ハ呼出ヲ受ケタル被審人審判期日ニ出頭セザルトキハ罰席裁決ヲ爲スヘシ但シ被審人ノ疾病其ノ他ノ故障ニ依リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ其ノ審判ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得
第三十九條 刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審判ヲ開始スルコトヲ得ス
第四十條 被審人刑事訴訟ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ判決ヲ終ルマテ審判ヲ中止スヘシ
第四十一條 理事官及被審人ハ本案ノ裁決アルマテ何時ニモ管轄處又ハ審判ヲ行フヘカサルヲ申立ラ爲スコトヲ得
第四十二條 地方海員審判所ハ職權ヲ以テ管轄處又ハ審判ヲ行フヘカサルヲ言渡ラ爲スコトヲ得
第四十三條 地方海員審判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ裁決ヲ待タズ直ニ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得
第四十四條 裁決ニハ其ノ理由及證據ヲ明示スヘシ

第五章 高等海員審判所ノ審判

- 第三十八條 裁決及裁決始末書ノ原本ハ審判ヲ爲シタル地方海員審判所ノ之ヲ保存スヘシ
第三十九條 理事官及被審人ハ地方海員審判所ノ裁決ニ對シ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得
第四十條 控告ノ期間ハ裁決言渡アリタル日ヨリ七日トス
第四十一條 原告ハ對シタル被告ノ期間ハ被審人自ラ裁決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十四日トス
第四十二條 控告ヲ爲スニハ其ノ申立書ヲ原地方海員審判所ニ差出スヘシ
第四十三條 原地方海員審判所ハ直ニ該申立書及一件書類ヲ高等海員審判所ニ送付スヘシ
第四十四條 高等海員審判所ノ審判ニ付テハ地方海員審判所ノ審判ニ關スル規程ヲ適用ス
第四十五條 高等海員審判所ハ控告ヲ理由アリトスルトキハ原裁決ヲ取消シ更ニ裁決ヲ爲スヘシ
第六條 執行處分
第四十六條 懲戒ハ裁決確定ノ後ニ之ヲ執行ス
第四十七條 免狀行使ノ禁止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ通商省ニ送付スヘシ
免狀行使ノ停止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期間満了ノ後之ヲ本人ニ還付スヘシ
免狀行使ノ禁止若ハ停止ヲ言渡サレタル者海員審判所ニ免狀ヲ差出サザルトキハ海員審判所ハ其ノ免狀ヲ無効ト爲シ官報ニ告示スヘシ

第十四條 行政官廳ハ第十一條ノ検査ノ結果ニ基キ其ノ他航空機ノ現狀ニ因リ必要アルトキハ航空機ノ使用ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ堪航證明書ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタルトキハ停止中堪航證明書ヲ領置ス

第三章 乘員

第十五條 航空機ノ乘員ニ非サレハ航空機ニ搭乗シ其ノ運航ニ從事スルコトヲ得ス

乘員ハ技術證明書及航空免狀ヲ有スルコトヲ要ス

第十六條 技術證明書ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ行方審査ニ合格シタル者ニ之ヲ交付ス技術證明書ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空免狀ノ交付ヲ受ケルコトヲ得

第十七條 乘員ハ技術證明書及航空免狀ヲ携帶スルニ非サレハ運航ニ從事スルコトヲ得ス

第十八條 行政官廳ハ乘員ニ對シ定期又ハ臨時ニ検査ヲ爲スコトヲ得

第十九條 第十五條第一項ノ規定ハ飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空機ニ搭乗シテ運航練習ヲ爲ス者及運航練習ノ爲乘員ト同乘員トシテ運航ニ從事スル者ニ之ヲ適用セズ

第二十條 行政官廳ハ乘員引續キ六月以上運航ニ從事セザルトキ、第十八條ノ検査ノ結果ニ基キ必要アルトキ又ハ保安上必要アルトキハ就業ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ航空免狀ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタルトキハ停止中航空免狀ヲ領置ス

第二十一條ノ規定ニ依リ禁止ヲ命セラレタル乘員ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ航空免狀ヲ返付ス

第四章 飛行場及其ノ經營者

第二十二條 飛行場ヲ設置セムル者、其ノ區域ヲ變更セムトスル者又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ廢止セムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス

行政官廳ノ許可ヲ受ケルコトヲ要スル飛行場ヲ公共ノ用ニ供セザル飛行場ニ變更シ又ハ公共ノ用ニ供セザル飛行場ヲ公共ノ用ニ供スル飛行場ニ變更セムトスル者亦同シ

第二十三條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空機ニ必要ナル設備ヲ爲ス

第二十四條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ飛行場ヲ他ノ目的ニ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得ス

第二十五條 行政官廳ハ飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空機ノ墜落ト爲ルヘキモノアルトキハ飛行場ノ經營者ニ對シ必要ナル航空機ノ設置ヲ命スルコトヲ得

飛行場ノ經營者ハ前項ノ航空機ノ設置又ハ維持ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス

要ナル土地ニ立入リ若ハ墜落ト爲ルヘキモノアルトキハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ運搬ナク其ノ官行政官廳ニ届出テ且其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ通知ス

第二十六條 前條ノ規定ニ依リ立入、除去又ハ使用ニ因リ生シタル損害ハ飛行場ノ經營者ノ之ヲ補償ス

前項ノ規定ニ依リ補償ノ金額ニ關シ協議調ハサルトキハ行政官廳ノ決定ニ依リ之ヲ決定ス

第五章 航空及運送

第二十七條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ他人ノ運航スル航空機又ハ飛行機ニ對シ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スルコトヲ拒ムコトヲ得但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ經營者其ノ飛行場ノ使用ニ對シ使用料ヲ請求セムトスルコトハ豫メ其ノ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

第二十八條 公共ノ用ニ供セザル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ他人ノ運航スル他人ノ航空機ヲ運航スルコトヲ得

第二十九條 航空船及飛行機ハ陸上ニ在リテハ飛行場ニ非サル場所、水上ニ在リテハ命令ヲ以テ禁止スル場所ニ於テ離陸又ハ著陸スルコトヲ得但シ故障若ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキ又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所若ハ神宮ノ上空ニ於テ又ハ皇陵ノ上空「メートル」以下ニ於テ航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ掲ケル場所ノ外航空機ノ制限又ハ禁止ヲ必要トスル場所ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ行政官廳ハ航空機ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

空機ノ航空ヲ禁止スルコトヲ得

第三十二條 日本航空機ニ非サル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第三十三條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ若ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機又ハ日本國外ヨリ發航シテ日本國外ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ指定スル航空路ニ出リ航空ス

第三十四條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ又ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ指定スル飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸ス

第三十五條 日本航空機ニ非サル航空機ニ依リ有償ニテ日本各地ノ間ニ於テ旅客又ハ貨物ノ運送ヲ爲スコトヲ得但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ日本航空機ニ依リ運送スルコトヲ得ス

第六章 雜則

第三十七條 航空機ノ用地又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地トスル爲必要ナル土地及水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス

第三十八條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ一時ノ使用ニ供スルモノ又ハ有料借地ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 開港法中船舶、船長、船用品及海路運送並之ニ關スル規則事件ノ調査、處分及處罰ニ付テハ規定ハ航空機、航空機ノ長、航空機ノ機用品及航空機ニ依リ外國貨

物ノ運送並之ニ關スル規則事件ノ調査、處分及處罰ニ付テハ規定ニ依リ之ヲ適用ス

第四十條 第三十三條ノ航空機カ故障又ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第三十四條ノ規定スル著陸場所以外ニ著陸シタルトキハ行政官廳ノ指定スル場所ニ於テ著陸ス

行政官廳ニ運搬ナク届出ツ

前項ノ規定ニ依リ航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ離陸スルコトヲ得ス

第四十一條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至ル航空機ニ關シテハ傳染病預防ノ爲検査ヲ施行ス

前項ノ検査ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 前條ノ規定ハ内地、朝鮮、臺灣相互間ニ付テ之ヲ適用ス

前項ノ内地ニハ樺太ヲ包含ス

第四十三條 航空機ノ救難及之ニ關スル處罰ニ付テハ水難救護法ヲ適用ス

第四十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 罰則

一 航空機ニ備付クヘキ日誌其ノ他ノ帳簿書類及附屬品其ノ他ノ物件ニ關スル事項

二 保安上又ハ禁止スル火藥類、寫眞機其ノ他ノ物件ニ關スル事項

三 航空機ニ關スル燈火及信號ニ關スル事項

四 航空機ニ關スル保安上必要ナル制限及航空機ト航空機又ハ船舶ト衝突防禦ニ關スル事項

五 航空機ノ設置ニ關スル事項

六 飛行場ノ設備ニ關スル事項

第四十五條 當該官吏ハ其ノ職務ノ執行ニ必要ナル認ムルトキハ航空機ノ離陸禁止又ハ著陸ヲ命スルコトヲ得

第四十六條 當該官吏ハ其ノ職務ノ執行ニ必要ナル認ムルトキハ航空機、飛行場又ハ格納庫ニ檢査シ本法又ハ本法ニ基キテ發令命命ニ依リ之ニ備付テ要スル帳簿書類及物件ニ關シ検査ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 朝鮮及臺灣ニ於テハ第三十七條第二項、第三十八條及第四十三條ノ規定ニ關シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

第四十八條 航空機ヲ損壞シタル者又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効トシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千里以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 詐偽ノ信號ヲ爲シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ航空ノ危険ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第五十條 現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ヲ墜落、顛覆若ハ覆没シメ又ハ破壊シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

前條ノ罪ヲ犯シテ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顛覆、覆没又ハ破壊ヲ致シタル者亦前項ノ例ニ同シ

第五十一條 前二條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第五十二條 過失ニ因リ航空ノ危険ヲ生セシメ又ハ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顛覆、覆没又ハ破壊ヲ致シタル者ハ二千里以下ノ罰金ニ處ス

其ノ業務ニ從事スル者前項ノ罰ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ三千里以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 詐術ヲ用キ第五條若ハ第十一條ノ検査ヲ受ケ又ハ不實ノ事項ヲ登錄セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二

千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五十四條 第四十九條、第五十條第一項及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第五十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第五條又ハ第十一條ノ検査ニ合格セザル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シタル者
 二 第十四條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ爲シタル命令ニ違反シタル者
 三 第九條ノ規定ニ違反シテ國籍記號若ハ登録記號ヲ表示セザル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ八條ノ國籍記號若ハ登録記號ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者
 第五十六條 第十五條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ爲シタル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五十七條 第三十條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス
 第三十條第二項ノ規定ニ依リ制限若ハ禁止ニ違反シタル者、第三十一條ノ規定ニ依リ禁止ニ違反シタル者又ハ第三十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五十八條 第二十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第四十五條ノ規定ニ依リ當該官吏ノ命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第二十四條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ命令ニ違反シタル者

二 故ナク當該官吏ノ應檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者
 第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第九條ノ規定ニ違反シテ航空機所有者ノ氏名名稱若ハ住所ヲ表示セザル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ八條ノ氏名名稱若ハ住所ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者
 二 第十條ノ規定ニ違反シテ填航證明書又ハ登録證明書ヲ備付ケザル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者
 三 第十七條ノ規定ニ違反シタル者
 第六十一條 第二十一條、第二十二條、第二十七條第一項、第二十八條、第三十四條乃至第三十六條又ハ第四十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第六十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第二十三條ノ規定ニ違反シタル者
 二 第二十七條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケテシテ使用料ノ請求ヲ爲シタル者
 第六十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處ス
 一 第五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタル者
 二 第七條第三項又ハ第八條第三項ノ規定ニ依リ登録ノ申請ヲ怠リタル者
 三 第八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ填航證明書又ハ登録證明書ヲ返付ヲ怠リタル者
 四 第二十條第三項ノ規定ニ依リ航空免狀ヲ返付ヲ怠リタル者

五 第四十條第一項ノ規定ニ依リ届出ヲ怠リタル者
 前項ノ規定ニ依リ過料ハ法人ニ在リテハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用ス
 第六十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ付テ之ヲ適用ス
 附則
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和二年勅令第四百四號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行ス）

●特許法

(大正十年四月三十日) 法律第九十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ特許法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特許法

第一章 總則

第一條 新規ナル工業ノ發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付テ特許ヲ受クルコトヲ得
 第二條 特許權者又ハ特許出願者ハ其ノ發明ノ改良又ハ擴張ニ係ル新規ノ發明ニ付テ特許ニ代ヘ追加ノ特許ヲ受クルコトヲ得
 第三條 左ニ掲グル發明ニ付テハ之ヲ特許セズ
 一 飲食物又ハ嗜好物
 二 醫藥又ハ其ノ調合法
 三 化學方法ニ依リ製造スヘキ物質
 四 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ
 第四條 本法ニ於テ發明ノ新規ト稱スルハ發明力左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ要ス
 一 特許出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用キラレタルモノ
 二 特許出願前帝國内ニ頒布セザレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セザレタルモノ
 第五條 特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試驗ノ爲メ其ノ發明ヲ前條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス
 特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ意ニ反シテ其ノ者ノ發明カ前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ此限ニ在ラス

月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキ亦前項ニ同シ
 第六條 特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ開設スル官設若ハ官許ノ博覽會ニ出品ノ爲メ其ノ者ノ發明ヲ第四條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ開會ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス
 前項ニ掲グル博覽會ノ除外ノ外國ノ版圖内ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品ノ發明ニ付テ保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第七條 特許出願ハ一發明毎ニ之ヲ爲スヘシ但シ二以上ノ發明カ牽連シテ利用上一發明ヲ爲スモノト認メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第八條 同一發明ニ付テハ最先ノ出願者ニ限リ特許ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ特許シ協議ハサルトキハ共ニ特許セズ
 第九條 二以上ノ發明ヲ包含スル特許出願ヲ二以上ノ出願ト爲シタルトキハ各出願ハ最初出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス
 第十條 追加ノ特許出願ヲ獨立ノ特許出願ニ、獨立ノ特許出願ヲ追加ノ特許出願ニ變更シタルトキ亦前項ニ同シ
 第十一條 特許出願カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ承認シタル者ニ爲シタルモノナルニ因リ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ其ノ特許出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ三十日ヲ出願公告アリタル場合ニ於テハ出願公告ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此限ニ在ラス

第十二條 特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ承認シタル者ノ受ケタルモノナルニ因リ其ノ特許ヲ無効トスル審決確定シ又ハ判決アリタル場合ニ於テ其ノ特許ノ出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ無効ト爲リタル特許ノ出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特許ノ出願公告ノ日ヨリ五年ヲ經過シタル後ノ出願又ハ其ノ審決確定シ若ハ判決アリタル日ヨリ三十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此限ニ在ラス
 第十三條 特許ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ズ
 第十四條 特許ヲ受クルノ權利カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ズ
 第十五條 特許ヲ受クルノ權利ノ承繼人カ特許出願前ニ在リテハ特許ヲ出願シ特許出願後ニ在リテハ出願人名義ノ變更ヲ届出スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ同日ノ出願又ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ
 第十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ法定又ハ指定ノ期間ノ計算ハ左ノ規定ニ依リ
 一 期間ノ初日ハ之ヲ算入セズ但シ其ノ期間カ午前零時ヨリ始ルトキハ此ノ限ニ在ラス
 二 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從テ月又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セザルトキハ其ノ期間ハ最後ノ月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ満了ス但シ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ満了ス
 第十七條 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付テテ法定又ハ指定ノ期間ノ末日カ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ當ルヘキトキハ其ノ日ノ翌日ヲ以テ其ノ期間ノ末日トス

特許法 總則

第十四條 被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シテハ發明ニ付テハ性質上被用者、法人又ハ公務員ノ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲ヲ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノヲ除ク外豫メ被用者、法人又ハ公務員ノ執行セシムル者ヨリ特許ヲ受クル權利又ハ特許權ヲ承繼セシムルコトヲ定メタル契約又ハ勅令規程ノ條項ハ之ヲ無効トス

被用者、法人又ハ公務員ノ執行セシムル者ハ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シテ發明ニシテ性質上被用者、法人又ハ公務員ノ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲ヲ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノニ付テハ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ執行セシムル者ヨリ特許ヲ受クル權利又ハ特許權ヲ承繼セシムルコトヲ定メタル契約又ハ勅令規程ノ條項ハ之ヲ無効トス

被用者、法人ノ役員又ハ公務員ハ前項ノ發明ニ付テハ特許ヲ受クル權利又ハ特許權ヲ豫メ定メタル契約又ハ勅令規程ニ依リ被用者、法人又ハ公務員ノ執行セシムル者ヨリ特許ヲ受クル權利又ハ特許權ヲ承繼セシムル場合ニ於テ相當ノ補償金ヲ受クル權利ヲ有ス

使用者、法人又ハ公務員ノ執行セシムル者ニ於テ既ニ支拂ヒタル報酬アルトキハ裁判所ハ前項ノ補償金ヲ定ムルニ付テハ之ヲ酌量スルコトヲ得

本條ニ於テ法人ノ役員ト稱スルハ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ謂ヒ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ謂フ

第十五條 特許出願ニ係ル發明カ軍事上秘密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許ヲ與ヘス、特許ヲ受クル權利ヲ政府ニ於テ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ特許ヲ與ヘス、權利ヲ收用シ又ハ制限ヲ

附シテ特許ヲ與フル場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ支給ス

第十六條 帝國内ニ住所ヲ有セザル者ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外帝國内ニ住所又ハ居所ヲ有スル代理人ニ依リテ非サレハ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シ又ハ特許權若ハ特許ニ關スル權利ヲ主張スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ出願若ハ請求又ハ主張ヲ爲ス代理人ハ特許手續ニ關スル權利ノ外本法又ハ本法ニ基キテ發シタル命令ニ依リテ手續並民事訴訟、私訴及告訴ニ付本人ヲ代表ス

特許權者又ハ特許權ニ關シテ權利ヲ有スル者ノ代理人ニシテ第一項ノ規定ニ依リ手續又ハ主張ヲ爲スモノノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅ハ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三項ノ對抗スルコトヲ得

第十七條 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ノ代理人ニシテ前條第三項ノ規定ニ依リ代理人ニ非サレモノノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅ハ特許局ニ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ特許局ニ對抗スルコトヲ得

第十八條 特許ニ關スル代理人數人アルトキハ特許局ニ對シテハ共同又ハ各別ニ本人ヲ代表ス

第十九條 特許局長官ニ於テ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

特許局長官又ハ審判長ニ於テ當事者、參加人若ハ特許異議申立人又ハ其ノ代理人カ手續又ハ演述ヲ爲スノ能力ナシト認ムルトキハ其ノ代理士ヲ以テ代理セムルコトヲ命スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ命令アリタル後第一項ノ代理人又ハ前項ノ當事者、參加人、特許異議申立人若ハ代理人ノ特許局ニ對シテ爲シタル行爲ハ之ヲ無効ト爲スコトヲ得

第二十條 特許局ニ對シテ爲スヘキ事項ノ代理業ハ辦理士ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得

第二十一條 數人共同シテ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者又ハ特許權ノ共有者ハ特許局ニ對シテ各人互ニ代表スルモノトス但シ特ニ代表者ヲ定メ特許局ニ届出テタルトキ此ノ限ニ在ラス

第二十七條ノ規定ハ前項但書ノ代表者ニ付テハ適用ス

第二十二條 特許權者帝國内ニ住所ヲ有セザルトキハ第十六條第二項ノ代理人ノ住所又ハ居所、其ノ代理人ナキモノニ在リテハ特許局ノ所在地ヲ以テ民事訴訟法第十七條ノ財產所在地ト看做ス

第二十三條 特許局長官ハ外國又ハ遠隔若ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ特許局ニ對シテ手續ヲ爲スヘキ法定ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十四條 出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者ノ三關スル期後ノ行爲ニ付指定ノ期間ヲ懈怠シタルトキ又ハ登錄ヲ受クル際納付スヘキ特許料ノ納付ヲ怠リタルトキハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外特許局長官ハ其ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無効ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無効ト爲シタル場合ニ於テ其ノ期間ノ懈怠カ宥恕スヘキ障礙ニ因リモノト認ムルトキハ其ノ障礙ノ止ムル日ヨリ十四日以内ニシテ其ノ期間満了後一年以内ノ請求ニ依リ特許局長官ハ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得但シ第七十四條ニ規定スル特許異議ノ申立期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 特許局ニ差出スヘキ書類其ノ他ノ物件ニ付差出ノ

效力ヲ生スヘキ時期ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發シタル命令ニ依リ特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ爲シタル又ハ其ノ者ニ對シテ爲サレタル手續ノ效力ハ其ノ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ承繼人ニ及ブ

第二十八條 特許局ニ事件ノ繫屬中ニ於テ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ移轉アリタルトキハ特許局ハ承繼人ニ對シテ手續ヲ履行スルコトヲ得

第二十九條 本法ニ規定スルモノノ外特許局ニ繫ル手續ノ中断中止及中断中止シタル手續ノ履行ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 特許ニ關シテ證明、特許證ノ複本、書類ノ原本若ハ圖面ノ複製ヲ求メ又ハ書類ノ閲覧若ハ謄寫ヲ爲サントスル者ハ特許局長官ニ之ヲ申請スルコトヲ得但シ特許局長官ニ於テ秘密ヲ要ストルモノニ付テハ之ヲ許可セズ

第三十一條 軍事上秘密ヲ要スル發明ニ付テハ本法ニ規定スルモノノ外命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三十二條 外國人ニシテ帝國内ニ住所ヲ有セザル者モ有セザルモノハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ヲ除ク外特許權又ハ特許ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得

第三十三條 特許ニ關シテ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第三十四條 特許權ハ登録ニ依リ發生ス

第三十五條 特許權者ハ物ノ特許發明ニ在リテハ其ノ物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スル權利ヲ專有シテ特許發明ニ在リテハ其ノ方法ヲ使用シ及ヒ其ノ方法ニ依リテ製作シタル物ヲ使用、販賣又ハ擴布スル權利ヲ專有ス

新規ナル同一ノ物ハ同一ノ方法ニ依リテ製作シタルモノト推定ス

第三十六條 特許權ノ效力ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス

一 研究又ハ試驗ノ爲ニスル特許發明ノ實施

二 單ニ帝國内ヲ通過スルニ過キザル運輸具又ハ其ノ裝置

三 特許出願ノ際ヨリ帝國内ニ在ル物

第三十七條 特許出願ノ際現ニ善意ニ帝國内ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第三十八條 特許ノ無効審判請求ノ登錄前善意ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ帝國内ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

一 同一發明ニ對スル二以上ノ特許中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原特許權者

二 特許ヲ無効トシ同一發明ニ付正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原特許權者

三 前二號ニ掲ケタル場合ニ於テ其ノ無効ト爲リタル特許權ニ付登録ヲ受ケタル登録ヲ受ケタル者但シ實施權カ登錄ヲ受ケタル第五十二條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セス

特許出願ノ日前又ハ之ノ同日ノ出願ニ係リ其ノ特許權ト低價ニ賣用新案權ノ存続期間満了シタル場合ニ於テ其ノ賣用新案權ニ付實施權ヲ得テ登録ヲ受ケタル者ハ其ノ特許

發明ニ付原實施權ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施權カ登錄ヲ受ケタル賣用新案法第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セス

特許權者ハ前二項ノ規定ニ依リ實施權者ヨリ相當ノ補償金ヲ受クル權利ヲ有ス

第三十九條 特許出願ノ日前又ハ之ノ同日ノ出願ニ係リ其ノ特許權ト低價ニ賣用新案權ノ存続期間満了後ニ於ケル賣用新案權者ハ其ノ特許發明ニ付原權利ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第四十條 特許發明カ軍事上秘密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許權ヲ制限シ若ハ政府ニ於テ收用シ、特許ヲ取消シ又ハ政府ニ於テ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

特許權ノ收用アリタルトキハ其ノ特許發明ニ關スル特許權以外ノ權利ハ消滅ス

第一項ノ規定ニ依リ制限、收用、取消又ハ實施ノ場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ特許權者又ハ實施權者ニ支給ス

第四十一條 特許發明カ軍事上秘密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許權ヲ三年以上正當ノ理由ナクシテ其ノ發明カ帝國内ニ適當ニ實施セラレザル場合ニ於テ公益上必要ナルトキハ特許局長官ハ利害關係人ノ請求ニ依リ其ノ實施權ヲ許シ若ハ其ノ特許ヲ取消シ又ハ職權ヲ以テ其ノ特許ヲ取消スルコトヲ得

特許權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依リ實施權許與若ハ特許取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ實施權ヲ許與スル場合ニ於テハ特許局長官ハ補償金ニ付テモ亦之カ決定ヲ爲ス

第四十二條 前條ノ規定ニ依リ實施權ヲ取得シタル者適當ニ其

特許法 特許權

特許發明ノ實施者ナル場合ニ於テハ特許局長官ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ實施權ヲ取消ス...

第四十三條 特許權ノ存続期間ハ出願公告アリタル場合ニ在リテハ其ノ出願公告ノ日ヨリ出願公告ナカリシ場合ニ在リテハ特許ノ日ヨリ十五年ヲ以テ終了ス...

第四十四條 特許權ハ制限ヲ附シ又ハ附セシメテ之ヲ移轉スルコトヲ得...

第四十五條 特許權ノ移轉、拋棄ニ依リ消滅若ハ處分ノ制限又ハ特許權ノ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ハ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得...

第四十六條 追加ノ特許權ハ原特許權ニ附隨ス...

第四十七條 特許權ノ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得...

第四十八條 特許權者ハ特許發明ノ實施者他人ニ許諾スルコトヲ得...

第四十九條 特許權者ハ他人ノ特許發明又ハ登録實用新案ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ特許發明ヲ實施スルコト能ハサル...

第五十條 特許權者ハ前條ノ規定ニ依リ其實施權者ハ特許權者又ハ實用新案權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ...

第五十一條 第四十九條ノ規定ニ依リ其實施權者ハ其ノ特許權ニ附隨ス...

第五十二條 特許權ノ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得...

第五十三條 特許權ノ移轉、拋棄ニ依リ消滅若ハ處分ノ制限又ハ特許權ノ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ハ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得...

第五十四條 追加ノ特許權ハ原特許權ニ附隨ス...

第五十五條 特許權者ハ前條ノ規定ニ依リ其實施權者ハ特許權者又ハ實用新案權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ...

第五十六條 特許權者ハ其ノ特許權ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ...

第五十七條 特許權者ハ其ノ特許權ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ...

第五十八條 特許權者ハ其ノ特許權ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ...

第五十九條 特許權者ハ其ノ特許權ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ...

第六十條 特許權者ハ其ノ特許權ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ...

第六十一條 特許權者ハ其ノ特許權ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ...

特許法 特許權 登録、特許證、公報及明細書、特許標記並特許料

第六十二條 特許局ニ特許原簿ヲ備ヘテ特許權及實施權並之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス...

第六十三條 特許局ハ特許公報及特許發明明細書ヲ發行シ...

第六十四條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第六十五條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第六十六條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第六十七條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第六十八條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第六十九條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第七十條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第七十一條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第七十二條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第七十三條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第七十四條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第七十五條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第七十六條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第七十七條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第七十八條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第七十九條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第八十條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

第八十一條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質...

決定ニ付テ之ヲ進用ス
 審判ニ於テハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所其ノ他區裁判所ノ事務ヲ行フ官廳ニ之ヲ囑託スルコトヲ得
 民事訴訟法中證據調ニ關スル規定ハ前二項ノ規定ニ依リ證據調ニ付テ之ヲ進用ス但シ特許局ニ於テ爲シ證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得
 審判ニ當リテハ八當事者又ハ八參加人ノ申立ニ依リ期間内ニ手続ヲ爲サズ又ハ八期日ニ出頭セザルニシテ雖審判長ハ審判ヲ進行スルコトヲ得
 審判ノ請求ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之ヲ取テ下クルコトヲ得但シ答辯書ノ提出アリタル後ニ於テハ相手方ノ承諾ヲ要ス
 審判ニ於テハ當事者又ハ八參加人ノ申立ニ依リ理由又ハ取テ下クル理由ニ付テモ之ヲ審理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ニ付テモ當事者又ハ八參加人ノ期間内ノ指定シテ意見申立ノ機會ヲ與フヘシ
 審判官ハ當事者ノ雙方又ハ一方ノ同一ナル二以上ノ審判ニ付テ其ノ審理又ハ審決ノ併合ヲ爲スコトヲ得
 審判官ハ前項ノ規定ニ依リ審理ノ併合ヲ爲シタル場合ニ於テ更ニ審理又ハ審決ノ分擔ヲ爲スコトヲ得
 審判ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外審決ヲ以テ之ヲ終ラズ
 前項ノ審決ニハ理由ヲ附ス
 事件力審決ヲ爲スニ懸シタルトキハ審判長ハ審理ノ終結ヲ當事者及參加人ニ通知ス
 審判長ハ必要アルトキ前項ノ規定ニ依リ審理ノ終結ヲ通知シタル後ト雖申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ審理ノ再開ヲ爲スコトヲ得

審決ハ審理ノ終結ノ通知ヲ發シタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ
 第四十九條 審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ
 第八十二條 規定ハ審判ニ付テ之ヲ進用ス
 第七十二條 第七十三條第一項第二項第四項第六項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ第五十三條ノ審判ニ付テ之ヲ進用ス
 第九十九條 第九十九條及第四百四條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付テ之ヲ進用ス
 查定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ查定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ第六十六條ノ規定ニ依リ補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第八十六條乃至第八十八條ノ規定ハ抗告審判ニ付テ之ヲ進用ス但シ審判官ノ合議ハ三人又ハ五人ヲ以テ之ヲ爲シ第九十二條乃至第九十四條及第九十一條ニ於テ當事者又ハ八參加人トアルハ當事者ノ參加人又ハ特許異議申立人トス
 抗告審判ニ於テハ審判請求ノ理由ヲ變更シ又ハ新テ事實若シテ證據方法ヲ提出スルコトヲ得
 抗告審判ニ於テハ其ノ事件ニ付審決ヲ爲スヘシ
 第七十二條ノ規定ハ拒絶ノ查定ニ對スル抗告審判ニ於テ其ノ查定ノ理由ト異リ拒絶ノ理由ヲ發見シタル場合ニ之ヲ進用ス
 第七十三條乃至第七十九條ノ規定ハ拒絶ノ查定ニ對スル抗告審判ノ請求ノ理由アリタル場合ニ之ヲ進用ス但シ特許局ニ出願ニシテ出願公告アリタルモノニ付テハ更ニ出願公告ヲ爲スコトヲ得
 前二項ノ規定ハ第五十三條ノ許可ヲ與ヘサル審決ニ對スル

抗告審判ニ付テ之ヲ進用ス
 拒絶ノ查定ニ對スル抗告審判ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ラス其ノ查定ヲ破毀シ更ニ審查ニ付スヘシトノ審決ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ審決アリタル場合ニ於テハ其ノ破毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其ノ事件ニ付テハ審查官ヲ囑束ス
 抗告審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ審決ヲ送達シタル日ヨリ三十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ出訴及其ノ裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ進用ス
 大審院ノ判決ニ於テ審決破毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其ノ事件ニ付テハ特許局ヲ囑束ス
 第十五條 第四十條又ハ第五十條ノ規定ニ依リ補償金額ノ通知又ハ決定若シテ審決ヲ受ケタル者補償金額ニ付テ不服アルトキハ其ノ通知又ハ決定若シテ審決ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 特許若シテ第五十三條ノ許可ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決ノ登載アリタルトキハ何人ト雖同一事實及同一證據ニ基キ同一審判ヲ請求スルコトヲ得
 審判又ハ抗告審判ニ於テ必要アルトキハ民事又ハ刑事ノ訴訟手續ノ完結ニ至ル迄其ノ手續ヲ中止スルコトヲ得
 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テ必要アルトキハ裁判所ハ特許ニ關シ審決ノ確定又ハ判決アル迄其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得
 審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ負擔ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外其ノ事件ノ審決ヲ以テ之ヲ定ム

審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ額ハ請求ニ依リ特許局長官ノヲ決定ス
 費用ノ負擔及額ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 本法ニ規定スル補償金額ノ確定ノ決定及審決ハ強制執行ニ關シテ民事訴訟法第五百五十九條第一號ノ規定ニ依リ債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ特許局官吏ノヲ付與ス

第六章 再審

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 特許權ノ侵害者タル者
 二 特許アリタル場合ニ於テ第七十三條第三項ノ規定ニ依リ特許權ノ侵害者タル者
 三 特許アリタル場合ニ於テ第七十三條第三項ノ規定ニ依リ特許權ノ侵害者タル者
 四 特許アリタル場合ニ於テ第七十三條第三項ノ規定ニ依リ特許權ノ侵害者タル者
 前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 詐偽ノ行爲ヲ以テ特許ヲ受ケ又ハ審決若シテ判決ヲ受ケタル者
 二 特許ニ係ラサル物又ハ其ノ物ノ容器包装ノ類ニ特許標記ヲ附シ又ハ特許標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者
 三 特許ニ係ラサル物ニシテ其ノ物又ハ其ノ物ノ容器包装ノ類ニ特許標記ヲ附シ又ハ特許標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノノ販賣又ハ販賣シタル者
 四 特許ニ係ラサル物又ハ特許ニ係ラサル方法ニ依リ製作シタル物ヲ製作若シテ使用セシムル爲メ又ハ販賣若シテ

審決確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ再審ヲ請求スルコトヲ得
 審判、抗告審判及出訴ニ於テ爲ス再審ノ請求及其ノ後ノ手續ニ付テハ本章ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外各其ノ審級ノ手續ニ關スル規定ヲ進用ス
 民事訴訟法第四百六十七條第二項、第四百七十一條、第四百七十二條第一項第二項及第四百七十五條乃至第四百八十二條ノ規定ハ審判、抗告審判及出訴ニ於テ爲ス再審ニ關シテ之ヲ進用ス
 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ特許權ノ效力ハ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニシテ再審請求ノ登錄前善意ニ輸入若シテ又ハ八帝國内ニ於テ製作若シテ取得シタル物ニ及ハス
 一 無効ト爲リタル特許權力再審ニ依リ回復シタルトキ
 二 特許權ノ範圍ニ屬セズトシテ審決確定シ又ハ判決アリタルモノニ付テ再審ニ依リ之ニ反スル審決確定シ又ハ判決アリタルモノ
 前條各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニシテ再審請求ノ登錄前善意ニ帝國内ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許證明ニ付テ事業ノ目的タル發明範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス
 第五十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ進用ス
 實施權ノ取得ノ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニシテ再審請求ノ登錄前善意ニ帝國内ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許證明ニ付テ事業ノ目的タル發明範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス
 第三十八條第三項及第五十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ進用ス

第七章 罰則

第三者力請求人及被請求人ノ共謀ニ依リ其ノ第三者ノ權利又ハ利益ヲ詐奪スル目的ヲ以テ審決又ハ判決ヲ爲サシムルコトヲ理由トシテ不服ノ申立ニ付テハ原狀回復ノ請求ニ依リ再審ノ規定ヲ進用ス
 前項ノ場合ニ於テハ請求人及被請求人ノ以テ共同被請求人トス

第三者力請求人及被請求人ノ共謀ニ依リ其ノ第三者ノ權利又ハ利益ヲ詐奪スル目的ヲ以テ審決又ハ判決ヲ爲サシムルコトヲ理由トシテ不服ノ申立ニ付テハ原狀回復ノ請求ニ依リ再審ノ規定ヲ進用ス
 前項ノ場合ニ於テハ請求人及被請求人ノ以テ共同被請求人トス

特許法 再審 罰則

第五十二條 第一項又ハ意匠法第十五條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セス

實用新案權者ハ前二項ノ規定ニ依ル實施權者ヨリ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第九條 實用新案登録出願ノ日前又ハ之ノ同日ノ出願ニ係リ其ノ實用新案權ト抵触スル特許權又ハ意匠權ノ存続期間満了後ニ於テ其ノ特許權者又ハ原意匠權者ハ其ノ登録實用新案ニ付原權利ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第十條 實用新案權ノ存続期間ハ登録ノ日ヨリ十年ヲ以テ終了ス

第二十六條ノ規定ニ依リ進用スル特許法第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ノ爲ニ登録ヲ爲シタルトキハ前項ノ十年ノ期間ハ無効ト爲リタル登録ノ爲サレタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十一條 實用新案權者ハ他人ノ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ登録實用新案ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人ノ力正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セザルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ實施セザルヘキ實用新案又ハ意匠ノ實用新案權又ハ意匠權發生ノ日ヨリ二年ヲ経過セザルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施セザル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ登録實用新案ニ付實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方ノ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セザルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ實用新案權者又ハ意匠權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施權者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコトヲ得

能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施スルコトヲ得但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依ル補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第十三條 登録實用新案ノ實施權ハ之ヲ登録シタルトキハ其ノ實用新案權者ニ歸スル者及シ其ノ實用新案權者ノ目的トナル嗣後設定ノ實施權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第七條乃至第九條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ進用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登録ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第十一條ノ規定ニ依ル實施權ハ其ノ登録前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

特許法第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付テ之ヲ進用ス

第十四條 實用新案權者ハ登録實用新案ノ範圍又ハ說明書カ不完全ニ作製セラレタルコトヲ發見シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ掲グル事項ヲ目的トスル場合ニ限リ其ノ範圍又ハ說明書ノ訂正ノ許可ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

一 登録請求範圍ノ減縮

二 誤記ノ訂正

三 不明瞭ナル記載ノ釋明

前項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ補部カ登録出願ノ際獨立シテ新案ノ實用新案ナルコトヲ要ス

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ登録請求範圍ヲ實質上擴張シ又ハ實質上變更スルコトヲ得ス

第十六條 登録力左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 登録力第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

條、第四十八條、第五十一條、第五十五條、第五十六條、第五十八條、第五十九條、第六十四條、第六十五條、第六十七條、第六十八條乃至第六十九條、第七十一條乃至第七十三條、第七十六條乃至第七十七條、第七十八條、第八十條乃至第八十二條ノ規定ハ實用新案ニ關シテ之ヲ進用ス

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ト同一ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ廣布シタル者

二 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ト類似ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ廣布シタル者

三 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ト同一又ハ類似ノ物品ヲ業トシテ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ行爲ヲ以テ實用新案ノ登録ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二 登録實用新案ニ係ル物品又ハ其ノ物品ノ容器、包裝ノ類ニ實用新案登録標記ヲ附シ又ハ實用新案登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

三 登録實用新案ニ係ル物品シテ其ノ物品又ハ其ノ物品ノ容器、包裝ノ類ニ實用新案登録標記ヲ附シ又ハ實用新案登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ販賣又ハ廣布シタル者

四 登録實用新案ニ係ル物品ヲ製作若ハ使用セシムル爲メ又ハ販賣若ハ廣布スル爲メ看板、引札ノ類ニ其ノ物品カ登録實用新案ニ係ルモノヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

二、登録力第二十六條ノ規定ニ依リ進用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三、登録力登録ノ權利ノ繼承人ニ非サル者又ハ登録ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

四、登録力第二十六條ノ規定ニ依リ進用スル特許法第三十三條ノ規定ニ違反スル者又ハ之ニ違反スル者ノ爲ニ爲サレタル場合ニ於テ其ノ違反力第一號乃至前號ニ掲グルモノニ違反スヘキモノナルトキ

五、登録力第二十六條ノ規定ニ依リ進用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反スル者又ハ之ニ違反スル者ノ爲ニ爲サレタル場合ニ於テ其ノ違反力第一號乃至前號ニ掲グルモノニ違反スヘキモノナルトキ

第十四條ノ許可力同條第二項又ハ前條ノ規定ニ違反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

登録又ハ第十四條ノ許可力實用新案權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第十七條 特許局ニ實用新案原簿ヲ備ヘ實用新案權及實施權ノ設定ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス

第十八條 登録スヘシトシテ決定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ實用新案原簿ニ登録シ實用新案登録證ヲ下付ス第十四條ノ許可ノ審決確定シ又ハ判決アリタルトキ亦同シ

第十九條 特許局ハ實用新案公報ヲ發行シ登録實用新案ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ但シ軍事上秘密ヲ要スル登録實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 實用新案ノ登録ヲ受クル者又ハ登録證主ハ登録料

トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年乃至第三年 毎年 七圓

二 第四年乃至第六年 毎年 十五圓

三 第七年乃至第十年 毎年 二十五圓

第二十一條 實用新案登録ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ管理セシム

第二十二條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲グル事項ニ付テ之ヲ請求スルコトヲ得

一 第十六條ノ規定ニ依ル登録又ハ許可ノ無効

二 實用新案權ノ範圍ノ確定

前項第一號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第二號ノ確定ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條 前條第一項第一號ノ無効ノ審判ハ實用新案ノ登録又ハ第十四條ノ許可ノ登録ノ日ヨリ三年ヲ経過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル期間ハ第十六條第一項第五號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ノ請求ニ付テハ同號ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條 第十一條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第二十五條 査定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ抗告ノ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 特許法第六條、第十條乃至第三十三條、第三十六條、第四十條、第四十四條、第四十五條、第四十七

トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年乃至第三年 毎年 七圓

二 第四年乃至第六年 毎年 十五圓

三 第七年乃至第十年 毎年 二十五圓

第二十一條 實用新案登録ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ管理セシム

第二十二條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲グル事項ニ付テ之ヲ請求スルコトヲ得

一 第十六條ノ規定ニ依ル登録又ハ許可ノ無効

二 實用新案權ノ範圍ノ確定

前項第一號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第一項第二號ノ確定ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條 前條第一項第一號ノ無効ノ審判ハ實用新案ノ登録又ハ第十四條ノ許可ノ登録ノ日ヨリ三年ヲ経過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル期間ハ第十六條第一項第五號ニ該當ストノ理由ニ依ル無効ノ審判ノ請求ニ付テハ同號ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條 第十一條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第二十五條 査定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ抗告ノ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 特許法第六條、第十條乃至第三十三條、第三十六條、第四十條、第四十四條、第四十五條、第四十七

條、第四十八條、第五十一條、第五十五條、第五十六條、第五十八條、第五十九條、第六十四條、第六十五條、第六十七條、第六十八條乃至第六十九條、第七十一條乃至第七十三條、第七十六條乃至第七十七條、第七十八條、第八十條乃至第八十二條ノ規定ハ實用新案ニ關シテ之ヲ進用ス

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ト同一ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ廣布シタル者

二 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ト類似ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ廣布シタル者

三 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ト同一又ハ類似ノ物品ヲ業トシテ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ行爲ヲ以テ實用新案ノ登録ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二 登録實用新案ニ係ル物品又ハ其ノ物品ノ容器、包裝ノ類ニ實用新案登録標記ヲ附シ又ハ實用新案登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

三 登録實用新案ニ係ル物品シテ其ノ物品又ハ其ノ物品ノ容器、包裝ノ類ニ實用新案登録標記ヲ附シ又ハ實用新案登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ販賣又ハ廣布シタル者

四 登録實用新案ニ係ル物品ヲ製作若ハ使用セシムル爲メ又ハ販賣若ハ廣布スル爲メ看板、引札ノ類ニ其ノ物品カ登録實用新案ニ係ルモノヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第二十七條 第二十七條第一項ニ掲グル行爲ヲ組成シタル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決言渡前被審者ノ請求アリタルトキハ其ノ物ヲ沒收シ之ヲ被審者ニ交付スルノ言渡ヲ爲スヘシ

被害者ハ前項ノ規定ニ依ル物品ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限リ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シテ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十一條 特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル實用新案登録出願中ノ考案又ハ實用新案登録出願者ノ事業上ノ秘密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應ゼス又ハ其ノ義務ヲ盡サザルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付テ之ヲ進用ス

第三十三條 辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シテ實用新案ニ關シテ爲スヘキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム大正十年勅令第四百五十九號ヲ以テ同十一年一月十一日ヨリ施行ス

第三十五條 舊法ニ依ル實用新案ノ登録、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第三十六條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル實用新案登録ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十七條 本法施行前發生シタル實用新案權ニ關シテハ舊特許法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同號ノ規定ヲ適用シ第七條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第三十八條 實用新案ノ登録カ舊法施行中無効ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第十條ノ規定及同條ノ規定ニ基キ連用スル舊特許法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第八條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第三十九條 舊法ニ依ル實用新案ノ登録ニ關シテハ本法施行後ニ登録カ爲サレタル場合ト雖舊法第十一條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同條ニ掲ケタル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登録カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲ス

第四十條 前條ノ規定ニ依リ無効ノ審判ハ本法施行前爲サレタル實用新案ノ登録ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ三年ヲ経過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

●意匠法

(大正十年四月三十日) (法律第九十八號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル意匠法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

意匠法

第一條 物品ニ關シテ形狀、模様若ハ色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新規ノ意匠ノ工業的考察ヲ爲シタル者ハ其ノ物品ノ意匠ニ付意匠ノ登録ヲ受クルコトヲ得

第二條 左ニ掲ケル意匠ニ付テハ之ヲ登録セズ

一 芻蕘御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀又ハ模様ヲ有スルモノ

二 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ

三 世人ヲ欺騙スルノ虞アルモノ

本法ニ於テ意匠ノ新規ト稱スルハ意匠カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ要ス

一 登録出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用キラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二 登録出願前帝國内ニ頒布セラレタル刊行物品ノ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

意匠ニシテ自己ノ登録意匠ノニ類似スルモノハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

第四條 同一又ハ類似ノ意匠ニ付テハ最先ノ出願者ニ限リ登録ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登録シ協議ハサルトキハ共ニ登録セズ

第五條 意匠登録出願者ハ命令ノ定ムル類別内ニ於テ其ノ意匠ヲ現スヘキ物品ヲ指定スヘシ

第六條 意匠登録出願者ハ登録ノ日ヨリ三年以内其ノ意匠

ヲ秘密ニセムコトヲ請求スルコトヲ得

第七條 實用新案登録出願者カ其ノ實用新案登録出願ヲ其ノ出願ニ係ル意匠ニ付テノ意匠登録出願ニ變更シタルトキハ其ノ意匠登録出願ハ實用新案登録出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ實用新案登録出願ニ付登録スヘカラストノ査定ヲ受タル場合ニ於テハ其ノ最初ノ査定ヲ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ経過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 意匠權ハ登録ニ依リ發生ス

意匠權者ハ其ノ登録意匠ニ係ル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ廣布スルノ權利ヲ專有ス

自己ノ登録意匠ニ類似スル意匠ノ意匠權ハ最先ニ發生シタル意匠權ト合體スルモノトス

意匠權カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル實用新案權若ハ商標權ト低觸スル場合又ハ登録意匠カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル登録實用新案ヲ利用スルモノナル場合ニ於テハ意匠權者ハ實用新案權者ノ實施許諾又ハ商標權者ノ許諾アルニ非サレハ其ノ登録意匠ヲ實施スルコトヲ得ス

第九條 意匠登録出願ノ際現ニ善意ニ帝國内ニ於テ其ノ意匠實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登録意匠ニ付事業ノ目的タル意匠範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

一 該當シ帝國内ニ於テ其ノ意匠實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ登録意匠ニ付事業ノ目的タル意匠範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

一 同一又ハ類似ノ意匠ニ對スル二以上ノ登録中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原意匠權者

二 登録ヲ無効トシ同一又ハ類似ノ意匠ニ付正當權利者ノ爲ニ登録ヲ爲シタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原意匠權者

三 前二號ニ掲ケタル場合ニ於テ其ノ無効ト爲リタル意匠權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登録ヲ受ケタル者但シ實施權カ登録ナキモ第十五條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セズ

意匠登録出願ノ日前又ハ之ノ同日ノ出願ニ係リ其ノ意匠權ト低觸スル實用新案權ノ存続期間満了シタル場合ニ於テ其ノ實用新案權ニ付實施權ヲ得テ登録ヲ受ケタル者ハ其ノ登録意匠ニ付原實施權ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施權カ登録ナキモ實用新案法第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セズ

意匠權者ハ前二項ノ規定ニ依リ實施權者ヨリ相當ノ補償金ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第十一條 意匠登録出願ノ日前又ハ之ノ同日ノ出願ニ係リ其ノ意匠權ト低觸スル實用新案權ノ存続期間満了後ニ於ケル原實用新案權者ハ其ノ登録意匠ニ付原權利ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第十二條 意匠權ノ存続期間ハ登録ノ日ヨリ十年ヲ以テ終了ス

第二十五條ノ規定ニ依リ連用スル特許法第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ノ爲ニ登録ヲ爲シタルトキハ前項ノ十年ノ期間ハ無効ト爲リタル登録ノ爲サレタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十三條 意匠權者ハ他人ノ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ登録意匠ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セザルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ實施セラルヘキ實用新案又ハ意匠ノ實用新案權又ハ意匠權發生ノ日ヨリ二年ヲ経過セザルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施セラ

ル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ登録意匠ニ付實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セザルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十四條 前條ノ規定ニ依リ實施權者ハ實用新案權者又ハ意匠權者ニ對シ相當ノ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲シ非サレハ其ノ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施スルコトヲ得但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依リ補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第十五條 登録意匠ノ實施權ハ之ヲ登録シタルトキハ其ノ意匠權ノ嗣後取得シタル者及其ノ意匠權ノ目的トスル嗣後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ズ

第九條乃至第十一條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ連用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依リ實施權ハ其ノ登録ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第十三條ノ規定ニ依リ實施權ハ其ノ登録前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ズ

特許法第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付テハ之ヲ適用ス

第十六條 意匠權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル物品ニ依リ之ヲ分割シテ移轉スルコトヲ得

第十七條 登録カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 登録カ第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二 登録カ第二十五條ノ規定ニ依リ連用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三 登録カ第二十五條ノ規定ニ依リ連用スル特許法第十一條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

四 登録カ第二十五條ノ規定ニ依リ連用スル特許法第三十三條ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ掲ケタルモノニ準スヘキモノナルトキ

五 登録カ第二十五條ノ規定ニ依リ連用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反スル條約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ掲ケタルモノニ準スヘキモノナルトキ

乃至第三號ニ掲ケタルモノニ準スヘキモノナルトキ

第十八條 特許局ニ意匠原簿ヲ備ヘ意匠權及實施權並ニ之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス

第十九條 登録スヘシノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ意匠原簿ニ登録シ意匠登録證ヲ下付ス

第二十條 意匠ノ登録ヲ受ケタル者又ハ登録證主ハ登録料トシテ毎件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年乃至第三年 毎年 三圓

二 第四年乃至第十年 毎年 五圓

自己ノ登録意匠ニ類似スル意匠ノ登録ヲ受ケタル者ハ其ノ登録ヲ受ケル時登録料トシテ毎件一時三圓ヲ納付スヘシ

第十六條ノ規定ニ依リ分割シテ移轉セラルル意匠權ノ登録ヲ受ケタル者又ハ登録證主ハ其ノ意匠權ニ付原意匠權ノ當該年分ヨリ登録料ヲ納付スヘシ

第二十一條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審査官ラシテ之ヲ審

査ス

意匠法

查セシム

第二十二條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スルモノノ外左ニ掲クル事項ニ付テハ請求スルコトヲ得

一 第十七條ノ規定ニ依リ登録ノ無効

二 意匠權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リテ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十七條第一項第三號ニ該當ストノ理由ニ依リ無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條 第一號ノ審判ハ利害關係人ニ限リテ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 審判又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ヲ送達シ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ抗告ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依リ補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 特許法第六條、第十條乃至第十四條、第十六條乃至第三十條、第三十二條、第三十三條、第三十六條、第四十四條、第四十五條、第四十七條、第四十八條、第五十一條、第五十五條、第五十六條、第五十八條第一項、第五十九條、第六十四條、第六十五條第六項第七項、第六十六條第一項、第六十七條乃至第六十九條、第七十一條、第七十二條、第七十七條乃至第八十三條、第八十六條乃至第一百五條、第一百七條、第一百零四條乃至第一百二十八條ノ規定ハ意匠ニ關シテ之ヲ適用ス

第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 他人ノ登録意匠ニ係ル物品ト同一ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ廣布シタル者

二 他人ノ登録意匠ニ係ル物品ト類似ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ廣布シタル者

三 他人ノ登録意匠ニ係ル物品ト同一又ハ類似ノ物品ヲ業トシテ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ行為ヲ以テ意匠ノ登録ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二 登録意匠ニ係ラサル物品又ハ其ノ物品ノ容器包装ノ類ニ意匠登録標記ヲ附シ又ハ意匠標記ニ紛ハキ表示ヲ爲シタル者

三 登録意匠ニ係ラサル物品ニシテ其ノ物品又ハ其ノ物品ノ容器包装ノ類ニ意匠登録標記ヲ附シ又ハ意匠標記ニ紛ハキ表示ヲ爲シタル者

四 登録意匠ニ係ラサル物品ヲ製作若ハ使用セシムル爲メ又ハ販賣若ハ廣布スル爲メ看板、引札ノ類ニ其ノ物品カ登録意匠ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハキ表示ヲ爲シタル者

第二十八條 第二十六條第一項ニ掲クル行為ヲ組成シタル物又ハ其ノ行為ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決言渡前被害者ノ請求アリタルトキハ其ノ物ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付スルノ言渡ヲ爲ス

被害者ハ前項ノ規定ニ依リ物ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シテ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十條 特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル意匠登録出願中ノ考案又ハ意匠登録出願者ノ事業上ノ秘密ヲ漏泄シ又ハ濫用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ヲ示シテ呼出ニ應セス又ハ其ノ職務ヲ盡ササルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付テ之ヲ適用ス

第三十二條 辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シテ意匠ニ關シテハキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第二十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第四百五十九號ヲ以テ同十一年一月十一日ヨリ施行ス)

第二十四條 舊法ニ依リ意匠ノ登録、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ意匠ニ關シテ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

第二十五條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル意匠登録ノ出願ノ處理ニ付テハ舊法ニ依ル

本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ

●商標法

(大正十年四月三十日) 法律第九十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ爾ノ商標法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 自己ノ生産、製造、加工、選擇、證明、取扱又ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スル爲メ商標ヲ專用セムトスル者ハ商標ノ登録ヲ受ケルコトヲ得

登録ヲ受ケルコトヲ得ヘキ商標ハ文字、圖形若ハ記號又ハ其ノ結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要ス

商標ハ之ニ色ヲ限定シテ登録ヲ受ケルコトヲ得

第二條 左ニ掲クル商標ニ付テハ之ヲ登録セズ

一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ

二 國旗、軍旗、勳章、褒章、記號又ハ外國ノ國旗ト同一又ハ類似ノモノ

三 白地ニ赤十字ノ記號又ハ赤十字若ハ「ジエネヴ」トシテ稱號若ハ文字ト同一又ハ類似ノモノ

四 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ

五 他人ノ肖像、氏名名稱又ハ商號ヲ有スルモノ但シ其ノ他人ノ承諾ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 同一又ハ類似ノ商品ニ慣用スル標章ト同一又ハ類似ノモノ

七 政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ外國ニ於ケル官設若ハ官許ノ博覽會ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ但シ其ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ヲ受領シタル者カ其ノ商標ノ一部トシテ其ノ圖形ヲ使用セムトスルモノハ此ノ限ニ在ラス

八 取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラルル他人ノ標章ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ

九 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ

十 登録失效ノ日ヨリ一年ヲ經過セタル他人ノ商標ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ但シ其ノ他人ノ商標カ登録失效前一年以上使用セザリシモノナル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

十一 商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムルノ虞アルモノ

商標ノ要部ト認メラルルノ虞アル部分カ分離シテ前條第二項ニ規定スル特別顯著ノ要件ヲ具備セザル又ハ前項第六號ニ該當スル爲メ登録ヲ受ケルコトヲ得ザルモノナル場合ト雖出願人カ其ノ部分自體ニ付權利ヲ要求セザル旨ヲ申出テタルトキハ其ノ商標ヲ登録ス

第三條 同一商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ類似スルモノ又ハ類似ノ商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ同一ノモノ若ハ類似ノモノハ聯合ノ商標トシテ出願シタル場合ニ限リテ之ヲ登録ス

第四條 同一又ハ類似ノ商品ニ使用スヘキ同一又ハ類似ノ商標ニ付各別ノ登録出願カ競合スルトキハ最先ノ出願者ニ限リ登録ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登録シ協議調ハサルトキハ共ニ登録セズ

第五條 政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ開設スル官設若ハ官許ノ博覽會ニ出品シタル商品ニ使用シタル商標ニ付テハ其ノ開會ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ商標ノ使用者カ其ノ商標ノ登録ヲ出願シタルトキハ其ノ開會ノ日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ命令ヲ以テ前項ニ規定スル出品ニ付豫メ届出

付テハ仍舊法ニ依ル

第三十六條 本法施行前發生シタル意匠權ニ關シテハ舊特許法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同號ノ規定ヲ適用シ第九條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第三十七條 意匠ノ登録カ舊法施行中無効ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第十條ノ規定及同條ノ規定ニ基キ適用スル舊特許法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第十條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第三十八條 本法施行前既ニ納メタル又ハ納付スヘキ期限ノ經過シタル意匠料ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十九條 意匠料ノ納付ヲ怠リタル場合ニ於テ本法施行ノ際未タ其ノ意匠登録ノ取消ナキモノニ付テハ本法施行ノ日ヨリ六月間ヲ限リ意匠料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舊法ニ依リ意匠料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ意匠料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間内ニ意匠料ヲ追納セザルトキハ本法施行ノ時ニ遡リ意匠權ハ消滅シタルモノト看做ス

第四十條 舊法ニ依リ意匠ノ登録ニ關シテハ本法施行後ニ登録カ爲サレタル場合ト雖舊法第十二條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同條ニ掲クル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登録カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リテ無効ト爲スヘシ

ツキコトヲ規定シタル場合ニ於テ其ノ届出ラ意リタル者ニ付之ヲ適用セズ

第二項ニ掲クル萬國博覽會ヲ除クノ外外國ノ版圖内ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品スル商品ニ使用スル商標ニ付保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ規定ス

第五條 商標登録出願者ハ命令ノ定ムル類別内ニ於テ其ノ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定スヘシ

第六條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第七條 商標登録出願ヨリ生シタル權利カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得

第八條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ノ承継ハ承継人カ出願人名義ノ變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三項ニ對抗スルコトヲ得又但シ同日ノ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三項ニ對抗スルコトヲ得

第九條 商標權ハ登録ニ依リ發生ス

第十條 商標權者ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ付テ其ノ商標ヲ專用スルノ權利ヲ有ス

第十一條 商標權カ其ノ登録商標ノ使用ノ態樣ニ依リ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル意匠權ト抵觸スル場合ニ於テハ商標權者ハ意匠權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ態樣ニ於テ登録商標ヲ使用スルコトヲ得

第十二條 商標權ノ效力ハ普通ニ使用セラルル方法ヲ以テ自己ノ氏名名稱若ハ商號又ハ其ノ商品ノ普通名稱、產地、品位、品質、效能、用途、製法、時期、數量、形狀若ハ價格ヲ表示スルモノニ及ハス但シ商標登録後惡意ヲ以テ氏名名稱又ハ商號ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 商標權ノ效力ハ第二項ノ規定ニ依リ權利ヲ要求セサル旨ヲ申出テタル部分自體ニ及ハス

第九條 他人ノ登録商標ノ登録出願前ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラレタル同一又ハ類似ノ商標ヲ善意ニ使用スル者ハ其ノ他人ノ商標ノ登録ニ拘ラス其ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業又ハ業務ト共ニ其ノ商標ノ使用ヲ承継シタル者亦同シ

第十條 前項ノ場合ニ於テ商標權者ハ標章使用者ニ對シ商品ノ混同ヲ防クニ適當ナル表示ヲ附スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第十一條 商標權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ二十年ヲ以テ終了ス

第十二條 前條ノ存續期間ハ更新登録ノ出願ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得但シ其ノ更新登録ノ出願ニ係ル商標カ第二條第一項第一號乃至第四號第六號第七號又ハ第十一號ニ該當スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十四條 商標權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ依リ之ヲ分割シテ移轉スルコトヲ得

第十五條 聯合ノ商標ノ商標權ハ分離シテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十六條 商標權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得

第十七條 商標權ハ商標權者カ其ノ營業ヲ廢止シタル場合ニ於テハ消滅ス

第十八條 外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタル商標ノ商標權ハ其ノ本國ニ於ケル商標權消滅シタル場合ニ於テハ消滅ス

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スヘシ

一 商標權者正當ノ理由ナクシテ帝國内ニ於テ登録ノ日ヨリ一年間其ノ商標ヲ使用セザルコトキ又ハ引續キ三年間其ノ商標ヲ使用中止シタルトキ但シ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品中其ノ一ニ使用シ又ハ

聯合ノ商標中其ノ一ヲ使用シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 商標權ノ移轉アリタル場合ニ於テ其ノ相續ニ依ルモノヲ除クノ外移轉アリタル日ヨリ一年以内ニ商標權移轉ノ登録ヲ申請セザルトキ

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタル商標ニ付テハ前項第一號ノ規定ヲ適用セズ

第十五條 商標權者故意ニ其ノ登録商標ニ商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムル虞アル附記又ハ變更ヲ爲シ之ヲ使用シタルトキハ審判ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スヘシ

前項ノ規定ニ依リ商標ノ登録ヲ取消サレタル者ハ取消ノ審決確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ類似ノ商標ノ登録ヲ受ケルコトヲ得

第十六條 商標ノ登録カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 登録カ第一條乃至第四條又ハ前條第二項ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二 登録カ第二十四條ノ規定ニ依リ適用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三 登録カ商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ノ承継人ニ非サル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

四 登録カ第二十四條ノ規定ニ依リ適用スル特許法第三十三條ノ規定ニ違反シタル約又ハ之ニ準スヘキモノニ違反シテ爲サレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ

五 登録カ第二十四條ノ規定ニ依リ適用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ノ規定ニ違反スル約若ハ之ニ準スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ掲クルモノニ準スヘキモノナルトキ

商標權存續期間更新ノ登録カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 登録カ第十一條但書ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二 登録カ商標權者ニ非サル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ハ商標權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リテ無効ト爲スヘシ

第十七條 特許局ニ商標原簿ヲ備ヘ商標權ノ設定、移轉、變更、消滅其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス

第十八條 登録ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 登録スヘシノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ商標原簿ニ登録ス

第二十條 特許局ハ商標公報ヲ發行シ本法ニ規定スル事項其ノ他登録商標ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ

第二十一條 商標ノ登録ヲ受ケル者ハ其ノ登録ヲ受ケル時登録料トシテ毎件一時三十圓ヲ納付スヘシ

第二十二條 商標權存續期間更新ノ登録ヲ受ケル者ハ其ノ登録ヲ受ケル時登録料トシテ毎件一時五十圓ヲ納付スヘシ

第二十三條 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録出願アリタルトキハ審査官ラシテ之ヲ審査セシム

第二十四條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲クル事項ニ付テ之ヲ請求スルコトヲ得

一 第十四條、第十五條又ハ第三十一條ノ規定ニ依リ商標ノ登録ヲ取消

二 第十六條ノ規定ニ依リ商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ヲ無効

三 商標權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リテ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第二條第一項第五號第八號乃至第十號、第三條若ハ

第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依リ無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限リテ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條 前條第一項第一號ノ無効ノ審判ハ登録ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得但シ第二條第一項第一號乃至第四號第六號第七號第十一號、第十一條但書、第十五條第二項又ハ第二十四條ノ規定ニ依リ適用スル特許法第三十二條又ハ第三十三條ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依リ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 特許法第十三條、第十六條乃至第三十條、第三十二條、第三十三條、第四十五條、第五十八條、第七十三條、第七十四條、第七十七條、第七十八條、第七十九條、第八十條乃至第八十三條、第八十六條乃至第九十七條、第九十九條乃至第一百零五條、第一百零七條乃至第一百二十四條及第一百二十八條ノ規定ハ商標ニ關シテ之ヲ適用ス但シ第七十三條第一項第二項第四項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ商標權存續期間更新ノ登録出願ニ付テ之ヲ適用セズ

第二十五條 登録無効ノ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニシテ再審請求ノ登録前ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラレタル同一又ハ類似ノ商標ノ善意ニ使用スル者ハ其ノ登録商標カ再審ニ依リ登録ヲ回復シタル商標ニ抵觸スル爲メ第二條第一項第九號ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依リ其ノ登録ヲ無効トセラレタル場合ニ於テモ其ノ商標ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業ト共ニ其ノ商標ノ使用ヲ承継シタル者亦同シ

第九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十六條 營利ヲ目的トセザル業務ニ係ル商品ノ標章ヲ専用セムトスル者ハ標章ノ登録ヲ受ケルコトヲ得

前項ノ標章ハ之ヲ商標トシテ本法中商標ニ關スル規定ヲ之ニ適用ス

第二十七條 同業者及密接ノ關係ヲ有スル營業者ノ設立シタル法人ニシテ團體員ノ營業上ノ共同ノ利益ヲ増進スルヲ目的トスルモノハ其ノ團體員ラシテ其ノ營業ニ係ル商品ノ標章ヲ専用セシムル爲メ其ノ標章ヲ付團體員ラシテ登録ヲ受ケルコトヲ得

團體標章ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ商標トシテ本法中商標ニ關スル規定ヲ之ニ適用ス

第二十八條 前條ノ規定ニ依リ團體標章ノ登録ヲ受ケムトスル法人ハ其ノ定款ニ於テ其ノ團體標章ノ使用ニ關スル事項ヲ定メ特許局長官ノ認可ヲ受ケシ其ノ事項ヲ變更スル場合亦同シ

第二十九條 團體標章權ノ侵害ニ因ル損害賠償請求權ハ團體員ニ生シタル損害ヲ包含ス

第三十條 第二十七條ノ法人ノ合併又ハ分割ノ場合ニ於テ一ノ法人カ他ノ法人ニ團體標章ノ登録出願ヨリ生シタル權利又ハ團體標章權ヲ移轉セムトスルトキハ特許局長官ノ認可ヲ受ケシ此ノ場合ニ於テハ第二十八條ノ規定ヲ適用ス

第三十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ニ依リ團體標章ノ登録ヲ取消スヘシ

一 法人カ團體員ラシテ第二十八條又ハ前條ノ規定ニ依リ特許局長官ノ認可ヲ受ケタル定款ノ規定ニ違反シテ團體標章ヲ使用セシムル又ハ其ノ使用ヲ放任シタルトキ

二 法人カ團體員ニ非サル者ヲシテ團體標章ヲ使用セシムル又ハ團體員ニ非サル者ノ使用ヲ放任シタルトキ

前項ノ規定ニ依リ團體標章ノ登録ヲ取消サレタル法人ハ取消アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ

類似ノ團體標章ノ登録ヲ受クルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ第十六條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 團體標章ノ登録ヲ受クル者ハ其ノ登録ヲ受クル時登録料トシテ每件一時二百圓ヲ納付ス

團體標章權存續期間更新ノ登録ヲ受クル者ハ其ノ登録ヲ受クル時登録料トシテ每件一時二百五十圓ヲ納付ス

第三十三條 前六條ノ規定ハ公法人カ其ノ地域内ニ於ケル營業者ヲシテ其ノ營業ニ係ル商品ニ專用セムル爲メ團體標章ノ登録ヲ受ケムル場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似ノ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

二 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似ノ商品ニ使用セムルノ目的ヲ以テ交付シ若ハ販賣シ又ハ其ノ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

三 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルノ目的又ハ使用セムルノ目的ヲ以テ偽造又ハ模造シタル者

四 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ使用シタル同一又ハ類似ノ商品ヲ交付、販賣ノ目的ヲ以テ輸入又ハ移入シタル者

五 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルノ目的又ハ使用セムルノ目的ヲ以テ輸入又ハ移入シタル者

六 他人ノ登録商標ヲ偽造若ハ模造スルノ目的又ハ偽造若ハ模造セムルノ目的ヲ以テ其ノ用具ヲ製作、交付、販賣又ハ所持スル者

七 同一又ハ類似ノ商品ニ關シ他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ營業ニ用キル廣告、看板、引札、物價表ノ類又ハ取引書類ニ使用シタル者

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ行爲ヲ以テ商標若ハ商標權存續期間更新ノ登録ヲ受ケル者又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二 登録ヲ受ケタル商標ニシテ商標登録簿記ヲ附シ若ハ商標登録簿記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ營業ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

三 登録ヲ受ケタル商標ニシテ商標登録簿記ヲ附シ若ハ商標登録簿記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ營業ニ用キル廣告、看板、引札、物價表ノ類又ハ取引書類ニ使用シタル者

第三十六條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十七條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ヲシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付テ之ヲ準用ス

第三十八條 辨理士ニ非スル特許局ニ對シ商標ニ關シ爲スキキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年勅令第四百五十九號)ヲ以テ同十一年一月十一日ヨリ施行ス

第四十條 舊法ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ商標ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

第四十一條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル商標若ハ商標權存續期間更新ノ登録出願又ハ商標登録ノ取消ニ關スル事項ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第四十二條 舊法ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ニ關シテハ本法施行後ニ登録カ爲サレタル場合ト雖舊法第十一條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同條ニ掲ケル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登録カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲ス(此ノ場合ニ於テ舊法附則第二項ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同項ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同項ニ掲ケル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス)

第四十三條 登録カ舊法第一條又ハ第二條第五號ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依リ前條ノ無効ノ審判ハ本法施行前爲サレタル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

登録カ舊法第二條第八號第九號、第三條又ハ第四條第二項ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依リ前條ノ無効ノ審判ハ商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録カ商標公報ニ掲載セラレタル日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十四條 本法施行前舊法第二十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ本法施行後ト雖告訴アルニ非サレハ其ノ罪ヲ論セス

●度量衡法

(明治四十二年三月八日) 法律第四號

改正、大八法五〇、大一一〇法七一

度量衡法

第一條 度量ハメートル、衡ハキログラムヲ以テ基本トス

メートルハ融解シツアル純粋ノ水ノ氷ノ溫度ニ於ケル國際

キログラムハ國際キログラム原器ノ質量トス大正十年

法律第七十一號ヲ以テ本條ヲ改正ス

第二條 メートルハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタ

ルメートル原器ニ依リ、キログラムハメートル條約ニ依

リ帝國ニ交付セラレタルキログラム原器ニ依リ之ヲ現示ス

(同上本條ヲ改正)

第三條 度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

Table with 2 columns: Unit Name (e.g., ミクロン, ミリメートル, センチメートル) and Conversion (e.g., メートルノ百萬分ノ一, メートルノ千分ノ一)

平方キログラム 百萬平方メートル

立方センチメートル 立方メートルノ百萬分ノ一

立方メートル 立方メートルノ千分ノ一

立方メートル 立方メートルノ千分ノ一

キログラム 千キログラム

キログラムノ百萬分ノ一

キログラムノ千分ノ一

キログラム

前項ニ規定スル度量衡又ハ其ノ倍數若ハ分數ニ依ル度量

衡ニシテ土地又ハ液體ノ計量其ノ他特殊ノ場合ニ用アルモ

ノ名稱命位ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年法律

第七十一號ヲ以テ本條ヲ改正)

第四條 溫度、密度、壓力、工率其ノ他ノ狀態及能率ノ計

量ノ單位ニシテ度量衡又ハ度量衡及度量衡ニ非サル他ノ單

位ニ依リ定ムルモノニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正八

年法律第五十號、同十年法律第七十一號ヲ以テ本條ヲ

改正)

第五條 第二條ニ掲グル度量衡ノ原器ハ農商務大臣之ヲ保

管ス(大正十年法律第七十一號ヲ以テ本條ヲ改正)

農商務大臣ハ前項ノ原器ニ依リ製作シタル副原器二組ヲ

以テ前項ノ原器ニ代用ス(同上本條ヲ改正)

副原器ノ一組ハ農商務大臣之ヲ保管シ他ノ一組ハ文部大

臣之ヲ保管ス

第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依ラサル度量

衡又ハ計量ノ單位ハ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外取引

上又ハ證明上ニ之ヲ用ルコトヲ得ス(大正十年法律第七

十一號ヲ以テ本條ヲ追加)

第六條 度量衡器ノ製作、修繕又ハ販賣ノ業ヲ營ムトスル者

當該官吏臨檢ノ際度量衡ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

第五條ノ二ニ違反シタル者 一 當該官吏ノ顧問ニ對シテ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者

第六十八號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行ス 刑罰施行法第二十五條第一項第三號中「第七節及ヒ」ヲ

當該官吏ハ第八條第二號乃至第五號ニ該當スル度量衡器ノ證明ヲ除去シ若ハ濫印ヲ附シ又ハ其ノ度量衡器ヲ破損シ其ノ他取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五條ノ二ニ違反シタル者 一 當該官吏ノ顧問ニ對シテ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者

第六十八號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行ス 刑罰施行法第二十五條第一項第三號中「第七節及ヒ」ヲ

●出版法

(明治二十六年四月十四日) 法律第十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル出版法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシメ出版法

第一條 凡ソ機械舎密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖畫ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

ル者ニ限ル但シ著作者又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得 第七條 文書圖書ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載スヘシ 第八條 文書圖書ノ印刷者ハ其ノ氏名、住所及印刷ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載シ住所ト印刷所ト同シカラサルトキハ印刷所ヲ記載スヘシ

公關ノ席ニ於テ爲シタル演說ヲ新聞紙若ハ雜誌ノ通信者ニ於テ筆記シ其ノ新聞紙若ハ雜誌ニ記載シタルモノ及總テ演說者請願者ノ承諾ヲ經スシテ其ノ筆記ヲ出版シタルモノニ關シテハ演說者若ハ請願者ハ著作ノ責任ニ任セス 第十四條 翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ 第十五條 學校、協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ハ其ノ出版届ニ署名シタル代表者ヲ以テ著作者ト看做スヘシ

●豫約出版法

(明治四十三年四月十六日) 法律第十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル豫約出版法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 豫約出版法 第一條 代金ノ全部又ハ一部ヲ前收シ文書圖書ノ頒布ヲ豫約スル出版ニ對シテハ出版法ニ依ルノ外尙本法ヲ適用ス

●出版法

第二十一條 軍事ノ機密ニ關スル文書圖書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非ザレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス 第二十二條 第三條ノ届出ヲ爲サズシテ文書圖書ヲ出版シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

●出版法

第二十九條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ノ檢査ニ於テ假ニシテ差押フルコトヲ得 第三十條 前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其ノ差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトヲ得

●出版法

第三十一條 文書圖書ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得 第三十二條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕「再犯加重、數罪併發」ノ例ヲ用キス

出版法 豫約出版法

第五條 發行所、發行者ノ法定代理人、發行者法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ニ變更アリ又ハ發行者能力ヲ失ヒ、死亡シ又ハ解散シ又ハ死亡シ若ハ解散シ因リ法律上豫約出版ラ廢絶スルノ已ラ得サルニ至リタルトキハ十日以内ニ内務大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ハ書面ヲ以テシ發行者又ハ其ノ法定代理人、其ノ死亡ニ係ルトキハ相續人、相續人定マラス又ハ相續人ナキトキハ戶主若ハ同居ノ親族、法人ノ合併ニ因ル解散ニ係ルトキハ其ノ法人ノ權利及義務ヲ承繼シタル法人、破産ニ因ル解散ニ係ルトキハ破産管財人ヨリ管轄地方官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第六條 法律上已ムラ得サルニ非サル豫約出版ノ廢絶又ハ第八條第一項第一號乃至第五號ノ事項ノ變更及死亡若ハ解散ニ因ラサル發行者ノ變更ハ新舊發行者又ハ其ノ法定代理人ヨリ其ノ事由ヲ具シタル書面ヲ以テ豫約管轄地方官廳ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ハ豫約當事者ノ解除權行使ヲ妨ケララルコトナシ

第七條 相續人又ハ法人ノ合併ニ因リ其ノ權利及義務ヲ承繼シタル法人ハ豫約出版ニ關スル權利及義務ヲ承繼ス

第八條 保證金ニ對スル權利及義務ハ發行者變更ノ場合ニ於テ承繼發行者ノ之ヲ承繼ス

第九條 保證金ハ適法ニ豫約出版ノ廢絶シ又ハ完全ニ豫約出版履行シタル後ニ非サレハ其ノ還付ヲ請求シ又ハ其ノ償額ヲ讓渡シタルトテ得ス但シ國稅徵收法及之ヲ適用スル法令ヲ適用シ又ハ豫約解除若ハ豫約不履行ニ因リ代金返還若ハ損害賠償ヲ命スル判決ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 罰金又ハ刑事訴訟費用ヲ完納セザルトキハ檢事ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ之ニ充ツルコトヲ得

第十二條 發行者又ハ其ノ法定代理人ハ保證金ノ額額ヲ生シテ

ル場合ニ於テ之ヲ填補スヘシ

第十一條 第二條、第四條ノ規定ニ依ラスシテ豫約手續ニ著手シ又ハ第六條若ハ第九條ニ違反シ又ハ管轄地方官廳ノ督促ヲ受ケタル後七日以内ニ保證金ヲ填補セザル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本法ハ新聞紙、出版法第二條但書ニ依ル雜誌及官廳ニ於テ出版スル文書圖書ニ之ヲ適用セス

第十四條 明治三十三年法律第五十二號ハ前條ノ犯罪ニ之ヲ適用ス

第十五條 本法ハ新聞紙、出版法第二條但書ニ依ル雜誌及官廳ニ於テ出版スル文書圖書ニ之ヲ適用セス

●新聞紙法

(明治四十二年五月六日) 法律第四十一號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ新聞紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

新聞紙法

第一條 本法ニ於テ新聞紙ト稱スルハ一定ノ題號ヲ用キ時期ヲ定メ又ハ六箇月以内ノ期間ニ於テ時期ヲ定メ又ハ其ノ發行スル著作物及定期以外ニ本著作物ト同一題號ヲ用キテ臨時發行スル著作物ヲ謂フ

第二條 新聞紙ノ發行所、地方ニ於テ發行スルトキハ各別種ノ新聞紙ト看做ス

第三條 左ニ掲グル者ハ新聞紙ノ發行人又ハ編輯人タルコトヲ得ス

一 本法ヲ施行スル帝國領土内ニ居住セザル者

二 陸海軍軍人ニシテ現役若ハ召集中ノ者

三 未成年者、禁治產者及進禁治產者

四 懲役又ハ禁錮ノ刑ノ執行中又ハ執行猶豫中ノ者

第四條 印刷所ハ本法ヲ施行スル帝國領土外ニ之ヲ設クルコトヲ得ス

第五條 新聞紙ノ發行人ハ左ノ事項ヲ内務大臣ニ届出ツヘシ

一 題號

二 掲載事項ノ種類

三 時事ニ關スル事項ノ掲載ノ有無

四 發行ノ時期、若時期ヲ定メザルトキハ其ノ旨

五 第一回發行ノ年月日

六 發行所及印刷所

七 持主ノ氏名、若法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ノ氏名

八 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢但シ編輯人二人以上アルトキハ其ノ主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ノ氏名年齢

前項ノ届出ハ持主又ハ其ノ法定代理人ノ連署シタル書面ヲ以テ第一回發行ノ日ヨリ十日以前ニ管轄地方官廳ニ差出スヘシ

第六條 前條第一項第一號乃至第三號ノ事項ノ變更ハ變更ノ日ヨリ十日以前ニ第四號若ハ第六號ノ事項又ハ持主、編輯人、印刷人ノ變更ハ變更前又ハ變更後七日以内ニ前條ノ手續ニ依リ發行人ヨリ之ヲ内務大臣ニ届出ツヘシ但シ持主變更ノ届出ハ死亡ニ因ル場合ノ外新舊持主又ハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス

第七條 死亡シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リタル發行人ノ權利及義務ヲ承繼シタル發行人ハ其ノ發行人ト爲リタル日ヨリ七日以内ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 前項ノ場合ノ外發行人ノ變更ハ變更ノ日ヨリ十日以前ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 新聞紙ハ届出ヲ爲シタル發行時期又ハ發行停止ノ日ヨリ起算シテ百日間、三回發行ノ期間ヲ通シテ百日ヲ超ユル新聞紙ニ在リテハ三回發行ノ期間中ニ發行セザルトキハ其ノ發行ヲ廢止シタルモノト看做ス

第十條 發行人若ハ編輯人ノ死亡シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リ後任ノ發行人若ハ編輯人ヲ定メザル間又ハ發行人若ハ編輯人一箇月以上本法ヲ施行スル帝國領土外ニ旅行スル場合ニ於テハ假發行所若ハ假編輯人ヲ設ケルニ非サレハ新聞紙ノ發行ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 發行人及編輯人ニ關スル本法ノ規定ハ假發行人及假編輯人ニ之ヲ適用ス

第十二條 編輯人ノ責任ニ關スル本法ノ規定ハ左ニ掲グル者ニ之ヲ適用ス

一 編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者

二 掲載ノ事項ニ署名シタル者

三 正誤書、辯駁書ノ事項ニ付テハ其ノ掲載ヲ請求シタル者

第十四條 新聞紙ハ發行ト同時ニ内務省ニ二部、管轄地方官廳、地方裁判所檢事局及區裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十五條 時事ニ關スル事項ヲ掲載スル新聞紙ハ管轄地方官廳ニ保證金ヲ納ムルニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

一 東京市、大阪市及其ノ市外三里以内ノ地ニ於テハ二千元

二 人口七萬以上ノ市又ハ區及其ノ市又ハ區外一里以内ノ地ニ於テハ千圓

三 其ノ他ノ地方ニ於テハ五百圓

前項ノ金額ハ一箇月三回以下發行スルモノニ在リテハ其ノ半額トス

第十六條 保證金ハ命令ヲ以テ定ムル種類ノ有價證券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十七條 保證金ニ對スル權利及義務ハ發行人變更ノ場合ニ於テ後任發行人ノ之ヲ承繼スルモノトス

第十八條 保證金ハ發行ヲ廢止シタルトキニ非サレハ其ノ還付ヲ請求シ又ハ其ノ償額ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ國稅徵收法及之ヲ適用スル法令ヲ適用シ又ハ名譽ニ對スル罪ニ因ル損害賠償ノ判決ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 保證金ヲ納ムル新聞紙ニ關シ發行人又ハ編輯人罰金又ハ刑事訴訟費用ノ言渡權定メ日ヨリ十日以内ニ之ヲ完納セザルトキハ檢事ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ之ニ充ツル

新聞紙法

コトヲ得
 第六條 保證金ハ其ノ額額ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ填補スルニ非サルハ其ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ズ但シ額額ヲ生シタル日ヨリ七日以内ハ此ノ限ニ在ラス
 第十七條 新聞紙ニ掲載シタル事項ノ錯誤ニ付其ノ事項ニ關スル本人又ハ直接關係者ヨリ正誤又ハ正誤書、辯駁書ノ掲載ヲ請求シタルキハ其ノ請求ヲ受ケタル後次回又ハ第三次ノ發行ニ於テ正誤ヲ爲シ又ハ正誤書、辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ
 正誤、辯駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ウヘシ
 正誤、辯駁ノ趣旨法令ニ違反スルトキ又ハ請求者ノ氏名住所ヲ明記セザルトキハ之ヲ掲載スルコトヲ要セス
 正誤書、辯駁書ノ字數原字ノ字數ヲ超過シタルトキハ其ノ超過ノ字數ニ付發行人ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ料金ヲ要求スルコトヲ得
 第十八條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤シ又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載シタルトキハ本人又ハ直接關係者ノ請求ナシト雖其ノ官報又ハ新聞紙ヲ得タル後前條ノ例ニ依リ正誤シ又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載スヘシ但シ料金ヲ要求スルコトヲ得ズ
 第十九條 新聞紙ハ公判ニ付スル以前ニ於テ豫審ノ内容其ノ他檢事ノ差止メタル搜查又ハ豫審中ノ被告事件ニ關スル事項又ハ公判ヲ停メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得ズ
 第二十條 新聞紙ハ官署、公署又ハ法令ヲ以テ組織シタル議會ニ於テ公ニセザル文書又ハ公開セザル會議ノ議事ヲ許可ヲ受ケズシテ掲載スルコトヲ得ズ請願書又ハ訴訟願書ニシテ公ニセザルモノ亦同シ
 第二十一條 新聞紙ハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ又ハ犯罪人若ハ刑事被告人ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ刑事被告人ヲ陷害スルノ事項ヲ掲載スルコトヲ得ズ

第二十二條 第四條乃至第六條ノ届出ヲ爲サス若ハ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセズ又ハ保證金ヲ納メザラシラ填補スヘキ場合ニ於テ之ヲ納メザラシラ填補セシテ發行シタルトキハ正當ノ届出ヲ爲シ又ハ保證金ヲ納メザラシラ填補スル迄管轄地方官廳ニ於テ新聞紙ノ發行ヲ差止ムヘシ
 第二十三條 内務大臣ハ新聞紙掲載ノ事項ニシテ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ發賣及頒布ヲ禁止シ必要ノ場合ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ内務大臣ハ同一主旨ノ事項ノ掲載ヲ差止ムルコトヲ得
 第二十四條 内務大臣ハ外國若ハ本法ヲ施行セザル帝國領土ニ於テ發行シタル新聞紙掲載ノ事項ニシテ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ本法施行ノ地域内ニ於テ發賣及頒布ヲ禁止シ必要ナル場合ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得
 新聞紙ニ對シ一年以内三回以上前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ其ノ新聞紙ヲ本法施行ノ地域内ニ輸入又ハ輸入スルヲ禁止スルコトヲ得
 第二十五條 前條第二項ニ依リ禁止ノ命令ニ違反シテ輸入又ハ輸入シタル新聞紙及第四十三條ニ依リ禁止ノ裁判ニ違反シテ發賣又ハ頒布スルノ目的ヲ以テ印刷シタル新聞紙ハ管轄地方官廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得
 第二十六條 本法ニ依リ差押ヘタル新聞紙ニシテ一年以上其ノ差押ヲ解除セラザルトキハ差押ヲ執行シタル行政官廳ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得
 第二十七條 陸軍大臣、海軍大臣及外務大臣ハ新聞紙ニ對シ命令ヲ以テ軍事若ハ外交ニ關スル事項ノ掲載ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
 第二十八條 第二條ニ該當スル者ニシテ事實ヲ詐リ發行人又ハ編輯人ト爲リタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

罰金ニ處ス
 第二十九條 第三條ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十條 第四條乃至第六條ノ届出ヲ爲サス若ハ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセズ又ハ第四條第一項第一號、第四號乃至第六號ニ關シ届出ノ事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シ又ハ第十一條ニ違反シタルトキハ發行人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ八科料ニ處ス
 第三十一條 第四條第一項第二號又ハ第三號ニ關シ届出ノ事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シタルトキハ發行人及編輯人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ八科料ニ處ス
 第三十二條 第八條第一項ニ違反シタルトキハ發行人死亡シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ實際發行ヲ爲シタル者、其ノ他ノ場合ニ於テハ發行人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ八科料ニ處ス
 第三十三條 第十條ニ違反シ又ハ掲載ニ實ヲ以テセザルトキハ發行人及編輯人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ八科料ニ處ス
 第三十四條 第十二條第一項、第二項、第十六條ニ違反シ又ハ第二十二條ニ依リ差止メタル命令ニ違反シタルトキハ發行人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十五條 第十七條第一項、第二項又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五十圓以下ノ罰金又ハ八科料ニ處ス
 第三十六條 第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十七條 第二十一條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ三月以下ノ罰金又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十八條 第二十三條ニ依リ禁止若ハ差止メ命令、第二十四條ニ依リ禁止ノ命令、第四十三條ニ依リ禁止ノ裁判ニ違反シタルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ三

百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ其ノ新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十九條 第二十三條第一項、第二十四條第一項、第二十五條ニ依リ差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十條 第二十七條ニ依リ禁止又ハ制限ノ命令ニ違反シタルトキハ發行人、編輯人ヲ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十一條 安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十二條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變改シ又ハ朝憲ヲ紊亂セムトスルノ事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人ヲ二年以下ノ禁錮及三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十三條 第四十條乃至第四十二條ニ依リ處罰スル場合ニ於テ裁判所ハ其ノ新聞紙ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得
 第四十四條 本法ニ定メタル犯罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ
 第四十五條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付名譽ニ對スル罪ノ公訴ヲ提起シタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ得若シ其ノ證明ノ確立ヲ得タルトキハ其ノ行爲ハ之ヲ罰セス公訴ニ關聯スル損害賠償ノ訴ニ對シハ其ノ義務ヲ免ル

附則

新聞紙條例ハ之ヲ廢止ス
 本法施行前ヨリ發行スル新聞紙ニシテ本法ノ規定ニ依リ保證金ニ關聯ヲ生スルニ至リタルトキハ本法施行ノ日ヨリ三年間其ノ

新聞紙法

填補ヲ猶豫ヲ
 第二十六條ノ規定ハ本法施行前ノ差押ニ係ル新聞紙ニ之ヲ適用ス

●著作權法

(明治三十二年三月四日) 法律第三十九號

改正、明四三—法六三、大九—法六〇

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テル著作權法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

著作權法

第一章 著作者ノ權利

第一條 文書演述圖畫建築彫刻模型寫眞演奏歌唱其ノ他文學學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス

第二條 文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ興業權ヲ包含ス明治四十四年法律第六十三號、大正九年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正

第三條 著作權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四條 發行又ハ興業シタル著作物ノ著作權ハ著作者ノ生存間及其ノ死後三十年間繼續ス

第五條 無名又ハ變名著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行トキヨリ三十年間繼續ス但シ其ノ期間内ニ著作者其ノ實名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ第三條ノ規定ニ從フ

第六條 官公衙學校社寺協會會社其ノ他團體ニ於テ著作物ノ名義ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行トキヨリ三十年間繼續ス

第七條 著作權者原著作物發行トキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス

前項ノ期間内ニ著作權者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅セズ

第八條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ每冊若ハ每號發行トキヨリ起算ス

第九條 一部分ツラ漸次ニ發行シ全部完成スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ最終部分ノ發行トキヨリ起算ス但シ三年ヲ經過シ仍繼續ノ部分ヲ發行セルトキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス

第十條 前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期間ヲ計算スルニハ著作者死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

第十一條 相續人ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ス

第十二條 左ニ記載シタルモノハ著作權ノ目的物ト爲ルコトヲ得

一 法律命令及官公文書

二 新聞紙ニ記載シタル雜報及時事ノ記事(明治四十四年法律第六十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

三 公開セル裁判所、議會或政談集會ニ於テ爲シタル演述

第十三條 無名又ハ變名著作物ノ發行者又ハ興行者ハ著作權者ニ屬スル權利ヲ保全スルコトヲ得但シ著作者其ノ實名ノ登錄ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 數人ノ合著作ニ依ル著作物ノ著作權ハ各著作ノ共有ニ屬ス

第十五條 各著作ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ其ノ者ニ賠償シテ其ノ持分ヲ取得スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 各著作ノ分擔シタル部分明瞭ナル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ自己ノ部分ヲ分擔シ單獨ノ著作物トシテ發行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 本條第二項ノ場合ニ於テハ發行又ハ興行ヲ拒ミタル著作ノ意ニ反シテ其ノ氏名ヲ其ノ著作物ニ掲グルコトヲ得

第十八條 數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作物ト看做シ其ノ編輯物全部ニ付テテ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權ハ其ノ著作者ニ屬ス

第十九條 著作權ノ相續讓渡及買入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第二十條 無名又ハ變名著作物ノ著作者ハ其ノ實名ノ登錄ヲ受クルコトヲ得(明治四十四年法律第六十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十一條 登錄ハ行政廳ニシテ

第二十二條 未タ發行又ハ興行セサル著作物ノ原本及其ノ著作權ハ債權者ノ爲ニ差押ヲ受クルコトヲ得但シ著作者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 著作權ヲ承繼シタル者ハ著作者ノ同意ナクシテ其ノ著作物ノ氏名稱號ヲ變更シ若ハ其ノ題號ヲ改メ又ハ其ノ著作物ヲ改竄スルコトヲ得

第二十四條 原著作物ニ對シテ、傍註、句讀、批評、註釋、附録、圖畫ヲ加ヘ又ハ其ノ他ノ修正増減ヲ爲シ若ハ翻案シタルカ爲シニ著作權ヲ生スルコトナシ但シ新著作物ト看做サル(キモノハ此ノ限ニ在ラス)

第二十五條 新聞紙ニ掲載シタル記事ニ關シテハ小説及文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ヲ除ク外著作權者力特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セルトキハ其ノ出所ヲ明示シテ轉載スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第二十六條 翻譯者ハ著作物ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス但シ原著作物ノ權利ハ之ヲ妨ケラズルコトナシ(同上本條ヲ改正)

第二十二條 原著作物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ著作物ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十三條 寫眞著作權ハ十年間繼續ス

第二十四條 前項ノ期間ハ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス若シ發行セザルトキハ種版ヲ製作シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

第二十五條 寫眞術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ原著作物ノ著作權ト同一ノ期間内本法ノ保護ヲ享有ス但シ當事者間ニ契約アルトキハ其ノ契約ノ制限ニ從フ

第二十六條 文藝學術ノ著作物中ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ著作物ノ爲ニ著作シ又ハ著作セシムタルモノナルトキハ其ノ著作權ハ文藝學術ノ著作物ノ著作權ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間内繼續ス

第二十七條 他人ノ囑托ニ依リ著作シタル寫眞肖像ノ著作權ハ其ノ囑托者ニ屬ス

第二十八條 寫眞ニ關スル規定ハ寫眞術ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ニ進用ス

第二十九條 著作權者ノ不明ナル著作物ニシテ未タ發行又ハ興行セザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

第三十條 外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外本法ノ規定ヲ適用ス但シ著作權保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ハ帝國ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ發行シタル者ニ限リ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十一條 著作權ヲ侵害シタル者ハ偽作者トシ本法ニ規定シタルモノノ外民法第三編第五章ノ規程ニ從ヒ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三十條 既ニ發行シタル著作物ヲ左ノ方法ニ依リ複製スルハ

第一 發行スル意思ナク且器械的又ハ化學的方法ニ依ラスニ複製スルコト

第二 自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節録引用スルコト

第三 普通教育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スル爲ニ正當ノ範圍内ニ於テ拔萃蒐輯スルコト

第四 文藝學術ノ著作物ノ文句ヲ自己ノ著作シタル脚本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ充用スルコト

第五 文藝學術ノ著作物ヲ說明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又ハ美術上ノ著作物ヲ說明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著作物ヲ挿入スルコト

第六 圖畫ヲ彫刻物模型ニ作リ又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作ルコト

本條ノ場合ニ於テハ其ノ出所ヲ明示スルコトヲ要ス

第三十一條 帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ偽著作物ヲ輸入スル者ハ偽作者ト看做ス

第三十二條 練習用ノ爲ニ著作シタル問題ノ解答書ヲ發行スル者ハ偽作者ト看做ス

第三十三條 活動寫眞術ニ依リ他人ノ著作物ヲ複製シ又ハ興行スル者ハ偽作者ト看做ス(明治四十四年法律第六十三號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三十四條 音響器械ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ他人ノ著作物ヲ寫調スル者ハ偽作者ト看做ス大正九年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三十五條 善意ニシテ且過失ナク偽作ヲ爲シテ利益ヲ受ケシカ爲ニ他人ノ損失ヲ及ボタル者ハ其ノ利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第三十六條 數人ノ合著作ニ依ル著作物ノ著作權者ハ偽作ニ對シ他ノ著作權者ノ同意ヲシテ告訴ヲ爲シ及自己ノ持分

分ヲ分擔シ單獨ノ著作物トシテ發行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

本條第二項ノ場合ニ於テハ發行又ハ興行ヲ拒ミタル著作ノ意ニ反シテ其ノ氏名ヲ其ノ著作物ニ掲グルコトヲ得

第十四條 數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作物ト看做シ其ノ編輯物全部ニ付テテ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權ハ其ノ著作者ニ屬ス

第十五條 著作權ノ相續讓渡及買入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第二十條 無名又ハ變名著作物ノ著作者ハ其ノ實名ノ登錄ヲ受クルコトヲ得(明治四十四年法律第六十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十一條 登錄ハ行政廳ニシテ

第二十二條 未タ發行又ハ興行セサル著作物ノ原本及其ノ著作權ハ債權者ノ爲ニ差押ヲ受クルコトヲ得但シ著作者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 著作權ヲ承繼シタル者ハ著作者ノ同意ナクシテ其ノ著作物ノ氏名稱號ヲ變更シ若ハ其ノ題號ヲ改メ又ハ其ノ著作物ヲ改竄スルコトヲ得

第二十四條 原著作物ニ對シテ、傍註、句讀、批評、註釋、附録、圖畫ヲ加ヘ又ハ其ノ他ノ修正増減ヲ爲シ若ハ翻案シタルカ爲シニ著作權ヲ生スルコトナシ但シ新著作物ト看做サル(キモノハ此ノ限ニ在ラス)

第二十五條 新聞紙ニ掲載シタル記事ニ關シテハ小説及文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ヲ除ク外著作權者力特ニ轉載ヲ禁スル旨ヲ明記セルトキハ其ノ出所ヲ明示シテ轉載スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第二十六條 翻譯者ハ著作物ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス但シ原著作物ノ權利ハ之ヲ妨ケラズルコトナシ(同上本條ヲ改正)

第二十七條 偽作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ偽著作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第二十條及第三十條第二項ノ規定ニ違反シテ出所ヲ明示セシメシテ複製シタル者或第三十條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス明治四十四年法律第五十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第四十條 著作權者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 著作權ノ消滅シタル著作物ト雖之ヲ改竄シ著作

者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作ノ氏名稱號ヲ
 隱匿シ又ハ他人ノ著作物ト詐稱シテ發行シタル者ハ二百圓
 以下ノ罰金ニ處ス(明治四十二年法律第五十三號ヲ以テ
 本條ヲ改正)

第四十二條 虛偽ノ登錄ヲ受ケタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 (同上本條ヲ改正)

第四十三條 偽作物及專ラ偽作ノ用ニ供シタル器械器具ハ偽
 作者、印刷者、發賣者及頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限リ
 之ヲ沒收ス

第四十四條 本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪
 ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作ノ死亡シタルトキ
 竝第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時効ハ二年ヲ經過スルニ
 因リテ完成ス

第四章 附則

第四十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三
 十二年勅令第三百十三號ヲ以テ同年七月十五日ヨリ施
 行ス)

明治二十六年法律第十六號版權法明治二十年勅令第
 七十八號脚本樂譜條例明治二十年勅令第七十九號寫
 眞版權條例ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條 本法施行前ニ著作權ノ消滅セタル著作物ハ本法
 施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享ヘス

第四十八條 本法施行前偽作ト認メラレザリシ複製物ニシテ既ニ
 複製シタルモノ又ハ複製ニ著手シタルモノハ之ヲ完成シテ發賣
 頒布スルコトヲ得

前項ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ現存スルトキハ本法施
 行後五年間仍其ノ複製ノ爲ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第四十九條 本法施行前翻譯シ又ハ翻譯ニ著手シ其ノ當時ニ

於テ偽作ト認メラレザリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコト
 ヲ得但シ其ノ翻譯物ハ本法施行後七年内ニ發行スルコトヲ
 要ス

前項ノ翻譯物ハ發行後五年間仍之ヲ複製スルコトヲ得

第五十條 本法施行前既ニ興行シ若ハ興行ニ著手シ其ノ當時
 ニ於テ偽作ト認メラレザリシモノハ本法施行後五年間仍之ヲ
 興行スルコトヲ得

第五十一條 第四十八條乃至第五十條ノ場合ニ於テハ命令ノ
 定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又
 ハ興行スルコトヲ得ス

第五十二條 (明治四十三年法律第五十三號ヲ以テ本條ヲ
 前除)

土地收用法

(明治三十三年三月七日) 法律第二十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル土地收用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
 布セシム

土地收用法

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲メニ要スル土地ヲ收用
 又ハ使用スルノ必要アルトキ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ
 之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ
 一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業

二 皇室陵墓ノ營建又ハ神社若ハ官公署ノ建設ニ關ス
 ル事業(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本號ヲ
 改正)

三 社會事業又ハ教育若ハ學藝ニ關スル事業(同上本
 號ヲ改正)

四 鐵道、軌道、索道、道路、橋梁、河川、堤防、
 砂防、運河、用水路、溜池、船渠、港灣、埠
 頭、水道、下水、市場、電氣裝置、瓦斯裝置
 又ハ火葬場ニ關スル事業

五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫
 防其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國道府縣市町村其ノ
 他公共團體ニ於テ施設スル事業(同上本號ヲ改正)

第二條之二 現ニ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ用ニ
 供スル土地ハ特別ノ必要アル場合ニ非サレバ之ヲ收用又ハ使

土地收用法 總則 事業ノ準備

用スルコトヲ得ス(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ
 追加)

第三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル起業
 者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第四條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シ
 タル手續其ノ他ノ行爲ハ起業者、土地所有者又ハ關係人
 ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ
 土地ノ所有者ヲ謂フ

第六條 本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地又ハ
 其ノ土地ニ在ル建物ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地又ハ其
 ノ土地ニ在ル建物ニ關シテ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看
 做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在ラス同上
 本條ヲ改正)

第六條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル期間
 ノ計算法、通知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテハ勅令ヲ以テ
 之ヲ定ム

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關
 スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準
 用ス

第七條之二 本法ハ第二條ニ規定スル事業ノ用ニ供スヘキ土地
 ニ定著スル物件又ハ之ニ關スル權利ヲ其ノ事業ノ用ニ供スル
 爲ニ收用又ハ使用スル場合ニ之ヲ準用ス同上本條ヲ追加)

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス場
 合ニ之ヲ準用ス

第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲メ必要アルトキ起業者ハ事業ノ種類
 及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ土地

事業ノ認定

ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ官
 内省又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ官内大臣又ハ主務大臣ハ之
 ヲ地方長官ニ通知ス

地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業
 者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ之ヲ
 其ノ土地占有者ニ通知ス

第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ノ
 準備ノ爲メ其ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於テ
 ハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セス

第十條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五日
 前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長ニ通知ス(市町村長ハ之ヲ
 公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知ス)

即内ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占有者ニ通知
 ス

日出前日以後ハ起業者ハ占有者ノ承諾アルニ非サレバ即内
 ニ立入ルコトヲ得ス(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本項
 ヲ改正)

第十一條 第九條ノ規定ニ依リ測量又ハ検査ノ爲メ必要アルトキ
 ハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障礙物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ障礙物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業者
 ハ三日前三其ノ所有者及占有者ニ通知ス

第三章 事業ノ認定

第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ内務大臣
 之ヲ認定ス但シ軍艦ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラス(同上本
 條ヲ改正)

第十三條 起業者カ前條ノ認定ヲ受ケントスルトキハ事業計畫
 書及圖面ヲ添ヘ地方長官ノ經由シテ内務大臣ニ申請ス

但シ起業者ガ官内省又ハ國ナルトキハ官内大臣又ハ主務大
 臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ請求ス(昭和

二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十四條 内務大臣カ認定シタルトキハ起業者及事業ノ種類並起業地ヲ公告ス(同上本條ヲ改正)

第十五條 天災事變ニ際シ急遽シテ必要ナル事業ノ爲ニ土地ヲ使用スルトキハ市町村長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ事業ガ官内省、國又ハ道府縣ノ起業ニ係ルトキハ官内大臣、主務大臣又ハ道廳長官府縣知事ハ事業ノ種類、使用スベキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ市町村長ニ通知スベシ

前二項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超コトヲ得ス

軍用上臨時施ラヌル事業ノ爲ニ土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スベキ土地ノ區域ヲ市町村長ニ通知ス(同上本條ヲ改正)

第十六條 起業者カ市町村長ノ認定ヲ受ケタルトキハ事業ノ種類、使用スベキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ市町村長ニ申請ス(同上本條ヲ改正)

第十七條 市町村長カ認定シタルトキ又ハ第十五條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スベキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ土地所有者及占有者ニ通知ス(同上本條ヲ改正)

市町村長カ第十五條第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用スベキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知ス(同上本條ヲ改正)

第十八條 起業者カ内務大臣ノ認定ノ公告ノ後三箇年内ニ第十九條ノ申請ヲ爲サルトキハ其ノ認定ハ效力ヲ失フ(同上本條ヲ改正)

第四章 收用ノ手續

第十九條 内務大臣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ地方長官ハ收用又ハ使用スベキ土地ノ細目ヲ公告シ又ハ之ヲ爲スコトヲ得

土地所有者及關係人ニ通知ス(同上本條ヲ改正)

軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又ハ使用スベキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知ス(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十九條之二 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ土地所有者及關係人ハ事業ニ支障ヲ及ボス虞ナキ場合ヲ除クノ外行政廳ノ許可ヲ得ルニ非ザルハ收用又ハ使用スベキ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ第七條ノ二ノ物件ヲ損壞若ハ收去スルコトヲ得(同上本條ヲ追加)

第二十條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入りルヘキ日ヨリ三日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知ス(同上本條ヲ改正)

日出前日以後ハ占有者ノ承諾アルニ非ザルハ邸内ニ立入りコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ土地所有者及關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調査ヲ作ルベシ

前項ノ場合ニ於テ土地所有者及關係人カ調査ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキ其ノ他ノ共ニ調査ヲ作ルコト能ハサルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルベシ市町村長カ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ゲタル關係ヲ有スルトキハ起業者ノ申請ニ依リ地方長官立會人ヲ指定スベシ

起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作リタル調査ノ記載事項ニ對シ異議ヲ述ブルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第二十二條 第十九ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲メ土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲ス(同上本條ヲ改正)

第五章 收用審査會

第二十五條 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ判決ヲ爲スモノトス

一 收用又ハ使用スベキ土地ノ區域

二 損失ノ補償

三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ判決ヲ爲ス(同上本條ヲ改正)

第二十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第二十八條 委員ハ高等文官及道府縣名譽職審事會各三人ヲ以テ之ニ充ツ

高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣ノ之ヲ命シ道府縣名譽職審事會員ニシテ委員タルヘキ者ハ其ノ互選トス(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十九條 收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第三十條 收用審査會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決シ可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第三十一條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戸主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村ノ市町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式會社ノ無責任社員、株式會社ノ取締役及監査役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同シ

第六章 損失ノ補償

第三十二條 協議ヲ爲ス(同上本條ヲ改正)

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ起業者ハ收用審査會ノ判決ヲ求ムコトヲ得

第三十三條 收用審査會ノ判決ヲ求ムタルトキハ起業者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ提出ス(同上本條ヲ改正)

一 事業計畫書及圖面

二 市町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類
收用又ハ使用スベキ土地ノ番號、地目
收用又ハ使用スベキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地物件カ分割ヲ來スヘキ場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記ス(同上本條ヲ改正)

損失補償ノ見積金額及内課

收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

土地所有者及關係人ノ氏名、住所

第二十一條ノ規定ニ依リ土地物件ニ關スル調査又ハ其ノ寫(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三 收用審査會ノ判決ヲ求ムタルトキハ起業者ハ同時ニ土地所有者及關係人ニ通知ス(同上本條ヲ改正)

第二十四條 地方長官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ市町村長ニ送付ス(同上本條第一項第三號ノ書類ハ此ノ限ニ在ラス)

市町村長前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク公告ヲ爲シ公告ノ日ヨリ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供ス(同上本條ヲ改正)

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條縦覽期間ノ初日ヨリ二週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ提出ス(同上本條ヲ改正)

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審査會ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ之ヲ補充ス(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

一 道府縣名譽職審事會員

二 道府縣名譽職審事會員ノ補充員

三 道府縣會議員

第四十一條 收用審査會ノ判決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超コトヲ得ス

第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ビ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

收用審査會ハ事實參考ノ爲メ必要ト認ムルトキハ前項ニ掲ケタル者以外ノ者ヲ呼出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第四十四條 判決ハ女書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印ス(同上本條ヲ改正)

判決書ノ原本ニハ會ノ印章ヲ捺捺ス(同上本條ヲ改正)

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 二府縣以上ニ渉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同シテ收用審査會ヲ開クコトヲ得

第六章 損失ノ補償

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受ケル損失ハ起業者ノ之ヲ補償ス(同上本條ヲ改正)

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲ス(同上本條ヲ改正)各人別ニ見積

補償ス(同上本條ヲ改正)

補償ス(同上本條ヲ改正)

補償ス(同上本條ヲ改正)

補償ス(同上本條ヲ改正)

會ヲ開ク

第二十七條 收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ判決ヲ爲ス(同上本條ヲ改正)

第二十八條 收用審査會カ前條ノ期間内ニ判決ヲ爲サルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ判決ヲ爲スヘキコトヲ命ジ又ハ之ニ代テ判決ヲ爲ス(同上本條ヲ改正)

收用審査會カ前項ノ期間内ニ判決ヲ爲サルトキハ地方長官ハ之ニ代テ判決ヲ爲ス(同上本條ヲ改正)

第二十九條 收用審査會カ召集ニ應ゼス又ハ成立セザルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ判決ヲ爲スコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第三十條 收用審査會カ判決ヲ爲サルトキハ其ノ判決書ノ原本ヲ添ヘ地方長官ニ報告ス(同上本條ヲ改正)

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ判決ヲ爲サルトキハ地方長官ハ判決書ノ原本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達ス(同上本條ヲ改正)

第三十二條 軍機ニ關スル事業又ハ内務大臣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リ必要ナル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲メ土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本章ノ規定ニ依リコトヲ得(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十三條 市町村長カ認定シタルトキ又ハ第十五條第二項若ハ第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ル(同上本條ヲ改正)

第三十四條 起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ收用審査會ノ判決ヲ求ムタルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

リ難キハ此ノ限ニ在ラス
 第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ
 第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シテ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ
 第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
 第五十一條 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セムシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サルハ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得
 第五十二條 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
 第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ道路、溝渠、塙、柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ負擔スヘシ
 第五十四條 前條ノ規定ニ依リテ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ
 第五十五條 土地ノ使用力三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得但シ空閒ノ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政官ノ許可ヲ得シテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増設シテ土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス
 第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リテ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ボタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ
 第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ
 第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ適用ス

第七章 收用ノ效果

第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ
 左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得
 一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ノ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ
 二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ
 三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ
 四 起業者カ補償金拂渡シテ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ
 第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス
 一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ
 二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ
 第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡シ又ハ供託ヲ爲サルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス
 第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス
 土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラレ但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス
 第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ
 第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年以内ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸スルトキハ其ノ全部又ハ其ノ一部ノ權利ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル土地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸スル時ニ非サルハ之ヲ買受ルコトヲ得ス
 前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス
 第一項ノ期間内ニ於テ收用シタル土地ヲ他ノ軍艦ニ關スル

第六十七條 起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行爲ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス
 第六十八條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除ク外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ
 第六十九條 第七十二條ノ規定ニ依リテ收用審査會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セムルコトヲ得ス
 第七十條 第七十三條第一項ノ規定ニ依リテ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ら執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス
 第七十一條 府縣前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ヲ充ツルコトヲ得
 第七十二條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ適用ス
 前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ適用ス

第七十三條 收用審査會カ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣ノ之ヲ取消スルコトヲ得
 第七十四條 義務者カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リテ義務ヲ履行セ又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了スル見込ナキトキハ地方長官ハ自ら之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得
 第七十五條 義務者カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リテ義務ヲ履行セザル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リコト能ハサルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得
 第七十六條 前項ノ規定ニ依リテ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セザル者アルトキハ行政官ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リテ之ヲ徵收スルコトヲ得
 第七十七條 前項ノ費用ニ付テハ行政官ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス
 第七十八條 第九條又ハ第十一條ノ場合ニ於テ行政官ノ許可ヲ得ズシテ土地ニ立入り又ハ障礙物ヲ除却シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第七十九條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知アリタルコトヲ知リタル者第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(同上本條ヲ改正)
 第八十條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス(同上本條ヲ改正)

第八十一條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ百圓以下ノ過料ニ處ス(同上本條ヲ改正)
 第八十二條 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出ラ受ケタル者故ク出頭セザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス(同上本條ヲ改正)
 第八十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ規定ニ適用ス(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十章 訴訟及訴訟

第八十四條 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得
 第八十五條 收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ侵害セラレタル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第八十六條 前二項ノ規定ニ依リテ訴願訴訟ハ裁決書原本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス
 第八十七條 本法ノ規定ニ依リテ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス
 第八十八條 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書原本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第八十九條 前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス
 第九十條 第五十九條ノ規定ニ依リテ地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用ス
 第九十一條 本法ノ規定ニ依リテ訴願訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セズ

附則
 第八十四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス
 第八十五條 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ノ手續ヲ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本法ノ規定ニ依リテ爲シタルモノト看做ス
 第九十二條 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

●土地收用法施行令

(明治三十三年三月三十一日) 勅令第九十九號 改正 昭二一勅二七三

朕土地收用法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 土地收用法施行令

第一條 土地收用法第十一條第一項ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ市町村長ニ移行ス(昭和二年勅令第二百七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二條 土地收用法第九條第十一條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ起業者ノ爲メ土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却スル者ハ其ノ證據ヲ携帶ス(シ)

第三條 起業者ガ内務大臣ノ認定ヲ受ケントスル場合ニ於テ起業地内ニ左ニ稱ゲタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調査及圖面ヲ申請書ニ添付スベシ

一 園地及皇族所有地 二 國有地 三 現ニ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ用ニ供スル土地 四 寺院境内地 五 名所、舊蹟及古墳墓

前項ニ規定スル調査ニハ其ノ土地ヲ起業地ニ編入スルニ付土地管理者ノ意見ヲ記載スベシ(同上本條ヲ改正)

第四條 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲ス(シ)

第五條 内務大臣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ

因リテ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツ(昭和二年勅令第二百七十三號ヲ以テ本項ヲ改正)

第六條 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依リ調査ハ土地調査及物件調査トス

一 土地調査ニハ收用又ハ使用セントスル土地ニ付左ノ事項ヲ記載シ實測平面圖ヲ添付スベシ

二 土地所在ノ郡、市、區、町村及字、土地ノ番號、地目及面積並ニ土地所有者ノ名及住所

三 收用又ハ使用セントスル土地ノ面積

四 土地ニ關シ權利ヲ有スル者ノ名及住所並ニ其ノ權利ノ種類及内容

五 其ノ他必要ナル事項

物件調査ニハ收用又ハ使用又ハ移轉セントスル物件ニ付左ノ事項ヲ記載スベシ

一 物件ノ在ル土地所在ノ郡、市、區、町村及字並ニ土地ノ番號及地目

二 物件ノ種類及數量並ニ其ノ所有者ノ名及住所

三 物件ニ關シ權利ヲ有スル者ノ名及住所並ニ其ノ權利ノ種類及内容

四 調査ヲ行ハル年月日

五 其ノ他必要ナル事項

物件ガ建物ナル場合ニハ其ノ物件調査ニハ前項ニ掲グルモノノ外建物ノ種類ニ區別シ其ノ構造及建坪ヲ記載シ實測平面圖ヲ添付スベシ

土地收用法第七條ノ規定ニ依リ權利ヲ收用又ハ使用スル場合ニ於ケル調査ニ關シテハ第二項ノ例ニ依ル

土地收用法第七條ノ規定ニ依リ物件ニ關スル權利ヲ

附則 本法ハ郡長廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法中郡長ノ職務ヲ定ムル規定ノ適用ニ關スル法律

(大正十五年六月二十四日) 法律第七十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル土地收用法中郡長ノ職務ヲ定ムル規定ノ適用ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地收用法中郡長ノ職務ヲ定ムル規定ハ町村長ニ之ヲ適用ス

附則 本法ハ郡長廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上タ現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本條ノ規定ヲ準用ス

第八十六條 第十五條乃至第十七條及第三十三條ノ規定ニ依リ町村長ノ爲メキ職務ハ北海道ニ於テハ支廳長ニ移行ス

第八十七條 明治二十二年勅令第五號東京市區改正土地建物處分規則其ノ他別段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二十三年法律第五十四號土地收用協議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

附則 (昭和二年法律第三十九號附則) 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年勅令第二百七十二號ヲ以テ同年九月十五日ヨリ施行ス)

大正十五年法律第七十八號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前收用審査會ノ裁決ヲ求メタル收用又ハ使用ニ付テハ第四十三條ノ規定ヲ除外シテ仍舊前ノ例ニ依ル但シ第三十五條第二項ノ規定ニ依リ却下ノ裁決アリタルモノニ付テハ其ノ裁決ニ對シ訴願訴訟ヲ爲ス場合ヲ除外シテ此ノ限ニ在ラス

本法施行前從前ノ第七十八條又ハ第八十條ノ規定ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ際未ダ其ノ裁決ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ同條ノ罰金ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

收用又ハ使用スル場合ニ於ケル調査ニ關シテハ第三項及第四項ノ例ニ依ル

調査ニハ調査ヲ作リタル起業者、土地所有者及關係人記名捺印シ立會人アルトキハ立會人モ亦之ニ記名捺印スベシ(昭和二年勅令第二百七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第七條 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告ス(同上本條ヲ改正)

第八條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シ出願ス(シ)

一 工事ノ種類 二 收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目 三 其ノ必要ナル生シメタル事業トノ關係

本條ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ準用ス

第九條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキハ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知ス(シ)

第十條 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツ(シ)

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告シ又ハ土地所有者及關係人ニ通知ス(シ)

第十一條 收用審査會會長及委員ハ旅費ヲ支給ス

第十二條 收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル

高等文官ニ非サル委員ノ旅費額及其ノ支給方法ハ府縣制第九十四條ノ規定ニ從ヒ定ムル所ニ依ル

第十三條 鑑定人及事實參考人ノ旅費額ハ鐵道賃及船賃ハ二等以下ノ運賃ニ於テ車馬賃汽船ヲ通ズル水路ノ船賃ヲ合シハ一里ニ付七十五錢以下ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル 昭和二年勅令第二百七十三號ヲ以テ本項ヲ改正)

第十四條 鑑定人及事實參考人ノ手當ハ一日金二圓乃至十圓ノ範圍内ニ於テ收用審査會ノ定ムル所ニ依ル(同上本項ヲ改正)

第十五條 鑑定人及事實參考人ノ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ前項ノ手當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給スルコトヲ得

第十六條 土地收用法第十九條ノ一及第五十六條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ地方長官ニ移行ス但シ物件ノ附加増置其ノ他輕易ナル事項ニ關シテハ地方長官ハ之ヲ市町村長ニ委任スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第十七條 土地收用法第六十七條ノ規定ニ依ル公告ハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス(シ)

第十八條 土地收用法第七十四條ニ規定シタル行政廳ノ職權ハ同法第七十一條ノ場合ニ於テハ市町村長ニ移行ス其ノ他ノ場合ニ於テハ地方長官ニ移行ス

附則 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和二年勅令第二百七十三號附則) 本令ハ昭和二年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●國有財産法

(大正十年四月八日) (法律第四十三號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國有財産法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セム

國有財産法

第一條 本法ニ於テ國有財産ト稱スルハ國有ノ不動産並ニ動令ヲ以テ定ムル國有ノ動産及權利ヲ謂フ

第二條 國有財産ヲ分テ左ノ四種トス

- 一 公用財産 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
- 二 營林財産 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
- 三 雜種財産 前各號ニ屬セザルモノ
- 四 國有財産ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財産ニ關スル總務事務ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第三條 國有財産ハ雜種財産ヲ除ク外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ズ但シ其ノ用途又ハ目的ノ妨ケザル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス

第四條 雜種財産ハ左ニ掲クル場合ニ限リ之ヲ讓與スルコトヲ得

一 帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公用ニ供スル爲ニ必要ナルトキ

二 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ動令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲

シタル者其ノ他ノ縁故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ

三 神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財産ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ

第六條 雜種財産ハ法律ヲ以テ特別ノ定メシタル場合ニ限リ之ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條 雜種財産ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限リ帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲ニ必要ナルトキハ動令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得

第八條 交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキハ金銀ヲ以テ補足ス

第九條 用途及期間ヲ指定シタル國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ其ノ用途ニ供セズ又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間内ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第十條 國有財産ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財産引渡前之ヲ納付セシムルニ但シ動令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特別ノ施行スルコトヲ得

第十一條 境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知ス

第十二條 前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ通知ノ要旨ヲ公告ス

第十三條 前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日より起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十四條 隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴訟シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 國有財産ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障礙物ヲ除却スルノ必要ナルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ズ但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 植樹ノ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年

二 前號ノ場合ヲ除ク外土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年

三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年

貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得

第十七條 國有財産ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲ニ必要ナル場合及動令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外無價ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得

第十八條 國有財産ノ貸付料ハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分前納セシムルコトヲ妨ケズ

第十九條 國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲ニ必要ナル生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十條 前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條 貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ヲ解除スル當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國有財産ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由

●國有財産法施行令

(大正十一年一月二十八日) (勅令第十五號)

改正、昭二一勅四二

第一章 總則

第一條 左ニ掲クル動産及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財産法第一條ノ國有財産トス

一 船舶、浮標、浮橋及浮橋渠

二 不動産又ハ前號ニ掲クル動産ノ從物

三 事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具

四 地上權、地役權、礦業權、砂礫權其ノ他之ニ連スル權利

五 株式及出資ニ因ル權利

前項第三號ノ事業所ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條 各省大臣公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ大藏大臣ニ之ヲ通知シ特ニ大藏大臣ト協議シタルモノヲ除ク外用途廢止後運轉ナクシテ大藏大臣ニ引續クヘシ

前項ノ規定ハ用途ノ廢止同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第三條第二項ノ規定ニ依リ營林財産トナスノ必要ナルモノ、史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレタルモノ及帝國鐵道會計、製鐵所特別會計、大學資金又ハ學校及圖書館資金ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス(昭和二年勅令第四十二號ヲ以テ本條ヲ改正)

●國有財産法施行令

(大正十一年一月二十八日) (勅令第十五號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國有財産法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セム

國有財産法

第一條 本法ニ於テ國有財産ト稱スルハ國有ノ不動産並ニ動令ヲ以テ定ムル國有ノ動産及權利ヲ謂フ

第二條 國有財産ヲ分テ左ノ四種トス

- 一 公用財産 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
- 二 營林財産 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
- 三 雜種財産 前各號ニ屬セザルモノ
- 四 國有財産ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財産ニ關スル總務事務ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第三條 國有財産ハ雜種財産ヲ除ク外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ズ但シ其ノ用途又ハ目的ノ妨ケザル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス

第四條 雜種財産ハ左ニ掲クル場合ニ限リ之ヲ讓與スルコトヲ得

一 帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公用ニ供スル爲ニ必要ナルトキ

二 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ動令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲

シタル者其ノ他ノ縁故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ

三 神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財産ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ

第六條 雜種財産ハ法律ヲ以テ特別ノ定メシタル場合ニ限リ之ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條 雜種財産ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限リ帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲ニ必要ナルトキハ動令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得

第八條 交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキハ金銀ヲ以テ補足ス

第九條 用途及期間ヲ指定シタル國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ其ノ用途ニ供セズ又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間内ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第十條 國有財産ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財産引渡前之ヲ納付セシムルニ但シ動令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特別ノ施行スルコトヲ得

第十一條 境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知ス

第十二條 前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ通知ノ要旨ヲ公告ス

第十三條 前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日より起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十四條 隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴訟シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 國有財産ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障礙物ヲ除却スルノ必要ナルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ズ但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 植樹ノ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年

二 前號ノ場合ヲ除ク外土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年

三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年

貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得

第十七條 國有財産ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲ニ必要ナル場合及動令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外無價ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得

第十八條 國有財産ノ貸付料ハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分前納セシムルコトヲ妨ケズ

第十九條 國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲ニ必要ナル生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十條 前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條 貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ヲ解除スル當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國有財産ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由

●國有財産法施行令

(大正十一年一月二十八日) (勅令第十五號)

改正、昭二一勅四二

第一章 總則

第一條 左ニ掲クル動産及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財産法第一條ノ國有財産トス

一 船舶、浮標、浮橋及浮橋渠

二 不動産又ハ前號ニ掲クル動産ノ從物

三 事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具

四 地上權、地役權、礦業權、砂礫權其ノ他之ニ連スル權利

五 株式及出資ニ因ル權利

前項第三號ノ事業所ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條 各省大臣公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ大藏大臣ニ之ヲ通知シ特ニ大藏大臣ト協議シタルモノヲ除ク外用途廢止後運轉ナクシテ大藏大臣ニ引續クヘシ

前項ノ規定ハ用途ノ廢止同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第三條第二項ノ規定ニ依リ營林財産トナスノ必要ナルモノ、史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレタルモノ及帝國鐵道會計、製鐵所特別會計、大學資金又ハ學校及圖書館資金ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス(昭和二年勅令第四十二號ヲ以テ本條ヲ改正)

國有財產法施行令

賣拂、讓與及交換

境界査定 貸付及準貸付

第三條 各省大臣國有財產ノ管理換受ケムトスルキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スヘシ

第四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スヘシ

一 公用財產タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大藏大臣ノ定ムルモニ該當スルトキ

二 公用財產ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ

三 雜種財產ヲ公用財產又ハ營林財產ト爲サムトスルトキ

四 營林財產ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ

第二章 賣拂、讓與及交換

第八條 公共團體ニ於テ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル公共用財產ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ公共團體ニ讓與スルトコトヲ得但シ特別ノ事由アル場合ヲ除ク外費用負擔ノ義務ヲ負ヒタル期間カ十年ニ滿タルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三章 境界査定

第十條 國有財產ニ付境界ノ分明ヲサレモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルキハ隣接地所有者ノ申請アリタルキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

第四章 貸付及準貸付

第十二條 國有財產法第十二條ノ公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係市區町村長又ハ之ニ連スヘキ者ヲシテ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲サシムヘシ

一 土地又ハ水面ノ所在及面積

第二十五條 事業ノ成功ニ要スル豫定期間ハ契約ノ日ヨリ十年以内ニ於テ定ムヘシ

第二十三條 土地及立木竹ノ價格ハ國有財產現在額總計算書調製ノ年三月三十一日ノ現況ニ依リ之ヲ決定スヘシ但シ

第二十七條 各省大臣ハ每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財產現在額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ

國有財產法施行令 貸付及準貸付

豪帳 計算書及報告書

之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
大藏大臣ハ各省ノ國有財產現在額報告書ニ基キ國有財產現在額總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財產現在額報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七章 雜則

第三十八條 本令ニ定ムルモノヲ除ク外國有財產ノ臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣ノヲ定ム
第三十九條 第三十五條ニ規定スル計算證明書類ノ樣式及送付期限ニ付テハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ
第四十條 前條ニ定ムルモノヲ除ク外本令ニ定ムル諸計算書類ノ樣式ハ大藏大臣ノヲ定ム
第四十一條 本令ニ定ムル帳簿及書類ノ樣式ニハ國防上秘密ヲ要スル國有財產ニ付必要ナル特例ヲ設クヘシ

附則

第四十二條 本令ハ國有財產法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第四十三條 左ノ命令ハ之ヲ廢止ス但シ官有財產ノ増減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
明治七年九月二十三日遼東城周圍内外ノ遼壘等修繕改築ニ關スル件
明治八年第四百四十六號選
明治八年第四百九十八號選
明治九年第四百六十六號選
明治十三年第七十六號選
明治十三年七月八日遼東皇城周圍内外ノ遼壘外岸接近ノ官有地(家屋等建築)ニ關スル件
明治十四年第十號選
明治十六年第四十五號選

官有地特別處分規則
官有財產管理規則
官有地取扱規則
明治二十四年勅令第十五號
明治二十七年勅令第九十二號
明治三十九年勅令第九十六號
明治四十一年勅令第一百十九號
明治四十二年勅令第七十號
大正六年勅令第二百二十四號

第四十四條 本令施行ノ際ニ於ケル各省所管ノ雜種財產ハ國有林野及北海道國有未開地ヲ除ク外第二條ノ規定ニ準ジ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ引續クヘシ
第四十五條 本令施行ノ際國有財產ノ臺帳ニ登錄スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ其ノ購入、交換又ハ收用ニ係ルモノト雖爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノヲ除ク外第三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタル金額ニ依ル
第四十六條 各省大臣ハ本令施行ノ日ノ現在ニ於ケル國有財產現在額報告書ヲ調製シ其ノ年十月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
第四十七條 前三條ニ規定スルモノヲ除ク外本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣ノヲ定ム

附則 (昭和二年勅令第四十二號附則)

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●貨幣法

(明治三十年三月二十九日法律第十六號)

改正、明三九一法二六、明四〇一法六、大五一法八、大七一法四二、大九一法五、大一一一法七三

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ貨幣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
▲ 貨幣法

第一條 貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス
第二條 純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ス
第三條 貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス(大正九年法律第五號ヲ以テ本條ヲ改正)
金貨幣
二十圓
十圓
五圓
銀貨幣
五十錢
二十錢
十錢
青銅貨幣
五錢
一錢
五圓

第四條 貨幣ノ算則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用キ一圓以下ハ一分ノ百分ノ一ヲ錢ト稱シ錢ノ十分ノ一ヲ厘ト稱ス

貨幣法

第五條 貨幣ノ品位ハ左ノ如シ
一 金貨幣 純金九百分參和銅一百分
二 銀貨幣 純銀七百二十分參和銅二百八十分(大正十一年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)
三 白銅貨幣 「ニッケル」二百五十分參和銅七十五分
四 青銅貨幣 銅九百五十分錫四十分鉛十分
第六條 貨幣ノ量目ハ左ノ如シ(明治三十九年法律第二十六號、同四十年法律第六號、大正五年法律第八號、同七年法律第四十二號、同九年法律第五號、同十一年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)
一 二十圓金貨幣 四角四分四厘四毛四
二 十圓金貨幣 二角二分二厘二毛二
三 五圓金貨幣 一角一分一厘一毛一
四 五十錢銀貨幣 一角三分二厘
五 二十錢銀貨幣 五分二厘八毛
六 十錢白銅貨幣 一分
七 五錢白銅貨幣 七分
八 一錢青銅貨幣 一分
九 五厘青銅貨幣 五分六厘

第七條 金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス銀貨幣ハ十圓ヲ白銅貨幣ハ五圓ヲ青銅貨幣ハ一圓ヲ限リ法貨トシテ通用ス(大正九年法律第五號ヲ以テ本條ヲ改正)
第八條 貨幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第九條 金銀貨幣純分ノ公差ハ金貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分ノ三トス
第十條 金銀貨幣量目ノ公差ハ左ノ如シ
一 金貨幣二十圓ハ每片八毛六四一千枚每ニ八分三厘十圓ハ每片六毛零五一千枚每ニ六分二厘

五圓ハ每片四毛三二一千枚每ニ四分一厘トス大正五年法律第八號ヲ以テ本條ヲ改正)
二 銀貨幣五十錢ハ每片一厘七毛一一千枚每ニ一厘零分六厘六毛六二錢ハ每片一厘零毛七一錢每ニ五分三厘三毛三トス(大正十一年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十二條 金貨幣ノ通用最輕量目ハ二十圓金貨幣四角四分二厘十圓金貨幣二角二分一厘五圓金貨幣一角一分零厘五毛トス(大正五年法律第八號ヲ以テ本條ヲ改正)
第十三條 金貨幣ニシテ磨損ノ爲メ最輕量目ヲ下ルモノ及銀貨幣白銅貨幣又ハ青銅貨幣ニシテ若シ磨損シタルモノ其ノ他流通不便ノ貨幣ハ其ノ額面價格ヲ以テ無手数料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ
第十四條 貨幣ニシテ模樣ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ模印ヲ爲シ其ノ他故意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ效用ナキモノトス
第十五條 金地金ヲ輸納シ金貨幣ノ製造ヲ請フ者アルトキハ政府ハ其ノ請求ニ應スヘシ

附則

第十六條 從來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ品位ニ通用スヘシ
第十七條 「從來發行ノ一圓銀貨幣ハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニ依リ漸次之ヲ引換フヘシ」
「前項引換ノ結了マテハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ無制限ニ法貨トシテ其ノ通用ヲ許シ通用禁止ノ場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布スヘシ通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年內ニ引換ヲ請求セザルトキハ爾後地金トシテ取扱フヘシ」
第十八條 從來發行ノ五錢銀貨幣及銅貨幣ハ從前ノ通り通用ス

用スヘシ

第十八條 此ノ法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但シ右期日以前ニ政府ニ納付タル銀地金ハ此ノ限ニ在ラス第十九條 此ノ法律ニ抵触スル從前ノ法令ハ總テ之ヲ廢止ス第二十條 此ノ法律ハ第十八條ヲ除ク外明治三十年十月一日ヨリ施行ス

附則 (明治三十九年法律第二十六號附則)

本法ハ明治三十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス從來發行ノ銀貨幣ハ從前ノ通通用スヘシ

附則 (明治四十年法律第六號附則)

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス從來發行ノ十錢銀貨幣ハ從前ノ通通用スヘシ

附則 (大正五年法律第八號附則)

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス從來發行ノ白銅貨幣及青銅貨幣ハ從前ノ通通用スヘシ

附則 (大正七年法律第四十二號附則)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス從來發行ノ銀貨幣ハ從前ノ通通用スヘシ

附則 (大正九年法律第五號附則)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス從來發行ノ十錢銀貨幣及五錢白銅貨幣ハ從前ノ通通用スヘシ

附則 (大正十一年法律第七十三號附則)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス從來發行ノ銀貨幣ハ從前ノ通通用スヘシ

遺失物法

(明治三十二年三月二十四日法律第八十七號)

改正、大正一法四

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル遺失物法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遺失物法

第一條 他人ノ遺失シタル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ遺失者又ハ所有者其ノ他物件回復ノ請求權ヲ有スル者ニ其ノ物件ヲ返還シ又ハ警察官署ニ之ヲ差出スヘシ但シ法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ハ返還スルノ限ニ在ラス

物件ヲ警察官署ニ差出シタルトキハ警察官署ハ物件ノ返還ヲ受クヘキ者ニ之ヲ返還スヘシ若シ返還ヲ受クヘキ者ノ氏名又ハ居所ヲ知ルコト能ハサルトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲スヘシ

第二條 警察官署ハ其ノ保管ノ物件滅失又ハ毀損ノ虞アルトキ又ハ其ノ保管ニ不相當ノ費用若ハ手数要スルコトキハ命令ノ定ムル方法ニ從ヒ之ヲ賣却スルコトヲ得

賣却ノ費用ハ賣却代金ヨリ支辨ス賣却費用ヲ控除シタル賣却代金ノ殘額ハ拾得物ト看做シテ之ヲ保管ス

第三條 拾得物ノ保管費公告費其ノ他必要ナル費用ハ物件ノ返還ヲ受クル者又ハ物件ノ所有權ヲ取得シ之ヲ引取ル者ノ負擔トシ民法第二百九十五條乃至第三百二條ノ規定ヲ適用ス

第四條 物件ノ返還ヲ受クル者ハ物件ノ價格百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カラサル報勞金ヲ拾得者ニ給スヘシ但シ國庫

其ノ他公ノ法人ハ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條 第二條ニ依リ賣却シタル物件ニ付テハ賣却代金ノ額ヲ以テ物件ノ價格トス

第六條 第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ハ物件ヲ返還シタル後一箇月ヲ過タルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第七條 拾得者ハ豫メ申告シテ拾得物ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シ義務ヲ免ルルコトヲ得

第八條 物件ノ返還ヲ受クヘキ者ハ其ノ權利ヲ拋棄シテ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ負擔シ義務ヲ免ルルコトヲ得

第九條 物件ノ返還ヲ受クヘキ者權利者其ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ拾得者其ノ物件ノ所有權ヲ取得ス但シ拾得者其ノ取得權ヲ拋棄シ第一項ノ例ニ依リコトヲ得

第十條 法令ノ規定ニ依リ私ニ所有所持スルコトヲ禁シタル物件ヲ拾得シタル者ハ所有權ヲ取得スルノ限ニ在ラス

第十一條 拾得物其ノ他本法ノ規定ヲ適用スル物件ヲ横領シタルニ依リ處罰セラレタル者及拾得ノ日ヨリ七日内ニ第一條第一項又ハ第十一條第一項ノ手續ヲ爲ササル者ハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ受クルノ權利ヲ失フ大正二年法律第四號ヲ以テ本條ヲ改正

第十二條 管守者アル船車建築物其ノ他公眾ノ通行ヲ禁シタル構内ニ於テ他人ノ物件ヲ拾得シタル者ハ其ノ物件ヲ管守者ニ交付スヘシ

第十三條 管守者アル船車建築物等ノ占有者ヲ以テ拾得者トシ自己ノ管守スル場所ニ於テ他人ノ物件ヲ拾得シタル者亦本條ノ場合ニ於テ報勞金ハ前項ノ占有者ト現ニ物件ヲ拾得シタル者ト折半スヘシ

第十四條 犯罪者ノ遺去シタルモノ認ムル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ其ノ物件ヲ警察官署ニ差出スヘシ

附則

第十七條 明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則ハ本

法施行ノ日ヨリ廢止ス

遺失物法施行細則

(明治三十二年四月八日) (内務省令第四號)

遺失物法施行細則左ノ通之ヲ定ム

遺失物法施行細則

- 第一條 遺失物法第一條ニ定メタル公告ハ物件ノ名稱、種類、數量、形狀、模樣及拾得ノ場所、日時等成ルヘク其ノ物件ヲ知得スルニ足ルヘシト思料スル事項ヲ詳記シ十四日間最寄場ニ揭示シ仍貴重ノ物件ト認ムルトキハ官報又ハ新聞紙ニ掲載スルモノトス
- 第二條 遺失物法第十條ニ依リ管守者物件ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ警察官署ニ送付スルト同時ニ便宜最寄ノ場所ニ於テ物件ノ名稱、種類、數量、形狀、模樣及拾得ノ場所、日時ヲ揭示スヘシ但シ揭示ノ場所ヲ有セザルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 遺失物法第二條ニ依リ賣却ヲ要スル物件ニシテ高價ナリト認ムルモノハ公告シテ賣却ニ付スヘシ但シ即時ニ賣却セザレハ滅失又ハ毀損ノ虞アル物件又ハ公告ノ后競買人ナキ物件ハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 公告ハ其ノ地方慣行ノ方式ニ從ヒテ之ヲ爲シ且公告ニハ競買ニ付スル物件ノ名稱、種類、數量、擔任官吏ノ氏名、執行ノ場所、日時ヲ記スルヲ要ス
- 第五條 賣却物件ノ引渡ハ代金ト引換ヘテ之ヲ爲ス競買ノ場合ニ於テ最高價競買人競買當日ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物件ノ引渡ヲ求メザルトキハ更ニ其ノ物件ヲ競買スヘシ此ノ場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス
- 第六條 拾得ノ物件國庫ノ所有ニ歸シタルトキハ遺失物法第三條ニ依リ警察費ヨリ支辨シタル保管費公告費其ノ他必要ナル費用ハ國庫ヨリ支辨ス

要ナル費用ハ國庫ヨリ支辨ス

古物商取締法

(明治二十八年三月六日) (法律第十三號)

改正、明三三、一法六〇、明三八、一法二四

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル古物商取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

古物商取締法

- 第一條 古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ
- 第二條 古物商ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ其ノ物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受ケシ
- 第三條 古物商ハ免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄内ニ店舗ヲ設ケタルトキハ其ノ官行政廳ニ届出ツヘシ
- 第四條 免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケタルトキハ更ニ其ノ地行政廳ノ免許ヲ受ケシ
- 第五條 左ニ記載シタルモノニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
- 一 古物ノ市場、行商、露店及雜賣
- 二 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具其ノ他危險ノ虞アル物品ノ賣買交換
- 第六條 古物商物品ヲ買受ケ若ハ交換セムトスルトキハ賣主、讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ處分スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認

古物商取締法

シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

- 第七條 住所、氏名ノ詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買受ケ又ハ交換スルコトヲ得ス但シ住所、氏名ノ詳ナル者其ノ誰人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ買受ケ又ハ讓渡スルコトヲ得ス
- 第九條 前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未ダ消毒セザルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシム其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス
- 第十條 贓物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ハ品牘ヲ發スルコトヲ得
- 第十一條 贓物ノ品牘アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品牘寫書ニ附記スヘシ品牘到達以後六箇月内ニ品牘ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若ハ寄藏ヲ受ケ若ハ其ノ以前ニ之ヲ得タル儘所持シタルトキハ直ニ警察官ニ届出シ
- 第十二條 古物商物品ヲ賣買シ若ハ交換シタルトキハ其ノ物品及賣主、讓渡主ヲ帳簿ニ記載シ又ハ買主、讓渡主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ
- 第十三條 其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
- 第十四條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受ケシ
- 第十五條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ物品及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得
- 第十六條 警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ
- 第十七條 古物商法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得
- 第十八條 禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及フ

第十五條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期限内亦同シ

- 第十六條 行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解クコトヲ得
- 第十七條 古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贓物ニ係ルトキハ營業者ヨリシタルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被徵者ニ還付スルコトヲ得若被徵者知レザルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ明治三十三年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正
- 第十八條 他ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換シ特ニ此ノ法律ヲ適用スルノ必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十九條 左ニ掲クル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 第十三條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損シ失シタル者
- 二 第二條ノ免許ヲ受ケシテ營業ヲ爲シタル者
- 三 禁止及停止中營業ヲ爲シタル者
- 四 第十五條ニ違反シタル者
- 第二十條 第三條、第四條、第六條、第七條、第八條、第十條、第十一條及第十二條ニ違反シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十一條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ「數罪俱發」ノ例ヲ用キス
- 第二十二條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責任ニ任ス
- 第二十三條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第十四條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス
(明治三十八年法律第二十四號ヲ以テ但書ヲ削除)
第十五條 明治十六年第五十號布告古物商取締條例ハ
此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●古物商取締法細則

(明治二十八年七月二十六日)
(内務省令 第八號)

明治二十八年法律第十三號古物商取締法細則左ノ通り
之ヲ定ム

古物商取締法細則

第一條 古物商取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職
權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長
官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ
警視總監、北海道廳長官、府縣(東京府ヲ除ク)以下之ニ
依リ知事ハ前項ノ職權ヲ警察署長、警察分署長、島司、
地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若ハ
停止シ又ハ營業ヲ禁止若クハ停止ヲ解除クノ處分ハ此ノ限ニ
在ラス

第二條 左ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買、
交換ストキハ古物商取締法及此ノ細則ヲ遵守スヘシ
衣服商、金物商、袋物商、小間物商、醫甲商
時計商、飾商、書籍商
其ノ他廳府縣令ヲ以テ定メタル商業

第三條 二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設ケタルキハ營業主自
ラ之ヲ管理スルモノ、外ハ管理人ヲ定メ其ノ地行政廳ニ届出
スヘシ

第四條 營業ノ廢止營業所又ハ店舗ノ閉鎖、移轉營業者及
後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理人ノ變更及後見人
終了ハ行政廳ニ届出スヘシ
後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相続人ヨリ
行政廳ニ届出スヘシ但シ死亡者非但主ナルトキハ其死亡ハ自
主ヨリ届出スヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ願
出ルニハ其ノ後見ニ關シ市町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添
付スヘシ

第五條 古物商取締法第三條第四條第二項及前二條ノ届
出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ古物
商取締法第四條第二項ニ依リ品目ノ届出ヲ要スル物品ヲ
其買受ケ若クハ讓受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ
又ハ他人ニ交附セントスル場合ニ於テハ其ノ品目届出ハ運搬
又ハ交付ノ行爲ニ先ツヘシ又ハ相続人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届
出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第六條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規
定スヘシ

第七條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事
由ヲ説明シ行政廳ニ届出スヘシ

第八條 古物商ニシテ行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サントスル者ハ行
政廳ニ願出票札ヲ受ケ之ヲ携帶スヘシ
家屬又ハ同居ノ雇人ニ限リ行商ヲ爲サシメ又ハ露店ヲ出サシ
ムルコトヲ得此場合ニ於テハ前項ノ手續ニ依リ票札ヲ受ケ之
ヲ携帶セムヘシ

第九條 他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第十條 古物ノ市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添ハ行政廳
ノ認可ヲ受クヘシ
規約書ニハ開閉ノ時間、場所及發賣スヘキ營業者ノ住所、
氏名ヲ記載スヘシ
規約書ノ變更ハ其ノ都度行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 行商、露店及市場ノ取引ニ付テ別ニ帳簿ノ規程ヲ要
スルトキハ廳府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第十二條 古物ノ發賣ヲ爲サントスル者ハ豫メ其ノ日時及場所
ヲ行政廳ニ届出スヘシ

第十三條 古物商ハ露店、途上其ノ他公ノ場所ニ於テ古物商

ニ非サル者ヨリ古物品ヲ買取り讓受ケ又ハ交換スルコトヲ得
ス

第十三條 古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店市場ニ於テ刀劍又ハ
之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣買交換スルコトヲ得ス

第十四條 第三條第四條第一項第二項第七條第八條第九
條第十一條第十二條及第十三條ニ違背シタル者ハ二圓
以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此細則ニ規定シタルモノ、外警視總監、北海道廳
長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

醫師法

(明治三十九年五月二日) 法律第四十七號

改正、明四二一法四四、大三一法三八、大八一法五七、大一一一法一

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ醫師法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醫師法

第一條 醫師タルトスル者ハ左ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一 大學令ニ依ル大學ニ於テ醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ官立、公立若ハ文部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校醫學科ヲ卒業シタル者(大正八年法律第五十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

二 醫師試驗ニ合格シタル者

三 外國醫學科ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ醫師免許ヲ得タル者ニテ命令ノ規定ニ該當スル者

醫師試驗ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ下同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ醫學專門學校ヲ卒業シ若ハ外國醫學科ニ於テ四箇年以上ノ醫學課程ヲ修了シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第二條 左ニ掲タル者ハ免許ヲ受クルコトヲ得ス

一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者(同上本條ヲ改正)

二 未成年者、禁治產者、准禁治產者、癡者、啞者及盲者(同上第二號ヲ削除、第三號ヲ第二號ニ改ム)

第三條 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ニハ免許ヲ與ヘサルコトアル(同上本條ヲ改正)

第四條 內務省ニ醫籍ヲ備ヘ醫師免許ニ關スル事項ヲ登錄ス

登錄スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 醫師ハ自ら診察セシテ診斷書、處方等ヲ交付シ若ハ治療ヲ爲シ又ハ檢案セシテ檢案書若ハ死産證書ヲ交付スルコトヲ得ス但シ診察中ノ患者死シタル場合ニ交付スル死亡診斷書ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(明治四十二年法律第四十四號ヲ以テ但書ヲ追加)

第六條 醫師ハ診察簿ヲ備ヘ十箇年間之ヲ保存スヘシ(同上本條ヲ改正)

第七條 醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスラ開ハス業務上學位、稱號及專門科名ヲ除ク外其ノ技能、療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス(同上本條ヲ改正)

第八條 醫師ハ命令ノ定ムル所ニ依リ郡市區醫師會ヲ設立ス

郡市區醫師會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ道府縣醫師會ヲ設立ス

郡市區醫師會及道府縣醫師會ハ法人トス命令ノ定ムル所ニ依リ醫事衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス(大正八年法律第五十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第九條 郡市區醫師會ハ命令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外郡市又ハ北海道若ハ沖繩縣ノ區域トス

公私立ノ診察所若ハ治療所又ハ其ノ出張所ニ於テ診察又ハ治療ニ從事スル醫師ハ其ノ診察所、治療所又ハ出張所ノ所在地ノ區域トスル郡市區醫師會ノ會員トス(同上本條ヲ改正)

第十條 道府縣醫師會ハ道府縣ノ區域トス

道府縣醫師會ハ郡市區醫師會ハ其ノ道府縣ノ區域トス

道府縣醫師會ノ會員トス(同上本條ヲ追加)

第十一條 郡市區醫師會又ハ道府縣醫師會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起ス

スルコトヲ得(大正八年法律第五十七號ヲ以テ本條ヲ追加)

第十二條 前四條ニ規定スルモノノ外郡市區醫師會及道府縣醫師會ノ設立ノ手續、機關ノ組織、經費ノ負擔、監督、會員ノ懲戒其ノ他必要ナル事項ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(同上本條ヲ追加)

第十三條 道府縣醫師會ハ日本醫師會ヲ設立スルコトヲ得

日本醫師會ハ内地ノ區域トス

道府縣醫師會ハ日本醫師會ノ會員トス

第八條第三項及前二條ノ規定ハ日本醫師會ニ付テ之ヲ適用ス(大正十二年法律第一號ヲ以テ本條ヲ追加)

第十四條 醫師第二條各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消ス

醫師六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ業務ニ關シ罰金ニ處セラレ若ハ不正ノ行爲アリタル者ハ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ醫學ヲ停止スルコトアル(同上本條ヲ改正)

第十五條 本條ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖第二條第二號ノ原因止ミタルトキ又ハ改換ノ情願著ナルトキハ再免許ヲ與フルコトアル(同上本條ヲ改正)

第十六條 本條ノ處分ハ內務大臣ノ行フ但シ第二項及第三項後段ノ場合ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス(大正八年法律第五十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十七條 免許ヲ受ケスシテ醫學ヲ爲シタル者、停止中醫學ヲ爲シタル者又ハ第五條、第六條、第七條若ハ第十三條第三項但書ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ四十圓以上ノ科料ニ處ス(同上本條ヲ改正)

附則 本法ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本法施行前ノ醫師開業免狀ハ本法施行ノ後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

第十四條 本法施行前第一條第一項第一號ニ該當セザル官立、府縣立醫學科ヲ卒業シタル者ニハ第一條第一項ノ資格ヲ有セザルモ免許ヲ與フルコトアル(同上本條ヲ改正)

第十五條 本法施行前醫師開業免狀ヲ得タル者ハ本法施行ノ後ト雖免狀ヲ爲スコトヲ得但シ免狀地域外ニ診察所、治療所又ハ其ノ出張所ヲ設クルコトヲ得ス

第十六條 本法施行後八箇年間ハ第一條第二項ノ規定ヲ適用セズ醫師開業試驗規則ニ依リ醫師開業試驗ヲ舉行ス

第十七條 依リ醫師開業前期試驗ニ合格シタル者ハ大正三年十月三十一日迄ニ屆出テ特ニ定メタル醫師開業後期受驗資格名簿ニ登錄スルヲ要ス

第十八條 受驗資格名簿ニ登錄シタル者ニ限リ大正五年九月迄醫師開業試驗ヲ舉行ス

第十九條 前三項ノ試驗ニ合格シタル者ハ第一條第一項ノ資格ヲ有スル者ト看做ス

附則 (大正八年法律第五十七號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正八年勅令第四百二十八號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス)

本法ノ適用ニ付テハ帝國大學醫學科大學醫學科ヲ卒業シタル者ハ大學令ニ依リ大學ニ於テ醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者ト看做ス

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ、同法ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ト看做ス

本法施行ノ際現ニ存スル醫師會ハ本法施行ノ日ヨリ六月内

醫師法

醫師法施行規則

仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

附則 (大正十二年法律第一號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十二年勅令第二百七十一號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行ス)

醫師法施行規則

(明治三十九年九月三日) 內務省令第二十七號

改正、明四二一內令一七、大八一內令一五

醫師法施行規則左ノ通定ム

醫師法施行規則

第一條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出ス(明治四十二年內務省令第十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出ス(明治四十二年內務省令第十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出ス(明治四十二年內務省令第十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第四條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出ス(明治四十二年內務省令第十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第五條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出ス(明治四十二年內務省令第十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第六條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出ス(明治四十二年內務省令第十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第七條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出ス(明治四十二年內務省令第十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第八條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出ス(明治四十二年內務省令第十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第九條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項規定ノ資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書ニ戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所ノ地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出ス(明治四十二年內務省令第十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

記シ免許證ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ
 醫籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得
 前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス
 前四條 醫師免許證ヲ毀損シ失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ三
 十日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ再下
 付ヲ申請スヘシ
 前項免許證ノ再下付ヲ申請スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付
 スヘシ
 亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地ノ地方
 長官ニ提出スヘシ
 第五條 第一條、第三條及第四條ノ申請ヲ爲ス者ハ登録稅
 又ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用スヘシ
 既ニ納付シタル登録稅又ハ手数料ハ之ヲ還付セズ
 第六條 醫師醫籍登錄ノ抹消ヲ申請セムトスルトキハ住所地ノ
 地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘシ
 醫師失職ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル屆
 出義務者ヨリ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
 第七條 醫師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ地方長官
 ニ届出シ其ノ移轉ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ後ノ
 住所地ノ地方長官ニ届出シ之ヲ大正八年内務省令第十五
 號ヲ以テ本條ヲ改正
 後ノ住所地ノ地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ
 前ノ住所地ノ地方長官ニ通知スヘシ(同上本項ヲ追加)
 第八條 醫師自己又ハ他人ノ診察所、治療所若ハ其ノ出張
 所ニ於テ醫業ヲ開始シタルトキハ十日以内ニ所在地ノ地方
 長官ニ届出シ其ノ之ヲ休止シ廢止シ又ハ診察治療ノ場所
 ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ但シ其ノ異動ニ依リ管轄地方廳
 ヲ異ニシタルトキハ後ノ所在地ノ地方長官ニ届出シ之ヲ同上本
 項ヲ改正
 後ノ所在地ノ地方長官前項但書ノ届出ヲ受ケタルトキハ其

ノ旨ヲ前ノ所在地ノ地方長官ニ通知スヘシ(大正八年内務
 省令第十五號ヲ以テ本項ヲ追加)
 官立又ハ公立ノ病院ニ於テ診察治療ニ從事スル場合ハ第
 一項ニ依ルノ限ニ在ラス(同上本項ヲ改正)
 診察所又ハ治療所ト稱スルハ公衆ノ需ニ應ジ診察又ハ治療
 ヲ爲ス場所ヲ謂フ
 第九條 醫師死體又ハ四箇月以上ノ死産兒ヲ檢案シ異常ヲ
 リト認ムルトキハ二十四時間以内ニ所轄警察官著ニ届出ヘ
 シ
 第九條之二 醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要ナル者ニ正當ノ事由
 ナクシテ診察檢案書又ハ死産證書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス
 (明治四十二年内務省令第十七號ヲ以テ本條ヲ追加)
 開業ノ醫師ハ診察治療ノ需アル場合ニ於テ正當ノ事由ナク
 シテ之ヲ拒ムコトヲ得ス(大正八年内務省令第十五號ヲ以
 テ本項ヲ追加)
 第九條之三 醫師ハ其ノ診察シタル患者ニ交付スル處方箋ニ患
 者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年
 月日ヲ記載シ及署名又ハ捺印スヘシ(明治四十二年内務
 省令第十七號ヲ以テ本條ヲ追加)
 第九條之四 醫師ハ診察簿ニ其ノ治療シタル患者ノ氏名、年
 齡、病名及療法ヲ記載スヘシ但シ其ノ不明ナルモノハ患者廢
 療ノ時其ノ旨ヲ記載スヘシ(同上本條ヲ追加)
 第十條 醫師其ノ診察治療スル患者ニ自ラ藥劑ヲ交付スルトキ
 ハ容器又ハ包紙ニ其ノ用法患者ノ氏名及診察所、治療所
 ノ名稱又ハ自己ノ氏名ヲ明記スヘシ
 第十一條 地方長官ハ醫師法第十條ノ處方ヲ必要ト認ムルト
 キハ内務大臣ニ具申スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ豫メ道府縣醫師會ノ意見ヲ徵スルコトヲ
 要ス(大正八年内務省令第十五號ヲ以テ本項ヲ追加)
 第十二條 醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ

五日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大
 臣ニ返納スヘシ
 第十三條 醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日
 以内ニ免許證ヲ住所地ノ地方長官ニ提出スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ要旨ヲ免許證ニ裏書シ
 捺印ノ上領置シ期間満了ノ後之ヲ還付スヘシ
 第十四條 左ニ掲グル場合ニ於テハ族籍、氏名、事由其ノ他必
 要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス
 一 醫籍ニ登録シ又ハ抹消シタルトキ
 一 免許證再下付ノトキ
 一 醫師法第十條ノ處分ヲ爲シタルトキ
 第十五條 第三條第一項、第四條第一項第三項、第六條
 第二項、第七條第一項及第八條第一項ニ違背シタル者ハ
 拾圓以下ノ科料ニ處ス(明治四十二年内務省令第十七
 號、大正八年内務省令第十五號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第十六條 第九條、第九條之二、第九條之三、第九條之四、
 第十條、第十二條及第十三條第一項ニ違背シタル者ハ貳
 拾五圓以下ノ罰金ニ處ス(明治四十二年内務省令第十
 七號ヲ以テ本條ヲ改正)
 附則
 本則ハ明治三十九年法律第四十七號醫師法施行ノ日ヨリ
 之ヲ施行ス

●未成年者喫煙禁止法

(明治三十三年三月七日 法律第三十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ未成年者喫煙禁止法ヲ裁可シ茲
 ニ之ヲ公布セシム
 未成年者喫煙禁止法
 第一條 未成年者ハ煙草ヲ喫スルコトヲ得ス
 第二條 前條ニ違反シタル者アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ喫煙ノ
 爲ニ所持スル煙草及器具ヲ沒收ス
 第三條 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者情ヲ知リテ其ノ喫煙ヲ
 制止セザルトキハ一圓以下ノ科料ニ處ス
 親權ヲ行フ者ニ代リテ未成年者ヲ監督スル者亦前項ニ依リ
 テ處斷ス
 第四條 未成年者ニ其ノ自用ニ供スルモノナルコトヲ知リテ煙草
 又ハ器具ヲ販賣シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス
 附則
 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

未成年者喫煙禁止法

未成年者飲酒禁止法

未成年者飲酒禁止法

(大正十一年三月三十日) (法律第二十號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ未成年者飲酒禁止法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

未成年者飲酒禁止法

第一條 未成年者ハ酒類ヲ飲用スルコトヲ得ス

未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者若ハ親權者ニ代リテ之ヲ監督スル者未成年者ノ飲酒ヲ知リタルトキハ之ヲ制止ス

營業者ニシテ其ノ業態上酒類ヲ販賣又ハ供與スル者ハ未成年者ノ飲用ニ供スルコトヲ知リテ酒類ヲ販賣又ハ供與スルコトヲ得ス

第二條 未成年者カ其ノ飲用ニ供スル目的ヲ以テ所有又ハ所持スル酒類及其ノ器具ハ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ沒收シ又ハ廢棄其ノ他ノ必要ナル處置ヲ爲サシムルコトヲ得

第三條 第一條第二項、第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第四條 營業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法ニ依リテ之ヲ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

明治三十三年法律第五十二號ハ本法ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

自動車取締令

(大正八年一月十一日) (內務省令第一號)

改正、大一一一内令四四

自動車取締令

第一條 本令ニ於テ自動車ト稱スルハ原動機ヲ用キ軌條ニ依ラズシテ運轉スル車輛ヲ謂フ

第二條 自動車ノ通行スル道路、區域又ハ時間ニ關スル制限ハ地方長官ノヲ定ム

第三條 自動車ノ最高速度ハ一時間十六哩トス但シ地方長官ハ道路、區域、時間又ハ自動車ノ種類ヲ指定シテ之ニ異ナル速度ヲ定ムルコトヲ得

第四條 自動車ハ左ノ各號ノ構造裝置ヲ具備スルコトヲ要ス

一 轆ハ護膜製モノタルヘキト但シ貨車ニ在リテハ地方長官ノ定ムル所ニ依リテ之ニ異ナルモノヲ用ウルコトヲ得

二 各獨立ニ作用スヘキ二箇以上ノ制動機ヲ備フヘキト

三 變速機ヲ備ヘ且運轉手ノ踏易キ箇所ニ速度計ヲ備フヘキト

四 蒸氣、瓦斯又ハ油其ノ他爆發性若ハ可燃性ノモノヲ容ルヘキ區、管及氣密並電氣裝置等ハ堅牢ニ作リ漏洩又ハ危險ノ虞ナキモノタルヘキト

五 運轉ニ際シ甚シキ騒音ヲ發シ又ハ臭若ハ有害ノ瓦斯若ハ煤煙ヲ多量ニ發散セザル構造タルヘキト

六 車輛ノ總重量八百磅度以上ノ自動車ハ短半徑ヲ以テ容易ニ方向ヲ轉シ及逆行シ得ヘキ裝置ヲ有スヘキト

七 適當ナル警報器ヲ備フヘキト

八 車輛ノ前面ニハ二個以上、後面ニハ一個以上ノ相

自動車取締令

第五條 營業用又ハ家用ノ爲自動車ヲ使用セムトスル者ハ主タル使用地ノ地方長官ニ願出テ其ノ検査ヲ受クヘシ

商品トシテ自動車ヲ所持スル者ハ自動車所在地ノ地方長官ノ検査ヲ受クルコトヲ得

第六條 検査ニ合格シタルトキハ検査ノ證明ヲ寫シ車輛番號ヲ指示ス

第七條 検査證明ノ寫ヲ檢査シテ左ノ各號ノ部分ヲ變更シタルトキハ更ニ地方長官ノ検査ヲ受クヘシ

第八條 検査ニ合格シタル自動車ニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

第九條 當該地方長官ハ定期又ハ臨時ニ自動車ノ検査ヲ行

一 原動機

二 爆發性若ハ可燃性ノモノヲ容ルヘキ區、管

三 氣密及曲柄

四 制動機、變速機及換向機

五 電氣裝置(電路ヲ除ク)

六 車燈

七 車體

第十條 検査ニ合格シタル自動車ニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

第十一條 當該地方長官ハ定期又ハ臨時ニ自動車ノ検査ヲ行

一 十八歳未満者

二 精神病者、聾者、啞者又ハ盲者

三 其ノ他地方長官ニ於テ不適當ト認ムル者

運轉手ノ試驗ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ自動車ノ構造、

自動車取締令

取締規則及實地ノ技能ニ關シテ之ヲ行フ
 第十六條ノ一 現ニ運轉手タル者ニシテ運轉手免許ノ有效期間満了後仍ホ引續運轉手タルトスル者ニ付テハ前條第一項各號ノ一ニ該當セス且相當技量アリト認メタル者ニ限リ前條ノ規定ニ拘ラス試験ノ全部又ハ一部ヲ省略シテ免許ヲ與フルコトヲ得(大正十二年內務省令第四十四號ヲ以テ本條ヲ追加)

第十七條 運轉手免許證ハ就業中ニテ携帶スヘシ
 第十八條 自動車検査證又ハ運轉手免許證ヲ滅失又ハ毀損シタルトキ其ノ再交付ヲ地方長官ニ願出ツヘシ
 第十九條 自動車ノ検査證明ヲ毀損シタルトキハ地方長官ニ願出テ更ニ其ノ證明ヲ受クヘシ
 第二十條 左ニ掲グル場合ニ於テハ運轉手ハ運轉ナク免許證ヲ返納スヘシ
 一 第二十七條ニ依リ免許ノ取消又ハ就業ヲ停止セラレタルトキ
 二 免許ノ有效期間ヲ經過シタルトキ運轉手死シ又ハ行衛不明ト爲リタルトキハ其ノ雇主、戶主又ハ家族ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
 第二十一條 運轉手其ノ主タル就業地ヲ變更シタルトキハ五日內ニ免許證ノ寫ヲ添(後)就業地ノ地方長官ニ届出ツヘシ
 第二十二條 前條ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ當該地方長官必要ト認ムルトキハ第十六條第二項ニ依リ試験ヲ行フコトヲ得
 前項ノ試験ニ合格セザルトキハ其ノ道府縣内ニ於ケル就業ヲ停止スルコトヲ得
 第二十三條 運轉手ノ履入レタル者ハ五日內ニ免許證ノ寫ヲ添(運轉手ノ氏名及住所ヲ地方長官ニ届出ツヘシ)
 運轉手ヲ解雇シタル者ハ十日內ニ運轉手ノ氏名ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十四條 車種番號ハ車輛ノ前面及後面階易キ箇所ニ標示スヘシ
 後面車輛番號ハ夜間三十間ノ距離ニ於テ明瞭ニ認メ得ヘキ燈火ヲ以テ照射スヘシ
 第二十五條 検査證及車輛番號ハ他ノ車輛ニ使用スルコトヲ得ス
 第二十六條 自動車ニ依リ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキハ運轉手ハ直ニ其ノ運轉ヲ停止スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ運轉手及其ノ他ノ從業員ハ被害者ノ救護其ノ他ニ付必要ナル應急ノ措置ヲ爲スヘシ但シ警察官吏在ルトキハ其ノ指示ニ從フヘシ
 運轉手其ノ他ノ從業員ハ前項ノ措置ヲ了シ且各本人、雇主、自動車使用者ノ氏名、住所(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地)及車輛番號ヲ警察官吏ニ申告シ、警察官吏在ラザルトキハ被害者若ハ其ノ同伴者ニ同一事項ヲ通告スルニ非サレハ自動車ノ運轉ヲ繼續スルコトヲ得ス
 前項後段ノ規定ニ從ヒ自動車ノ運轉ヲ爲シタルトキハ運轉手其ノ他ノ從業員ハ運轉ナク前各項ノ事實ヲ警察官吏ニ申告スヘシ
 乘用者ハ運轉手其ノ他ノ從業員カ前四項ノ措置ヲ爲スニ付テハ妨グルコトヲ得ス
 第二十七條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第十二條ノ規定ニ依リ營業免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトヲ得
 一 正當ノ事由ヲシテ許可ノ日ヨリ百二十日以内ニ營業ヲ開始セザルトキ
 二 營業ヲ繼續スルニ適セズト認メタルトキ
 三 公安上危害ヲ生スルノ虞アリト認メタルトキ
 四 營業免許ノ條件ニ違反シタルトキ
 五 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第二十八條 故意又ハ過失ニ因リ第五條第四項、第六條、第七條、第九條第二項、第十條、第十一條、第十四條、第二十四條ノ規定又ハ第二條、第二十一條第二項ニ基ク地方長官ノ命令若ハ處分ニ違反シ又ハ第三條及第三條ニ基キ地方長官ノ定メタル速度ヲ超過シテ自動車ヲ運轉シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス地方長官ノ定メタル期日ニ自動車ノ検査ヲ受クルコトヲ怠リタル者亦同シ
 第二十九條 營業用又ハ家用自動車ノ使用者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リテニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第三十條 法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス
 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三十一條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ運轉手ノ免許ヲ取消シ又ハ其ノ就業ヲ停止スルコトヲ得
 一 自動車ニ依リ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキ
 二 第十六條第一項第二號又ハ第三號ニ該當スルニ至リタルトキ
 三 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ
 第三十二條 第八條、第十二條、第十三條、第十五條第一項第二項、第二十五條ノ規定ニ違反シタル者、又ハ第九條第一項、第二十六條及第二十七條ニ基ク地方長官ノ處分ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金若ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 第三十三條 過失ニ因リ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第三十四條 故意又ハ過失ニ因リ第五條第四項、第六條、第七條、第九條第二項、第十條、第十一條、第十四條、第二十四條ノ規定又ハ第二條、第二十一條第二項ニ基ク地方長官ノ命令若ハ處分ニ違反シ又ハ第三條及第三條ニ基キ地方長官ノ定メタル速度ヲ超過シテ自動車ヲ運轉シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス地方長官ノ定メタル期日ニ自動車ノ検査ヲ受クルコトヲ怠リタル者亦同シ
 第三十五條 營業用又ハ家用自動車ノ使用者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リテニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第三十六條 法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス
 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

トス
 第三十三條 自動自轉車(サイドカー)附ノモノヲ除ク及オトベツドノ類ニ付テハ其ノ運轉者ニ對シ第三條、第二十五條及其ノ罰則ノ規定ヲ適用スルノ外本令ヲ適用セス
 前項ノ外特種ノ自動車ニ付テハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ第四條ノ規定ニ依リ構造裝置ノ一部ヲ省略スルコトヲ得
 第三十四條 本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

附則

第三十五條 本令ハ大正八年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス
 第三十六條 本令施行前ニ於テ自動車營業ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス
 本令施行前ニ於テ自動車ノ検査又ハ運轉手ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令施行後東京府ニ在リテハ六箇月內ニ、其ノ他ノ地方ニ在リテハ三箇月內ニ本令ニ依リ検査又ハ免許ヲ受ケクヘシ
 前項ニ依リ運轉手ノ免許ヲ願出テタル者ニ對シテハ地方長官ハ第十六條第二項ノ規定ニ依リ試験ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得
 第三十七條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

自動車取締令

間接國稅犯則者處分法

(明治三十三年三月十七日) 法律第六十七號

改正、明三七一法一、明四一一法八

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル間接國稅犯則者處分法改正法律ヲ敕可シ茲ニ之ヲ公布セシム

間接國稅犯則者處分法

- 第一條 間接國稅ニ關スル犯則アルトキハ收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ差押ラ爲スコトヲ得
第二條 收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ差押スル場所ニ檢査シ搜索ラ爲スコトヲ得
第三條 收稅官吏ハ犯則事件ヲ調査スル爲ニ必要ト認ムルトキハ犯則嫌疑者、參考人ヲ尋問スルコトヲ得
第四條 收稅官吏ハ檢査、搜索、尋問又ハ差押ラ爲ストキハ其身ヲ證明スヘキ證據ヲ携帶スヘシ
第五條 收稅官吏ハ檢査、搜索、尋問又ハ差押ラ爲スニ當リ必要ナルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得
第六條 收稅官吏ハ搜索ラ爲ストキハ搜索スヘキ家宅、倉庫、船車其ノ他ノ場所ノ所有主、借主、管理者、事務員又ハ同居ノ親族、雇人、鄰佑ニシテ成年ニ達シタル者ヲ立會ハシムヘシ
第七條 前項ニ掲クル者其ノ地ニ在ラサルトキ又ハ立會ヲ拒ミタルトキハ其ノ地ノ警察官吏又ハ市町村吏員ヲ立會ハシムヘシ
第八條 收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタルトキハ其ノ差押目録ヲ作ルヘシ但シ所有者又ハ所持者ハ其ノ差押目録ノ謄本ヲ請求スルコトヲ得
第九條 差押物件ハ便宜ニ依リ保管證ヲ發シ所有者、所持者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルコトヲ得差押物件ノ保管證ニ關シ

テハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

- 第十條 差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ稅務署長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得
第十一條 收稅官吏ハ日没ヨリ日出マテノ間檢査、搜索又ハ差押ラ爲スコトヲ得但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
第十二條 日没前ヨリ開始シタル檢査、搜索又ハ差押ニシテ必要ナル場合ハ日没後迄之ヲ繼續スルコトヲ得
第十三條 收稅官吏ハ檢査、搜索、尋問又ハ差押ラ爲ス間ハ何人ニ限ラス許可ヲ得シテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得
第十四條 收稅官吏ハ檢査、搜索、尋問又ハ差押ラ爲シタルトキハ其ノ願末ヲ記載シ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名捺印スヘシ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ
第十五條 犯則事件ノ證據集取ハ事件發見地ヲ所轄スル稅務監督局又ハ稅務署ノ收稅官吏ニシテ爲ス
第十六條 稅務監督局收稅官吏ノ集取シタル證據ハ之ヲ所轄稅務署收稅官吏ニ引續クヘシ
第十七條 同一犯則事件ニ付數箇所ニ於テ發見セラレタル時ハ各發見地ニ於テ集取セラレタル證據ハ之ヲ最初ノ發見地所轄稅務署ノ收稅官吏ニ引續クヘシ
第十八條 收稅官吏ハ前條ニ依リ檢査、搜索、尋問又ハ差押ラ爲スハ其ノ所屬稅務監督局又ハ所屬稅務署ノ管轄區域内ニ限ル但シ既ニ著手シタル犯則事件ニ關聯シ他ノ稅務監督局又ハ稅務署ノ管轄區域ニ於テ檢査、搜索、尋問又ハ差押ラ爲スルニ必要トスルトキハ此ノ限ニ在ラス
第十九條 稅務署長ハ其ノ管轄區域外ニ於テ犯則事件ヲ調査ラ必要トスルトキハ之ヲ其ノ地ノ稅務署長ニ囑託スルコトヲ得
第二十條 收稅官吏ハ犯則事件ヲ調査ラ終リタルトキハ之ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

但シ左ノ場合ニ於テハ直ニ告發スヘシ

- 一 犯則嫌疑者ノ居所分明ナラサルトキ
二 犯則嫌疑者逃走ノ虞アルトキ
三 證據湮滅ノ虞アルトキ
第十四條 稅務署長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額、沒收品ニ該當スル物品、徵收金ニ相當スル金額及書類送達並差押物件ノ運搬、保管ニ要シタル費用ヲ指定ノ場所ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ但シ沒收品ニ該當スル物品ニ付テハ納付ノ申出ノミヲ爲スヘキ旨ヲ通告スルコトヲ得
第十五條 犯則者通告ノ旨ヲ履行スルノ實力ナシト認ムルトキハ前項ノ通告ヲ要セス直ニ告發スヘシ
第十六條 第十四條ノ通告アリタルトキハ公訴ノ時效ヲ中斷スルコトヲ得
第十七條 第十四條第一項但書ニ依リ通告ニ對シ犯則者通告ノ旨ヲ履行シタル場合ニ於テ沒收品ニ該當スル物品ヲ所持スルトキハ公賣其ノ他必要ノ處分ヲ爲ス迄之ヲ保管スルノ義務アルモノトス但シ保管ニ要スル費用ハ之ヲ請求スルコトヲ得
第十八條 犯則者通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ履行セサルトキハ稅務署長ハ告發ノ手續ヲ發スヘシ但シ七日ヲ過クルモ告發前ニ履行シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第十九條 犯則者ノ居所分明ナラサル爲又ハ犯則者書類ノ受領ヲ拒ミタル爲通告スルコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ
第二十條 犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目録ト共ニ裁判所ニ引續クヘシ
第二十一條 前項ノ差押物件所有者、所持者又ハ市町村ノ保管ニ係ルトキハ保管證ヲ以テ引續ク爲シ差押物件引續ノ旨ヲ保管者ニ通知スヘシ
第二十二條 稅務署長ハ犯則事件ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得サルト

間接國稅犯則者處分法施行規則

(明治三十三年三月二十二日) 勅令第五十二號

- 第一條 間接國稅犯則者處分法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第二條 間接國稅犯則者處分法施行規則ニ於テ間接國稅ト稱スルハ左ノ國稅トス
一 酒造稅
二 酒精及酒精含有飲料稅
三 出港稅
四 麥酒稅
五 鹽油稅(自家用鹽油稅トモ)
六 砂糖消費稅
七 賣藥稅
八 印紙稅
九 骨牌稅
十 織物消費稅
十一 取引稅
十二 清涼飲料稅(大正十五年勅令第四十號ヲ以テ本號ヲ追加)
第三條 收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於

テ所有者、所持者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルトキハ之ニ封印ヲ爲シ若ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ

- 第三條 差押目録ハ物件ノ品名、數量、帳簿、書類ノ名稱、箇數、差押ノ場所及時、所持者ノ住所又ハ居所、氏名ヲ記載スヘシ
第四條 收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ之ヲ官廳又ハ市町村ニ送致スルトキハ差押目録ノ謄本ヲ其ノ所持者ニ交付スヘシ
第五條 收稅官吏市町村ヲシテ差押物件ノ保管ラ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ
第六條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ物件ノ品名、數量、公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ公告スヘシ
第七條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ノ公賣代金ヲ供託シタルトキハ其ノ金額ト共ニ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ
第八條 收稅官吏檢査、搜索、尋問又ハ差押ラ爲シタルトキ調製スル願末書ニ檢査、搜索、尋問又ハ差押ノ事實、場所及時並供送ノ要領ヲ記載スヘシ
第九條 間接國稅犯則者處分法第十四條ノ通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ
第十條 通告書ノ送達ハ使丁ニ依リテ之ヲ爲シ其ノ受領證ヲ徵スヘシ但シ配達證明郵便ヲ以テ送達ラ爲スコトヲ得
第十一條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第十九條ニ依リ犯則ノ心證ヲ得サル旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知スル場合ニ於テ同法第七條ニ依リ供託シタル金額アルトキハ供託受領證ニ供託金ヲ受取ルヘキ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添付シ之ヲ差押當時ノ物件所持者ニ交付スヘシ
第十二條 犯則事件ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉裏印スヘシ文字ノ挿入、削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ

間接國稅犯則者處分法施行規則

認印スヘシ
文字ヲ削除スルトキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載ス
第十三條 收稅官吏ハ直接ト間接ト間ハス差押物件又ハ沒
收物件ヲ買受クルコトヲ得ス
第十四條 本令中稅務署長ノ職務ハ樺太ニ在リテハ樺太廳支
廳長ニテヲ行フ

附則

本令ハ間接國稅犯則者處分法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十五年勅令第四十號附則)

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●計理士法

(昭和二年三月三十日
法律第三十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ計理士法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム

計理士法

第一條 計理士ハ計理士ノ稱號ヲ用ヒテ會計ニ關スル検査、調
査、鑑定、證明、計算、整理又ハ立案ヲ爲スコトヲ業トス
ルモノトス
第二條 左ノ條件ヲ具フル者ハ計理士タル資格ヲ有ス
一 帝國臣民又ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ外國ノ國
籍ヲ有スル者ニシテ私法上ノ能力者タルコト
二 計理士試験ニ合格シタルコト
三 計理士試験ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條第一項第二號ノ規
定ニ拘ラズ計理士タル資格ヲ有ス
一 會計學ヲ修メタル經濟學博士又ハ商學博士
二 帝國大學若ハ大學令ニ依ル大學ニ於テ會計學ヲ修
メ學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ專門學校令ニ依ル
專門學校ニ於テ會計學ヲ修メタル卒業シタル者
三 主務大臣ニ於テ前號ニ掲グル學校ト同等以上ト認
ムル學校ニ於テ會計學ヲ修メタル卒業シタル者
第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ計理士タル資格ヲ有セズ
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ二年未満ノ懲役
若ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ若ハ
其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年
ヲ經過シタル者又ハ陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ
一年未満ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラズ
二 前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第十一條又ハ第十二

計理士法

條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ
又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ
三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラズ
三 破産者ニシテ復舊ヲ得サル者
四 計理士ノ業務ノ停止ノ期間中其ノ業務ヲ廢止シ未
ダ其ノ期間ノ經過セザル者
五 計理士ノ業務ノ禁止ノ處分ヲ受ケタル者但シ其ノ處
分ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シ主務大臣ニ
於テ改悛ノ情顯著ナリト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラズ
第六條 計理士ヲ登録スル者ハ計理士登錄簿ニ登錄ヲ受ケル
コトヲ要ス
第七條 計理士ノ登録ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第八條 計理士ノ登録ヲ受ケントスル者ハ登錄料トシテ二十圓
ヲ納付スベシ
第九條 計理士ハ其ノ業務ヲ公正ニ行フニ支障アリト認メラルル
事項ニ付計理士ノ業務ヲ行フコトヲ得ス
第十條 計理士ハ主務大臣ノ監督ニ屬ス
第十一條 計理士本法ノ規定ニ違反シタル者又ハ品位ヲ失墜ス
ベキ行爲若ハ業務上不正ノ行爲ヲ爲シタル者ハ主務大臣ハ
計理士懲戒委員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒スルコトヲ得
第十二條 計理士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第十三條 計理士ノ懲戒處分ハ左ノ四種トス
一 罰金
二 千圓以下ノ過料
三 一年以内計理士ノ業務ヲ停止
四 計理士ノ業務ヲ禁止
第十四條 前項第二號ノ過料ヲ完納セザルトキハ主務大臣ノ命令ヲ以
テ之ヲ執行ス
第十五條 非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル
執行ニ付テ之ヲ準用ス

第十二條 計理士又ハ計理士タルシ者故ナク其ノ業務上取扱
ヒタル事項ニ付知得タル秘密ヲ漏泄シ又ハ濫用シタルトキハ一
年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十三條 計理士タル資格ヲ有セズシテ計理士ノ業務ヲ行ヒタル
者ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
第十四條 計理士タル資格ヲ有スルモ其ノ登錄ヲ受ケズシテ計理
士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處
ス
第十五條 非訟事件手續法第二百八條乃至第二百八條ノ規定ハ
前項ノ過料ニ付テ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年勅令第二
百八十號ヲ以テ同年九月十日ヨリ施行ス)
本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ二
年ノ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ二年ノ懲役又ハ禁錮以
上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス
本法施行ノ際迄引續キ一年以上會計ニ關スル検査、調査、
鑑定、證明、計算、整理又ハ立案ノ業務ニ從事シタル者ハ本
法施行ノ日ヨリ六月以内ニ出願シタルトキニ限リ第二條第一
項第二號ノ規定ニ拘ラズ計理士試験委員ノ銜ヲ經テ計理
士タルコトヲ得
帝國大學、大學令ニ依ル大學若ハ專門學校令ニ依ル專門學
校又ハ主務大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校ニ於テ經濟
ニ關スル諸學科ヲ修メ定規ノ課業ヲ卒ヘタル者ニシテ引續キ三
年以上會計ニ關スル検査、調査、鑑定、證明、計算、整
理又ハ立案ノ業務又ハ職務ニ從事シタル者ハ本法施行ノ日ヨ
リ五年以内ニ出願シタルトキニ限リ第二條第一項第二號ノ規
定ニ拘ラズ計理士試験委員ノ銜ヲ經テ計理士タルコトヲ得

任官ノ外復職
 二 現役軍人ニ在リテハ任官又ハ入營若ハ入團、非現役軍人ニ在リテハ召集ニ依リ部隊編入又ハ志願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト
 三 教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命
 四 警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命但シ巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受ケル消防手警部補ニ任シ又ハ警部補巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受ケル消防手ニ就職スルトキハ之ヲ轉任ト看做ス
 五 待遇職員ニ在リテハ任命
 第二十六條 本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ
 一 文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官、失官ノ外退職
 二 現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免官、退職、解職又ハ失職
 三 警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハ之ヲ退職ト看做ス
 四 待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職
 第二十七條 第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ進文官ノ就職及退職ニ付テハ適用ス
 第二十五條第三號及前條第三號ノ規定ハ進教育職員ノ

就職及退職ニ付テハ適用ス
 進軍人ノ就職トハ職務、戒嚴地域内ノ勤務又ハ外國ノ鎮戍ニ服スルコトヲ謂フ退職トハ其ノ勤務ヲ終ルコトヲ謂フ
 第二十八條 公務員ノ在職年ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヨリ起算ス
 第二十九條 公務員ニ在リテハ前職ノ在職年ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前職ノ退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再在職ノ在職年ハ再就職ノ月ヨリ起算ス
 第三十條 公務員ニ在リテハ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル
 第三十一條 軍人ノ恩給權ニ付テハ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ前職ノ在職年ハ軍人又ハ警察監獄職員以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ四分ノ三ニ當ル年數ヲ以テ之ヲ計算ス
 第三十二條 警察監獄職員ノ恩給權ニ付テハ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ前職ノ在職年ハ警察監獄職員又ハ軍人以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ三分ノ二ニ當ル年數ヲ以テ之ヲ計算ス
 第三十三條 公務員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ左記各號ノ規定ニ依リ加算ス
 一 戰地ニ在リテ職務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付三月
 二 戰地外ニ在リテ職務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半
 前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戰事ニ進スヘキ事變ニ際シ職務ニ服シタル場合ニ付テハ適用ス
 戰事ノ期間及地域、職務ノ範圍並戰事ニ進スヘキ事變ハ勅

裁ヲ以テ之ヲ定ム
 第三十三條 公務員外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域内ニ於テ危險ヲ顧ミシ其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在職期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス
 前項ノ外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム
 第三十四條 公務員戒嚴地域内ニ於テ危險ヲ顧ミシ其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス
 前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ内國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス
 第三十五條 公務員外國艦隊ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス
 第三十六條 航空機乗員タル公務員其ノ職務ヲ以テ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月以内ヲ加算ス
 第三十七條 潜水艇乗員タル公務員其ノ職務ヲ以テ在役潜水艇ノ勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月ヲ加算ス
 第三十八條 公務員其ノ職務ヲ以テ邊陲又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月以内ヲ加算ス不健康ナル業務ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ亦同シ
 前項ノ地域相互間ノ移動ハ之ヲ引續キタル在勤ト看做ス
 第三十九條 海上勤務ニ服スル公務員其ノ職務ヲ以テ遠洋航海ヲ爲シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス
 前項ノ遠洋航海ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第四十條 第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅令ノ定ル所ニ依リ實在職年ニ從テ之ヲ計算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヨリ起算ス

二種以上ノ加算年ヲ附セラルヘキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ之ヲ一ラ附ス
 第四十一條 左ニ掲ケル年數ハ在職年ヨリ起算ス
 一 普通恩給又ハ增加恩給ヲ受ケルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年
 二 第五十一條ノ規定ニ依リ公務員カ恩給ヲ受ケルノ資格ヲ失ヒタル在職年
 三 在職中六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受ケルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數
 四 公務員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數
 五 官内職員トシテノ在職年月數ニシテ官内官ノ恩給規程ニ依リ計算セラルヘキモノ
 第四十二條 左ニ掲ケル年數ハ之ヲ在職年ニ通算ス
 一 官内官ノ恩給規程ニ依リ官内官ノ恩給權ノ基礎ト爲ルヘキ官内職員トシテノ在職年月數
 二 進軍人ノ在職年月數
 三 高等文官ノ試補又ハ判任官見習引續キ公務員ト爲リタルトキハ公務員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤続年數ノ二分ノ一ニ相當スル年數
 四 進教育職員引續キ教育職員ト爲リタルトキハ教育職員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤続年數ノ二分ノ一ニ相當スル年數
 第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年數ノ計算ニ、第三

十條ノ規定ハ前項第一號第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年數ノ計算ニ付テハ適用ス
 第四十三條 第三十二條乃至第四十條ノ規定ハ進軍人ノ在職年ノ計算ニ付テハ適用ス
 第四十四條 本法ニ於テ特種給付ハ本條及之ニ進スヘキモノヲ謂フ
 本條ニ進スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 公務員ニ在リテハ官制令ヲ併有シ各官職ニ付特種給付セラルル場合ニ於テハ特種給付額ヲ合算シタルモノヲ以テ之ヲ稱シ之ヲ特種給付トス
 第四十五條 公務員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス
 第四十六條 公務員公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具履疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス
 公務員公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之ヲ爲不具履疾ト爲リ又ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受ケル増進恩給ヲ不具履疾ノ程度ニ相應スル程度增加恩給ニ改定ス
 前項ノ期間ヲ經過シタルトキハ雖恩給審査會ニ於テ不具履疾カ公務ニ起因シタルトキハ議決シタルトキハ決議後之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ改定ス
 公務員公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具履疾ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失ヲ犯シタルトキハ前三項ノ規定ニ依リ給付セズ
 第四十七條 前條ノ規定ハ進文官、陸軍ノ見習士官海軍ノ候補生以外ノ進軍人又ハ進教育職員ニシテ在職中公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ及陸軍ノ見習士官又ハ

海軍ノ候補生ニシテ公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノニ付テハ適用ス
 第四十八條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス
 一 勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在勤中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ
 二 戰地ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ
 三 公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ
 前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 前二項ノ規定ハ公務員ニ進スヘキ者ニ付テハ適用ス
 第四十九條 公務員公務ノ原因ヲ分テ戰闘又ハ戰闘ニ進スヘキ公務ノ普通公務トス
 戰闘ニ進スヘキ公務ノ範圍及公務傷病ニ因ル不具履疾ノ程度並教育職員、警察監獄職員、待遇職員、進文官、進軍人及進教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第五十條 裁定官職ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具履疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給又增加恩給ヲ給ス
 前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷病復元復元セザル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス
 第五十一條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受ケル資格ヲ失フ
 一 懲戒、懲罰又ハ教員免許狀被奪ノ處分ニ因リ退職シタルトキ
 二 在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役

刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ...

第二十六條 第四號但書ノ規定ハ前項ノ規定ニ適用シテハ之ヲ適用ス...

第五十二條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スルモノニ付テハ...

第五十四條 普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス...

第五十五條 前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定ス...

第四十一年トシテ計算ス 第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテ在職年五年以上ナルヲ以テ足ル...

第四十七條ノ規定ニ依リ準文官ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二ニ相當スル金額トス...

第六十一條 軍人在職年十一年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス...

第六十二條 軍人在職年十一年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス...

第六十三條 警察監獄職員在職年十一年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス...

第六十四條 待遇職員在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス...

第六十五條 公務員ノ增加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等ノ傷病ノ原因及不具癡疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス...

第六十六條 下士以下ノ軍人公務員ノ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癡疾ノ程度ニ至ラサルモ之カ爲退職シ又ハ退職後...

ハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム 一 後ノ傷病又ハ疾病ノ原因又ハ職關ニ連スヘキ公務員ニ起因スルトキハ別表第二號表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癡疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ヨリ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表甲號中其ノ不具癡疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ト其ノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ增加恩給年額トス...

第五十六條 前二條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス...

第五十七條 前三條ノ規定ハ宮内官ノ恩給規程ニ依リ恩給ヲ受クル者公務員ト爲リ退職シタル場合ニ付テ之ヲ適用ス...

第五十八條 普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間ニ停止ス 一 公務員又ハ第四十二條第一項第一號ニ規定スル官内職員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ヨリ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實に職期間一月未満ナルトキ...

第六十條 文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス...

第六十一條 文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス...

第六十二條 文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス...

第六十三條 文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス...

第六十四條 文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス...

第六十五條 文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス...

第六十六條 文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス...

第六十七條 文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス...

第六十八條 文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス...

第六十九條 文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス...

一年以内ノカ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス
 傷病賜金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス
 傷病賜金ノ額ハ退職當時ノ階等並傷病ノ原因及程度ニ依リ定メタル別表第三號表ノ金額トス
 前項ノ傷病ノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第六十七條 文官在職年一年以上十五年未満ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス
 前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス
 第六十八條 下士以上ノ軍人在職年一年以上十五年未満ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス但シ下士以上トシテノ在職年一年未満ナルトキハ此ノ限ニ在ラス
 前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ階等及在職年ノ年數ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス
 第六十九條 教育職員在職年一年以上十五年未満ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス
 前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス
 第七十條 警察監獄職員在職年一年以上十五年未満ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス
 前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス
 第七十一條 待遇職員在職年一年以上十五年未満ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス
 前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第三章 遺族

第七十二條 本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子及兄弟姉妹ニテ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡シテ當時ノ同一戸籍内ニ在ルモノヲ謂フ
 公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡シテ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ニ適用シ付テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時其ノ戸籍内ニ在リタルモノト看做ス
 第七十三條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リテ一時扶助料ヲ給ス
 一 在職中死亡シ其ノ死亡シテ後遺族ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキ
 二 普通恩給ヲ給セラルル者死亡シタルトキ
 前項ノ規定ニ依リ同順位ノ子數人アルトキハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ヲ被相続人トシタル家督相續ノ順位ニ準シテ之ヲ定ム
 父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ養父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ養父母ノ父母ヲ後ニス祖父母ノ養父母ヲ先ニシ養父母ノ母ヲ後ニス
 先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限リテ之ヲ適用ス
 第七十四條 未成年ノ子ハ未ダ婚姻セザルトキニ限リテ一時扶助料ヲ給ス
 夫又ハ成年ノ子ハ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限リテ一時扶助料ヲ給ス養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人タルトキ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人ニシテ之ヲ戸主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リテ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス
 第七十五條 扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル
 一 公務員又ハ之ニ準スヘキ者職階又ハ職階ニ準スヘキ公務員ニ因ル傷疾疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ全額
 二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務員ニ因ル傷疾疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ十分ノ八ニ相當スル金額
 三 其他ノ場合ニ於テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額
 第七十六條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ
 一 子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ
 三 父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ
 第七十七條 扶助料ヲ受クル者六年未満ノ遺族又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止セシメ其ノ執行ヲ受クルコトキハ扶助料ハ之ヲ停止セシメ其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトキニ至リタル月迄之ヲ停止ス
 前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付テ之ヲ適用ス
 第七十八條 扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルト

キハ次順位者ノ申請ニ依リ裁定官廳ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得
 第七十九條 前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス
 第八十條 遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ
 一 其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 二 妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ
 三 不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ
 第八十一條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リテ一時扶助料ヲ給ス
 前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一分乃至五分ニ相當スル金額トス
 第八十二條 文官、教育職員若ハ待遇職員在職年一年以上十五年未満ニシテ在職中死亡シ又ハ警察監獄職員在職年一年以上十五年未満ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス
 前項ノ一時扶助料ノ金額ハ公務員ノ死亡シテ當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ公務員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

恩給法 遺族 附則

下士以上ノ軍人在職年一年以上十五年未満ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス
 前項ノ一時扶助料ノ金額ハ死亡シテ當時ノ同一戸籍内ニ在ルモノヲ謂フ
 第七十四條 未成年ノ子ハ未ダ婚姻セザルトキニ限リテ一時扶助料ヲ給ス
 夫又ハ成年ノ子ハ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限リテ一時扶助料ヲ給ス養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人タルトキ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人ニシテ之ヲ戸主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リテ一時扶助料ヲ給ス

附則

第八十三條 本法ハ大正十二年十月一日ヨリ施行ス

第八十四條 左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

| | |
|------------------------------|---------------|
| 官吏恩給法 | 明治二十九年法律第十三號 |
| 官吏遺族扶助法 | 明治二十九年法律第十三號 |
| 軍人恩給法 | 明治二十九年法律第十三號 |
| 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法 | 明治二十九年法律第十三號 |
| 府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法 | 明治二十九年法律第十三號 |
| 明治二十四年法律第四號 | 明治二十四年法律第四號 |
| 明治二十九年法律第十三號 | 明治二十九年法律第十三號 |
| 官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則 | 明治二十九年法律第七十八號 |
| 明治三十九年法律第七十八號 | 明治三十九年法律第七十八號 |
| 明治三十三年法律第七十五號 | 明治三十三年法律第七十五號 |
| 明治三十三年法律第七十六號 | 明治三十三年法律第七十六號 |
| 明治三十三年法律第七十七號 | 明治三十三年法律第七十七號 |
| 逓送看守退職料及遺族扶助料法 | 明治三十五年法律第二十九號 |
| 在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法 | 明治四十年法律第四十八號 |
| 明治四十年法律第四十九號 | 明治四十年法律第四十九號 |
| 明治四十一年法律第三十五號 | 明治四十一年法律第三十五號 |
| 明治四十三年法律第三十號 | 明治四十三年法律第三十號 |
| 明治四十四年法律第六十一號 | 明治四十四年法律第六十一號 |
| 明治四十四年法律第六十七號 | 明治四十四年法律第六十七號 |

第八十五條 本法施行前給與事由ノ生シタル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル
 從前ノ規定ニ依ル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本法ニ依リ受ケ又ハ受ケヘキ恩給ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ恩給、遺族料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノカ本法ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ公務員及其ノ遺族ノ種類並給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム

規定ニ依リ納金ハ之ヲ其ノ恩給基金ト爲スヘシ 恩給基金ハ其ノ利子ヲ以テ府縣カ給與スヘキ教育職員若ハ遺族教育職員又ハ其ノ遺族ノ恩給ニ充ツルノ外ニ之ヲ支消スルコトヲ得ス

第九十三條 海軍警吏補ヨリ海軍巡查ト爲リシ者ニテ本法施行ノ際迄引續キ現ニ南洋廳巡查ノ職ニ在ルモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

(第一號表)

Table with columns for rank (階), grade (等), and salary (年俸). Rows include 將官及相當官 (High), 佐官 (Middle), 准士官 (Lower), and 兵卒 (Soldier). Salary amounts range from 1,000 to 11,000.

及教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官學習院ノ職員ト爲リタルキハ此ノ限ニ在ラス 前項ノ規定ノ施行セラルル期間内ニ屬スル教育職員ノ在職年ト教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官以外ノ公務員ノ在職年トハ互ニ之ヲ通算セス仍從前ノ例ニ依リ教育職員ノ在職年ト第四十二條第一項各號ニ掲グル在職年ト間ニ付亦同シ但シ學習院ノ職員トシテ在職年ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

ラ受クル事ヲ得ル者ノ權利ヲ妨クルコトナシ 本法施行前ニ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セザルニ至リタル者ハ之ヲ受クルノ權利ヲ本法ニ依リ取得スルコトナシ

陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警吏、海軍警吏、貴族院守衛若ハ衆議院守衛又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ條給合ニ依リ傳給ラ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給又ハ扶助料ヲ本法施行ノ日ヨリ増額給與ス

恩給法 別表

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 三十一年 | 三、五五〇 | 三、〇三七 | 二、六六七 | 二、一四四 | 一、八四七 | 一、五二四 | 一、〇九四 | 七九九 | 五七八 | 四七六 | 四〇八 | 二九二 | 二六二 | 二〇六 | 一八六 | 一七一 | 一五六 |
| 三十二年 | 三、五五〇 | 三、〇八〇 | 二、六五九 | 二、一七四 | 一、八七三 | 一、五三五 | 一、一〇九 | 八〇八 | 六六六 | 六六六 | 五八八 | 四二二 | 二六九 | 二二二 | 一九二 | 一七二 | 一六二 |
| 三十三年 | 三、六〇〇 | 三、一三四 | 二、六六〇 | 二、二〇五 | 一、九〇〇 | 一、五五七 | 一、二二五 | 八二〇 | 六八〇 | 六八〇 | 六〇〇 | 四三九 | 二七六 | 二二八 | 一九八 | 一七八 | 一六八 |
| 三十四年 | 三、六五〇 | 三、一八七 | 二、六七〇 | 二、二三五 | 一、九二六 | 一、五七八 | 一、二四〇 | 八三一 | 六八五 | 六八五 | 六〇五 | 四四六 | 二八三 | 二三四 | 一九九 | 一八九 | 一六八 |
| 三十五年 | 三、七〇〇 | 三、二二一 | 二、七二〇 | 二、二六六 | 一、九七九 | 一、六〇〇 | 一、二五五 | 八四三 | 七〇〇 | 七〇〇 | 六二〇 | 四六三 | 三〇〇 | 二四二 | 二〇〇 | 一九〇 | 一七〇 |
| 三十六年 | 三、七五〇 | 三、二五四 | 二、七七〇 | 二、二九六 | 一、九九三 | 一、六二二 | 一、二七六 | 八五五 | 七一一 | 七一一 | 六三〇 | 四七五 | 三一三 | 二五三 | 二〇二 | 一九〇 | 一七〇 |
| 三十七年 | 三、八〇〇 | 三、二八八 | 二、八二〇 | 二、三二七 | 二、〇〇六 | 一、六六四 | 一、二八七 | 八六七 | 七二二 | 七二二 | 六四〇 | 四八八 | 三二四 | 二六四 | 二〇四 | 一九〇 | 一七〇 |
| 三十八年 | 三、八五〇 | 三、三四一 | 二、八七〇 | 二、三五六 | 二、〇三二 | 一、七〇七 | 一、三〇二 | 八七八 | 七三三 | 七三三 | 六五〇 | 四九九 | 三三六 | 二七五 | 二〇五 | 一九〇 | 一七〇 |
| 三十九年 | 三、九〇〇 | 三、三八五 | 二、九二〇 | 二、三九七 | 二、〇五九 | 一、七五〇 | 一、三二二 | 八九〇 | 七四四 | 七四四 | 六六〇 | 五〇〇 | 三五一 | 二八四 | 二〇六 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十年 | 三、九五〇 | 三、四二八 | 二、九七〇 | 二、四二八 | 二、〇八九 | 一、七九三 | 一、三四三 | 九〇二 | 七五五 | 七五五 | 六七〇 | 五一一 | 三六六 | 二九四 | 二〇七 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十一年 | 四、〇〇〇 | 三、四七二 | 三、〇二〇 | 二、四七九 | 二、一四二 | 一、八三六 | 一、三五五 | 九一四 | 七六六 | 七六六 | 六八〇 | 五二二 | 三七八 | 三〇五 | 二〇八 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十二年 | 四、〇五〇 | 三、五一五 | 三、〇七〇 | 二、五二九 | 二、一八八 | 一、八七九 | 一、三六六 | 九二六 | 七七七 | 七七七 | 六九〇 | 五三三 | 三九〇 | 三一六 | 二〇九 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十三年 | 四、一〇〇 | 三、五五九 | 三、一二〇 | 二、五七九 | 二、二三二 | 一九二二 | 一、三九七 | 九三八 | 七八八 | 七八八 | 七〇〇 | 五四四 | 四〇一 | 三二七 | 二一〇 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十四年 | 四、一五〇 | 三、六〇二 | 三、一六〇 | 二、六二九 | 二、二七五 | 二、〇一五 | 一、四二八 | 九五〇 | 七九九 | 七九九 | 七一〇 | 五五五 | 四一三 | 三三九 | 二一一 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十五年 | 四、二〇〇 | 三、六四六 | 三、二〇四 | 二、六七〇 | 二、三一九 | 二、〇六〇 | 一、四六九 | 九六二 | 八一一 | 八一一 | 七二〇 | 五六六 | 四二四 | 三四〇 | 二一二 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十六年 | 四、二五〇 | 三、六八九 | 三、二四七 | 二、七二〇 | 二、四一八 | 二、一〇三 | 一、五〇〇 | 九七四 | 八二二 | 八二二 | 七三〇 | 五七七 | 四三五 | 三五五 | 二一三 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十七年 | 四、三〇〇 | 三、七三三 | 三、二九〇 | 二、七六九 | 二、四六二 | 二、一四七 | 一、五三二 | 九八六 | 八三三 | 八三三 | 七四〇 | 五八八 | 四四六 | 三六六 | 二一四 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十八年 | 四、三五〇 | 三、七七六 | 三、三三四 | 二、八一九 | 二、五〇五 | 二、一八八 | 一、五六五 | 九九八 | 八四四 | 八四四 | 七五〇 | 五九九 | 四五六 | 三七七 | 二一五 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十九年 | 四、四〇〇 | 三、八二〇 | 三、三七八 | 二、八四九 | 二、五四九 | 二、二二九 | 一、五九七 | 一〇一〇 | 八五五 | 八五五 | 七六〇 | 六〇〇 | 四六七 | 三八八 | 二一六 | 一九〇 | 一七〇 |

恩給法 別表

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 三十一年 | 三、五五〇 | 三、〇三七 | 二、六六七 | 二、一四四 | 一、八四七 | 一、五二四 | 一、〇九四 | 七九九 | 五七八 | 四七六 | 四〇八 | 二九二 | 二六二 | 二〇六 | 一八六 | 一七一 | 一五六 |
| 三十二年 | 三、五五〇 | 三、〇八〇 | 二、六五九 | 二、一七四 | 一、八七三 | 一、五三五 | 一、一〇九 | 八〇八 | 六六六 | 六六六 | 五八八 | 四二二 | 二六九 | 二二二 | 一九二 | 一七二 | 一六二 |
| 三十三年 | 三、六〇〇 | 三、一三四 | 二、六六〇 | 二、二〇五 | 一、九〇〇 | 一、五五七 | 一、二二五 | 八二〇 | 六八〇 | 六八〇 | 六〇〇 | 四三九 | 二七六 | 二二八 | 一九八 | 一七八 | 一六八 |
| 三十四年 | 三、六五〇 | 三、一八七 | 二、六七〇 | 二、二三五 | 一、九二六 | 一、五七八 | 一、二四〇 | 八三一 | 六八五 | 六八五 | 六〇五 | 四四六 | 二八三 | 二三四 | 一九九 | 一八九 | 一六八 |
| 三十五年 | 三、七〇〇 | 三、二二一 | 二、七二〇 | 二、二六六 | 一、九七九 | 一、六〇〇 | 一、二五五 | 八四三 | 七〇〇 | 七〇〇 | 六二〇 | 四六三 | 三〇〇 | 二四二 | 二〇〇 | 一九〇 | 一七〇 |
| 三十六年 | 三、七五〇 | 三、二五四 | 二、七七〇 | 二、二九六 | 一、九九三 | 一、六二二 | 一、二七六 | 八五五 | 七一一 | 七一一 | 六三〇 | 四七五 | 三一三 | 二五三 | 二〇二 | 一九〇 | 一七〇 |
| 三十七年 | 三、八〇〇 | 三、二八八 | 二、八二〇 | 二、三二七 | 二、〇〇六 | 一、六六四 | 一、二八七 | 八六七 | 七二二 | 七二二 | 六四〇 | 四八八 | 三二四 | 二六四 | 二〇四 | 一九〇 | 一七〇 |
| 三十八年 | 三、八五〇 | 三、三四一 | 二、八七〇 | 二、三五六 | 二、〇三二 | 一、七〇七 | 一、三〇二 | 八七八 | 七三三 | 七三三 | 六五〇 | 四九九 | 三三六 | 二七五 | 二〇五 | 一九〇 | 一七〇 |
| 三十九年 | 三、九〇〇 | 三、三八五 | 二、九二〇 | 二、三九七 | 二、〇五九 | 一、七五〇 | 一、三二二 | 八九〇 | 七四四 | 七四四 | 六六〇 | 五〇〇 | 三五一 | 二八四 | 二〇六 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十年 | 三、九五〇 | 三、四二八 | 二、九七〇 | 二、四二八 | 二、〇八九 | 一、七九三 | 一、三四三 | 九〇二 | 七五五 | 七五五 | 六七〇 | 五一一 | 三六六 | 二九四 | 二〇七 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十一年 | 四、〇〇〇 | 三、四七二 | 三、〇二〇 | 二、四七九 | 二、一四二 | 一、八三六 | 一、三五五 | 九一四 | 七六六 | 七六六 | 六八〇 | 五二二 | 三七八 | 三〇五 | 二〇八 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十二年 | 四、〇五〇 | 三、五一五 | 三、〇七〇 | 二、五二九 | 二、一八八 | 一、八七九 | 一、三六六 | 九二六 | 七七七 | 七七七 | 六九〇 | 五三三 | 三九〇 | 三二四 | 二〇九 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十三年 | 四、一〇〇 | 三、五五九 | 三、一二〇 | 二、五七九 | 二、二三二 | 一九二二 | 一、三九七 | 九三八 | 七八八 | 七八八 | 七〇〇 | 五四四 | 四〇一 | 三三六 | 二一〇 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十四年 | 四、一五〇 | 三、六〇二 | 三、一六〇 | 二、六二九 | 二、二七五 | 二、〇一五 | 一、四二八 | 九五〇 | 七九九 | 七九九 | 七二〇 | 五六六 | 四二四 | 三四〇 | 二一一 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十五年 | 四、二〇〇 | 三、六四六 | 三、二〇四 | 二、六七〇 | 二、三一九 | 二、〇六〇 | 一、四六九 | 九六二 | 八一一 | 八一一 | 七三〇 | 五七七 | 四三五 | 三五五 | 二一三 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十六年 | 四、二五〇 | 三、六八九 | 三、二四七 | 二、七二〇 | 二、四一八 | 二、一〇三 | 一、五〇〇 | 九七四 | 八二二 | 八二二 | 七四〇 | 五八八 | 四四六 | 三七七 | 二一四 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十七年 | 四、三〇〇 | 三、七三三 | 三、二九〇 | 二、七六九 | 二、四六二 | 二、一四七 | 一、五三二 | 九九八 | 八三三 | 八三三 | 七五〇 | 五九九 | 四五六 | 三八八 | 二一五 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十八年 | 四、三五〇 | 三、七七六 | 三、三三四 | 二、八一九 | 二、五〇五 | 二、一八八 | 一、五六五 | 九九〇 | 八四四 | 八四四 | 七六〇 | 六〇〇 | 四六七 | 三九九 | 二一六 | 一九〇 | 一七〇 |
| 四十九年 | 四、四〇〇 | 三、八二〇 | 三、三七八 | 二、八四九 | 二、五四九 | 二、二二九 | 一、五九七 | 一〇一〇 | 八五五 | 八五五 | 七七〇 | 六〇〇 | 四七八 | 四〇〇 | 二一七 | 一九〇 | 一七〇 |

恩給法 別表

2011

(第二號表)

| 號 | 乙 | 號 | 甲 | 傷病原因 | | 階等 | 親任 | 勅任 | 將官 | 奏任 | 判任 | 下 | 士 | 兵 | 卒 |
|----|------|----|--------|------|------|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|
| | | | | 原因 | 症狀等差 | | | | | | | | | | |
| 第十 | 普通公務 | 第十 | 戰闘又ハ職闘 | 特 | 特 | 特 | 特 | 特 | 特 | 特 | 特 | 特 | 特 | 特 | 特 |
| 第九 | 普通公務 | 第九 | 戰闘又ハ職闘 | 別 | 別 | 別 | 別 | 別 | 別 | 別 | 別 | 別 | 別 | 別 | 別 |
| 第八 | 普通公務 | 第八 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第七 | 普通公務 | 第七 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第六 | 普通公務 | 第六 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第五 | 普通公務 | 第五 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第四 | 普通公務 | 第四 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第三 | 普通公務 | 第三 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第二 | 普通公務 | 第二 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第一 | 普通公務 | 第一 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第十 | 普通公務 | 第十 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第九 | 普通公務 | 第九 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第八 | 普通公務 | 第八 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第七 | 普通公務 | 第七 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第六 | 普通公務 | 第六 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第五 | 普通公務 | 第五 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第四 | 普通公務 | 第四 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第三 | 普通公務 | 第三 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第二 | 普通公務 | 第二 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第一 | 普通公務 | 第一 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第十 | 普通公務 | 第十 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第九 | 普通公務 | 第九 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第八 | 普通公務 | 第八 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第七 | 普通公務 | 第七 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第六 | 普通公務 | 第六 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第五 | 普通公務 | 第五 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第四 | 普通公務 | 第四 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第三 | 普通公務 | 第三 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第二 | 普通公務 | 第二 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |
| 第一 | 普通公務 | 第一 | 戰闘又ハ職闘 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 | 項 |

五十年 四、四〇〇 三、八六三 三、三三九 二、七三三 二、三三〇 一、九三三 一、三八八 一、〇一五 八三七 七二二 五五八 五三八 四九八 四三四 四一四 三九九 三八四

備考 特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以内ヲ加ヘタルモノトス (第三號表)

| 號 | 甲 | 傷病原因 | 症狀等差 | 下 | 士 | 兵 | 卒 | 號 | 乙 | 傷病原因 | 症狀等差 | 下 | 士 | 兵 | 卒 |
|----|--------|------|------|----|-------|---|-------|----|------|------|------|----|-------|---|-------|
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第十 | 戰闘又ハ職闘 | 第一 | 第一 | 第一 | 一、六五〇 | | 一、五〇〇 | 第十 | 普通公務 | 第一 | 第一 | 第一 | 一、三三〇 | | 一、二〇〇 |
| 第九 | 戰闘又ハ職闘 | 第二 | 第二 | 第二 | 一、四八五 | | 一、三五〇 | 第九 | 普通公務 | 第二 | 第二 | 第二 | 一、一八八 | | 一、〇八〇 |
| 第八 | 戰闘又ハ職闘 | 第三 | 第三 | 第三 | 一、三二〇 | | 一、二〇〇 | 第八 | 普通公務 | 第三 | 第三 | 第三 | 一、〇五六 | | 九六〇 |
| 第七 | 戰闘又ハ職闘 | 第四 | 第四 | 第四 | 一、一五五 | | 一、〇五〇 | 第七 | 普通公務 | 第四 | 第四 | 第四 | 九二四 | | 八四〇 |
| 第六 | 戰闘又ハ職闘 | 第五 | 第五 | 第五 | 九九〇 | | 九〇〇 | 第六 | 普通公務 | 第五 | 第五 | 第五 | 七九二 | | 七二〇 |
| 第五 | 戰闘又ハ職闘 | 第六 | 第六 | 第六 | 八二五 | | 七五〇 | 第五 | 普通公務 | 第六 | 第六 | 第六 | 六六〇 | | 六〇〇 |
| 第四 | 戰闘又ハ職闘 | 第七 | 第七 | 第七 | 六六〇 | | 六〇〇 | 第四 | 普通公務 | 第七 | 第七 | 第七 | 五二八 | | 四八〇 |
| 第三 | 戰闘又ハ職闘 | 第八 | 第八 | 第八 | 四九五 | | 四五〇 | 第三 | 普通公務 | 第八 | 第八 | 第八 | 三九六 | | 三六〇 |
| 第二 | 戰闘又ハ職闘 | 第九 | 第九 | 第九 | 三三〇 | | 三〇〇 | 第二 | 普通公務 | 第九 | 第九 | 第九 | 二六四 | | 二四〇 |
| 第一 | 戰闘又ハ職闘 | 第十 | 第十 | 第十 | 一六五 | | 一五〇 | 第一 | 普通公務 | 第十 | 第十 | 第十 | 一三二 | | 一二〇 |

(第四號表)

| 在職年數 | 階等 | 將官及相當官 | 佐尉官及相當官 | 准士官 | 下 |
|------|----|--------|---------|-----|-----|
| 一 | 親任 | 高等 | 一等 | 二等 | 三等 |
| 二 | 親任 | 高等 | 二等 | 三等 | 四等 |
| 三 | 親任 | 高等 | 三等 | 四等 | 五等 |
| 四 | 親任 | 高等 | 四等 | 五等 | 六等 |
| 五 | 親任 | 高等 | 五等 | 六等 | 七等 |
| 六 | 親任 | 高等 | 六等 | 七等 | 八等 |
| 七 | 親任 | 高等 | 七等 | 八等 | 九等 |
| 八 | 親任 | 高等 | 八等 | 九等 | 十等 |
| 九 | 親任 | 高等 | 九等 | 十等 | 十一等 |
| 十 | 親任 | 高等 | 十等 | 十一等 | 十二等 |

恩給法 別表

2011

Table with 10 columns (years 1910-1920) and 10 rows of numerical data representing grant amounts.

恩給法施行令 (大正十二年八月十七日)

改正、大一一勅五二〇、大一一勅五... 一、勅四〇七、大一一勅五三、大... 一五一勅二四四、勅三〇四、昭二一... 勅三六二

恩給法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 恩給法施行令 第一條 恩給法第十條ノ規定ニ依リ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ハ扶助料ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ニ依ル...

恩給法第十條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未ダ恩給ノ請求ヲ爲サザリシトキハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ恩給ノ請求ヲ爲スコトヲ得 裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ死亡者ノ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ指定ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣又ハ關東長官ノ指定ニ依ル 恩給法第二十二條第三項ノ遺教育職員トハ教授心得、助教授心得、教諭心得、助教諭心得、進訓導及判任官ノ待遇ヲ受ケル保母ニシテ專任教員タルモノヲ謂フ

給ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督(道ノ警部補、巡查及消防手並其ノ遺族ノ恩給ハ道知事)、臺灣ニ在リテハ臺灣總督(州又ハ廳ノ警部補及巡查並其ノ遺族ノ恩給ハ州知事又ハ廳長)、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ裁定ス

分擔請求額ニ付在職年數ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ割合ニ依リ其ノ基礎タル在職年數ニ加算ス 一 恩給法第六十二條第三項ノ規定ニ依リ加給スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ動機在職年ノ一年ニ付一年

前項ノ指定ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣又ハ關東長官ノ指定ニ依ル 恩給法第二十二條第三項ノ遺教育職員トハ教授心得、助教授心得、教諭心得、助教諭心得、進訓導及判任官ノ待遇ヲ受ケル保母ニシテ專任教員タルモノヲ謂フ

第四條 恩給法第十七條第一項ノ規定ニ依リ分擔スヘキ恩給ハ普通恩給及扶助料トシ國庫力恩給金額ノ分擔ヲ請求スル場合ニ於テハ當該公務員ノ在職年中ニ恩給ノ負擔者ヲ異ニス(キニ種以上ノ公務員ノ在職年ヲ合ムトキハ各在職年ノ年數ヲ其ノ各官職ノ最終ノ俸給年額(下七以下ノ軍人及之ニ相當スル進軍人ニ付テハ別表第一號表ノ金額ヲ俸給年額ト看做ス)ニ乘シタル數ニ比例シテ分擔請求額ヲ定ム

分擔請求額ニ付在職年數ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ割合ニ依リ其ノ基礎タル在職年數ニ加算ス 一 恩給法第六十二條第三項ノ規定ニ依リ加給スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ動機在職年ノ一年ニ付一年 二 恩給法第六十條第三項、第六十一條第四項、第六十二條第七項、第六十三條第五項又ハ第六十四條第三項ノ規定ニ依リ外國勤務ニ因リ加給スヘキ場合又ハ同法第六十二條第四項又ハ同法第六十三條第三項ノ規定ニ依リ加給スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ動機在職年ノ一年ニ付六月

前項ノ指定ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣又ハ關東長官ノ指定ニ依ル 恩給法第二十二條第三項ノ遺教育職員トハ教授心得、助教授心得、教諭心得、助教諭心得、進訓導及判任官ノ待遇ヲ受ケル保母ニシテ專任教員タルモノヲ謂フ

恩給法施行令

恩給法施行令

員(市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)
 十六 關東州地方待遇職員令ニ依ル地方ノ産業、土木又ハ衛生ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員
 十一條 恩給法第二十四條第四號ノ待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ
 一 造船及專賣官(昭和二年勅令第三百六十二號ヲ以テ本號ヲ追加、第一號ヲ第二號トシ以下順次繰下シ)
 二 陸軍ノ通譯ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
 三 韓國神社附屬遊藝館職員ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
 四 鐵道醫
 五 北海道廳事業手
 六 朝鮮ニ於ケル監獄ノ藥劑師鐵道醫及鐵道藥劑師並ニ臺灣ニ於ケル警察醫(大正十五年勅令第三百四號ヲ以テ本號ヲ改正)
 七 臺灣又ハ關東州ニ於ケル檢疫員及檢疫醫員
 第十二條 恩給法第三十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依リ外左ノ各號ノ例ニ依ル
 一 戰爭開始後戰地ニ到リタル者ニ付テハ戰地ニ到ルヘキ事由ノ生シタル當時所在スル地ノ屬スル地域ヲ離レタル月ヨリ加算ス
 二 戰中戰地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ其ノ歸還スヘキ地ノ屬スル地域ニ到リタル月迄加算ス
 前項ノ地域トハ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島及之ニ準スヘキ外國ノ地區ヲ謂フ
 恩給法第三十二條第一項第二號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依リ外左ノ各號ノ例ニ依ル

ノ外左ノ各號ノ例ニ依ル
 一 勤員(之ニ進スルモノヲ含ム)部隊ニ編入セラレタル者ニ付テハ編入ノ月、勤員(之ニ進スルモノヲ含ム)下令前ヨリ其ノ部隊ニ在リタル者ニ付テハ其ノ下令ノ月ヨリ加算ス
 二 戰爭開始後戰務ニ服スヘキ地ニ到リタル者及戰爭中其ノ地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用ス
 前二項ノ規定ハ恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依リ加算ニ付テラ進用ス
 第十三條 恩給法第三十五條ノ規定ニ依リ鐵道加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依リ外公務員鐵道ノ爲内國ヲ出發シタルキハ内國ヲ離レタル月ヨリ加算シ鐵道ノ終了後直ニ内國ニ歸還シタルキハ内國歸著ノ月迄加算ス
 第十四條 恩給法第三十六條ノ規定ニ依リ航空加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ左ノ區分ニ依ル
 一 同月内ニ於テ飛行時數五時間以上飛行機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルキ又ハ航空機ニ搭乘シ特ニ危險ト認ムル航空試驗ニ從事シタルキハ其ノ一月ニ付一月半
 二 同月内ニ於テ飛行時數一時間以上飛行機ニ搭乘シ又ハ五時間以上航空船、航行中ノ船舶緊要ノ氣球若ハ自由氣球ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルキハ其ノ一月ニ付一月
 三 前二號ニ掲クルモノヲ除クノ外航空機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルキハ其ノ一月ニ付半月
 第十五條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ加算スヘキ邊陲又ハ不健康ノ地域及其ノ加算ノ程度ハ別表第二號表ニ依リ第十六條 邊陲又ハ不健康ノ地域ノ加算ハ在勤地外ノ地ヨリ

其ノ在勤地ニ赴任シタル者ニ付テハ在勤地ニ到リタル月ヨリ、其ノ地ニ在リテ就職シタル者ニ付テハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ其ノ在勤地ニ在リタル月ヨリ以テ終ル
 前項ノ地域ニ在勤中引續キ九十日以上其ノ地域ヲ離レタルキハ全ク地域ヲ離レタル月ニ對シテハ邊陲又ハ不健康ノ地域ノ加算ヲ爲サス
 第十七條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ不健康業務ノ加算ハ一月ニ付半月トス其ノ業務左ノ如シ
 一 有毒ノ瓦斯若ハ蒸氣、爆藥類又ハ危險ナル細菌ノ研究又ハ製造ニ直接ニ從事スル勤務ニシテ内閣總理大臣ノ指定スルモノ
 二 排水量千噸以下ノ在役ノ驅逐艦若ハ掃海艇乗員トシテノ勤務又ハ鐵道事業ニ於ケル蒸氣機關車乗員トシテノ現業勤務
 三 炭坑内切羽ニ於ケル連續的現業勤務
 四 肺結核、喉頭結核又ハ癩ノ患者ヲ收容スル病室ニ於テ直接看護ニ從事スル勤務
 前項ノ規定スル業務ニ從事中引續キ三十日以上服務セザルキハ全ク服務セザル月ニ對シテ不健康業務ノ加算ヲ爲サス
 第十八條 恩給法第三十九條ノ邊陲航海トハ北緯五十度以北、東經六十度以東、東經六十度北緯四十度ノ點ト東經四十度北緯二十度ノ點トヲ連接スル線ノ以東以南、北緯二十度以南及東經百十度以西ノ海面ヲ航行シ一航程千哩ヲ超ルル航海ヲ謂フ
 第十九條 航海加算ハ初發港出發ヨリ之ニ歸著シ又ハ到達港ニ達スル迄ノ期間ニ對シテ之ヲ爲ス但シ出發ニ當リ内國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ヲ離レタル月ヨリ加算シ歸著ニ際シ内國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ニ到著シ

タル月迄加算ス
 航海中引續キ三十日以上航行セザルキハ全ク航行セザル月ニ對シテハ航海加算ヲ爲サス
 第二十條 恩給法第四十四條ノ本條ニ進スヘキモノトハ左ニ掲クルモノヲ謂フ
 一 年功ニ因リ加算
 二 府縣知事ノ指定地加算
 三 官立又ハ公立ノ大學ノ教授又ハ助教ノ職務俸
 四 第一號ニ掲クルモノヲ除クノ外市町村立小學校教員加算令ニ依リ加算
 五 警察監獄職員ノ精勤加算及功勞加算
 第二十一條 恩給法第四十八條第一項第一號ニ規定スル流行病及地域ハ別表第三號表ニ依ル
 第二十二條 恩給法第四十八條第一項第二號ノ流行病ノ種類左ノ如シ
 一 マラリア(黒水熱ヲ含ム)
 二 猩紅熱
 三 コレラ
 四 脚氣(戰地ニ限ル)
 五 發疹チフス
 六 癩チフス
 七 パラチフス
 八 ベルチフス
 九 同歸熱
 十 赤痢
 十一 流行性腦脊髄膜炎
 十二 流行性感冒
 十三 肺チフス
 十四 トリパノゾム病
 十五 ワイルス氏病

十六 カラアザ
 十七 黃熱
 第十八條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依リ戰闘ニ進スヘキ公務ニ因リ傷疾ヲ患ヘタルモノヲ謂フ
 一 戰地ニ於テ勤務中敵ノ設置若ハ遺棄シタル危險物ニ因リ又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因リ傷疾ヲ患ヘタルモノ
 二 暴徒襲撃又ハ集團ヲ爲ス馬賊海賊等討伐中ノ敵對行動ニ因リ又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因リ傷疾ヲ患ヘタルモノ
 三 外國ノ交戦若ハ擾亂ノ地域内ニ於テ勤務中又ハ該地域内ノ職務ヲ以テ旅行中ニ於ケル該交戦又ハ擾亂ニ因リ傷疾ヲ患ヘタルモノ
 四 航空機ニ乘シ航空勤務中又ハ潜水艦ニ乘シ潛航勤務中ノ不可抗力ニ因リ傷疾ヲ患ヘタルモノ
 五 職務ヲ以テ兇賊又ハ脱獄囚ヲ逮捕スルニ當リ危害ヲ加ヘタルヘキコトヲ豫斷シ得ルニ拘ラス危險ヲ冒シテ其ノ職務ヲ執行シタル爲メ加ヘラレタル傷疾ヲ患ヘタルモノ
 六 職務ヲ以テコレラ又ハバラストノ防疫、診療又ハ看護ニ直接從事シ之ヲ爲シタル該疾病
 第二十四條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依リ不具發疾ノ程度ヲ分テ左ノ七項トス
 特別項症
 一 常ニ就床ヲ要シ且復雜ナル介護ヲ要スルモノ
 二 重大ナル精神障礙ノ爲常ニ監視又ハ復雜ナル介護ヲ要スルモノ
 三 身體諸部ノ障礙ヲ綜合シテ其ノ程度第一項症ニ第一項症乃至第六項症ヲ加ヘタルモノ
 第一項症
 一 複雑ナル介護ヲ要セザルモ常ニ就床ヲ要スルモノ
 二 精神的又ハ身體的作業能力ヲ失ヒ僅ニ自用ヲ辨シ

得ルニ過セザルモノ
 一 咀嚼及言語ノ機能ヲ併セ復シタルモノ
 二 兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得タルモノ
 三 肘關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ
 四 膝關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ
 五 兩耳ノ聽力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得タルモノ
 六 兩耳ノ聽力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得タルモノ
 第三項症
 一 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
 二 兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得タルモノ
 三 肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
 四 膝關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
 五 兩耳ノ聽力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得タルモノ
 第四項症
 一 泌尿器ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
 二 兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得タルモノ
 三 肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
 四 足關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
 第五項症
 一 鼻ヲ失ヒ其ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
 二 頭部、顔面等ニ大ナル畸形ヲ殘シタルモノ
 三 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテ

恩給法施行令

恩給法施行令

第六項 一 側指全失ヒタルモノ
二 一側指全失ヒタルモノ
三 一側指全失ヒタルモノ
四 一側指全失ヒタルモノ

一 教育職員ノ階等ハ其ノ官等及ハ待遇官等
二 教育職員ノ階等ハ公立學校職員待遇官等
三 教育職員ノ階等ハ公立學校職員待遇官等

一 一側指全失ヒタルモノ
二 一側指全失ヒタルモノ
三 一側指全失ヒタルモノ
四 一側指全失ヒタルモノ

恩給法施行令

第八款 一 側小指全失ヒタルモノ
二 側小指全失ヒタルモノ
三 側小指全失ヒタルモノ
四 側小指全失ヒタルモノ

一 軍人以外ノ公務員ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料
二 軍人又ハ進軍人ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料
三 軍人又ハ進軍人ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料

附則 本令ハ大正十二年十月一日ヨリ施行ス
明治二十四年勅令第二百四十八號
明治二十七年勅令第五十二號

恩給法施行令

明治三十四年勅令第百五十號

明治三十五年勅令第百五十七號

明治四十一年勅令第百三十七號

明治四十四年勅令第百二十七號

明治四十四年勅令第七十號

大正六年勅令第百四十一號

大正六年勅令第百四十二號

大正九年勅令第百二十三號

明治十八年第十五號逓官吏恩給令附則

明治十八年第十六號逓文官傷寒疾病等差例

明治十八年第四十號逓陸軍恩給令附則

第四十條 第十條各號ニ掲クル官制ニ依リ廢止セラレタル官制

又ハ其レニ依リ廢止セラレタル官制ニ依リテ判任官以上ノ待

遇ヲ受ケタル職員ハ在職年通算ノ關係ニ於テハ之ヲ當該各

號ニ掲クル官制ニ依ル職員ト看做ス

附則 (大正十二年勅令第五百二十號附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十條ノ規定ハ大正十

二年十月一日ヨリ之ヲ適用ス

附則 (大正十三年勅令第五十一號附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ水雷艇乗員トシテノ勤務ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附則 (大正十三年勅令第四百七號附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

港務部設置制ニ依ル待遇職員ハ仍之ヲ第十條第六號ニ掲ク

ル待遇職員ト看做ス

附則 (大正十五年勅令第二百四十四號附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

郡判任官ハ仍之ヲ第六條第一號ニ掲クル文官ト看做ス

附則 (大正十五年勅令第三百四號附則)

本令ハ大正十五年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和二年勅令第三百六十二號附則)

本令ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別表略ス)

新法令

●新法令目次

- 選舉運動ノ爲ニスル文書圖書ニ關スル件中改正(昭四一内令三).....一
- 衆議院議員選舉法施行令中改正(昭三一勅二六四).....一
- 衆議院議員選舉法施行規則中改正(昭三一内令四〇).....二
- 高等試驗令改正(昭四一勅一五).....二
- 高等試驗令施行細則中改正(昭四一關令一).....四
- 高等試驗令七、八條ニ關スル件中改正(昭四一文令二八).....四
- 高等試驗施行要綱(昭四一關告一).....五
- 不動産登記法施行細則中改正(昭四一司令一六).....五
- 借地借家臨時處理法中改正(昭四一法七).....五
- 小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件中改正(昭四一勅一四一).....六
- 供託物取扱規則中改正(昭三一司令八).....六

- 商法第五百三十四條ノ二ノ規定ニ依ル手形交換所(明治四十四年司法省令第二十四號)中改正(昭三一司令二)(昭三一司令九)(昭三一司令一〇)(昭三一司令一二)(昭三一司令一六)(昭四一司令一).....六
- 民事訴訟法中改正法律外十一件施行期日ノ件(昭四一勅一〇五).....七
- 非訟事件手續法中改正(昭四一法六〇).....七
- 治安維持法中改正(昭三一緊勅一二九).....八
- 司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件中改正(昭三一勅二三八).....八
- 陪審法中改正(昭四一法五一).....八
- 陪審法施行期日ノ件(昭三一勅一六五).....九
- 陪審法ヲ準テニ施行スルノ件(昭三一勅一六六).....九
- 陪審法施行規則中改正(昭三一司令一八).....九
- 陪審員旅費日當及止宿料規則(昭三一勅二三四).....二

- 監獄法施行規則中改正(昭三一司令四).....二
- 府縣制中改正(昭四一法五五).....三
- 地方議會議員ノ選舉運動ノ爲ニスル文書圖書ニ關スル件中改正(昭四一内令四).....三
- 市制中改正(昭四一法五六).....三
- 府縣制準用選舉市區指定令中改正(昭三一勅七五)(昭三一勅二二〇).....三
- 町村制中改正(昭四一法五七).....三
- 市制町村制施行規則中改正(昭三一内令三九).....三
- 登録税法中改正(昭四一法六三).....三
- 府縣制施行令第三十九條ノ規定ニ依リ府縣稅ヲ指定(昭四一内令一四).....三
- 市制町村制施行令第五十三條ノ規定ニ依リ市町村稅ヲ指定(昭四一内令一五).....三
- 工場法中改正(昭四一法二一).....三
- 健康保險法中改正(昭四一法二〇).....三
- 健康保險法中改正法律施行期日ノ

件(昭四一勅一四二).....三三
 ○健康保険法施行令中改正(昭四一勅一四三).....三三
 ●鐵道營業法中改正(昭四一法三八).....三三
 ●取引所法中改正(昭四一法二九).....三四
 ●信託業法中改正(昭四一法六七).....三五
 ●特許法中改正(昭四一法四七).....三五
 ○實用新案法中改正(昭四一法四八).....三七
 ○意匠法中改正(昭四一法四九).....三八
 ○商標法中改正(昭四一法五〇).....三八
 ○恩給法施行令中改正(昭三一勅七三).....三九
 ●救護法(昭四一法三九).....三九
 ●圖書保存法(昭四一法一七).....三一
 ●資源調査法(昭四一法五三).....三三

●選舉運動ノ爲ニスル文書圖書ニ關スル件
 中改正

(昭和四年二月十九日
 内務省令第三號)

大正十五年二月内務省令第五號選舉運動ノ爲ニスル文書圖書ニ關スル件申左ノ通改ム
 第二條中「シ又ハ揭示」及「張札ノ類」ヲ削リ「三尺一寸」ヲ「一尺二寸」ニ改ム
 第三條中「百箇」ヲ「百五十箇」ニ改ム
 第七條左ノ通改ム
 第七條 選舉運動ノ爲ニスル文書圖書ハ立札、看板ノ類ヲ除ク外之ヲ貼付シ又ハ揭示スルコトヲ得ス但シ演說會ノ爲ニスル張札ニシテ其ノ會場ニ於テ使用スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 選舉運動ノ爲ニスル立札、看板ノ類ハ承諾ヲ得シテ他人ノ土地又ハ工作物ニ之ヲ揭示スルコトヲ得ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●衆議院議員選舉法施行令中改正

(昭和三年十一月六日
 勅令第二百六十四號)

股權密開問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選舉法施行令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 衆議院議員選舉法施行令申左ノ通改正ス

第十三章ノ二 市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル選舉ノ施行

第九條ノ二 選舉區ノ境界ニ涉リテ境界ノ變更アリタル市町村ニ於テ行フ衆議院議員選舉法第七十五條及第七十九條ノ選舉ニ付テハ同法第二條ノ市町村ノ區域ハ最近ニ總選舉ノ行ハレタル市町村ノ區域トシ選舉ニ關スル事務ヲ管理スベキ市町村長ハ關係市町村長數人アルトキハ其ノ者ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者トス
 第九條ノ三 前條ノ選舉ヲ行フ場合ニ於テハ關係市町村長ハ選舉前選舉人名簿中市町村ノ境界ノ變更ニ因リ異動アリタル區域ニ係ル部分ヲ投票管理ニ送付スベシ
 第九條ノ四 第九條ノ二ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第三條ノ都市ノ區域ハ最近ニ總選舉ノ行ハレタル都市ノ區域トシ投票管理ニ係ル者アルトキ支廳長又ハ市長ハ關係支廳長又ハ市長數人アルトキハ其ノ者ノ中ニ就キ地方長官ノ指定スル者トス
 第九條ノ五 府縣ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル第九條ノ二ノ選舉ニ付テハ選舉ニ關スル事務ヲ管理スベキ地方長官ハ其ノ異動アリタル區域ガ最近ニ總選舉ノ際ニ於テ府縣ノ地方長官トス

附則

第九條ノ六 第九條ノ二ノ選舉ニ關スル費用ニシテ第六十九條乃至第七十二條ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル
 第九條ノ七 左ノ場合ニ於テ選舉又ハ投票ヲ行フベキ區域ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタルトキハ其ノ選舉又ハ投票ニ付テハ前五條ノ規定ヲ準用ス
 一 選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行フトキ(市町村ノ境界ノ變更ガ選舉區ノ境界ニ涉ル場合ヲ除ク)
 二 衆議院議員選舉法第三十七條ノ投票ヲ行フトキ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ公布ノ日ヨリ以前ニ於テ市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於ケル選舉又ハ投票ニ付テモ亦之ヲ適用ス

衆議院議員選舉法施行規則中改正

(昭和三年十一月六日) 內務省令第四十號

衆議院議員選舉法施行規則中左ノ通改正ス
第十三條 府縣ノ境界ニ涉リテ市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於テ...

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス
本令ハ公布ノ日以前ニ於テ市町村ノ境界ノ變更アリタル場合ニ於テ...

二關又ハ中野五

高等試驗令改正

(昭和四年三月二十八日) 勅令第十五號

朕臨御間ノ諮詢ヲ經テ高等試驗令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
高等試驗令
第一條 委任文官ノ任用資格試驗、外交官及領事官ノ任用資格試驗...

第一條 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
第二條 破産者ニシテ復讐ヲ得ザル者
第三條 高等試驗ニ合格シタル者ニ非ザレバ本試驗ヲ受クルコトヲ得ズ...

高等試驗令改正

- 六 政治學
七 國史
八 政治史
九 經濟史
十 國文及漢文
十一 國文
十二 民法
十三 國際公法
十四 民事訴訟法
十五 刑事訴訟法
十六 財政學
十七 農業政策
十八 商業政策
十九 工業政策
二十 社會政策

- 一 哲學概論
二 倫理學
三 論理學
四 心理學
五 社會學
六 政治學
七 國史
八 經濟史
九 外交史
十 國文及漢文
十一 民法
十二 刑法
十三 國際私法
十四 行政法
十五 國際公法
十六 財政學
十七 商業政策
十八 社會政策
十九 農業政策

- 一 哲學概論
二 倫理學
三 論理學
四 心理學
五 社會學
六 國史
七 國文及漢文
八 行政法
九 破産法
十 國際公法
十一 民事訴訟法又ハ刑事訴訟法(受驗者ヲシテ豫メ一種ヲ選擇セシム)
十二 國際私法
十三 經濟學
十四 社會政策
十五 刑事政策

小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件中改正 供託物取扱規則中改正
商法第五百三十四條ノ二ノ規定ニ依ル手形交換所(明治四十四年司法省令第二十四號)中改正

●小作調停法ノ施行期日及施行外地區指定ノ件中改正

(昭和四年五月二十九日)
勅令第四百一十一號
大正十三年勅令第二百二十八號中左ノ通改正ス
第二項中「官城縣」「岩手縣」及「青森縣」ヲ削ル
附則
本令ハ昭和四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●供託物取扱規則中改正

(昭和三年六月二日)
司法省令第八號
供託物取扱規則中左ノ通改正ス
第三條ノ二第一項ヲ左ノ如ク改ム
供託金又ハ供託有價證券ノ受入ヲ取扱フ供託局ニ金錢
又ハ有價證券ノ供託ヲ爲サムル者ハ第二條ノ供託書ト
共ニ供託金又ハ供託有價證券ヲ提出スヘシ
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●商法第五百三十四條ノ二ノ規定ニ依ル手形交換所(明治四十四年司法省令第二十四號)中改正

(昭和三年三月十四日)
司法省令第二號
明治四十四年司法省令第二十四號中左ノ通改正ス
別表中名稱欄「關門手形交換所」ノ次ニ「久留米手形交換所」ヲ所在地欄「福岡縣門司市」ノ次ニ「福岡縣久留米市」ヲ加フ
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●不備登記簿未就訂正願中改正

(昭和三年六月十一日)
司法省令第九號
明治四十四年司法省令第二十四號中左ノ通改正ス
別表中名稱欄「久留米手形交換所」ノ次ニ「若松手形交換所」ヲ所在地欄「福岡縣久留米市」ノ次ニ「福岡縣若松市」ヲ加フ
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●不備登記簿未就訂正願中改正

(昭和三年六月十一日)
司法省令第九號
明治四十四年司法省令第二十四號中左ノ通改正ス
別表中名稱欄「久留米手形交換所」ノ次ニ「若松手形交換所」ヲ所在地欄「福岡縣久留米市」ノ次ニ「福岡縣若松市」ヲ加フ
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

「北海道旭川區」ラ「北海道旭川市」ニ改ム

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和三年六月二十二日)
司法省令第十二號
明治四十四年司法省令第二十四號中左ノ通改正ス
別表中名稱欄「旭川手形交換所」ノ次ニ「室蘭手形交換所」ヲ所在地欄「北海道旭川市」ノ次ニ「北海道室蘭市」ヲ加フ
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●民事訴訟法中改正法律外十一件施行期日ノ件

(昭和四年五月三日)
勅令第五百五號
朕大正十五年法律第六十一號民事訴訟法中改正法律外十一件施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
左ノ法律ハ昭和四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
大正十五年法律第六十一號
民事訴訟法中改正法律施行法
大正十五年法律第六十三號
大正十五年法律第六十四號
大正十五年法律第六十五號
大正十五年法律第六十六號
大正十五年法律第六十七號
大正十五年法律第六十八號
大正十五年法律第六十九號
大正十五年法律第七十號
大正十五年法律第七十一號
大正十五年法律第七十二號

●非訟事件手續法中改正

(昭和四年四月十八日)
法律第六十號
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル非訟事件手續法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
非訟事件手續法中左ノ通改正ス
第二十六條第一項ノ末尾ニ「地方鐵道法第六條ノ四第二項(軌道法第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ニ定ムタル事件亦同シ」ヲ加フ
第三十五條ノ五 地方鐵道法第六條ノ四第二項(軌道法第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ已ムコトヲ得サル事由ヲ證明シテ總取締役之ヲ爲スヘシ
第三十五條ノ六 前條ノ規定ニ依ル申請ニ付テハ裁判所ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ理由ヲ附シテ決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス
申請ヲ認許スル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
申請ヲ認許セザル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(昭和四年四月六日)
司法省令第十二號
明治四十四年司法省令第二十四號中左ノ通改正ス
別表中名稱欄「吳手形交換所」ノ次ニ「尾道手形交換所」ヲ所在地欄「廣島縣吳市」ノ次ニ「廣島縣尾道市」ヲ加フ
附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二關スル中改正五
一 辯護士法ニ於テハ「中改正」ノ語ヲ「辯護士」ニ改メ
二 同法警察官吏同法警察官吏

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

商法第五百三十四條ノ二ノ規定ニ依ル手形交換所(明治四十四年司法省令第二十四號)中改正
民事訴訟法中改正法律外十一件施行期日ノ件 非訟事件手續法中改正

治安維持法中改正
司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件中改正

●治安維持法中改正

(昭和三年六月二十九日)
警察勅令第百二十九號
(第五十六回帝國議會承認)

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ極密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ治安維持法中改正ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

治安維持法中左ノ通改正ス

第一條 團體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シテ之ヲ執行スル者ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニシテ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期懲役又ハ禁錮ニ處ス
私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニシテ行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第二條中「前條第一項」ヲ「前條第一項又ハ第二項」ニ改ム
第三條及第四條中「第一條第一項」ヲ「第一條第一項又ハ第二項」ニ改ム
第五條中「第一條第一項及」ヲ「第一條第一項第二項又ハ」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件中改正

(昭和三年十月三日)
勅令第百三十八號

朕大正十二年勅令第五百二十八號司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件中改正ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

大正十二年勅令第五百二十八號中左ノ通改正ス

第三條ノ二 警察官タル内務事務官及警察官補タル内務廳ハ特別高等警察事務又ハ外事警察事務ニ關係アル犯罪ニ付刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陪審法中改正

(昭和四年四月五日)
法律第五十一號

朕極密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル陪審法中改正法律ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

陪審法中左ノ通改正ス

第四條第四號ヲ第五號トシ第三號ヲ第四號トシ同條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
三 治安維持法ノ罪
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ付亦之ヲ適用ス

●陪審法施行期日ノ件

(昭和三年七月二十五日)
勅令第百六十五號

朕陪審法施行期日ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム
陪審法ハ昭和二年勅令第百四十四號ニ掲グル規定ヲ除クノ外昭和三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陪審法ヲ樺太ニ施行スルノ件

(昭和三年七月二十五日)
勅令第百六十六號

朕陪審法ヲ樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム
陪審法ハ昭和二年勅令第百四十五號ニ掲グル規定ヲ除クノ外昭和三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陪審法施行規則中改正

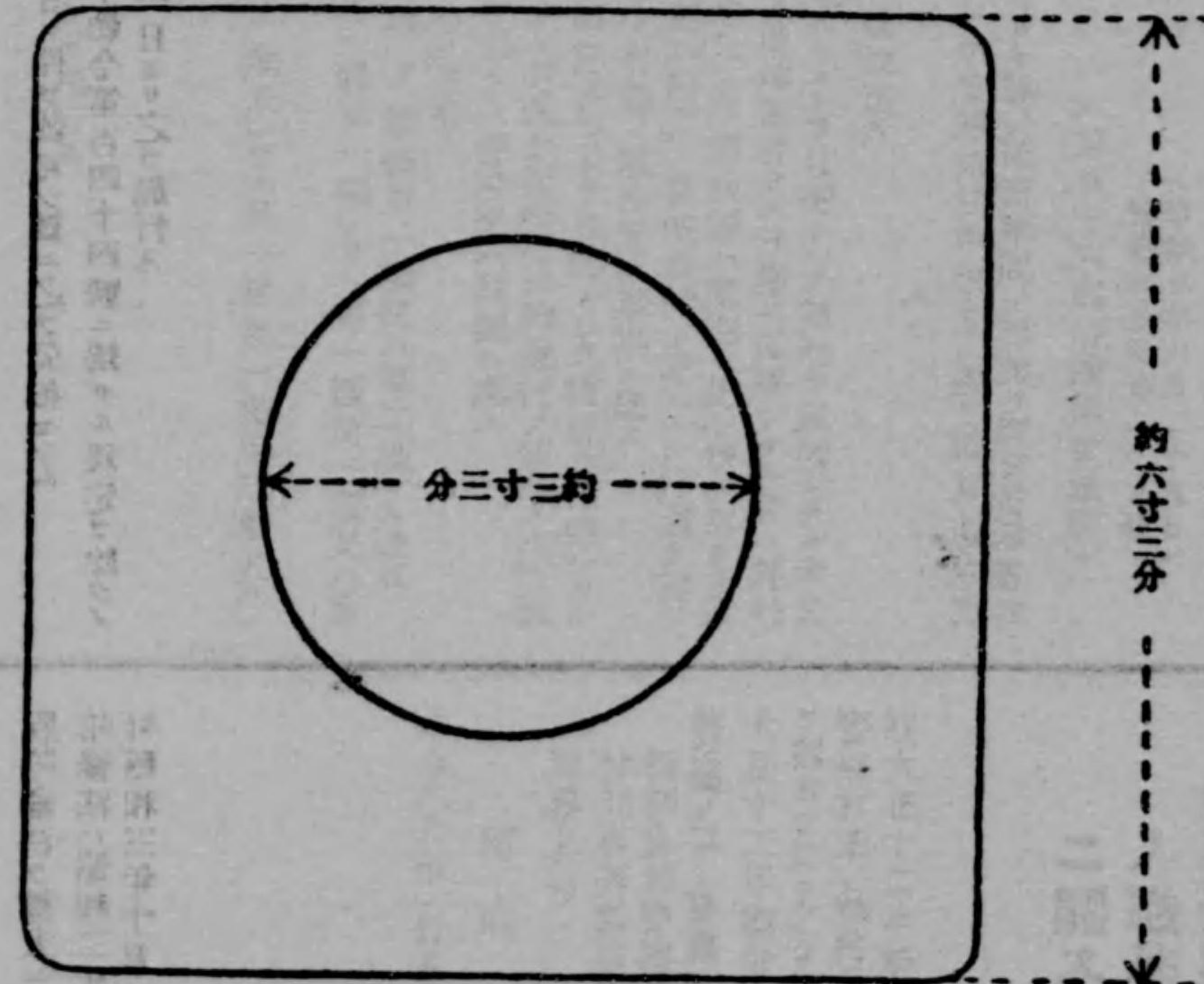
(昭和三年七月二十五日)
司法省令第百十八號

昭和二年司法省令第十六號陪審法施行規則中左ノ通改正ス
第十六條ノ次ニ左ノ各條ヲ加フ
第十七條 陪審法第二十七條及第六十一條第二項ノ抽籤ニ付テハ第十三條ニ定ムル様式ニ依リ抽籤函及審判票ヲ使用スヘシ
第十八條 陪審法第六十五條ノ氏名票及抽籤函ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
第十九條 地方裁判所長陪審法第二十六條ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタルキハ陪審員候補者名簿ノ欄外ニ其ノ自ラ記入捺印シ當該陪審員候補者ハ之ヲ陪審法第二十七條及第六十一條第二項ノ抽籤ヨリ除クヘシ
第二十條 地方裁判所長陪審法第二十七條ノ規定ニ依リ陪審員ヲ選定シタルキハ陪審員選定録ヲ調製スヘシ
第二十一條 陪審員選定録ハ毎年之ヲ編綴シテ帳簿ト爲シ翌年一月一日ヨリ五年間保存スヘシ
第二十二條 地方裁判所長陪審員ノ選定手續ヲ終リタルキハ陪審員氏名通知書ヲ作成シ之ヲ當該事件擔當ノ裁判長ニ送付スヘシ
第二十三條 陪審員選定録及陪審員氏名通知書ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム
第二十四條 裁判長ハ陪審員トシテ呼出ニ應ジタル者ノ氏名ヲ地方裁判所長ニ通知スヘシ
地方裁判所長前項ノ通知ヲ受ケタルキハ陪審員候補者名簿中當該氏名欄ニ朱印ヲ押捺スヘシ
附則
本令ハ昭和三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

陪審法施行期日ノ件
陪審法ヲ樺太ニ施行スルノ件
陪審法施行規則中改正

號四第 (記別) 式樣函籤抽及票名氏 製木 ヲメタ

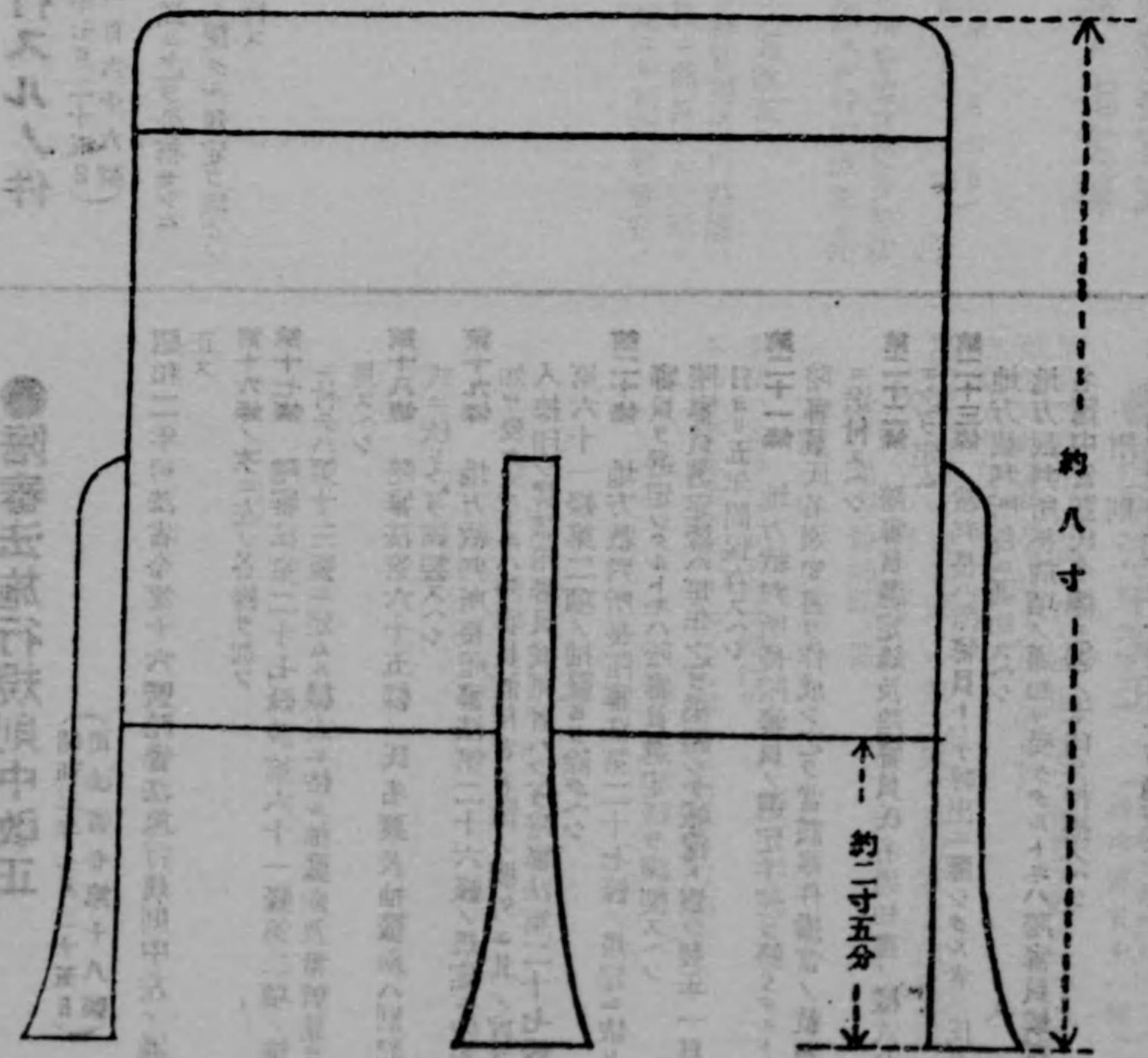
函 籤 抽



● 陪審員旅費日當

● 陪審員旅費日當及止宿料規則

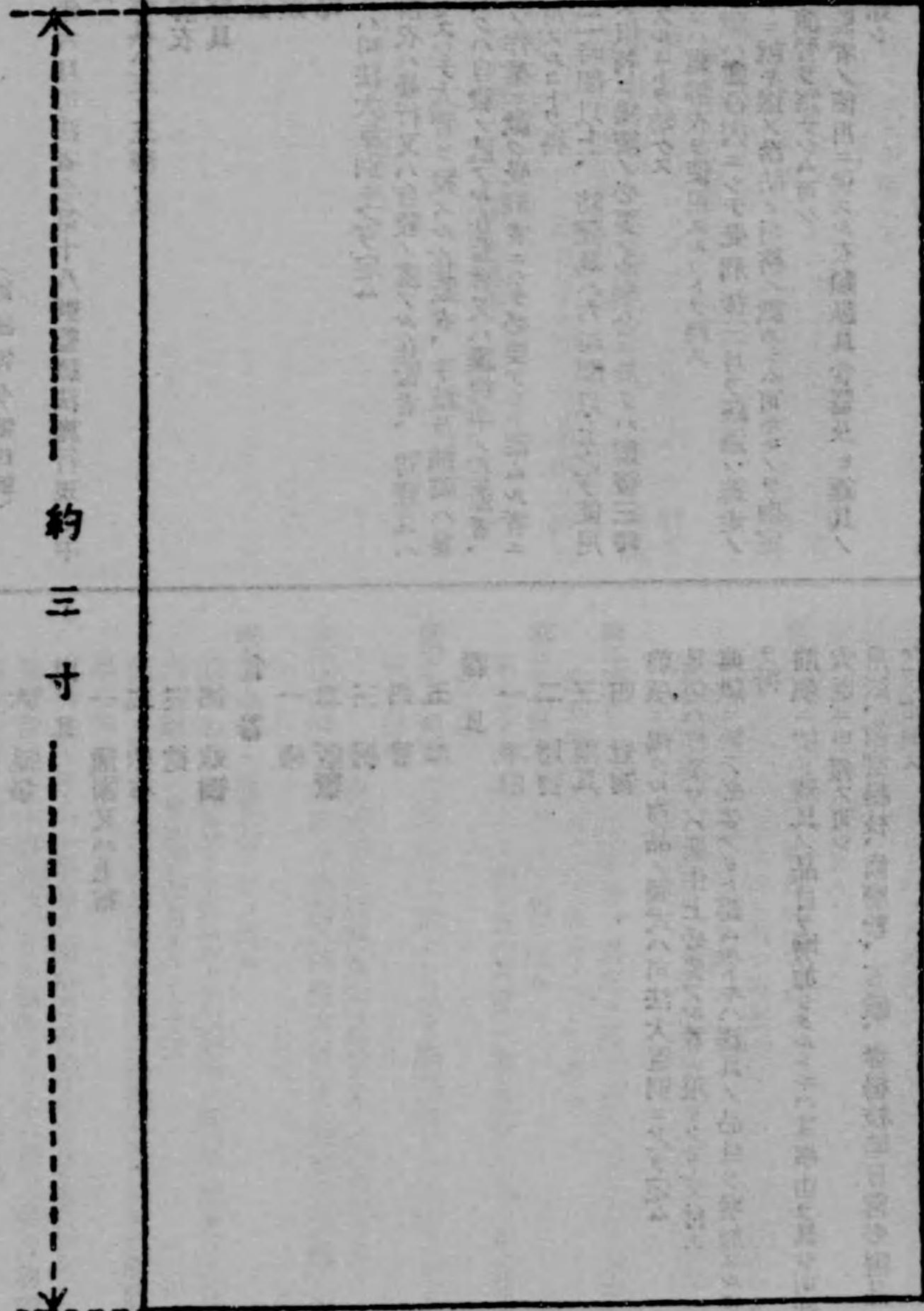
● 陪審員旅費日當及止宿料規則



氏 名 票

約一分八分

(實物大)



厚紙ヲ用フ

陪審法施行規則中改正

陪審員旅費日當及止宿料規則

● 陪審員旅費日當及止宿料規則

(昭和三年九月十八日勅令第二百三十四號)

朕陪審員旅費日當及止宿料規則ヲ發可シ茲ニ之ヲ公布セシム

△ 陪審員旅費日當及止宿料規則

- 第一條 陪審員ノ旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ通ル水路ニ在リテハ二等旅客運賃、運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ上級ノ運賃、其ノ等級ヲ設ケザルモノニ在リテハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃ニ依リ、汽船ヲ通ゼザル水路ニ在リテハ一海里毎二十五錢以内、其ノ他ニ在リテハ一里毎九十錢以内ニ於テ裁判所ノ定ムル額トス但シ一海里未満又ハ一里未満ノ端數ハ之ヲ切捨テ
- 第二條 陪審員ノ日當ハ公判ノ審理ニ關與シタル日ニ付テハ一日ニ付五圓、其ノ他ノ日ニ付テハ一日ニ付二圓五十錢トス
- 第三條 陪審員ノ止宿料ハ陪審員宿舍ニ止宿シタル場合ニ於テハ一夜ニ付二圓五十錢、其ノ他ノ場合ニ於テハ一夜ニ付五圓トス
- 第四條 陪審員ノ旅費、日當及止宿料ハ判決前ニ請求スルニ非ザレバ之ヲ給セズ

附 則

本令ハ昭和三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

監獄法施行規則中改正

(昭和三年四月九日) (司法省令第四號)

明治四十一年六月司法省令第十八號監獄法施行規則中左ノ通改正ス

- 一 戒具ハ左ノ五種トス
 - 二 防壁具
 - 三 手錠
 - 四 脚錠
 - 五 捕縄
- 戒具ノ製式ハ司法大臣別ニ之ヲ定ム
- 第五十條 監獄衣ハ暴行又ハ自殺ノ虞アル在監者、防壁具ハ制止ヲ背ンセシテ大聲ヲ發スル在監者、手錠及捕縄ハ暴行、逃走若クハ自殺ノ虞アル在監者又ハ護送中ノ在監者、脚錠ハ監外ノ作業ニ就ク受刑者ニシテ必要アリト認ムル者ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得
- 監獄衣ハ十二時間以上、防壁具ハ六時間以上之ヲ使用スルコトヲ得但特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ關後三時間毎ニ更新スルコトヲ妨ケス
- 第五十二條 典獄ハ懲役囚ニシテ受刑後三月ヲ經過シ逃走ノ虞ナキ者ノ中ニ就キ豫メ消防ノ用務ニ就カシム可キモノヲ指定シ隨時消防演習ヲ爲サシム可シ
- 第八十九條 在監者ノ使用ニ供スル衣類器具食器及ヒ雜具ノ品目ハ左ノ如シ

- 一 常衣
 - 二 作業衣
- 一 手巾
 - 二 履物
 - 三 雨具
 - 四 冠物
- 前項ニ掲グル物品ノ製式ハ司法大臣別ニ之ヲ定ム
- 足袋ハ作業又ハ衛生上必要アル者ニ限リ之ヲ交付ス
- 典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ雜具ノ品目ヲ増加スルコトヲ得
- 前項ニ依リ雜具ノ品目ヲ増加シタルトキハ其事由ヲ具シ司法大臣ニ申報ス可シ
- 用紙、齒磨粉、齒磨粉、石鹼、毒楊枝等日常必需品ハ之ヲ給與ス
- 第九十條 在監者ノ使用ニ供スル衣類器具及ヒ雜具ノ數ハ一人ニ付キ一箇トス但蚊帳ハ此限ニ在ラス

- 一 籠
 - 二 籠
 - 三 籠
 - 四 籠
 - 五 籠
 - 六 籠
 - 七 籠
 - 八 籠
 - 九 籠
 - 十 籠
 - 十一 籠
 - 十二 籠
 - 十三 籠
 - 十四 籠
 - 十五 籠
- 典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ニ掲グル數ヲ増減スルコトヲ得
- 前項ニ依リ簡數ノ増減ヲ爲シタルトキハ其事由ヲ具シ司法大臣ニ申報ス可シ
- 病者ノ使用ニ供スル衣類器具及ヒ雜具ノ數ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ増減スルコトヲ得
- 食器及ヒ日常必需品ノ數ハ典獄ニ於テ之ヲ定ム
- 第九十條ノ二 監房又ハ工場内ニ備フル器具ノ品目ハ左ノ如シ
- 一 籠
 - 二 籠
 - 三 籠
 - 四 籠
 - 五 籠
 - 六 籠
 - 七 籠
 - 八 籠
 - 九 籠
 - 十 籠
 - 十一 籠
 - 十二 籠
 - 十三 籠
 - 十四 籠
 - 十五 籠
- 前項ニ掲グル掃除用具ハ其用途ニ從ヒ區分シ得
- 機、履臺、調理用具及ヒ圖扇ハ必要アル場合ニ限リ之ヲ備
- 監房及ヒ工場ニハ第一項ノ品目並ニ數量ヲ記載シタル小札ヲ掲ク可シ
- 第九十五條ノ二 一月一日、紀元節、天長節、明治節其他特ニ司法大臣ノ指定シタル日ニ於テハ前二條ノ規定ニ拘ハラス

特別ノ糧食又ハ飲料ヲ給スルコトヲ得

- 第十四條 監獄法第四十三條ニ依リ在監者ヲ病院ニ移送シタルトキハ典獄ハ監獄醫ノ診斷書及ヒ移送シタル病院トノ協議書ヲ添ヘ司法大臣ニ申報ス可シ
 - 第十五條 左ノ但書ヲ加フ
 - 但十八歳未満ノ受刑者又ハ之ニ準スル處遇ヲ爲ス受刑者ノ授受スル信書ノ數ハ典獄ニ於テ教化上必要ト認ムル程度ヲ標準トシテ適宜之ヲ増加スルコトヲ得
 - 第十六條 第一項ニ左ノ但書ヲ加フ
 - 但十八歳未満ノ受刑者又ハ之ニ準スル處遇ヲ爲ス受刑者ノ授受スル信書ノ數ハ典獄ニ於テ教化上必要ト認ムル程度ヲ標準トシテ適宜之ヲ増加スルコトヲ得
 - 第十七條 第三項中「司法大臣ニ於テ認可シタル物」ヲ「教化上特ニ必要ト認ムル物」ニ改ム
 - 第五十六條中「五箇」ヲ「五箇」ニ改ム
- 附則
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

府縣制中改正

(昭和四年四月十五日) (法律第五十五號)

- 朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ府縣制中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 府縣制中左ノ通改正ス
- 第一條 府縣ハ府縣條例ヲ設クルコトヲ得
 - 府縣ハ府縣ノ營造物ニ關シ府縣條例ヲ以テ規定スルモノノ外府縣規則ヲ設クルコトヲ得
 - 府縣條例及府縣規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スベシ
 - 第五條第二項中「府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム」ヲ「府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ」ニ改ム
 - 第三十七條第八項左ノ如ク改ム
 - 第三十四條第八項ノ規定ハ第一項及前二項ノ場合ニ之ヲ適用ス
 - 第四十一條第一號第二號トシ以下順次繰下ケ同條ニ左ノ一號ヲ加フ
 - 一 府縣條例及府縣規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
 - 第四十四條中「府縣知事若ハ内務大臣」ヲ「關係行政廳」ニ改ム
 - 第五十條第三項左ノ如ク改ム
 - 府縣知事必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ三日以内府縣會ノ會期ヲ延長スルコトヲ得
 - 前項ノ規定ニ依リ府縣會ノ會期ヲ延長シタルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ告示スベシ
 - 臨時會ニ付スベキ事件ハ府縣知事豫メ之ヲ告示スベシ
 - 臨時會開會中急務ヲ要スル事件アルトキハ第二項及前項ノ規定ニ拘ラズ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得
 - 第五十一條第一項左ノ如ク改ム
 - 府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス議員定員ノ三分ノ一以上ヨ

- 府縣會ニ付スベキ事件ヲ示シテ臨時會招集ノ請求アルトキハ府縣知事ハ之ヲ招集スベシ
- 第五十五條 法令ニ依リ府縣會ニ於テ行フ選舉ニ付テハ第十八條、第二十七條及第二十九條ノ規定ヲ適用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ典獄アルトキハ府縣會之ヲ決定ス
- 府縣會ハ議員中與議ナキトキハ前項ノ選舉ニ付指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得
- 指名推選ノ法ヲ用フル場合ニ於テハ被指名者ヲ以テ當選者ト定ムベキヤ否ヲ會議ニ付シ議員全員ノ同意ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス
- 一ノ選舉ヲ以テ二人以上ヲ選舉スル場合ニ於テハ被指名者ヲ區分シテ前項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得
- 第五十七條ノ二 府縣會議員ハ府縣會ノ議決スベキ事件ニ付府縣會ニ議案ヲ發スルコトヲ得但シ議案ノ出豫算ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ規定ニ依リ發案ハ議員三人以上ヨリ文書ヲ以テ之ヲ爲ス可トス
- 第六十六條第七項中「第八十二條第一項」ノ下ニ「又ハ第二項」ヲ加ヘ同條第三項ヲ削ル
- 第六十八條第二號左ノ如ク改ム
- 二 府縣會成立セザルトキ、招集ニ應ゼザルトキ、第五十四條ノ除斥ノ爲會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ府縣知事ニ於テ府縣會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ノ權限ニ屬スル事件ヲ府縣會ニ代ハリテ議決スルコト
- 第七十條中「第五十七條第一項」ノ下ニ「第五十七條ノ二」ヲ加フ
- 第七十一條第一項中「若名譽職選舉會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキ」ヲ「名譽職選舉會員定員ノ半數以上ヨリ會議ニ付スベキ事件ヲ示シテ府縣

府縣制中改正

參事會招集ノ請求アルトキハニ改ム
第七十四條第一項中「第六十六條第四項」ヲ「第六十六條第三項」ニ改ム
第七十七條第一項中「府縣會ノ議決ヲ經テ」ヲ「府縣條例ヲ以テ」ニ改ム

府縣會又ハ府縣參事會ノ議決收支ニ關シ執行スルコト能ハザルモノアリト認ムルトキハ前二項ノ例ニ依リ左ニ掲グル費用ヲ削減シ又ハ減額シタル場合ニ於テ其ノ費用及之ニ伴フ收入ニ付亦同シ
一 法令ニ依リ負擔スル費用、當該官廳ノ職權ニ依リ命ズル費用其ノ他ノ府縣ノ義務ニ屬スル費用

第九十三條中「府縣知事ノヲ定ム」ヲ「府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ」ニ改ム
第九十四條第二項中「府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事ノヲ定ム」ヲ「府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ」ニ改ム

地方議會議員ノ選舉運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件中改正

大正十五年六月內務省令第二十一號地方議會議員ノ選舉運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件中「百箇」ヲ「百五十箇」ニ「三十箇」ヲ「四十五箇」ニ「十箇」ヲ「十五箇」ニ改ム
附則
本令ハ昭和四年三月十日以後ニ於テ行フ選舉ニ關スルモノヨリ之ヲ適用ス

市制中改正

附則
昭和四年四月十五日
法律第五十六號
府縣國議會ノ協賛ヲ經タル市制中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
市制中左ノ通改正ス

第九十三條中「府縣知事ノヲ定ム」ヲ「府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ」ニ改ム
第九十四條第二項中「府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事ノヲ定ム」ヲ「府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ」ニ改ム

地方議會議員ノ選舉運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件中改正 市制中改正

大正十五年六月內務省令第二十一號地方議會議員ノ選舉運動ノ爲ニスル文書圖畫ニ關スル件中「百箇」ヲ「百五十箇」ニ「三十箇」ヲ「四十五箇」ニ「十箇」ヲ「十五箇」ニ改ム
附則
本令ハ昭和四年三月十日以後ニ於テ行フ選舉ニ關スルモノヨリ之ヲ適用ス

附則
昭和四年四月十五日
法律第五十六號
府縣國議會ノ協賛ヲ經タル市制中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
市制中左ノ通改正ス

第九十三條中「府縣知事ノヲ定ム」ヲ「府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ」ニ改ム
第九十四條第二項中「府縣會ノ議決ヲ經テ府縣知事ノヲ定ム」ヲ「府縣條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ」ニ改ム

第五十七條ノ二 市會議員ハ市會ノ議決スベキ事件ニ付市會ニ議案ヲ發スルコトヲ得但シ議案ノ出豫算ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル發案ハ議員三人以上ヨリ文書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十四條 市ニ市會事務ヲ置キ議長及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第六十五條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム

名譽職參事會員ノ定數八十人トス但シ勸令ヲ以テ指定スル市ニ於テハ市條例ヲ以テ十五人迄之ヲ増加スルコトヲ得

名譽職參事會員ハ市會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選舉スベシ

第六十七條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 市會成立セザルトキ、第五十二條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハザルトキ又ハ市長ニ於テ市會ヲ召集スルノ限ヲ認ムルコトキ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ市會ニ代ハリテ議決スルコト

第六十八條中「名譽職參事會員定數ノ半數以上ノ請求アルトキハ」名譽職參事會員定數ノ半數以上ヨリ會議ニ付スベキ事件ヲ示シテ市會事務召集ノ請求アルトキハニ改ム

第七十二條第一項但書ヲ削ル

第七十三條 市長ハ有給吏員トス但シ市條例ヲ以テ名譽職ト爲スコトヲ得

市長ノ任期ハ四年トス

市長ハ市會ニ於テ之ヲ選舉ス

市長ノ在職中ニ於テ行ハ後任市長ノ選舉ハ現任市長ノ任期満了ノ日前二十日以内又ハ現任市長ノ退職ノ申立アリタル場合ニ於テ其ノ退職スベキ日二十日以内ニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ス

第三項ノ選舉ニ於テ當選者定マシタルトキハ直ニ當選者ニ當

選ノ旨ヲ告知スベシ

市長ニ當選シタル者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ其ノ當選ニ應ズルヤ否ヲ申立ツベシ其ノ期間内ニ當選ニ應ズル旨ヲ申立ラザルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第三十二條第四項ノ規定ハ市長ニ當選シタル者ニ之ヲ適用ス

名譽職市長ハ市民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル

有給市長ハ其ノ退職セントスル日三十日以前ニ申立ツルニ非ザレバ任期中退職スルコトヲ得但シ市會ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十四條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前條第四項乃至第七項ノ規定ハ市會與ニ之ヲ適用ス

第七十五條第三項中「第七十三條第三項」ヲ「第七十三條第四項乃至第七項及第九項」ニ改ム

第七十六條中「市長」ヲ「有給市長」ニ改ム

第七十八條中「市長」ヲ「有給市長」ニ改ム

第七十九條第二項中「第七十五條」ノ上ニ「第七十三條第四項乃至第七項」ヲ加フ

第八十二條第二項中「市會」ヲ「市長」ノ下ニ「此ノ場合ニ於テハ第七十三條第四項乃至第七項ノ規定ヲ適用ス」ヲ加フ

第八十三條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第七十三條第四項乃至第七項ノ規定ハ委員ニ之ヲ適用ス

第九十條 市會又ハ市會事務ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ超エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムベシ但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ市長ハ議決ニ付テハ之ヲ再議ニ付セズシテ直ニ府縣參事會ノ議決ヲ請フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ爲シタル市會又ハ市會事務ノ議決仍其ノ權限ヲ超エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ市長ハ府縣參事會ノ議決ヲ請フベシ

監督官廳ハ前二項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得

第一項若ハ第二項ノ議決又ハ前項ノ規定ニ不服アル市長、市會又ハ市會事務執行行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項又ハ第二項ノ議決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十條ノ二 市會又ハ市會事務ノ議決明ニ公益ヲ害スト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スベシ但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ市長ハ之ヲ再議ニ付セズシテ直ニ府縣知事ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ爲シタル市會又ハ市會事務ノ議決仍明ニ公益ヲ害スト認ムルトキハ市長ハ府縣知事ノ指揮ヲ請フベシ

市會又ハ市會事務ノ議決收支ニ關シ執行スルコト能ハザルモアリト認ムルトキハ前二項ノ例ニ依リ左ニ掲グル費用ヲ削減シ又ハ減額シタル場合ニ於テ其ノ費用及之ニ付テ收入ニ付亦同シ

一 法令ニ依リ負擔スル費用、當該官廳ノ職權ニ依リ命ズル費用其ノ他ノ市ノ義務ニ屬スル費用

二 非常ノ災害ニ因ル應急又ハ復舊ノ施設ノ爲ニ要スル費用、傳染病豫防ノ爲ニ要スル費用其ノ他ノ緊急避クベカラサル費用

第三項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル市長、市會又ハ市會事務執行行政大臣ニ訴願スルコトヲ得

第九十一條第三項中「其ノ議決スベキ事件ニ付府縣參事會ノ議決ヲ請フコトヲ得」ヲ「府縣知事ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スベキ事件ヲ處分スルコトヲ得」ニ、同條第五項中「前四項」ヲ「前三項」ニ、市會事務又ハ府縣參事會ノ議決」ヲ「市會

事會ノ決定又ハ市長ノ處分ニ同條第六項中「第一項及前三項」ヲ「前四項」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第九十二條ノ二 市會事務ノ上ニ市會及市長ヲ加フ

第九十三條第一項中「法令」ヲ「從來法令又ハ將來法律勸令」ニ改ム

第九十六條第二項中「法令」ヲ「從來法令若ハ將來法律勸令」ニ改ム

第九十七條第一項中「市及區ノ出納其ノ他ノ會計事務並」ヲ「市會及市長ノ出納其ノ他ノ會計事務並」ニ改ム

第九十八條第一項及第二項中「名譽職市長」ノ上ニ「名譽職市長」ヲ加ヘ同條第三項中「市會」ヲ「市長」ニ改ム

第九十九條中「市長」ヲ「市長」ニ、市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム」ヲ「市長」ヲ以テ之ヲ規定スベシ」ニ改ム

第一百零一條第一項中「國稅」ヲ「直接國稅及」ニ、同條第二項中「直接府縣稅」ヲ「府縣稅」ニ改ム

第一百零九條ノ二 合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ハ合併ニ因リ消滅シタル法人ニ對シ其ノ合併前ノ事實ニ付賦課セラルベキ市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

相續人又ハ相續財團ハ勸令ノ定ムル所ニ依リ被相續人ニ對シ其ノ相續開始前ノ事實ニ付賦課セラルベキ市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百四十六條第二項中「選舉人名簿又ハ」ヲ削ル

第一百六十五條 削除

第一百六十六條 削除

第一百六十七條 左ニ掲グル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ但シ第一號、第四號、第六號及第十一號ニ掲グル事件ニシテ勸令ヲ以テ指定スルモノハ其ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

- 一 市條例ヲ改メ又ハ改廢スルコト
 - 二 基本財産及特別基本財産ノ處分ニ關スルコト
 - 三 第一百十條ノ規定ニ依リ舊價ヲ變更シ又ハ廢止スルコト
 - 四 使用料ノ新設又ハ變更スルコト
 - 五 均一ノ稅率ニ依ラズシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スルコト
 - 六 特別稅ノ新設又ハ變更スルコト
 - 七 第七十二條第一項、第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ市ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムルコト
 - 八 第七十四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコト
 - 九 第七十五條ノ規定ニ依ラズシテ夫役現品ヲ賦課スルコト但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 - 十 繼續費ヲ定メ又ハ變更スルコト
 - 十一 市價ヲ起シ或ハ起價ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルコト但シ第三百三十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス
- 第九十七條第一項中「懲戒審査會」ノ議決ヲ經市長ニ付テハ勸令ヲ請フコトヲ要ス
- 第九十八條第四項但書ヲ削リ同條第六項ヲ左ノ如ク改ム
- 懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間北海道府縣、市町村其ノ他之ニ進スベキモノノ公職ニ就クコトヲ得ス

●府縣制準用選舉市區指定令中改正

(昭和三年四月二十七日) (勸令第七十五號)

府縣制準用選舉市區指定令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣制準用選舉市區指定令中左ノ通改正ス

第一條中「室蘭市」ヲ「室蘭市、高崎市、盛岡市、小倉市」ニ改ム

附則

本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

(昭和三年九月一日) (勸令第二百二十號)

府縣制準用選舉市區指定令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣制準用選舉市區指定令中左ノ通改正ス

第一條中「小倉市」ヲ「小倉市、岡崎市」ニ改ム

附則

本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

●町村制中改正

(昭和四年四月十五日) 法律第五十七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル町村制中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

町村制中左ノ通改正ス

第十七條第一項ヲ左ノ如ク改ム

町村會議員中議員ヲ生シタル場合ニ於テ第二十七條第二項ノ規定ノ適用ヲ受ケタル得票者ニシテ當選者ト爲ラザリシ者アルトキハ直ニ選舉會ヲ開キ其ノ中ニ就キ當選者ヲ定ムベシ此ノ場合ニ於テ第三十條第三項及第四項ノ規定ヲ適用ス

前項ノ規定ノ適用ヲ受ケル者ヲ若ハ前項ノ規定ノ適用ニ依リ當選者ト定ムルモ仍其ノ副員ガ議員定數ノ六分ノ一ヲ超ユルニ至リタルトキ又ハ町村長若ハ町村會議員ニ於テ必要ト認ムルトキハ補選選舉ヲ行フベシ

第十八條ノ三 選舉人名簿ニ關シ關係者ニ於テ異議アルトキハ從價詢問内ニテ町村長ニ申立テ之ヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定シ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ直ニ之ヲ修正スベシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣選舉會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ決定ヲ爲シタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スベシ同項ノ規定ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキ亦同シ

第十八條ノ三項乃至第五項ヲ左ノ如ク改ム

前項第二項又ハ第三項ノ場合ニ於テ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ修正スベシ

前項ノ規定ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スベシ

投票分會ヲ設ケル場合ニ於テ必要アルトキハ町村長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿ヲ抄本ヲ調製スベシ

第十八條ノ五第三項中「異議申立ニ對スル町村會議員ノ決定」ヲ「異議ノ決定」ニ改ム

第四十三條中「町村長又ハ監督官廳」ヲ「關係行政廳」ニ改ム

第四十七條第一項中「議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ」ヲ「議員定數三分ノ一以上ヨリ會議ニ付スベキ事件ヲ示シテ町村會議員ノ請求アルトキハ」ニ、同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

町村長ハ會期ヲ定メテ町村會議員ヲ召集スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ町村長ハ更ニ期限ヲ定メ町村會議員ヲ召集スルコトヲ得

第五十一條 法律勅令ニ依リ町村會議員ニ於テ行フ選舉ニ付テハ第二十二條、第二十五條及第二十七條ノ規定ヲ適用ス其ノ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ町村會議員之ヲ決定ス

町村會議員中異議ナキトキハ前項ノ選舉ニ付指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

指名推選ノ法ヲ用フル場合ニ於テハ被指名者ヲ以テ當選者ト定ムベキ否ヲ會議ニ付議員全員ノ同意ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス

一ノ選舉ヲ以テ二人以上ヲ選舉スル場合ニ於テハ被指名者ヲ區分シ前項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第五十三條ノ二 町村會議員ハ町村會議員ニ付テハ町村會議員ニ對シテ發スルコトヲ得但シ該員入出豫算ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ發案ハ議員三人以上ヨリ文書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

町村長ノ在職中ニ於テ行フ後任町村長ノ選舉ハ現任町村長ノ任期満了ノ日前二十日以内又ハ現任町村長ノ退職ノ申立アリタル場合ニ於テ其ノ退職スベキ日前二十日以内ニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得

第一項ノ選舉ニ於テ當選者定マリタルトキハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スベシ

町村長ニ當選シタル者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ其ノ當選ニ應ズルヤ否ヲ申立ツベシ其ノ期間内ニ當選ニ應ズル旨ヲ申立ラザルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第二十九條第三項ノ規定ハ町村長ニ當選シタル者ニ之ヲ適用ス

助役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會議員之ヲ定ム町村長職ニ在ラザルトキハ第一項ノ例ニ依ル

第二項乃至第五項ノ規定ハ助役ニ之ヲ適用ス

第六十七條第三項中「第六十三條第二項及第四項」ヲ「第六十三條第二項乃至第六項及第九項」ニ改ム

第六十八條第二項中「町村會議員之ヲ定ム」ノ下ニ「此ノ場合ニ於テハ第六十三條第二項乃至第五項ノ規定ヲ適用ス」ヲ加フ

第六十九條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第六十三條第二項乃至第五項ノ規定ハ委員ニ之ヲ適用ス

第七十四條 町村會議員ハ選舉其ノ權限ヲ超エ又ハ法令若ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムベシ但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ町村長ハ議決ニ付テ之ヲ再議ニ付セシメ直ニ府縣選舉會ノ裁決ヲ請フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ爲シタル町村會議員ノ議決仍其ノ權限ヲ超エ

九 第五條ノ準率ニ依ラズシテ夫役現品ヲ賦課スルコト但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十 總額費ヲ定メ又ハ變更スルコト

十一 町村債ヲ起シ或ハ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルコト但シ第十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第五十條第六項ヲ左ノ如ク改ム

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間北海道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ公職ニ就クコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

九 第五條ノ準率ニ依ラズシテ夫役現品ヲ賦課スルコト但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十 總額費ヲ定メ又ハ變更スルコト

十一 町村債ヲ起シ或ハ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルコト但シ第十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ府縣選舉會ノ裁決ヲ請フベシ

監督官廳ハ前二項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得

第一項若ハ第二項ノ裁決又ハ前項ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會議員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項又ハ第二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七十四條ノ二 町村會議員ハ選舉其ノ權限ヲ超エ又ハ法令若ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付セシメ但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ町村長ハ之ヲ再議ニ付セシメ直ニ府縣知事ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ爲シタル町村會議員ノ議決仍其ノ權限ヲ超エ

ト認ムルトキハ町村長ハ府縣知事ノ指揮ヲ請フベシ

町村會議員ノ議決收支ニ關シ執行スルコト能ハサルモノアリト認ムルトキハ前二項ノ例ニ依リ左ニ掲グル費用ヲ削減シ又ハ減額シタル場合ニ於テ其ノ費用及之ニ付テ收入ニ付亦同シ

一 法令ニ依リ負擔スル費用、當該官廳ノ職權ニ依リ命ズル費用其ノ他ノ町村ノ義務ニ關スル費用、

二 非常ノ災害ニ因ル應急又ハ復舊ノ施設ノ爲ニ要スル費用、傳染病預防ノ爲ニ要スル費用其ノ他ノ緊急避クベカラサル費用

前三項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會議員ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七十六條ノ二 町村會議員ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ハ其ノ議決ニ依リ町村長ニ於テ裁決處分スルコトヲ得

第七十七條第一項中「法令」ヲ「從來法令又ハ將來法律勅令」ニ改ム

第八十四條第三項中「町村會議員ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム」ヲ「町村條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ」ニ改ム

第八十五條中「町村會議員ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム」ヲ「町村條例ヲ以テ之ヲ規定スベシ」ニ改ム

第九十七條第一項第一號中「國稅」ヲ「直接國稅及」ニ、同條第二項中「直接府縣稅」ヲ「府縣稅」ニ改ム

第九十九條ノ二 合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ハ合併ニ因リ消滅シタル法人ニ對シ其ノ合併前ノ事實ニ付賦課セラルベキ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

相續人又ハ相續財團ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ被相續人ニ對シ其ノ相續開始前ノ事實ニ付賦課セラルベキ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第二百六十六條第二項中「選舉人名簿又ハ」ヲ削除

第二百六十七條 削除

第二百六十八條 左ニ掲グル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クベシ但シ第一號、第四號、第六號及第十一號ニ掲グル事件ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノハ其ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一 町村條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト

二 基本財産及特別基本財産並ニ林野ノ處分ニ關スルコト

三 第九十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更シ又ハ廢止スルコト

四 使用料ヲ新設シ又ハ變更スルコト

五 均一ノ稅率ニ依ラズシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スルコト

六 特別稅ヲ新設シ又ハ變更スルコト

七 第七十二條第一項、第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ町村ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムルコト

八 第四百條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲スコト

●市制町村制施行規則中改正

(昭和三年十一月一日) 內務省令第三十九號

市制町村制施行規則中左ノ通改正ス
第二十二條中「立會人ノ届出書」ヲ「立會人タルベキ者ノ届出書」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●登録税法中改正

(昭和四年四月二十四日) 法律第六十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル登録税法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
登録税法中左ノ通改正ス
第十九條ノ四ノ第十九條ノ五トシ以下順次繰下ク
第十九條ノ四 外國カ其ノ大使館、公使館又ハ領事館ノ敷地又ハ建物ニ關シ受クル登記ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ登録稅ヲ免除ス但シ當該國カ帝國ノ大使館、公使館又ハ領事館ノ敷地又ハ建物ニ關スル登記ニ付同様ノ免稅ヲ爲ササル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●府縣制施行令第三十九條ノ規定ニ依リ府縣稅ヲ指定

(昭和四年五月十三日) 內務省令第十四號

府縣制施行令第三十九條ノ規定ニ依リ府縣稅ヲ指定スルコト左ノ如シ

遊興稅
觀覽稅
馬券買得稅

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正九年內務省令第十號ハ之ヲ廢止ス

●市制町村制施行令第五十三條ノ規定ニ依リ市町村稅ヲ指定

(昭和四年五月十三日) 內務省令第十五號

市制町村制施行令第五十三條ノ規定ニ依リ市町村稅ヲ指定スルコト左ノ如シ

遊興稅(觀覽稅、特別消費稅ヲ含ム)
入場稅
馬券買得稅
遊興稅附加稅
觀覽稅附加稅
馬券買得稅附加稅

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正九年內務省令第十一號ハ之ヲ廢止ス

●工場法中改正 (昭和四年三月二十八日) 法律第二十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル工場法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工場法中左ノ通改正ス
第二十四條中「第九條」ヲ「第三條、第四條、第七條乃至第九條」ニ改メ同條ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ第三條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ其ノ適用後二年以内同條ノ就業時間ヲ一時間以内延長スルコトヲ得

●健康保險法中改正 (昭和四年三月二十八日) 法律第二十號

(昭和四年三月二十八日) 法律第二十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル健康保險法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

健康保險法中左ノ通改正ス
第八條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ヲ使用スル事業主ラシテ其ノ使用スル者ノ異動、報酬等ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ文書ヲ提示セシメ其ノ健康保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得
第十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アルトキハ保險者ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ
前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料及延滞金ヲ徵收ス

第十二條 前條ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ納付セザルトキハ保險者ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財產ノ在ル市町村ニ對シ之ヲ處分シ又ハ求スルコトヲ得但シ保險者ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處分スルコトヲ得ルハ政府ガ保險者ナル場合ニ限ル

保險者ガ前項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ノ請求ヲ爲シタルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ保險者ハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ當該市町村ニ交付スベシ
前二項ノ規定ニ於テ市町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキトス

第十一條ノ三 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス

第十一條ノ四 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ニ關スル書類ノ送達ニ付テハ國稅徵收法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ヲ準用ス

第十三條中「工場法ノ適用ヲ受クル工場」ヲ「工場法第一條ノ規定ニ依リ同法ノ適用ヲ受クル工場」ニ改ム

第十四條乃至第七十七條ヲ「第五百五十八條第二項及第五百五十九條」ニ改ム

第八十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條乃至第七十七條ヲ「第五百五十八條第二項及第五百五十九條」ニ改ム

第九十二條 事業主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令中事業主ニ適用スベキ點則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第九十三條 事業主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルキハ自己ノ指揮ニ出テザルコトヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第八十六條ノ改正規定中民事訴訟法ノ規定ノ適用ニ關スル部分ハ大正十五年法律第六十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

健康保險法中改正法律施行期日ノ件

昭和四年五月二十九日 勅令第四百二十九號

朕昭和四年法律第二十號健康保險法中改正法律施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

昭和四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

健康保險法施行令中改正

昭和四年五月二十九日 勅令第四百四十三號

朕健康保險法施行令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

健康保險法施行令中左ノ通改正ス

第五條ノ二 健康保險法第十一條第一項ノ規定ニ依リ保險料其ノ他同法ノ規定ニ依ル徵收金納付ノ督促ヲ爲サントスルキハ保險者ハ納付義務者ニ對シ督促狀ヲ發スベシ

第一 納入ノ告知書一通ノ徵收金額五圓未満ナルトキ二 納期ヲ繰上ケ徵收ヲ爲ストキ

健康保險法施行令中改正ノ件 鐵道營業法中改正

鐵道營業法中改正

昭和四年四月一日 法律第三十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鐵道營業法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第十一條 旅客又ハ荷送人ハ手荷物又ハ運送品託送ノ際運送規程ノ定ムル所ニ依リ表示料ヲ支拂ヒ要價額ヲ表示スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ表示額カ託送手荷物又ハ運送品ノ引渡期間末日ニ於ケル到達地ノ價格及引渡ナキ場合ニ於テ旅客又ハ荷送人カ受クヘキ其ノ他ノ損害ノ合計額ヲ超ユルトキハ其ノ超過部分ニ付テハ其ノ表示ハ之ヲ無効トス

第一 全部滅失ノ場合ニ於テハ表示額

鐵道營業法中改正ノ件 鐵道營業法中改正